第54A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第107図 1	坏 土師器	A 12.5 B 3.5 C 6.3	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	長石 にぶい黄橙色 普通	P311 60% 中央部覆土下層
2	坏 土師器	A [13.5] B 3.7 C [9.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。底部下端押圧痕。	雲母・スコリア・パミス にぶい橙色 普通	P312 35% 中央部覆土下層
3	坏 土師器	A [13.0] B 3.5 C [6.5]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P313 20% 中央部覆土下層
4	高台付坏 土師器	B (3.3) D [8.9] E 1.8	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部は長くハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P315 25% 中央部西側覆土中層
5	甕 土師器	A [20.0] B (6.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後，横ナデ。内面横ナデ。輪積み痕。	砂粒・雲母・黒色粒 にぶい橙色 普通	P316 10% 竈前覆土中層
6	甕 土師器	A [19.6] B (7.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。端部は内上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位のヘラ削り。中位横位のヘラ削り。内面ナデ。	長石 にぶい橙色 普通	P317 10% 竈前床面
7	甑 土師器	B (14.9) C [13.8]	底部から体部にかけての破片。多孔式。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り後，横位のヘラ削り。内面横ナデ。輪積み痕。	長石 にぶい橙色 普通	P318 25% 竈前床面
8	坏 須恵器	A [13.4] B 3.5 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・パミス 灰黄色 普通	P319 5% 西壁下壁溝覆土中 三和窯産
9	坏 須恵器	B (2.9) C [6.6]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・スコリア 灰黄色 普通	P320 5% 南東コーナー床面 堀ノ内窯産

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	管状土錘	3.8	1.5	0.4	7.1	南東コーナー床面	DP60 100%

金属製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
11	鉄鎌	(15.8)	4.7	0.4	(83.6)	東壁付近床面	M37 75%

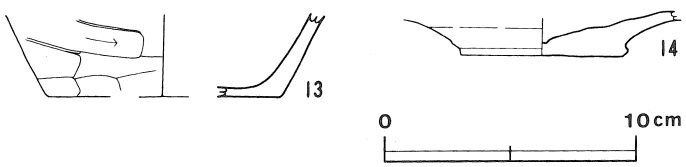
図版番号	種別	銭径 (cm)	穿径 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	初鋳年度（西暦）	鋳造地	備考
12	萬年通寶	2.7	0.6	0.15	3.7	天平宝字4年（760）	不明	M38

壁　壁高は13cmで，外傾して立ち上がる。西側は，第54A号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝　第54A号住居跡に掘り込まれ東側半分で確認する。上幅10～20cm，下幅2～10cm，深さ5cmで，断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込み，付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ90cm，両袖



第108図　第54B号住居跡出土遺物

間の最大幅130cmである。袖部は灰褐色粘土で構築されている。火床部は径30cmの円形に10cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて硬化している。煙道部は火床部から緩やかな斜傾で立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐 灰 色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，粘土粒子微量

ピット　P_1は径15cmの円形で，深さ15cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　2層からなり，自然堆積である。

土層解説

5　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
6　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物　土師器片11点，須恵器片9点が出土している。第108図13の土師器甕は竈内の覆土中から出土している。14の須恵器皿は中央部の覆土中層から出土している。

所見　本跡は，出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが，第54A号住居跡との重複関係から9世紀中葉以前と思われる。

第54B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第108図 13	甕 土師器	B（3.3） C［9.4］	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P323　20% 竈内
14	皿 須恵器	B（1.7） C　6.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	石英・長石・雲母 灰白色 普通	P327　30% 中央部覆土中層

第55B号住居跡（第109図）

位置　調査D区東部，D4g3区。

重複関係　本跡が第55A・C号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。

規模と平面形　南側が調査区域外に延びており，東西5.03m，南北（3.02m）で，平面形は不明である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は28cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～25cm，下幅5～10cm，深さ10cmで，調査区内は全周する。断面形はU字形である。

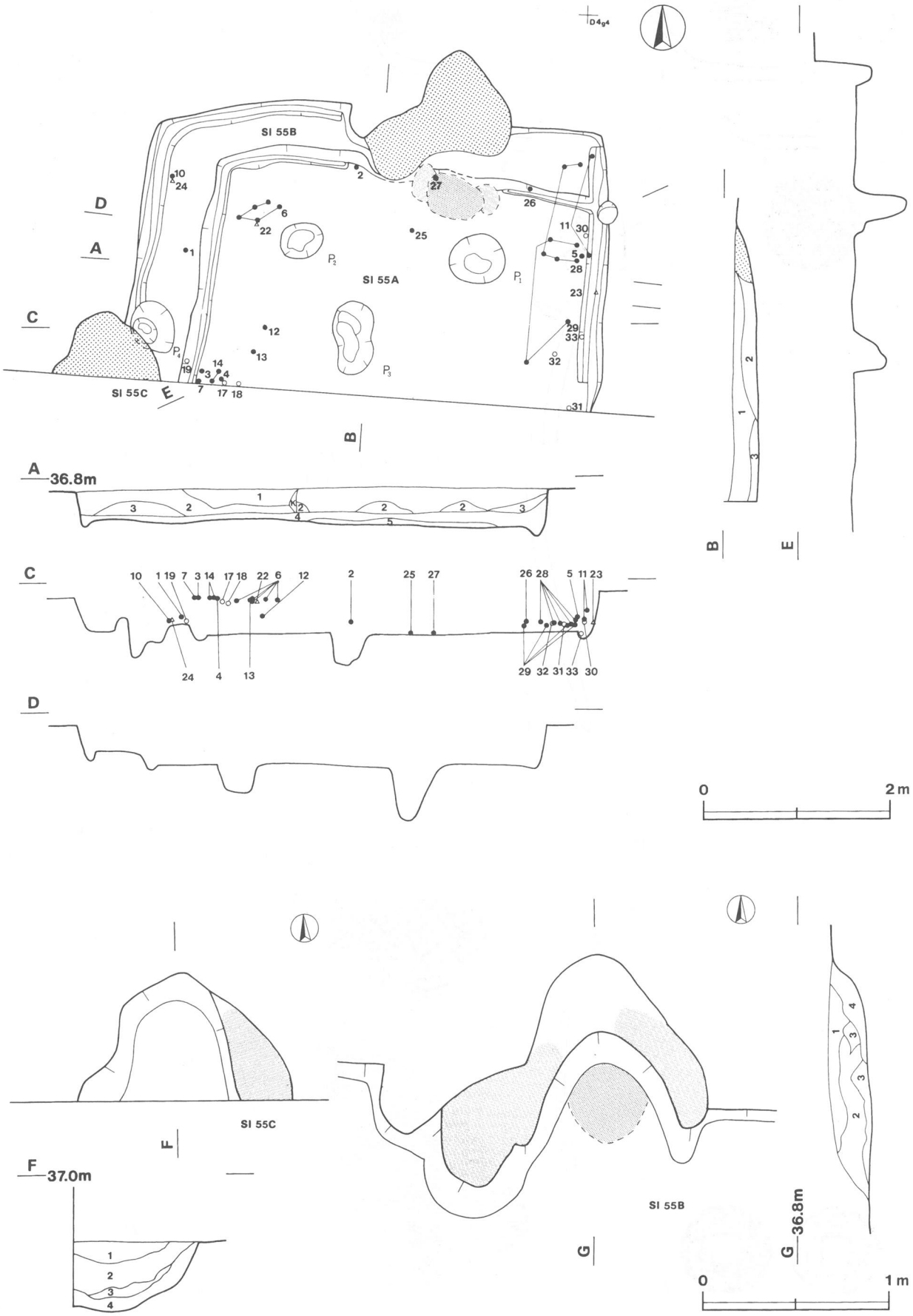
床　全体的に平坦で，踏み固められている。中央部から南東にかけ，暗褐色土の貼床となっている。

竈　北壁中央部を壁外へ80cmほど掘り込み，付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ110cm，両袖間の最大幅150cmである。袖部は灰白色粘土で構築されている。火床部は径40cmの円形に10cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

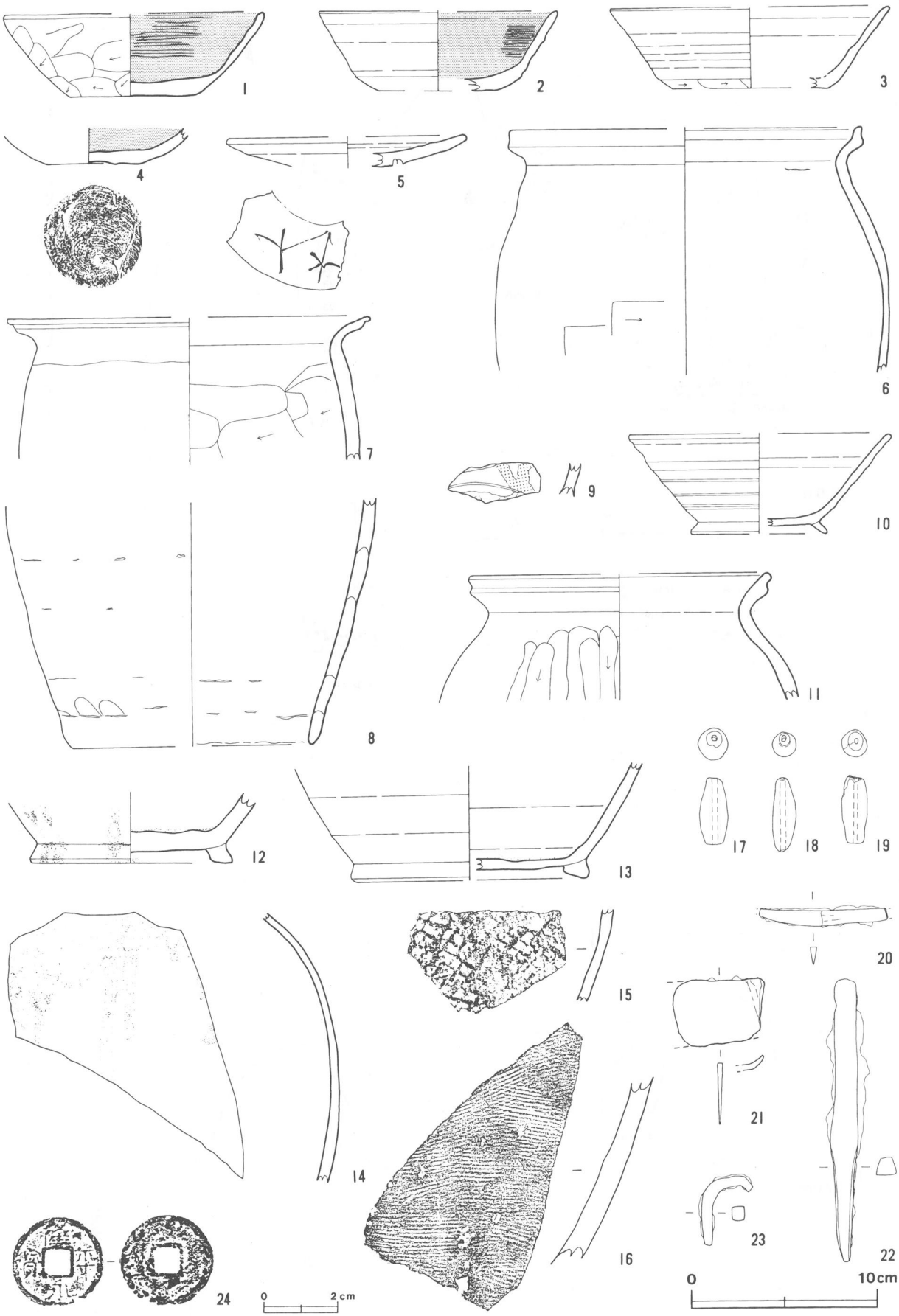
竈土層解説

1　灰 褐 色　灰白色粘土小ブロック・粘土粒子多量，焼土粒子微量
2　灰 褐 色　灰褐色粘土小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　灰多量，焼土粒子・炭化粒子中量
4　赤 褐 色　焼土粒子多量，灰少量

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1は径55cmの円形で，深さ55cmである。P_2は径40cmの円形で，深さ30cmである。いずれも主柱穴と思われる。P_3は長径75cm，短径45cmの楕円形で，深さ35cmである。P_4は長径60cm，短径45



第109図　第55A～C号住居跡



第110図　第55B号住居跡出土遺物

cmの楕円形で，深さ35cmである。いずれも性格は不明である。

覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　灰白色粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，灰白色粘土小ブロック・焼土粒子微量

遺物　土師器片500点，須恵器片71点，灰釉陶器片4点，土製品3点，鉄製品7点，古銭1点，縄文土器片4点が出土している。第110図1の土師器坏は西壁中央部の覆土下層から，10の須恵器高台付坏は北西コーナー部の床面から正位で，その上から24の古銭が出土している。2の土師器坏は竈内前面の床面から出土している。3・4の土師器坏，7の土師器甕，13・14の灰釉陶器瓶，17・18の管状土錘，20の刀子，21の鉄鎌は中央部西側の覆土中層から出土している。5の土師器高台付皿は東壁近くの覆土下層から，23の鉄釘は東壁下の壁溝の覆土中層から出土している。8の土師器甑は竈内の覆土中から，9の須恵器坏は中央部の覆土中層から出土している。6の土師器甕は北西部の覆土中層から，22の鉄釘は北西部の床面から出土している。11の須恵器甕は北東部の覆土下層から出土している。12の灰釉陶器瓶，19の管状土錘は中央部西側の床面から出土している。15・16は拓影図である。15は須恵器甕の体部片で，外面に格子目叩きが施されている。16は須恵器甕の体部片で，外面に横位の平行叩きが施されている。

所見　本跡は第55A号住居跡の主軸方向と東壁が同じであり，出土遺物に時期差が見られないことから，第55A号住居跡に住んでいた人が建て替えをした可能性がある。本跡の時期は，出土遺物から9世紀後葉と考えられる。12～14の灰釉陶器瓶は黒笹14号窯式である。24の古銭は皇朝十二銭の「隆平永寶」である。

第55B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第110図 1	坏 土師器	A［14.1］ B　4.5 C　6.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部外面上位から下端手持ちヘラ削り内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P328　55% 西壁中央覆土下層
2	坏 土師器	A［13.0］ B　4.5 C［6.2］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き底部回転糸切り後，回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P329　35% 竈前床面
3	坏 土師器	A［15.2］ B　4.4 C［8.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P352　10% 中央部西側覆土中層
4	坏 土師器	B（1.9） C　5.1	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P353　25% 中央部西側覆土中層
5	高台付皿 土師器	A［13.1］ B（1.7）	底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。台部剥離。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け痕。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P337　15% 東壁付近覆土下層
6	甕 土師器	A［19.2］ B（13.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾し，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面横ナデ。体部外面中位横位のヘラ削り。輪積み痕。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P339　40% 北西部覆土中層
7	甕 土師器	A［19.8］ B（7.7）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P355　10% 中央部西側覆土中層
8	甑 土師器	B（13.2） C［13.2］	底部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。輪積み痕。体部外面下端ヘラ当て痕。	石英・雲母 橙色 普通	P351　20% 竈内

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第110図 9	坏 須恵器	B（1.6）	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒 灰色 普通	P347　5% 中央部覆土中層 体部外面朱書
10	高台付坏 須恵器	A［14.4］ B　5.4 D［7.5］ E　1.1	台部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。台部は短くハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石 褐灰色 普通	P348　20% 北西コーナー床面 三和窯産 二次焼成
11	甕 須恵器	A［16.4］ B（6.9）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。	石英・黒色粒 灰白色 普通	P349　10% 北東部覆土下層 三和窯産
12	瓶 灰釉陶器	B（3.8） D　11.0 E　1.0	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。台部は短くハの字状に開き，断面台形。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。体部外面釉。	胎土:灰白色 釉調:オリーブ灰色 普通	P350　20% 中央部西側床面 黒笹14号窯式
13	瓶 灰釉陶器	B（6.2） D［13.0］ E　1.0	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。台部は短くハの字状に開き，断面台形。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	胎土:灰白色 釉調:オリーブ灰色 普通	P356　30% 中央部西側覆土中層 黒笹14号窯式
14	瓶 灰釉陶器	B（14.5）	体部片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面上位釉。	胎土:灰白色 釉調:灰オリーブ色 普通	P357　10% 中央部西側覆土中層 黒笹14号窯式

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
17	管状土錘	3.6	1.6	0.3	（8.4）	中央部西側覆土中層	DP61　95%
18	管状土錘	4.0	1.3	0.3	6.2	中央部西側覆土中層	DP66　100%
19	管状土錘	3.6	1.4	0.3	6.6	中央部西側床面	DP67　100%

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
20	刀　子	（7.0）	0.9	0.1	（6.8）	中央部西側覆土中層	M39　50%
21	鉄　鎌	（4.9）	3.6	0.3	(18.5)	中央部西側覆土中層	M40　5%
22	鉄　釘	(15.2)	1.2	0.6	(53.8)	北西部床面	M41　90%
23	鉄　釘	（3.9）	0.7	0.7	(11.9)	東壁付近覆土中層	M42　50%

図版番号	銭　名	銭径 (cm)	穿径 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)	初鋳年代（西暦）	鋳造地	備　考
24	隆平永寶	2.5	0.6	0.15	2.7	延暦15年　(796)	不明	M43

第55A号住居跡（第109図）

位置　調査D区東部，D4g3区。

重複関係　第55B号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。また，本跡が第55C号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。

規模と平面形　南側が調査区域外に延びており，東西4.20m，南北（2.50m）で，平面形は不明である。

主軸方向　N－2°－W

壁　壁高は40cmで，外傾して立ち上がる。北・西壁は第55B号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝　上幅15～25cm，下幅5～10cm，深さ10cmで，調査区内は全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設された痕跡が確認される。規模は不明であるが，袖部は灰白色粘土で構築されて，火床部は，熱を受けて赤変している一部が確認される。

覆土　第55B号住居跡の床下部のみ残存している。

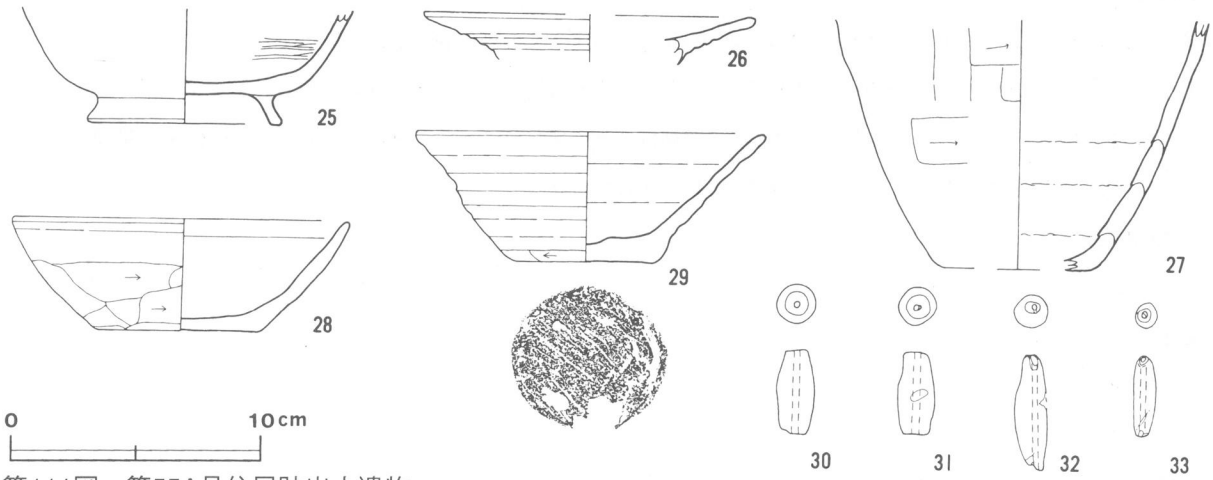
土層解説

4　暗 褐 色　ローム粒子多量（第55B号住居跡の床部）

5　黒 褐 色　黒色土粒子･灰白色土粒子多量，粘土粒子少量（1～5㎜の黒色土と粘土の薄い堆積が相互に14層）

遺物　土師器片140点，須恵器片6点，土製品3点が出土している。第111図25の土師器高台付坏は，竈前面の床面から出土している。26の土師器高台付皿は北東コーナー部の覆土下層から出土している。27の土師器甕は左袖部内から出土している。28・29の須恵器坏と31・32の管状土錘は，東壁近くの覆土下層から出土している。30の管状土錘は東壁近くの覆土中層から，33の管状土錘は東壁中央の壁溝上から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀中葉から後葉と考えられる。



第111図　第55A号住居跡出土遺物

第55Ａ号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備　考
第111図 25	高台付坏 土 師 器	B（4.6） D　7.8 E　1.2	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P335　30% 竈前床面
26	高台付皿 土 師 器	A［13.4］ B（1.9）	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。台部剥離。	口縁部から体部内･外面ロクロナデ。	石英･長石 橙色 普通	P338　5% 北東コーナー覆土下層
27	甕 土 師 器	B（10.0） C［6.4］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り後，横位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕。	長石･スコリア にぶい褐色 普通	P340　20% 竈左袖部内
28	坏 須 恵 器	A　13.5 B　4.5 C　6.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内･外面ロクロナデ。体部中位から下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒･石英･雲母 にぶい黄橙色 普通	P342　55% 東壁付近覆土下層 三和窯産
29	坏 須 恵 器	A　14.0 B　5.2 C　5.7	体部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内･外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒･石英･長石 明褐灰色 普通	P343　45% 東壁付近覆土下層 三和窯産

土製品観察表

図版番号	種　別	計　測　値				出 土 地 点	備　考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
30	管状土錘	3.3	1.5	0.3	（7.2）	東壁付近覆土中層	DP62　95%
31	管状土錘	3.2	1.5	0.3	（7.3）	東壁付近覆土下層	DP63　95%

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
32	管状土錘	(4.5)	1.3	0.2	(5.2)	東壁付近覆土下層	DP64　85%
33	管状土錘	3.2	0.9	0.3	(2.2)	東壁中央壁溝上	DP65　95%

第55C号住居跡（第109図）

位置　調査D区東部，D4h3区。

重複関係　第55A・B号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　竈とその周辺部のみの調査で，南側の大部分が調査区域外に延びており，規模と平面形は不明である。

主軸方向　［N－8°－W］

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。北東部は第55B号住居跡に掘り込まれ不明である。

竈　北壁中央部の壁外へ付設された火床部から煙道部が確認される。右袖は第55B号住居跡に掘り込まれ，規模は焚口部から煙道部までの長さ（70cm），両袖間の最大幅（100cm）である。袖部は砂質粘土で構築されて，火床部は熱を受けて赤変している。煙道部は焚口部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　暗 褐 色　粘土大・小ブロック中量
2　暗 褐 色　ローム大・中・小ブロック・粘土大・小ブロック中量
3　暗 褐 色　灰多量，粘土小ブロック中量
4　暗赤褐色　灰多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　黒 褐 色　焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック少量

遺物　土師器片5点が出土しているが，図示できるものはない。

所見　出土遺物が少なく時期決定が難しいが，第55A・B号住居跡との重複関係から9世紀中葉以前と思われる。

第56号住居跡（第112図）

位置　調査D区東部，D4e3区。

重複関係　本跡が第57・59号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第53・58号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.25m，短軸2.95mの長方形である。

主軸方向　N－2°－W

壁　覆土が薄く，床面の範囲を確認するだけで壁高は測定不能である。

床　中央部に，踏み固められている痕跡が見られる。

竈　北壁中央部に薄い粘土の堆積が見られ，竈が付設されていた痕跡を確認する。規模や竈の構築状況は不明である。

覆土　覆土は薄く不明である。

遺物　土師器片120点，須恵器片6点，灰釉陶器片2点，鉄滓（椀形滓）1点，縄文土器片2点が出土している。第113図1・3の土師器坏は，竈内の覆土中から出土している。2の土師器坏は竈前面部の床面から正位で，5の土師器甕は中央部の床面から出土している。4・6の土師器甕は中央部の床面から出土している。

縄文土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀中葉と考えられる。

第57号住居跡（第112図）

位置　調査D区東部，D4e3区。

重複関係　第53・56号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

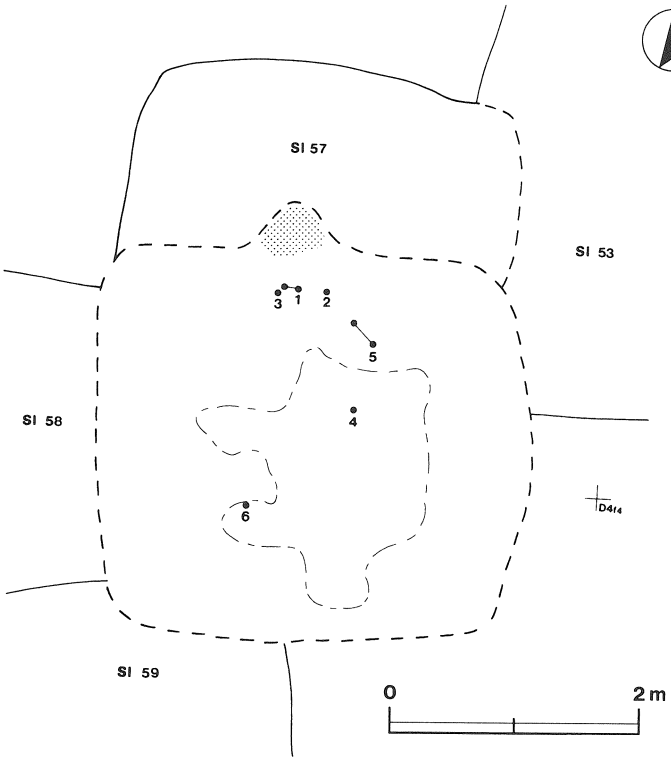
規模と平面形　長軸3.15m，短軸（1.50m）で，平面形は不明である。

壁　覆土が薄く，床面の範囲を確認するだけで，壁高は測定不能である。

床　北部に，踏み固められている痕跡が見られる。

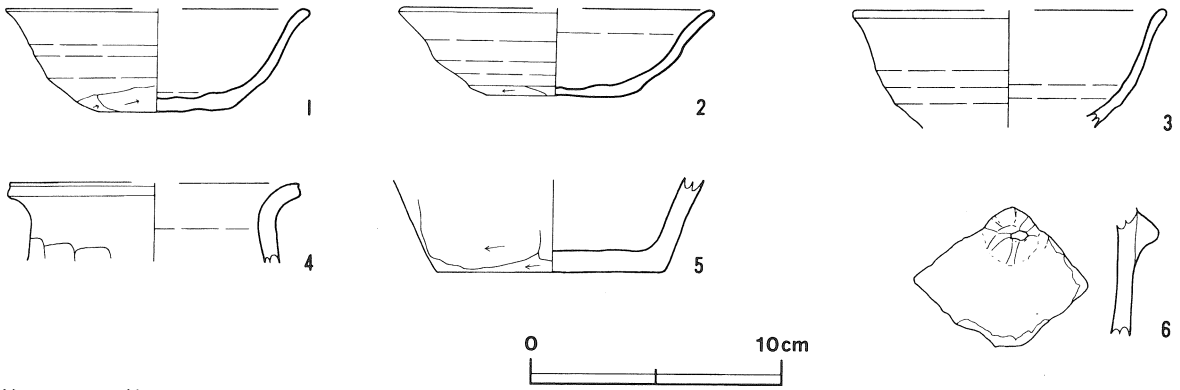
覆土　覆土は薄く不明である。

遺物　土師器片2点が出土しているが，図示するものがない。



第112図　第56・57号住居跡

所見　出土遺物が少なく時期決定は難しいが，第56号住居跡との重複関係から9世紀中葉以前と思われる。



第113図　第56号住居跡出土遺物

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第113図 1	坏 土師器	A［12.2］ B　4.2 C　4.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	長石 浅黄橙色 不良	P358　50% 竈内
2	坏 土師器	A［12.6］ B　3.5 C　5.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・スコリア 灰白色 不良	P359　50% 竈前床面
3	坏 土師器	A［12.6］ B（4.7）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	長石 にぶい黄橙色 普通	P360　25% 竈内
4	甕 土師器	A［11.7］ B（3.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P363　5% 中央部床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第113図 5	甕 土師器	B（3.7） C　9.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 浅黄橙色 普通	P364　5% 中央部床面
6	甕 土師器	B（5.1）	体部片。外面に短い把手が付く。	体部内・外面ナデ。把手部貼り付け後，ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰褐色 普通	P365　5% 中央部床面

第58号住居跡（第114図）

位置　調査D区東部，D4f2区。

重複関係　本跡が第56・59号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第60・61号住居跡，第2号井戸跡と第201号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　一辺3.70mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は34cmで，外傾して立ち上がる。南西部は第60号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝　上幅5～25cm，下幅3～10cm，深さ5cmで全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ140cm，両袖間の最大幅105cmである。袖部は，灰褐色粘土で構築されている。火床部は，径30cmの円形に5cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて硬化している。煙道部は第201号土坑に掘り込まれ不明である。

竈土層解説

1　極暗赤褐色　焼土粒子・灰褐色粘土中・小ブロック少量
2　にぶい赤褐色　灰褐色粘土粒子中量，焼土粒子・ローム粒子少量
3　にぶい赤褐色　灰褐色粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・灰中量，炭化粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，灰白色粘土小ブロック中量

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は径35cmの円形で深さ16.5cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。P_2・P_3は径25～30cmの円形で深さ13cmである。底部が丸く何かを置いたピットと思われる。

覆土　4層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・暗褐色土小ブロック多量，焼土粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　粘土小ブロック・粘土粒子多量
4　暗褐色　粘土粒子少量

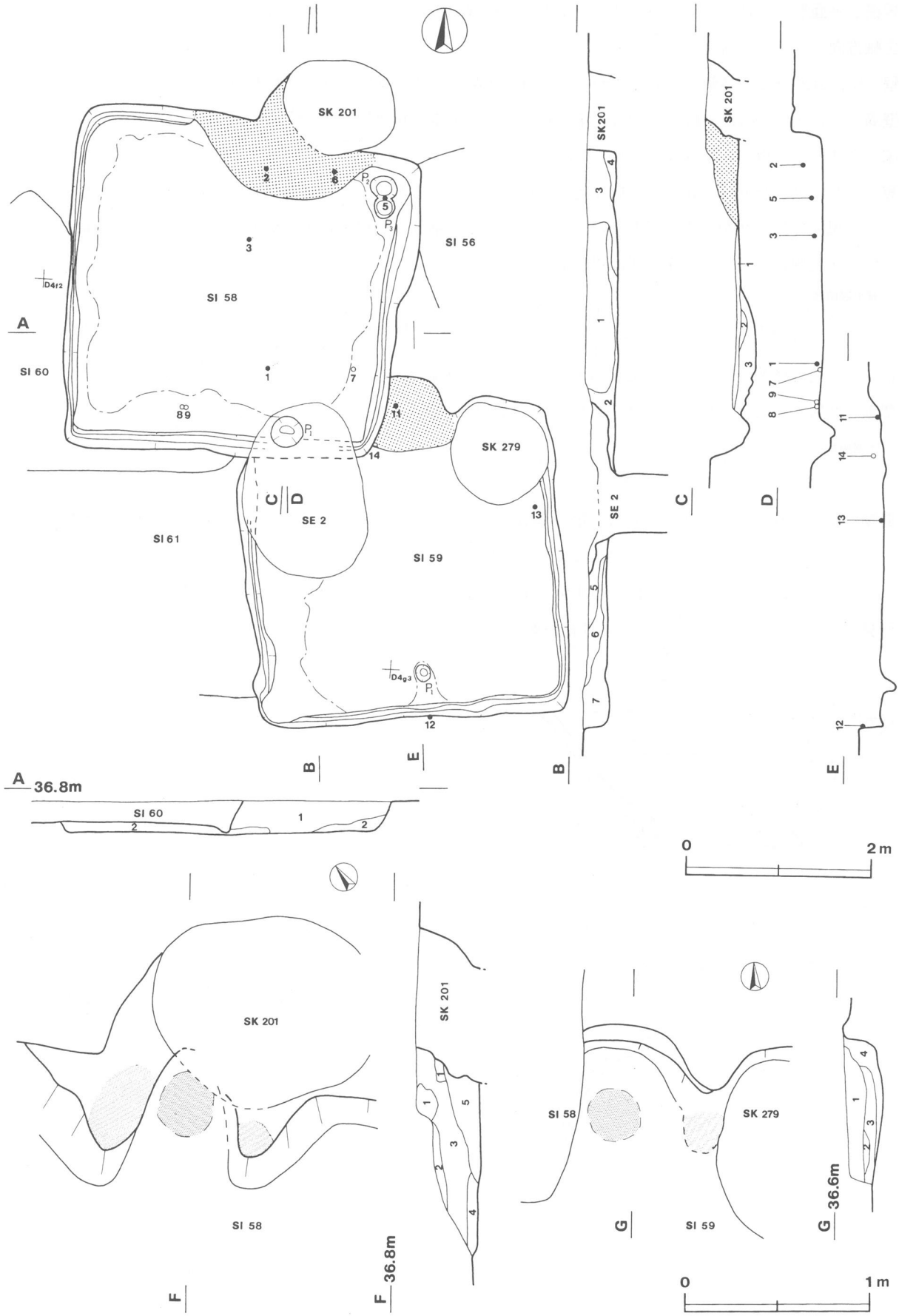
遺物　土師器片284点，須恵器片19点，灰釉陶器片8点，土製品5点が出土している。第115図2の須恵器坏は竈前面の覆土中層から出土している。1の土師器高台付椀は中央部南側の床面から，3の須恵器坏は中央部の覆土中層から出土している。4の須恵器甑，10の土製紡錘車は，中央部の覆土中層から出土している。5の灰釉陶器椀は北東コーナー部の覆土下層から，6の灰釉陶器長頸瓶は，竈右袖部内から出土している。7の管状土錘は中央部東側の床面から，8・9の管状土錘は中央部南側の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀末から10世紀初頭と考えられる。5の灰釉陶器椀は，遠江産で静岡県浜北市の二川窯跡産か宮口窯跡産と思われる。6の灰釉陶器長頸瓶は，黒笹90号窯式で，第82号住居跡出土の灰釉陶器と接合する。

第59号住居跡（第114図）

位置　調査D区東部，D4f2区。

重複関係　第58・61号住居跡と第2号井戸跡，第279号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。



第114図　第58・59号住居跡

規模と平面形　長軸3.46m，短軸3.44mのほぼ方形である。

主軸方向　N－12°－W

壁　壁高は22cmで，外傾して立ち上がる。北西部は第58号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝　上幅10～20cm，下幅３～10cm，深さ６cmで全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ40cmほど掘り込み，付設されているが，左半部は第58号住居跡に掘り込まれ不明である。規模は焚口部から煙道部までの長さ80cmである。袖部は灰褐色粘土で構築されている。火床部は熱を受けて赤変硬化している。煙道部は焚口部から垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1　褐　　色　褐色粘土大・小ブロック・粘土粒子多量，炭化物少量
2　黒 褐 色　炭化物・灰多量，焼土粒子中量
3　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子多量
4　暗赤褐色　炭化物・灰多量，焼土粒子中量，焼土大・小ブロック少量

ピット　P_1は径20cmの円形で，深さ15cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

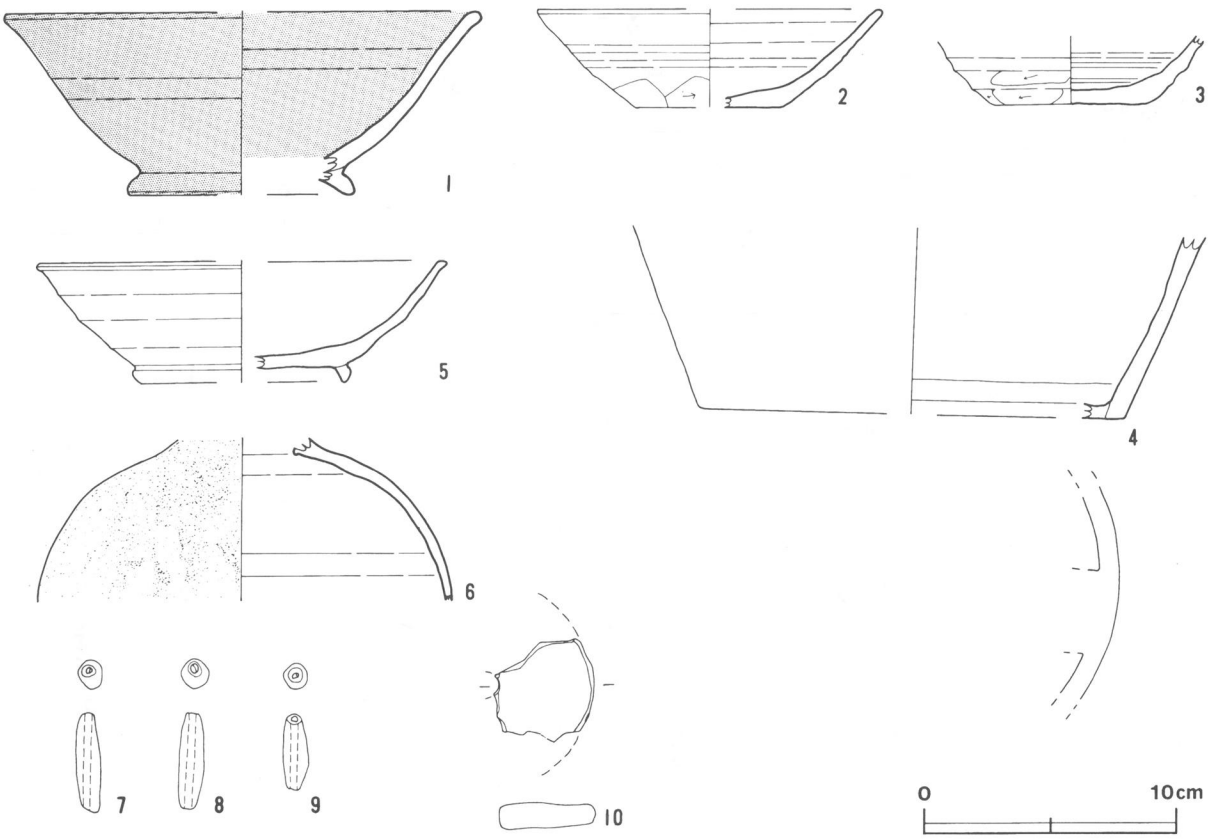
覆土　３層からなり，ロームブロックが不均一に堆積しているので，人為堆積と思われる。

土層解説

5　暗 褐 色　ローム大・中ブロック・暗褐色土中ブロック多量
6　暗 褐 色　ローム大・中ブロック多量
7　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片92点，須恵器片1点，鉄滓（鍛冶滓）１点（10g）が出土している。第116図11の土師器甕，14の管状土錘は竈内覆土中層から出土している。12の土師器甕は南壁近くの覆土中層から出土している。13の須恵器坏は北東コーナーの床面から正位で出土している。鉄滓は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から8世紀後葉と思われる。



第115図　第58号住居跡出土遺物

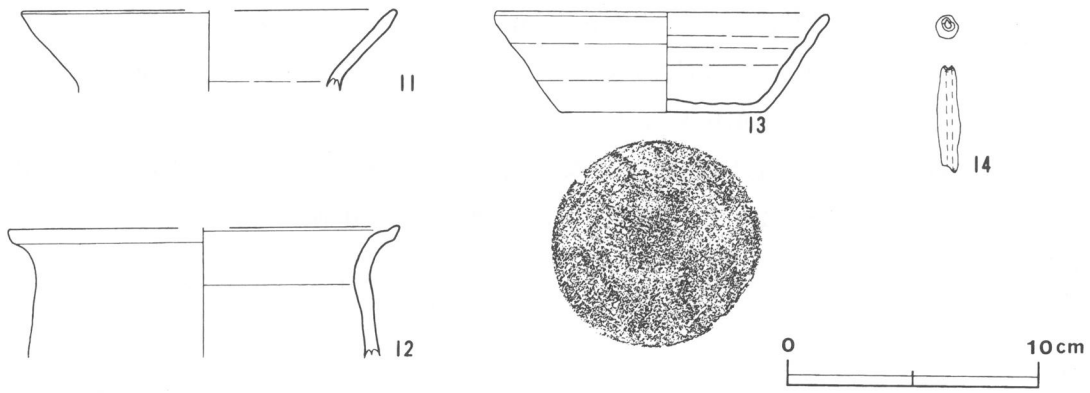
第58号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	高台付椀 土師器	A [19.1] B 7.3 D [9.0] E 1.0	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内・外面黒色処理。	石英・長石 オリーブ黒色 普通	P371 35% 中央部南側床面
2	坏 須恵器	A [13.8] B 3.9 C [5.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ切り。体部下端手持ちヘラ削り。	石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P370 20% 竈前覆土中層
3	坏 須恵器	B (2.6) C 6.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰黄褐色 普通	P374 10% 中央部覆土中層 三和窯産
4	甑 須恵器	B (7.3) C [17.0]	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。多孔式。	体部外面横位のヘラ削り，内面ナデ。	石英・長石 にぶい橙色 普通	P376 15% 中央部覆土中層 三和窯産
5	椀 灰釉陶器	A [16.4] B 4.9 D [8.6] E 0.8	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部は三日月状を呈している。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。体部内・外面釉。	胎土：灰黄色 釉調：透明 普通	P378 45% 北東コーナー覆土下層 遠江産
6	長頸瓶 灰釉陶器	B (6.5)	体部片。肩部は内彎して頸部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。体部と頸部の接合痕。体部外面釉。	胎土：灰黄色 釉調：オリーブ黄色 普通	P379 10% 竈右袖部内 黒笹90号窯式

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	管状土錘	3.9	1.0	0.3	(3.6)	中央部東側床面	DP68 90%
8	管状土錘	3.8	1.1	0.3	4.1	中央部南側床面	DP69 100%
9	管状土錘	3.0	1.0	0.3	2.6	中央部南側床面	DP70 100%

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	紡錘車	[8.6]	1.0	[1.1]	(16.6)	中央部覆土中層	DP71 20%



第116図　第59号住居跡出土遺物

第59号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第116図 11	甕 土師器	A［15.0］ B（3.2）	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P381　5％ 竈内
12	甕 土師器	A［15.6］ B（5.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P384　5％ 南壁付近覆土中層
13	坏 須恵器	A　13.4 B　4.0 C　8.2	口縁部一部欠損。　体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・石英 黄灰色 普通	P385　95％ 北東コーナー床面 新治窯産

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ（cm）	径（cm）	孔径（cm）	重量（g）		
14	管状土錘	4.2	0.9	0.3	（2.8）	竈内	DP72　95％

第60号住居跡（第117図）

位置　調査D区東部，D4f2区。

重複関係　本跡が第58号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第61号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.58m，短軸2.60mの長方形である。

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は21cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅10～15cm，下幅3～5cm，深さ3cmで全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部西寄りにA竈，東寄りにB竈を確認した。A竈は袖部の残存状態が良くないのでB竈より古いと思われる。

A竈は，北壁を壁外へ50cmほど掘り込み，付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ60cm，両袖間の最大幅90cmである。袖部はにぶい褐色粘土で構築されている。火床部は長径45cm，短径25cmの楕円形で5cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変している。煙道部は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

B竈は，北壁を壁外へ60cmほど掘り込み，付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ95cm，両袖間の最大幅80cmである。袖部は褐色粘土で構築されている。火床部は長径60cm，短径20cmの楕円形で5cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。煙道部は火床面から緩やかに立ち上がる。

A竈土層解説

1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
2　暗褐色　にぶい褐色粘土大・中・小ブロック・粘土粒子多量
3　暗赤褐色　焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土中・小ブロック少量
4　赤褐色　ローム中・小ブロック多量

B竈土層解説

1　暗褐色　炭化粒子・ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
3　暗赤褐色　焼土大・中・小ブロック・焼土粒子・炭化物中量，ローム粒子少量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量

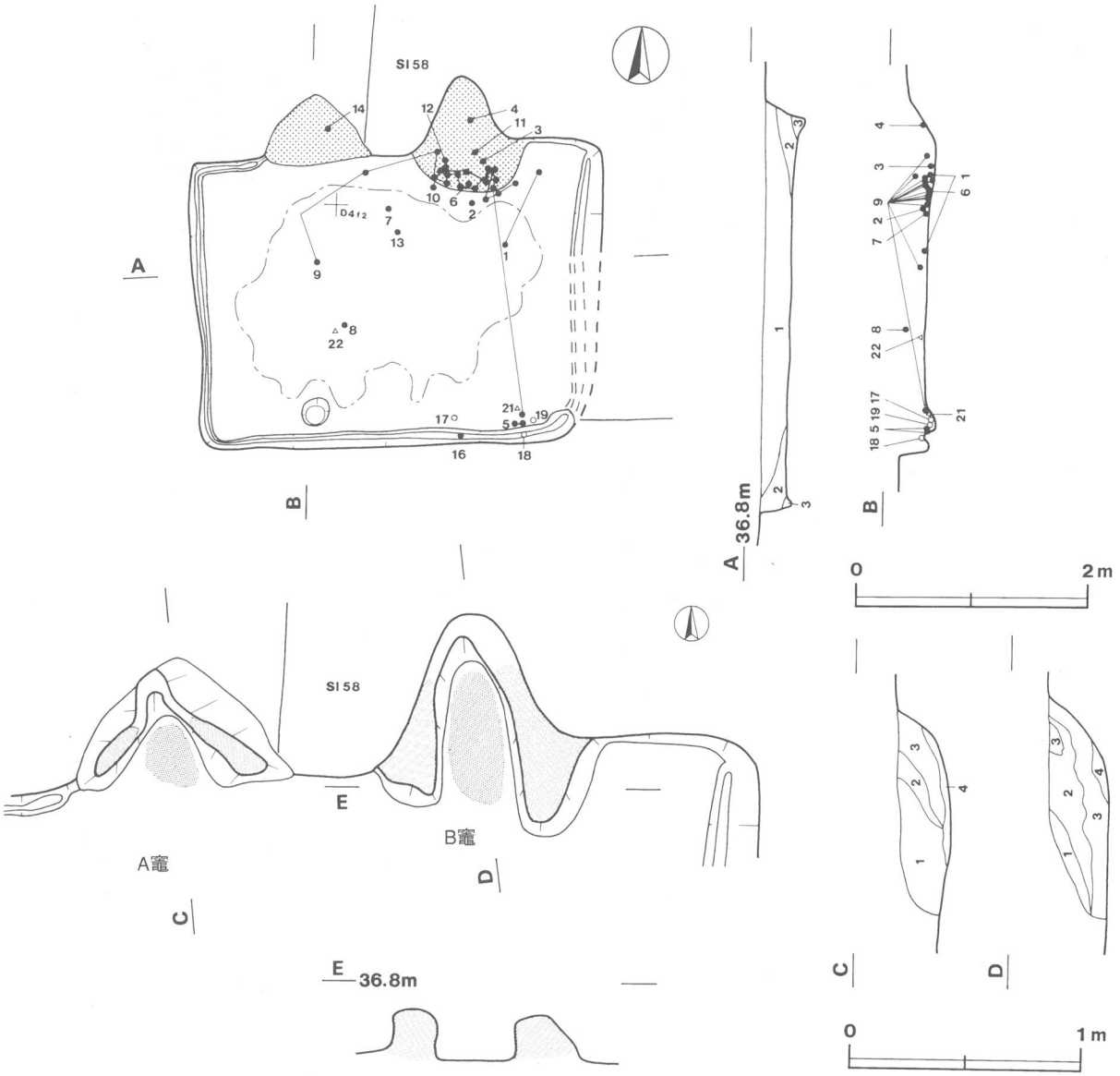
覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説

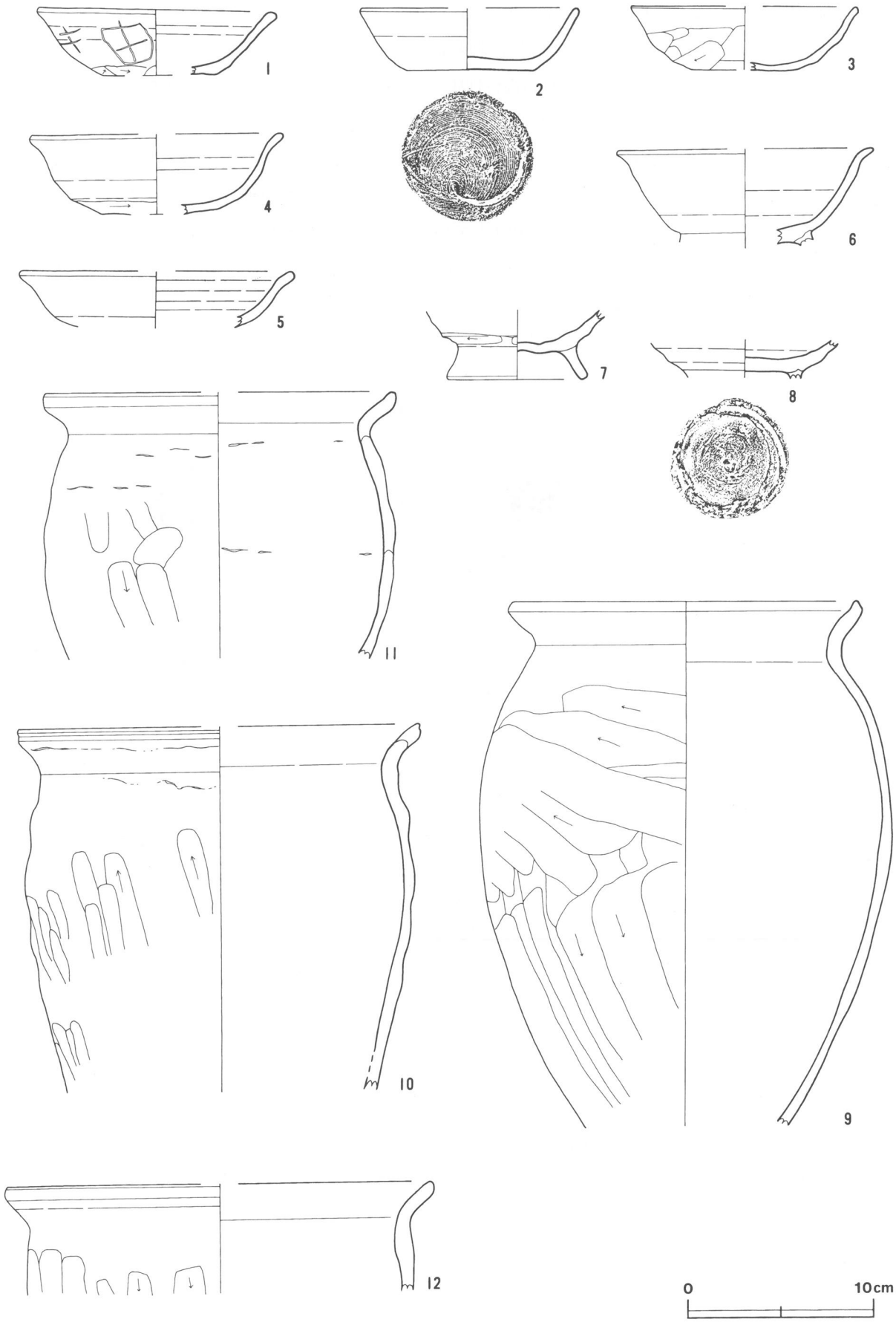
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子少量

遺物　土師器片1112点，須恵器片25点，瓦片１点，土製品22点，鉄製品３点，鉄滓10点（95g），縄文土器片３点が出土している。第118・119図1の土師器坏は北東部の床面から，２の土師器坏はB竈前面の床面から出土している。３・４の土師器坏，６の土師器高台付坏，９～12の土師器甕はB竈内の覆土中から散乱するように出土している。５の土師器坏，17～19の管状土錘，21の鉄鎌は南東コーナー部の床面から重なり合って出土している。７の土師器高台付坏，22の不明鉄製品は中央部の床面から，８の須恵器高台付坏，13の土師器甕，15の土師器甑は，中央部の覆土中層から出土している。20の丸瓦は南東部の覆土中層から出土している。14の土師器甕は，A竈内の覆土中層から出土している。16の須恵器甕は南壁下の壁溝の覆土中から出土している。鉄滓は含鉄滓２点（30g），鍛冶滓8点（65g）で中央部の覆土上層から出土し，流れ込みと思われる。縄文土器片は流れ込みである。

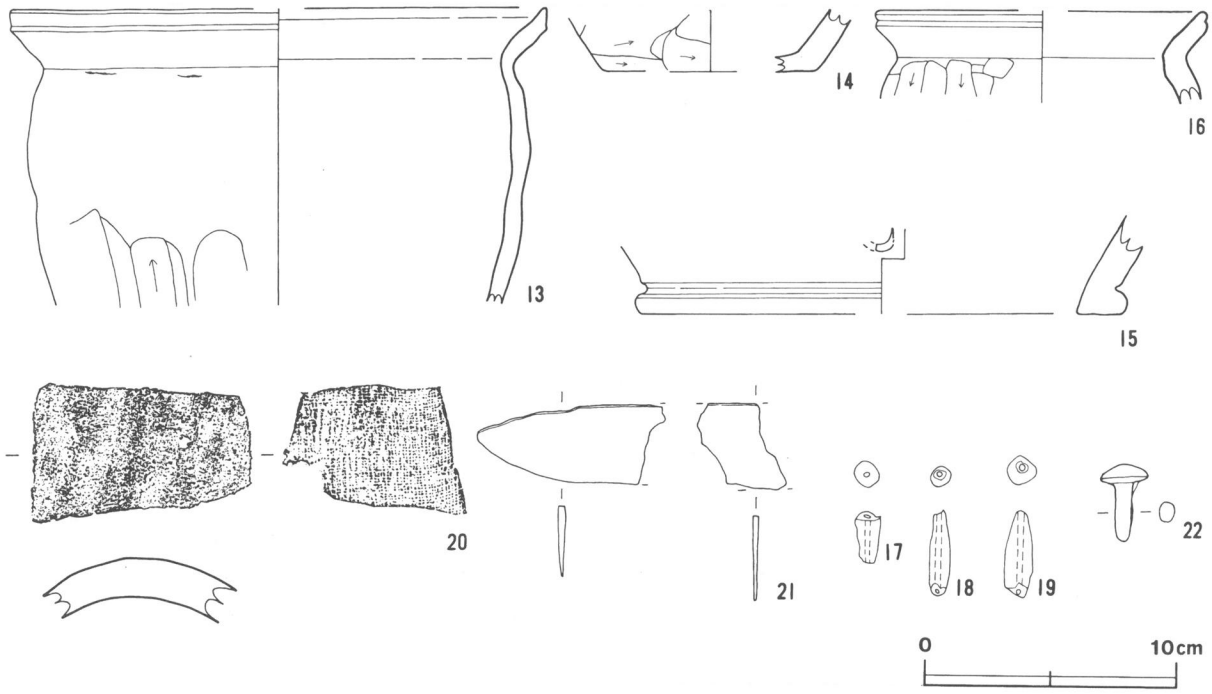
所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第117図　第60号住居跡



第118図　第60号住居跡出土遺物(1)



第119図　第60号住居跡出土遺物(2)

第60号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 1	坏 土師器	A 12.9 B 3.4 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石 にぶい褐色 普通	P386　60% 北東部床面 体部外面刻書
2	坏 土師器	A [11.8] B 3.3 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・黒色粒 にぶい橙色 普通	P387　30% B竈前床面
3	坏 土師器	A [12.2] B 3.4 C [5.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P388　30% B竈内
4	坏 土師器	A [13.6] B 4.0 C [6.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P389　30% B竈内
5	坏 土師器	A [14.8] B (3.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P391　10% 南東コーナー床面
6	高台付坏 土師器	A [13.9] B (5.2) E (0.5)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P399　20% B竈内
7	高台付坏 土師器	B (3.7) D 7.6 E 1.7	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。　体部下端手持ちヘラ削り。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・石英・スコリア 浅黄橙色 普通	P400　40% 中央部床面
8	高台付坏 須恵器	B (2.0)	底部片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部剥離。	底部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・黒色粒 にぶい橙色 普通	P402　30% 中央部覆土中層
9	甕 土師器	A 18.6 B (28.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位横位のヘラ削り，下位縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰褐色 普通	P405　50% B竈内
10	甕 土師器	A [21.8] B (19.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。体部外面輪積み痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P406　35% B竈内

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 11	甕 土師器	A [19.0] B (14.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。体部内・外面輪積み痕。	砂粒・雲母・パミス 橙色 普通	P407　20% B竈内
12	甕 土師器	A [23.2] B (5.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 やや不良	P409　15% B竈内
第119図 13	甕 土師器	A [21.4] B (11.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾し，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 灰褐色 やや不良	P410　20% 中央部覆土中層
14	甕 土師器	B (2.5) C [8.4]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P413　10% A竈内
15	甑 土師器	B (3.3) C [19.7]	底部から体部にかけての破片。底部は鍔状に横方向に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	底部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端穿孔。	長石・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P415　5% 中央部覆土中層
16	甕 須恵器	A [13.4] B (3.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 灰白色 普通	P418　5% 南壁下壁溝内 新治窯産

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
17	管状土錘	(2.0)	1.0	0.2	(1.7)	南東コーナー床面	DP73　90%
18	管状土錘	(3.4)	0.8	0.3	(2.0)	南東コーナー床面	DP74　90%
19	管状土錘	(3.4)	1.2	0.2	(3.7)	南東コーナー床面	DP75　90%

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
20	丸　瓦	(5.6)	(8.2)	1.5	(101.2)	南東部覆土中層	T9　凹面布目痕　凸面ナデ調整　5%

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
21	鉄　鎌	(12.2)	3.5	0.2	(19.9)	南東コーナー床面	M46　45%
22	不明鉄製品	2.8	1.9	1.9	(6.0)	中央部床面	M47

第61号住居跡（第120図）

位置　調査D区東部，D4f2区。

重複関係　本跡が第58～60号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第2号井戸跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.38m，短軸2.34mの長方形である。

主軸方向　N－84°－E

壁　覆土が極めて薄く床面の範囲を確認するのみで，壁を確認することができない。

床　北部及び東部は，ローム混じりの暗褐色土で貼床している。全体的に平坦で，よく踏み固められている。

竈　東壁中央部を壁外へ15cmほど掘り込み，付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ100cm，両

両袖間の最大幅80cmである。袖部は灰褐色粘土で構築されている。火床部は5cmほど掘りくぼめられているが，規模は不明である。煙道部は火床面から緩やかに立ち上がる。

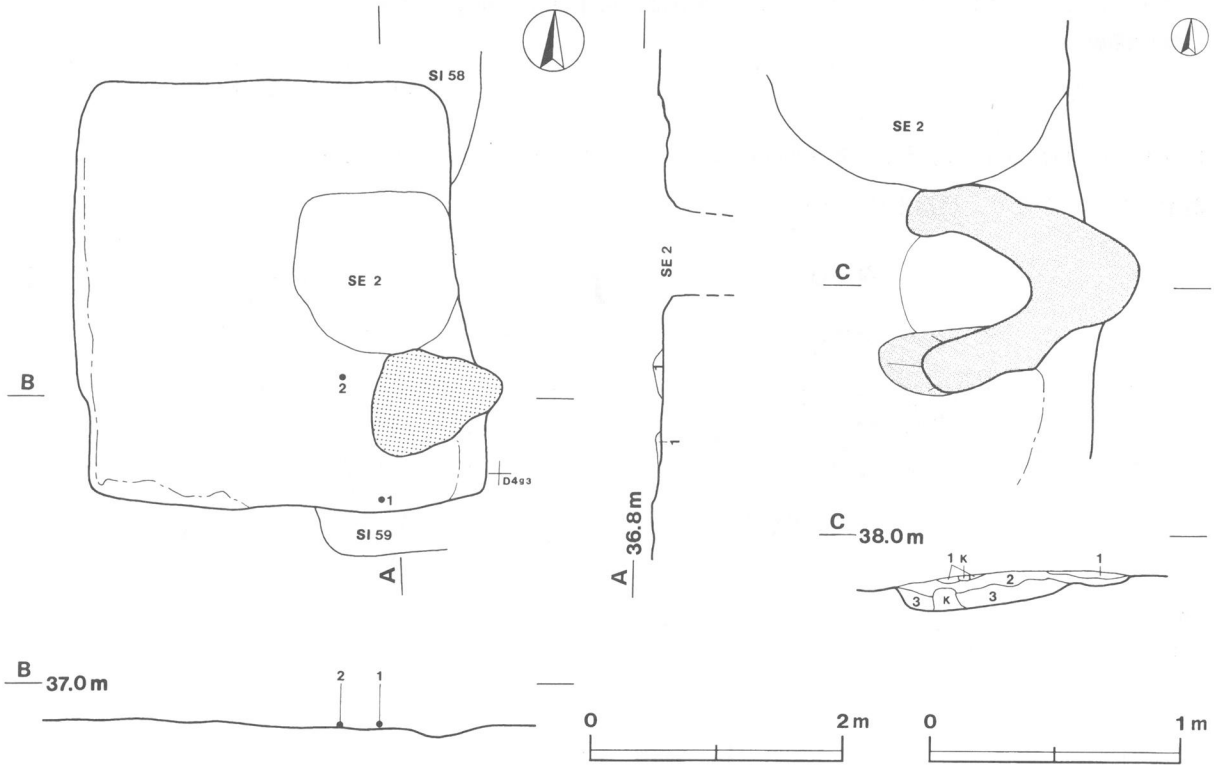
竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
2　暗褐色　灰・炭化物中量，炭化物・ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量

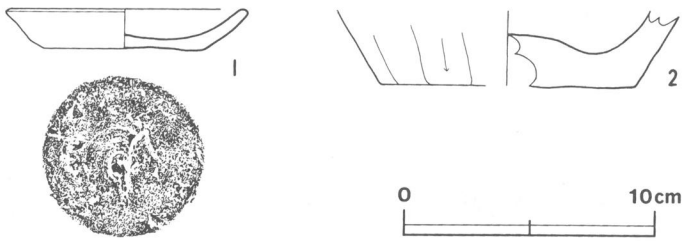
覆土　覆土が薄く不明である。

遺物　土師器片26点が出土している。第121図1の土師器小皿は，南東コーナー部の床面から正位で出土している。2の土師器甕は，竈前面の床面から逆位で出土している。

所見　本跡の時期は，重複関係と出土遺物から10世紀後半と思われる。



第120図　第61号住居跡



第121図　第61号住居跡出土遺物

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第121図 1	小皿 土師器	A 9.6 B 1.6 C 6.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P420　100% 南東コーナー床面
2	甕 土師器	B (3.1) C [10.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P421　10% 竈前床面

第62号住居跡（第122図）

位置　調査D区中央部，D4g1区。

規模と平面形　長軸3.87m，短軸3.47mの長方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は20～22cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

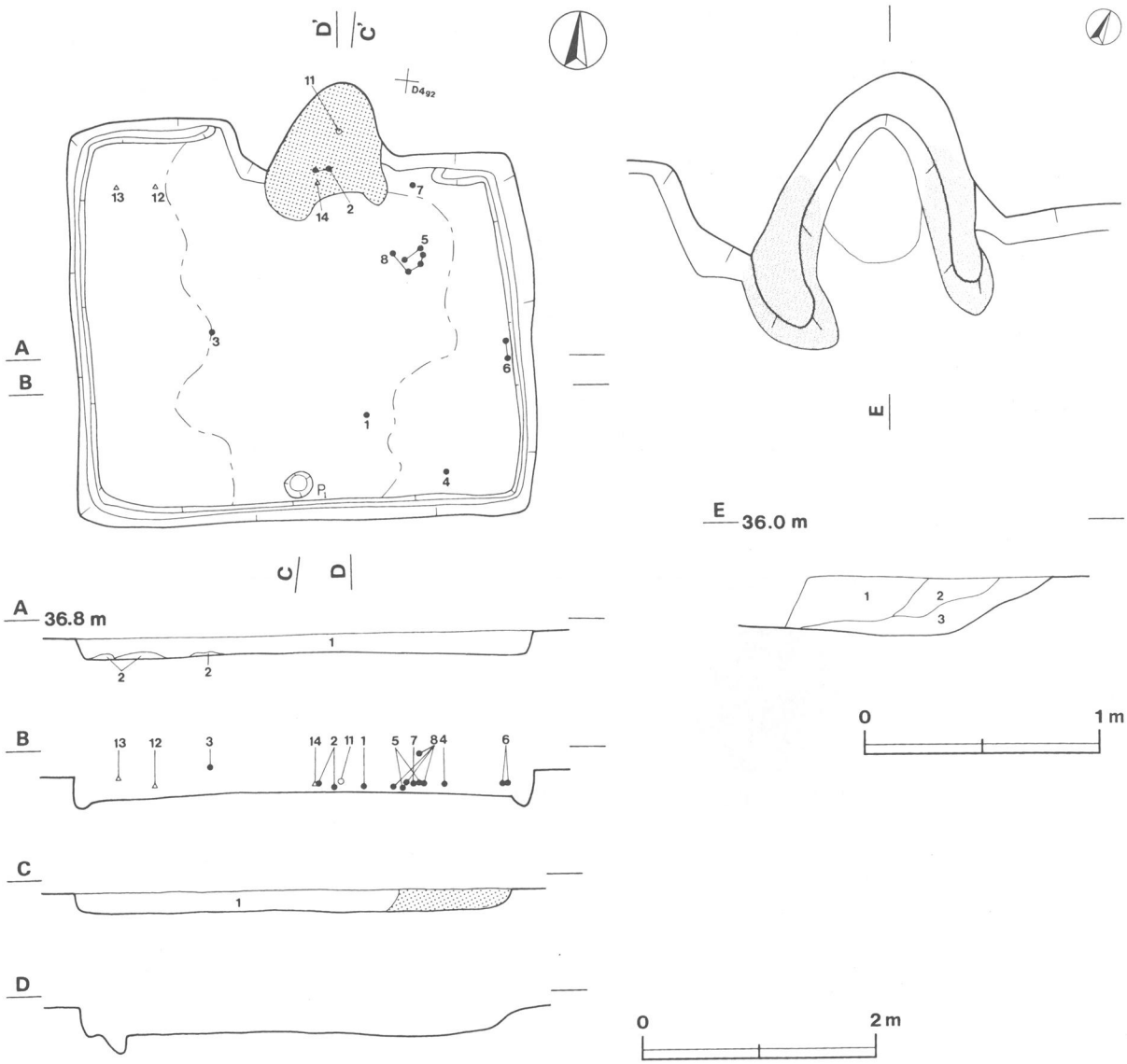
竈　北壁中央部を壁外へ65cmほど掘り込み，付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ105cm，両袖間の最大幅100cmである。袖部は灰白色粘土で構築されている。火床部は径40cmの円形で3cmほど掘りくぼめられて，熱を受けて硬化している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック・粘土粒子少量
2　暗赤褐色　粘土中・小ブロック・粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗赤褐色　粘土中・小ブロック多量，焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量，ローム中・小ブロック少量

ピット　P1は径25cmの円形で，深さ20cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　2層からなり，自然堆積である。

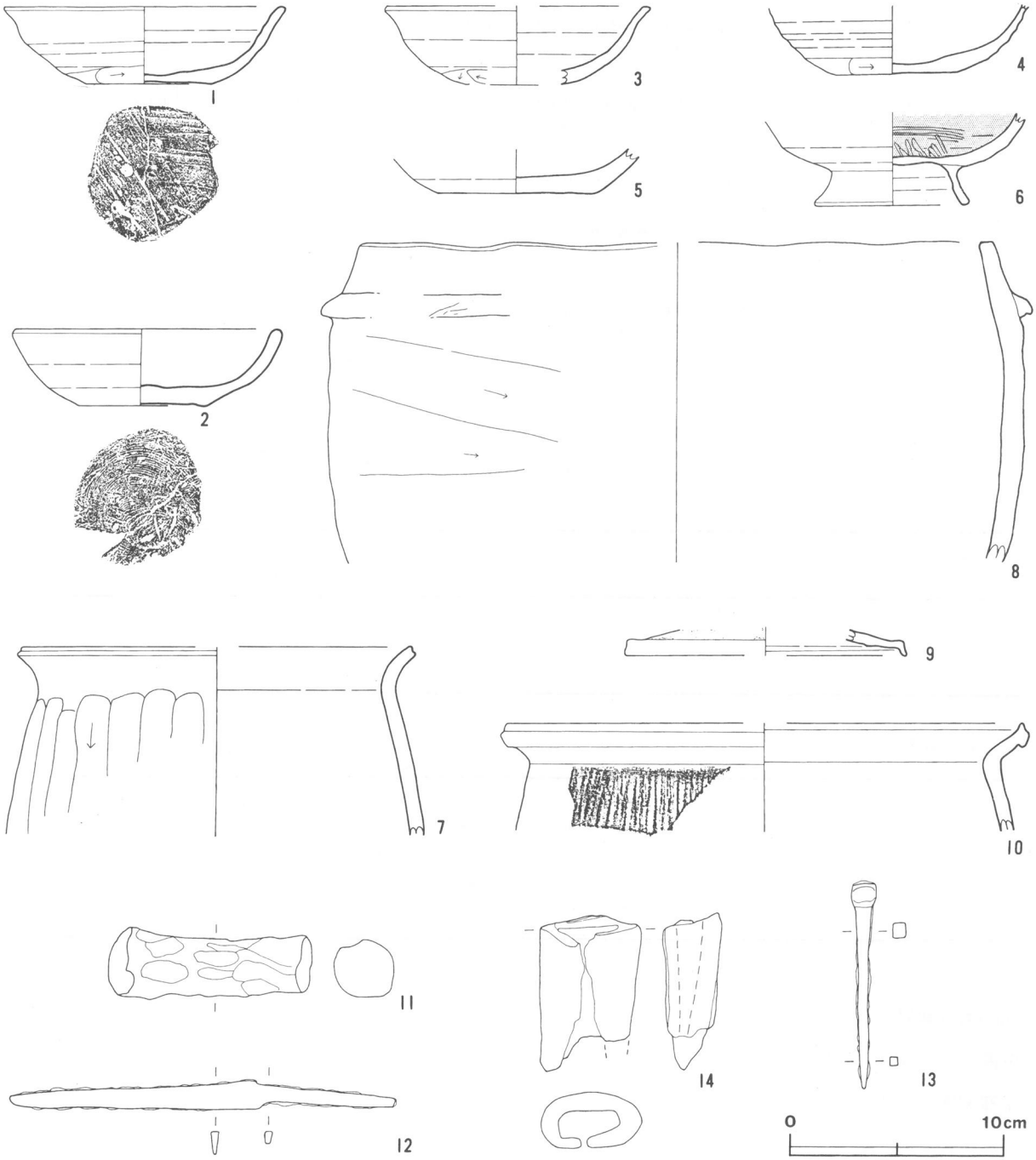


第122図　第62号住居跡

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，灰白色粘土粒子微量
2　褐　　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片205点，須恵器片15点，灰釉陶器片２点，鉄製品５点が出土している。第123図１の土師器坏は中央部の覆土下層から正位で，３の土師器坏は，中央部西側の覆土上層から，10の須恵器甕は，中央部の床面から出土している。２の土師器坏，９の須恵器蓋，11の土製品（把手か），14の鉄斧は，竈内の覆土中層から出土している。４の土師器坏は，南東部の覆土下層から出土している。５の土師器坏，８の土師器羽釜は竈前面の床面から，６の土師器高台付坏は東壁付近の覆土下層から出土している。７の土師器甕は，右袖部内から出土している。12の刀子，13の鉄釘は，北西コーナー部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第123図　第62号住居跡出土遺物

第62号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第123図 1	坏 土師器	A 13.2 B 3.6 C 5.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P423 70% 中央部覆土下層
2	坏 土師器	A 12.7 B 3.6 C 5.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P424 55% 竈内
3	坏 土師器	A〔12.4〕 B 3.6 C〔4.9〕	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P425 20% 中央部西側覆土上層
4	坏 土師器	B (3.1) C 5.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア・パミス にぶい褐色 普通	P426 40% 南東部覆土下層
5	坏 土師器	B (2.1) C 7.5	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後，ヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P427 30% 竈前床面
6	高台付坏 土師器	B (4.3) D 7.2 E 1.6	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P428 50% 東壁付近覆土下層
7	甕 土師器	A〔18.8〕 B (8.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 灰褐色 普通	P429 20% 竈右袖内
8	羽釜 土師器	A〔29.5〕 B (15.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。体部上位に鍔が付く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。	石英・長石 にぶい褐色 普通	P431 20% 竈前床面
9	蓋 須恵器	A〔13.2〕 B (1.3)	口縁部片。頂部は平坦で，口縁部内側に短いかえりが付く。	口縁部内・外面ロクロナデ。外面自然釉。	砂粒 灰黄色 普通	P435 5% 竈内
10	甕 須恵器	A〔24.8〕 B (5.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P433 5% 中央部床面 新治窯産

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
11	甕の把手	(9.5)	2.8	2.7	(91.9)	竈内	DP76 全面押圧痕

金属製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	刀子	(18.0)	1.4	0.4	(19.7)	北西コーナー覆土中層	M49 95%
13	鉄釘	(9.7)	1.3	0.7	(16.5)	北西コーナー覆土中層	M50 95%
14	鉄斧	(7.2)	4.7	2.6	(135.8)	竈内	M51 40%

第63号住居跡（第124図）

位置　調査D区中央部，D4e1区。

重複関係　本跡が第64号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第276～278号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸3.05mの長方形である。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は11cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅12～15cm，下幅３～５cm，深さ５cmで北壁下と東壁下の一部で確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，よく踏み固められている。

竈　北東コーナー部にA竈，東壁中央部にB竈を確認した。A竈は袖部の残存状態が良くないのでB竈より古いと思われる。

A竈は北東コーナー部を壁外へ60cmほど掘り込み，付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ100cm，両袖間の最大幅60cmである。袖部は，褐色粘土で構築されている。火床部は長径55cm，短径25cmの楕円形に３cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変している。円礫を支脚として火床部中央に埋設して使用している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

B竈は東壁中央を壁外へ40cmほど掘り込み，付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ90cm，両袖間の最大幅85cmである。袖部は，褐色粘土で構築されている。袖部の補強材として土師器甕片を使用している。火床部は長径35cm，短径25cmの楕円形に５cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

A竈土層解説

1　暗赤褐色　粘土粒子・焼土粒子・ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，粘土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗 褐 色　灰多量，炭化粒子・ローム粒子少量

B竈土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子中量
2　にぶい赤褐色　焼土大・中ブロック多量
3　暗　褐　色　炭化物・灰中量，粘土大・中ブロック・粘土粒子少量

覆土　２層からなり，ロームブロックが不均一に堆積しているので，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量

遺物　土師器片130点，須恵器片４点，緑釉陶器片１点，灰釉陶器片１点，瓦片１点，鉄製品２点が出土している。第125図１・２の土師器坏，７の土師器甕，10の土師器甑は，B竈内の覆土中から出土している。３の土師器高台付椀，８の土師器甕は，A竈内の覆土中から出土している。４の土師器高台付椀は南東部の覆土中層から，13の緑釉陶器椀，14の丸瓦は南東部の覆土下層から出土している。５の土師器高台付椀と11の須恵器坏は，南西部の床面から出土している。６の土師器高台付椀と15の鉄鏃は，西壁中央付近の床面から，９の土師器甑は竈前面の覆土中層から出土している。12の灰釉陶器椀は中央部北側の覆土下層から，16の刀子は中央部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀前半と考えられる。

第64号住居跡（第124図）

位置　調査D区中央部，D4e1区。

重複関係　第63・66号住居跡，第214・215・276～278号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.50m，短軸3.45mのほぼ方形である。

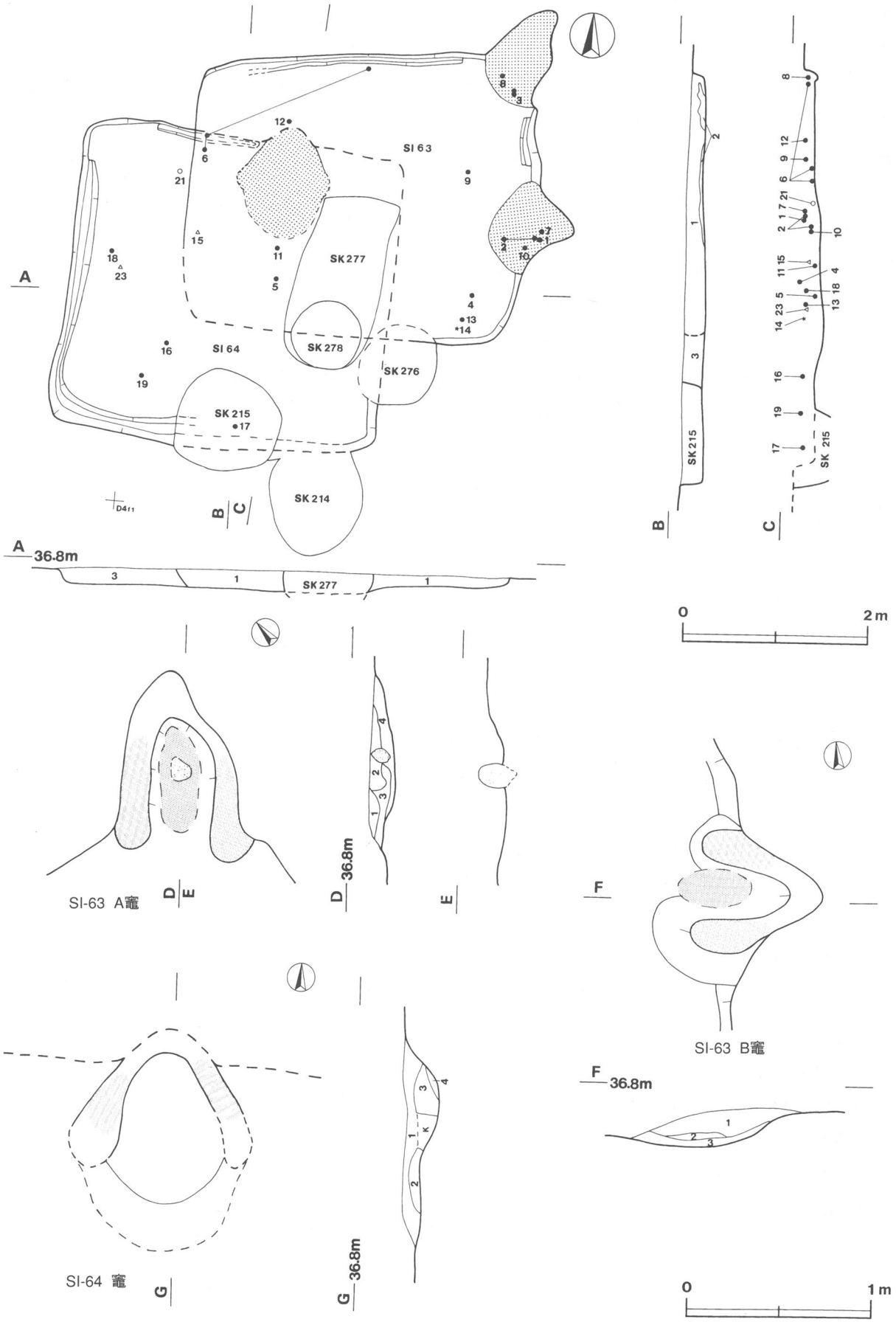
主軸方向　N－0°

壁　壁高は23cmで，外傾して立ち上がる。北東部は第63号住居跡に掘り込まれ不明である。

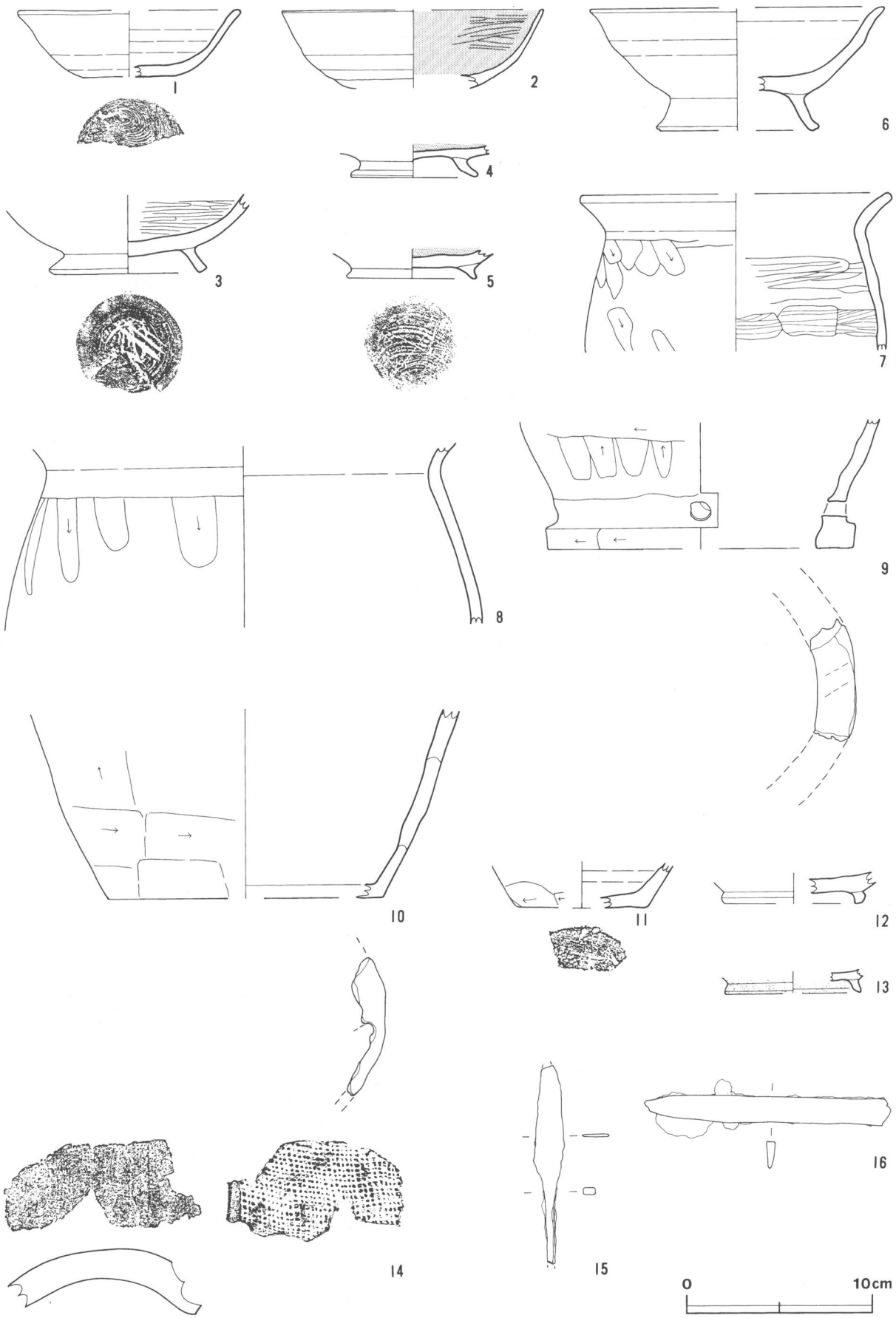
壁溝　上幅15～25cm，下幅3～10cm，深さ5cmで南壁下と西壁下の一部で確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ掘り込み，付設されている痕跡を確認する。規模は焚口部から煙道部までの長さ



第124図　第62・63号住居跡



第125図　第63号住居跡出土遺物

第63号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第125図 1	坏 土師器	A [12.0] B 3.6 C [5.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P436 40% B竈内
2	坏 土師器	A [14.1] B (4.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・雲母・パミス 浅黄橙色 普通	P437 20% B竈内
3	高台付椀 土師器	B (4.2) D 8.6 E 1.3	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。底部外面ヘラ記号。底部内面線刻。	長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P439 55% A竈内
4	高台付椀 土師器	B (1.7) D 6.9 E 1.0	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・パミス・黒色粒 にぶい黄橙色 普通	P440 30% 南東部覆土中層
5	高台付椀 土師器	B (1.6) D 7.0 E 0.8	高台部から体部の破片。台部は短くハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石 にぶい黄橙色 普通	P451 20% 南西部床面
6	高台付椀 土師器	A [16.0] B 6.6 D [8.8] E 1.8	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P450 35% 西壁中央床面
7	甕 土師器	A [17.0] B (8.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	頸部内・外面横ナデ。体部外面縦位のナデ。内面横ナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P441 20% B竈内
8	甕 土師器	B (9.7)	体部から頸部にかけての破片。体部はわずかに外反して立ち上がる。	体部外面中位ヘラ削り，内面ナデ。張り出し部ヘラ削り。	砂粒・雲母・パミス 橙色 普通	P443 25% A竈内
9	甑 土師器	B (6.9) C [16.6]	底部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。底部は鍔状に横方向に開く。体部下端に外面から穿孔。	底部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・パミス 橙色 普通	P444 5% B竈前覆土中層
10	甑 土師器	B (10.1) C [14.9]	底部から体部にかけての破片。多孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面中位縦位のナデ，下端横位のヘラ削り。内面横ナデ。	石英 橙色 やや不良	P445 10% B竈内
11	坏 須恵器	B (2.5) C [7.0]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・スコリア 黄灰色 普通	P457 10% 南西部床面
12	椀 灰釉陶器	B (1.7) D [7.7] E 0.6	底部破片。平底。台部は三日月状を呈す。	底部ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	胎土：灰白色 釉調：灰オリーブ色 普通	P446 5% 中央部北側覆土下層
13	椀 緑釉陶器	B (1.2) D [7.4] E 0.7	底部破片。平底。台部はハの字状に開く。	底部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。高台部内・外面釉。	胎土：灰白色 釉調：灰オリーブ色 良好	P447 5% 南東部覆土下層 近江産

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
14	丸瓦	(5.2)	(10.0)	1.8	(111.0)	南東部覆土下層	T11 凹面布目痕凸面ナデ調整 5%

金属製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
15	鉄鏃	(10.7)	1.7	0.4	(12.4)	西壁中央付近床面	M52 90%
16	刀子	(14.0)	1.6	0.5	(37.2)	中央部覆土中層	M54 90%

(110cm)，両袖間の最大幅（90cm）である。袖部は，褐色粘土で構築されている。火床部は不明である。

煙道　部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量
2　黒 褐 色　灰・粘土粒子多量（2～5mmの灰層と褐色粘土層が相互に堆積している）
3　褐 灰 色　灰多量
4　暗赤褐色　焼土小ブロック中量

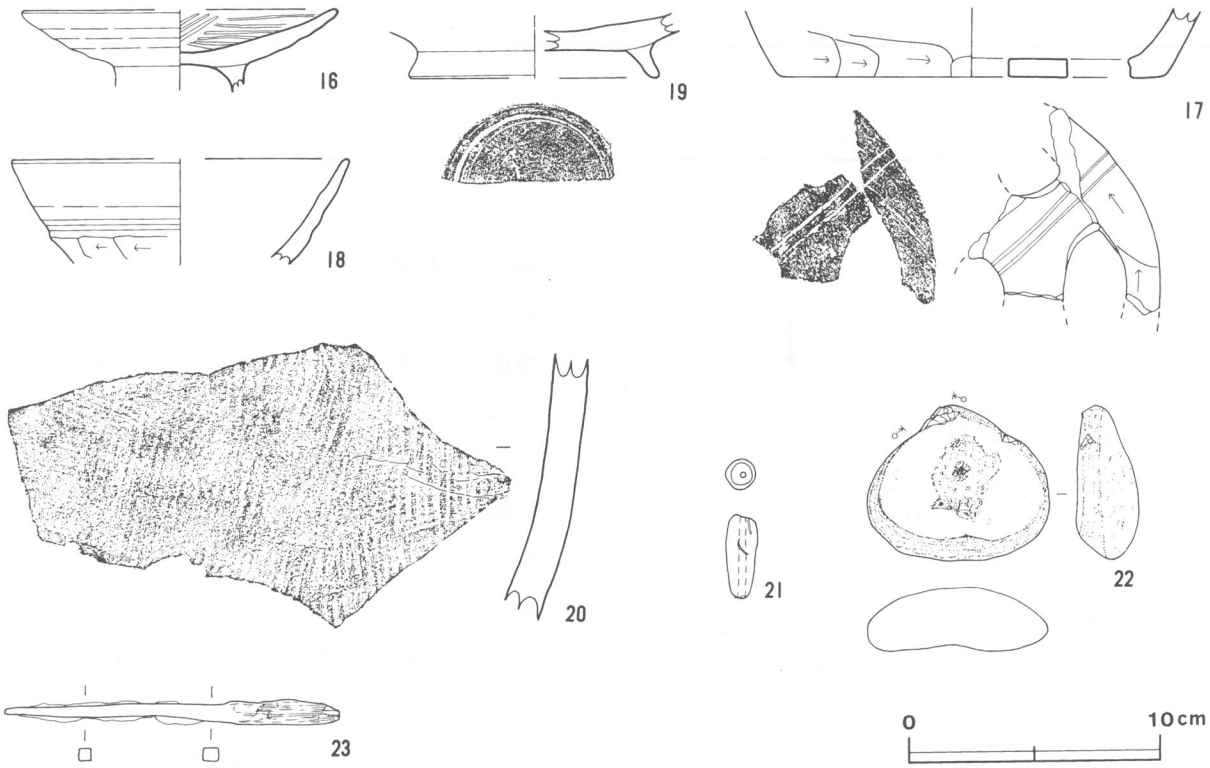
覆土　単一層であり，ロームブロックが不均一な堆積をしているので，人為堆積と思われる。

土層解説

3　暗 褐 色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量

遺物　土師器片278点，須恵器片15点，鉄製品1点，土製品7点が出土している。第126図16の土師器台付皿は南西部の覆土下層から，19の須恵器高台付坏は南西部の覆土中層から出土している。17の土師器甑は，南壁付近の覆土下層から出土している。18の須恵器坏は西壁中央の覆土下層から出土している。21の管状土錘は北西部の覆土下層から出土している。23の不明鉄製品は西壁中央の床面から出土している。22の凹石は中央部の覆土中層から出土している。20は須恵器甕の体部片で，外面に平行叩きが施されている。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀中葉と考えられる。18の須恵器は三和町の三和窯産である。19の須恵器は岩瀬町の堀ノ内窯産である。



第126図　第64号住居跡出土遺物

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第126図 16	台付皿 土師器	A［12.6］ B（3.2） C（1.0）	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して口縁部に至る。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。	長石 にぶい橙色 普通	P452　30% 南西部覆土下層
17	甑 土師器	B（2.6） C［15.4］	底部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。多孔式。	体部外面横位のヘラ削り，内面横ナデ。底部ヘラ削り。底部線刻。	砂粒・石英・雲母・パミス にぶい橙色 普通	P455　5% 南壁覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第126図 18	坏 須恵器	A [13.5] B (4.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・長石 灰黄褐色 普通	P456　20% 西壁付近覆土下層 三和窯産
19	高台付坏 須恵器	B (2.5) D [10.0] E　1.3	底部破片。平底。台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	長石 灰色 普通	P458　25% 南西部覆土中層 堀ノ内窯産

土製品観察表

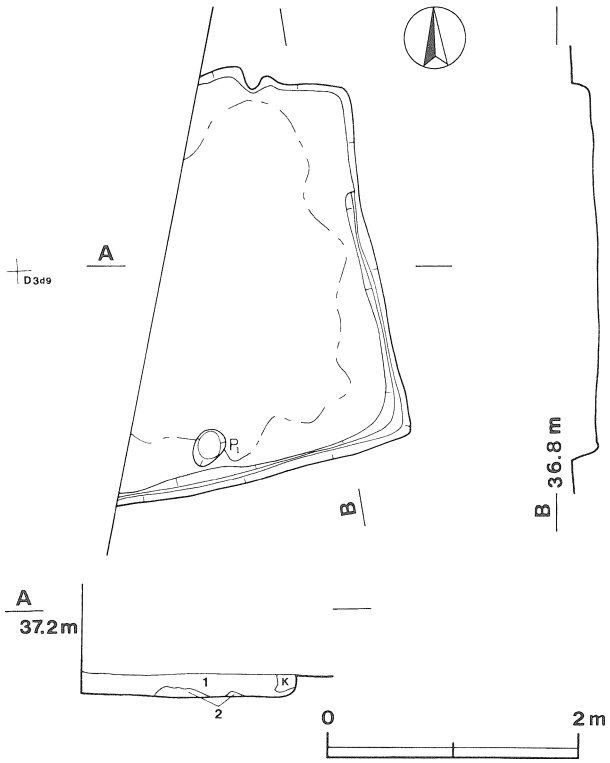
図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
21	管状土錘	(3.3)	1.2	0.3	(4.2)	北西部覆土下層	DP77　85%

石製品観察表

図版番号	種　別	計測値				石質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
22	凹　石	6.1	7.4	2.6	141.4	安山岩	中央部覆土中層	Q41

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
23	不明鉄製品	(13.3)	1.0	0.6	(17.0)	西壁中央付近床面	M55　一部木片付着



第127図　第65号住居跡

第65号住居跡（第127図）

位置　調査D区中央部，D3d9区。

規模と平面形　西半分が調査区域外へ延びており，南北3.25m，東西（1.64m）で，平面形は不明である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は14～19cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅10～20cm，下幅2～10cm，深さ3cmで，南壁下と東壁下の一部で確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，よく踏み固められている。

竈　北壁中央部に焼土の堆積と粘土塊が見られるので，調査区域外にあるものと思われる。

ピット　P_1は径20cmの円形で，深さ22cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　2層からなり，自然堆積である。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量

2　暗褐色　ローム粒子多量

遺物　土師器片52点，須恵器片３点，縄文土器片１点が出土している。住居内全体から細片で出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見　出土遺物が細片であり時期を決定するのが難しいが，遺構の形状から平安時代と思われる。

第66号住居跡（第128図）

位置　調査D区中央部，D3e0区。

重複関係　本跡が第64・67号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第268・270号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸2.50mの隅丸長方形である。

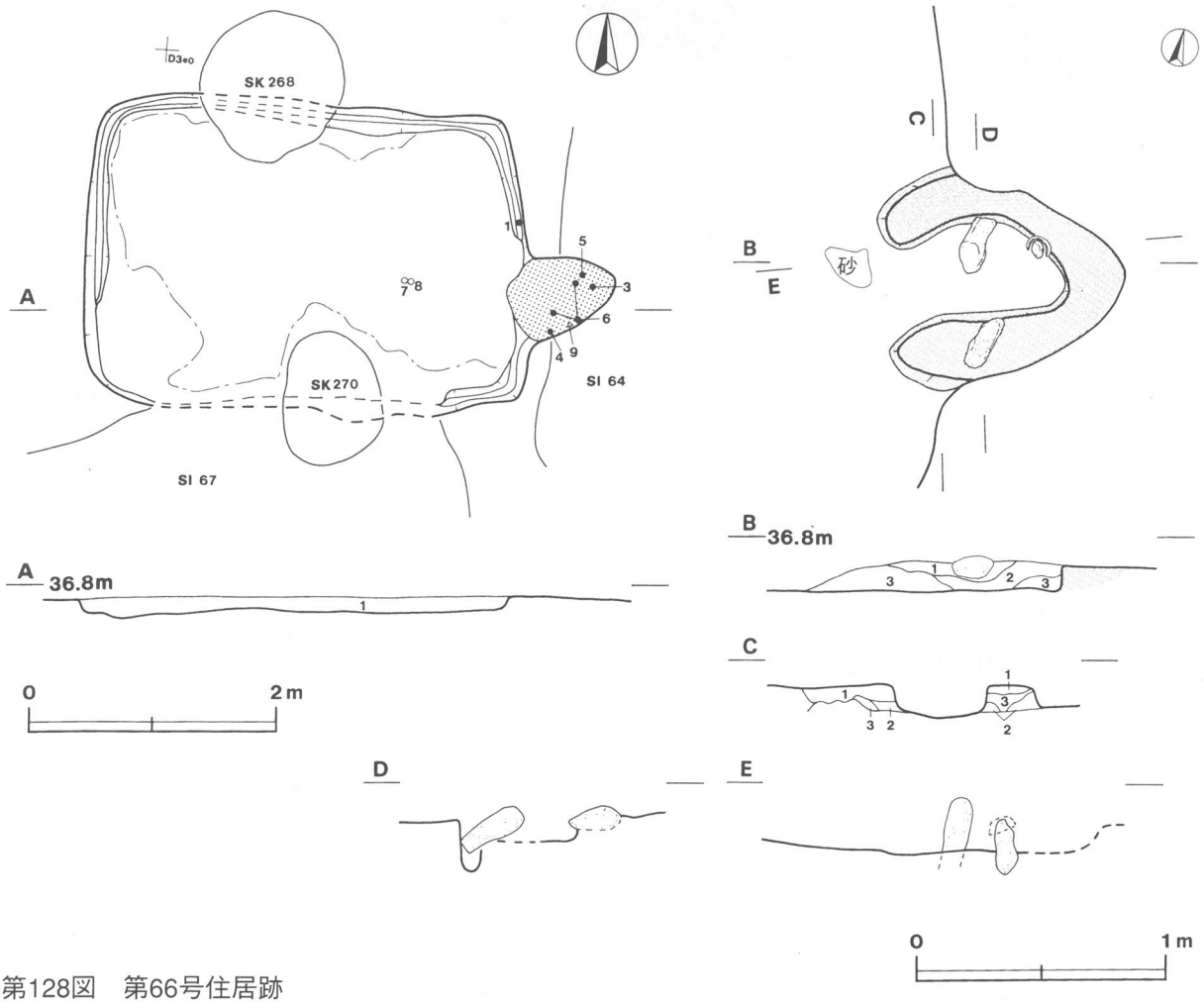
主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅13～20cm，下幅４～10cm，深さ５cmで南西部を除いて確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，よく踏み固められている。

竈　東壁中央部を壁外へ60cm掘り込み，付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ100cm，両袖間の最大幅90cmである。袖部は，にぶい褐色粘土で構築されている。両袖の内側に径10cm，長さ25～30cmの円礫が補強材として埋設されている。火床部は径35cmの円形に５cmほど掘りくぼめられ，中央部に円礫が支脚として利用されている。煙道部は火床部から垂直に立ち上がる。



第128図　第66号住居跡

竈土層解説

1　暗 褐 色　粘土粒子少量
2　暗赤褐色　粘土中・小ブロック多量，焼土小ブロック中量
3　暗 褐 色　粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

竈袖断割土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
2　にぶい褐色　粘土粒子多量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

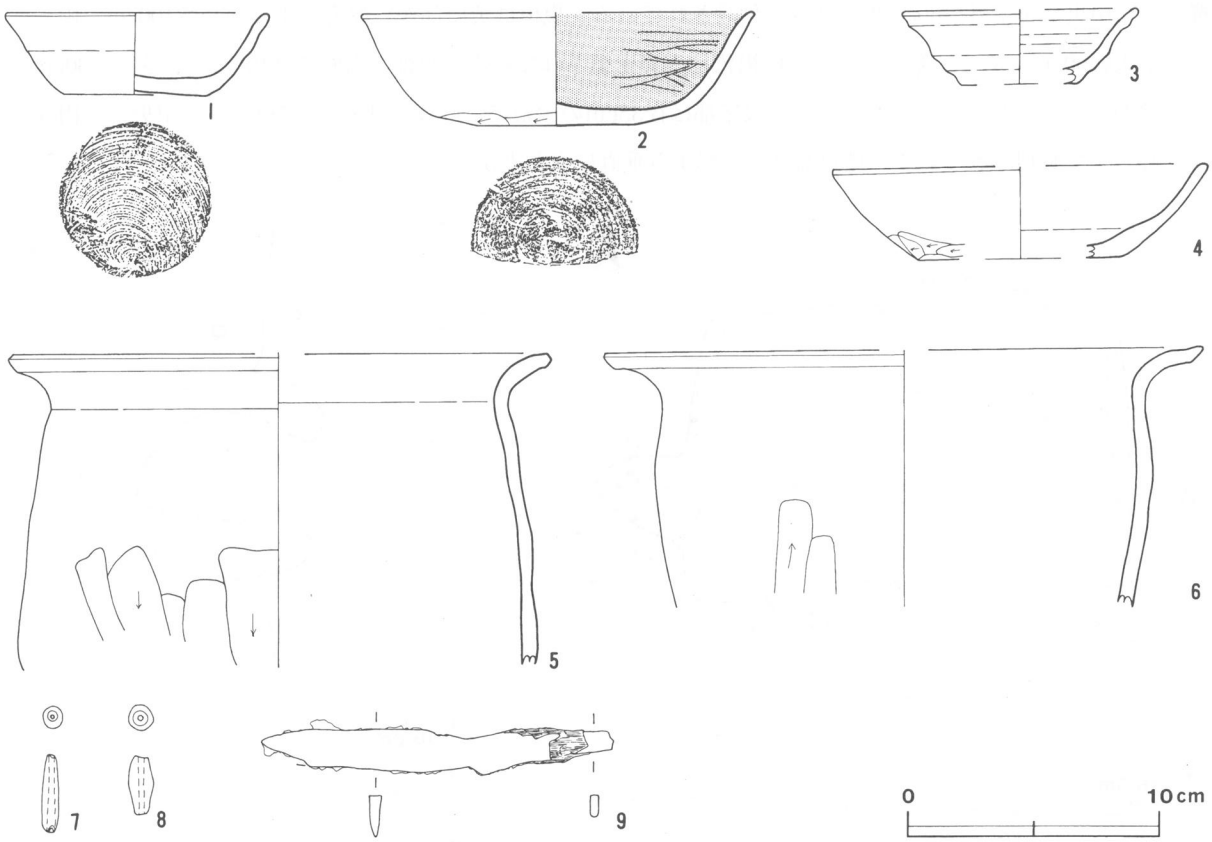
覆土　単一層であり，ロームブロックが不均一に堆積しているので，人為堆積と思われる。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，炭化物少量

遺物　土師器片98点，須恵器片14点，鉄製品１点，土製品２点，鉄滓２点，円礫16点，縄文土器片１点が出土している。第129図１の土師器坏は竈左側の床面から正位で出土している。２の土師器坏は中央部の覆土中層から出土している。３の土師器坏は，竈内の円礫の支脚上から逆位で出土している。４の土師器坏と５・６の土師器甕は，竈内の覆土中から出土している。7・8の管状土錘は竈前面の床面から出土している。９の刀子は，竈内から出土している。鉄滓は，流動滓１点（10g），含鉄滓1点（5g）が中央部の覆土中層から出土し，流れ込みと思われる。縄文土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から９世紀末から10世紀初頭と考えられる。



第129図　第66号住居跡出土遺物

第66号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第129図 1	坏 土師器	A 10.5 B 3.3 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石 にぶい黄橙色 普通	P461　95% 竈左床面
2	坏 土師器	A [15.7] B 4.5 C 6.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・黒色粒 にぶい黄橙色 普通	P462　45% 中央部覆土中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第129図 3	坏 土師器	A［9.4］ B 3.0 C［4.8］	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・黒色粒 橙色 普通	P463　35% 竈内
4	坏 土師器	A［15.0］ B 3.7 C［8.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・黒色粒 にぶい橙色 普通	P448　20% 竈内
5	甕 土師器	A［21.7］ B（12.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・黒色粒 橙色 普通	P464　20% 竈内
6	甕 土師器	A［24.0］ B（10.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・パミス にぶい赤褐色 普通	P465　15% 竈内

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ（cm）	径（cm）	孔径（cm）	重量（g）		
7	管状土錘	3.1	0.8	0.2	(2.0)	竈前床面	DP78　95%
8	管状土錘	(2.3)	1.0	0.2	(1.7)	竈前床面	DP79　95%

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
9	刀　子	(14.0)	1.6	0.5	(37.2)	竈内	M53　90%

第67号住居跡（第130図）

位置　調査D区中央部，D3f0区。

重複関係　本跡が第68号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第66号住居跡，第270・280～282号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸3.90mのほぼ方形である。

主軸方向　N－17°－W

壁　壁高は32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～20cm，下幅4～10cm，深さ5cmで北東部を除いて確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，よく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ25cm掘り込み，付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ125cm，両袖間の最大幅105cmである。袖部は，灰白色粘土で構築されている。火床部は長径40cm，短径20cmの楕円形に10cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変している。煙道部は火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

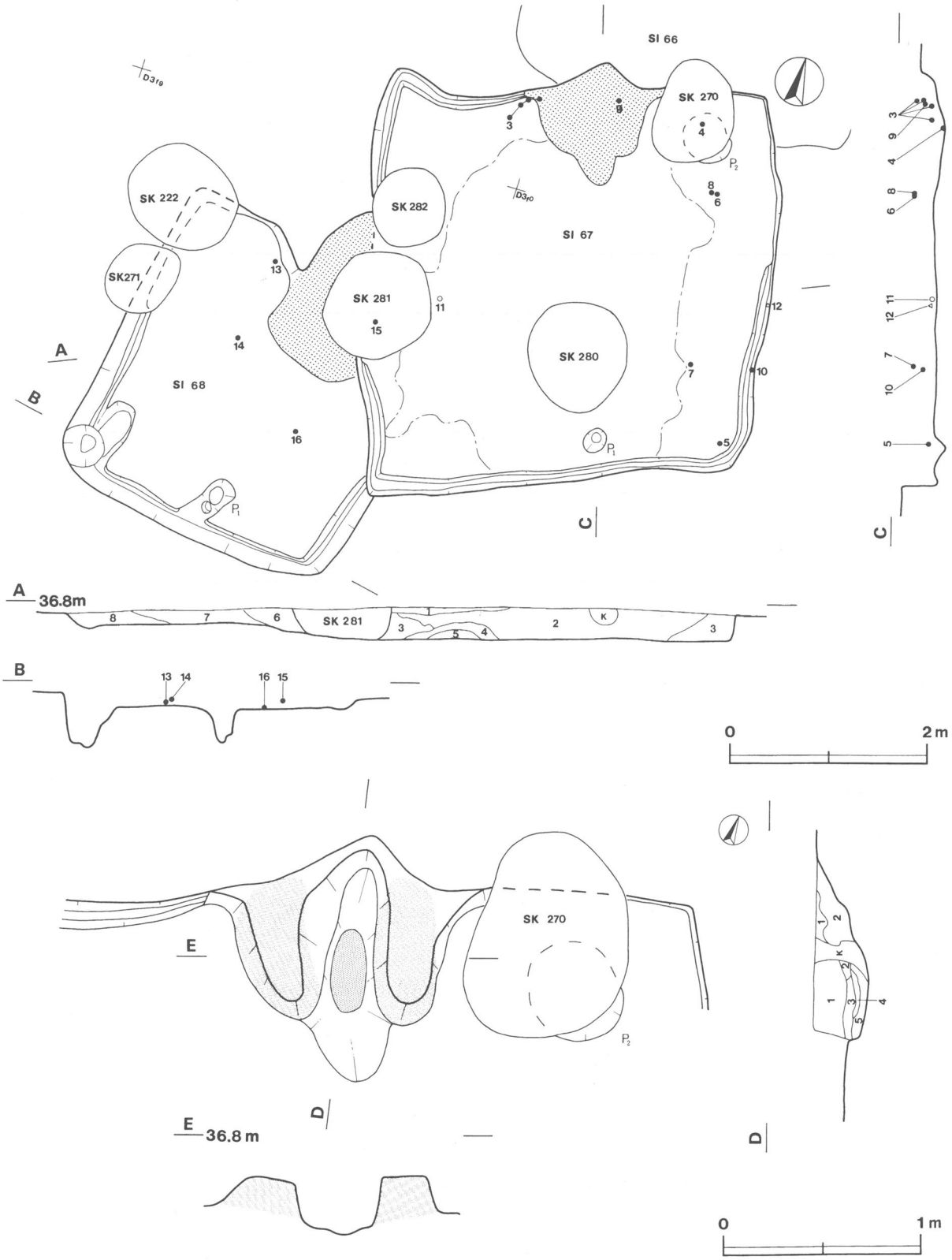
1　灰褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・灰白色粘土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
3　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，粘土小ブロック微量
4　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量
5　暗赤褐色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は径25cmの円形で，深さ15cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。P_2は径50cmの円形で，深さ25cmである。性格は不明である。

覆土　5層からなり，ロームブロックを局部的に含有しているので，人為堆積と思われる。

土層解説

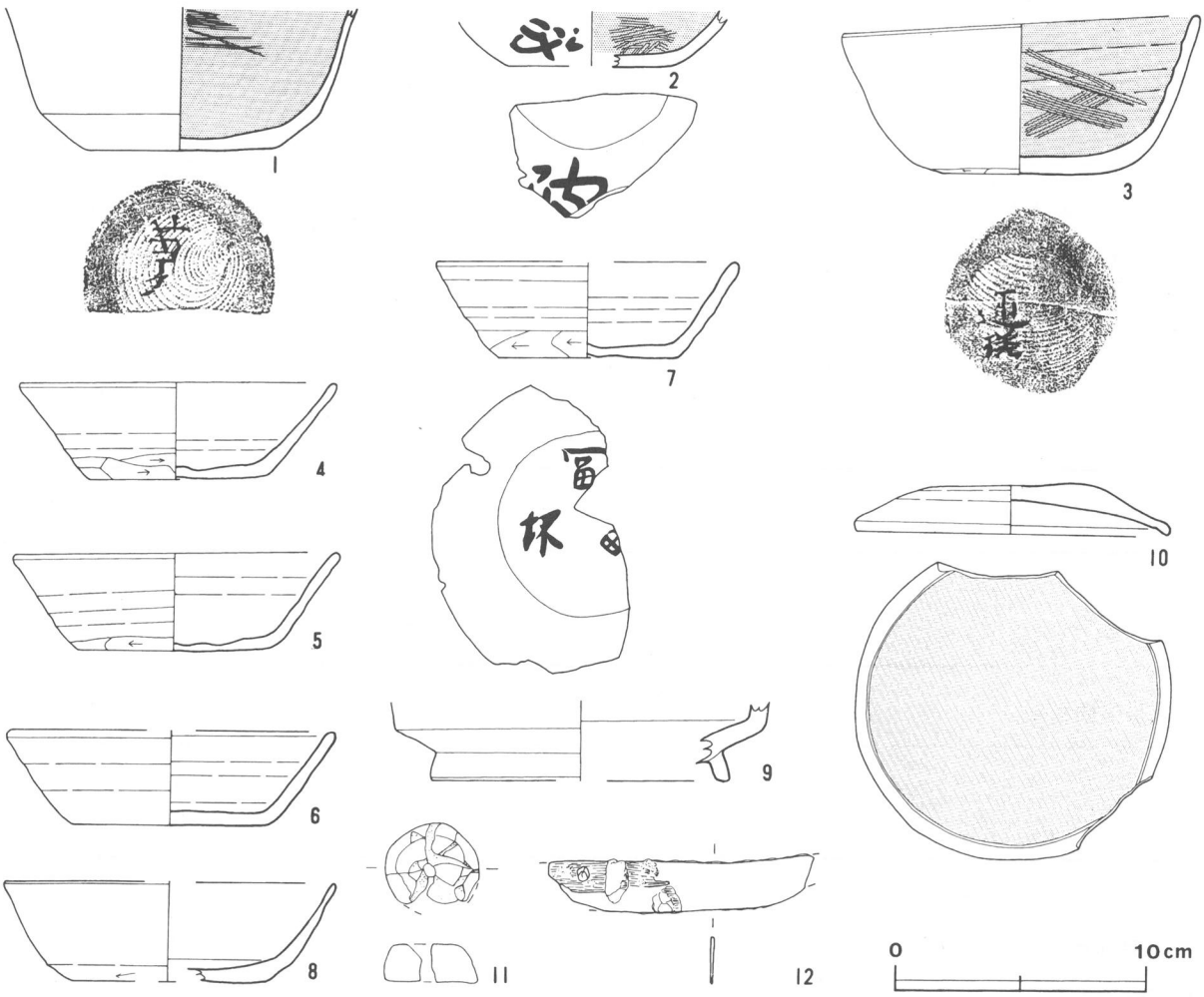
1　暗褐色　耕作土
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，粘土大・中ブロック中量
3　暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・中量，炭化粒子・粘土粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子少量



第130図　第67・68号住居跡

遺物　土師器片466点，須恵器片48点，灰釉陶器片４点，土製品２点，鉄製品２点，円礫19点，縄文土器片３点が出土している。第131図１の土師器椀，7の須恵器坏は南東部の覆土中層から出土している。２の土師器坏は南西部の覆土中層から出土している。３の土師器椀は，竈左側の床面から出土している。４の須恵器坏はP_2の覆土中から，５の須恵器坏は南東コーナー部の床面から，６の須恵器坏は北東部の覆土中層から出土している。８の須恵器坏は北東部の覆土中層から出土している。９の須恵器高台付坏は竈内の覆土上層から出土している。10の須恵器蓋は東壁中央の壁溝上から横位で出土している。内面を硯として転用している。11の土製紡錘車は中央部西側の床面から，12の鉄鎌は東壁近くの床面から出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から９世紀前葉と考えられる。８の須恵器は栃木県宇都宮市の宇都宮窯産である。



第131図　第67号住居跡出土遺物

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第131図 1	椀 土師器	B（5.7） C　7.6	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り後，回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石 橙色 普通	P469　30% 南東部覆土中層 底部外面墨書

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 2	坏 土師器	B (2.1) C [6.4]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・石英・黒色粒 橙色 普通	P470 10% 南西部覆土中層 体部外面墨書
3	椀 土師器	A 14.4 B 6.4 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部静止糸切り後，手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	長石 にぶい橙色 普通	P473 95% 竈左側床面 底部外面「逓瑛」墨書
4	坏 須恵器	A 12.8 B 3.8 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり,口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・石英 黄灰色 良好	P475 95% P_2内覆土中 新治窯産
5	坏 須恵器	A 13.1 B 4.0 C 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向ヘラ削り。	砂粒・石英・長石 褐灰色 普通	P476 90% 南東コーナー床面 新治窯産
6	坏 須恵器	A [13.1] B 3.8 C 7.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後，底部側面ナデ。	砂粒・石英・雲母 灰黄色 普通	P477 55% 北東部覆土中層 新治窯産
7	坏 須恵器	A [12.1] B 3.8 C 7.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母・黒色粒 灰黄褐色 普通	P478 45% 南東部覆土中層 底部外面「冨坏□」墨書 新治窯産
8	坏 須恵器	A [13.2] B 4.0 C [7.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後，底部側面回転ヘラ削り。	長石 オリーブ黄色 普通	P479 20% 北東部覆土中層 宇都宮窯産
9	高台付坏 須恵器	B (3.2) D [12.0] E 1.2	高台部から体部にかけての破片。体部下端に明瞭な稜を持つ。台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・黒色粒 灰色 普通	P482 15% 竈内
10	蓋 須恵器	A 12.7 B 2.1	口縁部一部欠損。つまみ欠損。天井部から口縁部にかけてドーム状をしている。口縁部端部にわずかなかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部ロクロナデ。	長石 黄灰色 普通	P483 90% 東壁中央壁溝上 内面転用硯 益子窯産

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
11	紡錘車	[3.8]	1.5	0.5	(16.4)	中央部西側床面	DP80 70%

金属製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	鉄鎌(手鎌)	(10.6)	2.2	0.2	(15.1)	東壁付近床面	M57 杖部木片付着 75%

第68号住居跡（第130図）

位置　調査D区中央部，D3f_9区。

重複関係　第67号住居跡，第222・271・281号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.20m，短軸3.00mで，平面形は隅丸方形と思われる。

主軸方向　N－7°－E

壁　壁高は15cmで，外傾して立ち上がる。北東部が第67号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝　上幅25～30cm，下幅３～５cm，深さ５cmで，北東部を除いて確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ掘り込み，付設されていた痕跡を確認したが，第281号土坑に掘り込まれ不明である。

ピット　P1は径30cmの円形で，深さ30cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説

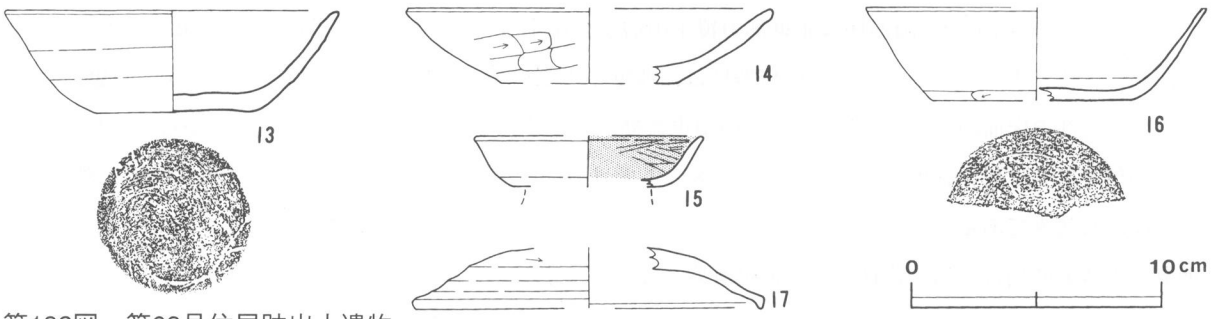
6　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中・小ブロック・粘土粒子少量

7　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子中量，炭化物・焼土粒子少量

8　暗褐色　ローム粒子中量，炭化物・焼土粒子少量

遺物　土師器片171点，須恵器片17点，鉄製品2点，鍛冶滓1点（25g）が出土している。第132図13の土師器坏は竈左側の床面から正位で出土している。14の土師器坏は竈前面の覆土下層から出土している。15の土師器高台付坏は，竈右側の覆土下層から出土している。16の須恵器坏は中央部の床面から逆位で出土している。17の須恵器蓋は北東部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀前葉から中葉と思われる。16の須恵器は栃木県宇都宮市の宇都宮窯産である。



第132図　第68号住居跡出土遺物

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 13	坏 土師器	A 13.4 B 3.8 C 6.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P484 竈左側床面 60%
14	坏 土師器	A [14.7] B 3.0 C [7.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部中位手持ちヘラ削り。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色　普通	P485 竈前覆土下層 20%
15	高台付坏 土師器	A [9.2] B (2.1)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台部剥離。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部高台貼り付け痕。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通	P487 竈右側覆土下層 10%
16	坏 須恵器	A [15.0] B 3.7 C [9.4]	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転糸切り後，回転ヘラ調整。	砂粒・石英・黒色粒 灰色 普通	P490 中央部床面 宇都宮窯産 45%
17	蓋 須恵器	A [14.0] B (2.3)	口縁部破片。口縁端部にわずかなかえりが付く。	天井部付近回転ヘラ削り。口縁部横ナデ。	砂粒・石英 暗灰黄色 普通	P492 北東部床面 5%

第69号住居跡（第133図）

位置　調査D区中央部，D3e8区。

重複関係　本跡が第267号土坑を掘り込んでいるため，本跡が新しい。中央部を南北に私道が走り，調査区域外となっている。

規模と平面形　長軸5.30m，短軸5.10mのほぼ方形である。

主軸方向　N－12°－W

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～20cm，下幅４～７cm，深さ10cmで，調査区内を全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，よく踏み固められている。

竈　形状から調査区域外にあると思われる。

ピット　２か所（P_1・P_2）。P_1は径40cmの円形で，深さ26cmである。P_2は径45cmの円形で，深さ24cmである。いずれも主柱穴と考えられる。

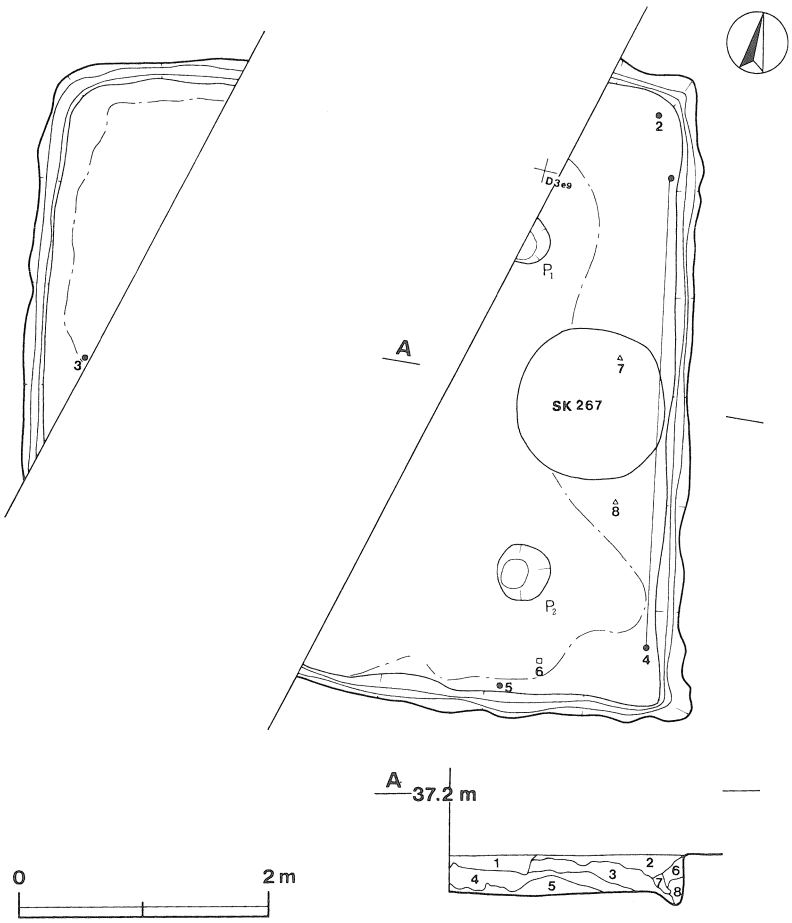
覆土　８層からなり，自然堆積である。

土層解説

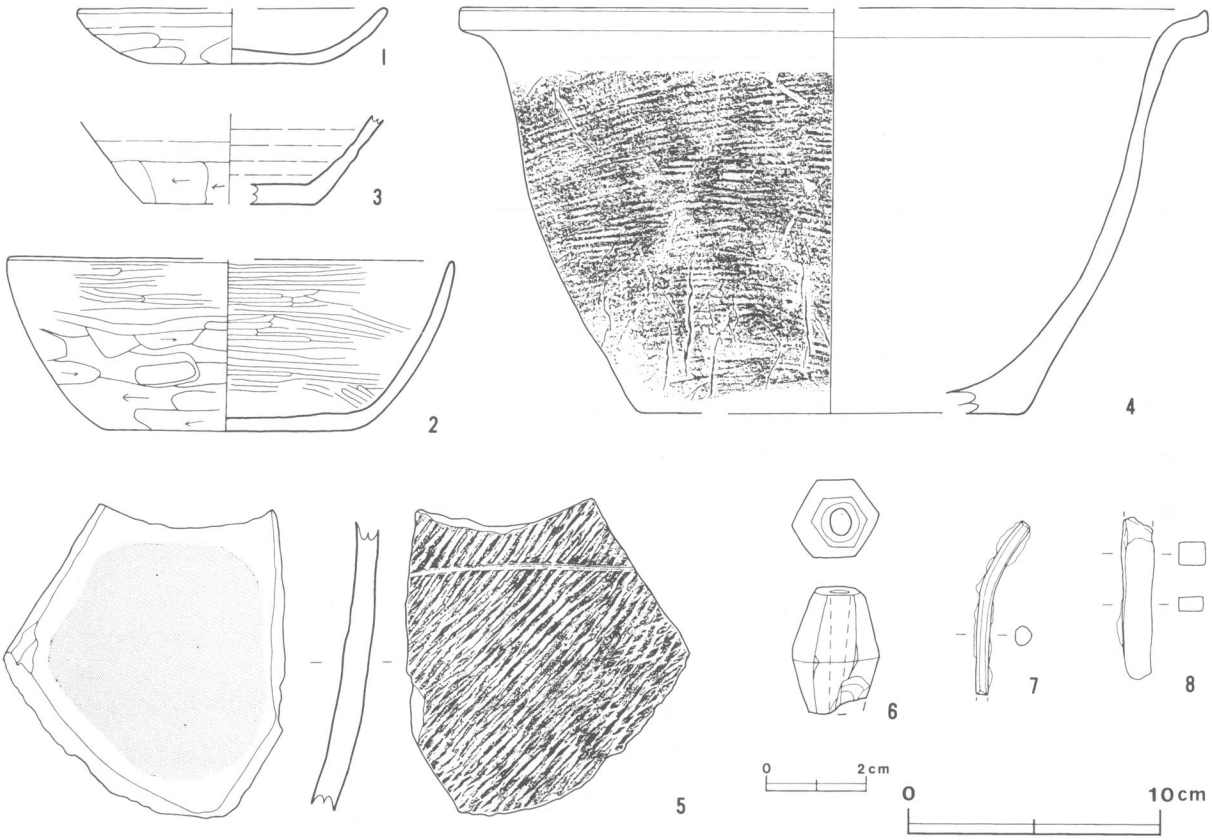
1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化物微量
2	極暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック微量
4	極暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
5	暗褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
6	暗褐色	ローム粒子多量，ローム中ブロック微量
7	極暗褐色	ローム粒子中量
8	暗褐色	ローム粒子少量，炭化物微量

遺物　土師器片102点，須恵器片10点，灰釉陶器片１点，鉄製品２点，石製品１点，縄文土器片２点が出土している。第134図１の土師器坏は北東部の覆土中層から出土している。２の土師器鉢は北東コーナー部の床面から正位で出土している。３の須恵器坏は，西壁中央部の覆土下層から出土している。４の須恵器鉢は，東壁中央部の床面から出土している。５の須恵器甕，６の切子玉は南壁東寄りの覆土下層から出土している。５の須恵器甕は硯に転用されている。７・８の不明鉄製品は中央部東側の床面から出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から８世紀前葉と考えられる。



第133図　第69号住居跡



第134図　第169号住居跡出土遺物

第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第134図 1	坏 土師器	A［12.4］ B　2.1 C　7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P494　20% 北東部覆土中層
2	鉢 土師器	A［17.8］ B　6.8 C　10.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内面ナデ。外面横位のヘラ削り。内面・口縁部外面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・パミス にぶい橙色(内橙色) 普通	P493　70% 北東コーナー床面
3	坏 須恵器	B（3.5） C［6.8］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・パミス 黄灰色 普通	P496　10% 西壁中央覆土下層 堀ノ内窯産
4	鉢 須恵器	A［30.0］ B　16.1 C［15.6］	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位の平行叩き。体部下端ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・長石・石英 褐灰色 普通	P497　40% 東壁中央床面 新治窯産
5	甕 須恵器	B（12.2）	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き目。内面同心円当て具痕。	長石 灰色 普通	P498　5% 南壁東寄り覆土下層 内面転用硯

石製品観察表

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)			
6	切子玉	2.7	1.6	0.5	（7.9）	水晶	南壁東寄り覆土下層	Q43　90%

金属製品観察表

図版番号	種　別	計　測　値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	不明鉄製品	(7.0)	5.0	0.6	(10.7)	中央東側床面	M58
8	不明鉄製品	(6.5)	1.2	0.9	(21.2)	中央東側床面	M59

第70号住居跡（第135図）

位置　調査D区西部，D3f7区。

重複関係　第226号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸2.0mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は15cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅5～15cm，下幅3～5cm，深さ10cmで全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，よく踏み固められている。

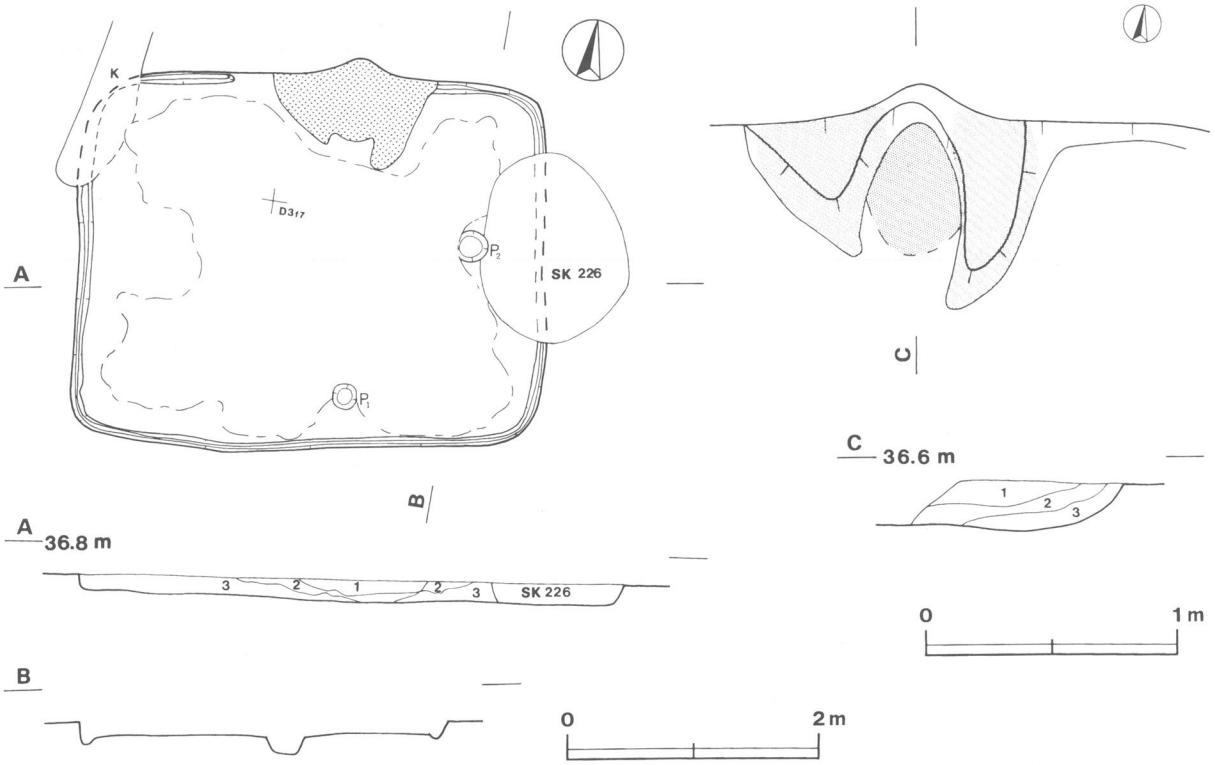
竈　北壁中央部を壁外へ15cmほど掘り込み，付設されている。規模は焚口部から煙道部までの長さ90cm，両袖間の最大幅70cmである。袖部は灰褐色粘土で構築されている。火床部は長径55cm，短径35cmの楕円形に5cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変している。煙道部は火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　灰褐色粘土粒子中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック少量

2　褐　灰　色　粘土粒子多量，灰褐色粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量

3　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量，粘土粒子・灰少量



第135図　第70号住居跡

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は径20cmの円形で，深さ15cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。P_2は径25cmの円形で，深さ16cmである。性格は不明である。

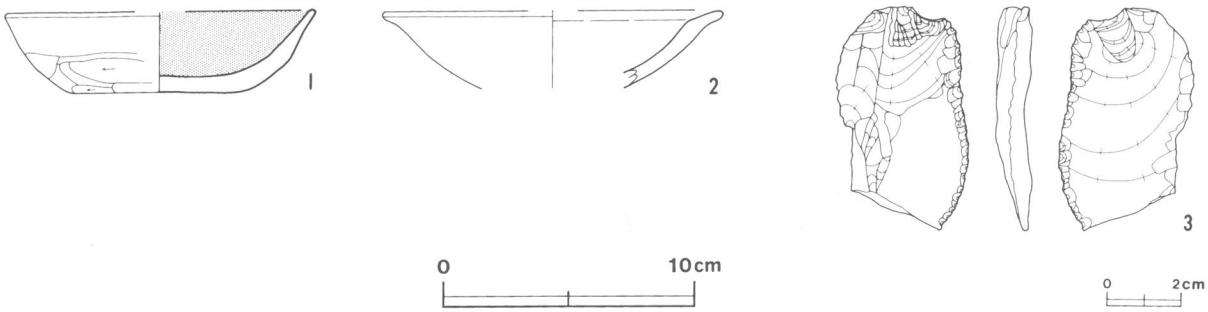
覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物　土師器片55点，須恵器片5点，鉄製品2点，縄文土器片4点，石器1点が出土している。第136図1の土師器坏は竈右側の床面から正位で出土している。2の土師器坏は中央部の覆土中層から出土している。3のスクレイパーは南壁東寄りの覆土下層から出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から8世紀前葉と思われる。



第136図　第70号住居跡出土遺物

第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第136図 1	坏 土師器	A［12.4］ B　3.2 C　7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部中位から下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P499　30% 竈右側床面
2	坏 土師器	A［13.5］ B（3.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P500　5% 中央部覆土中層

石製品観察表

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	スクレイパー	5.9	3.6	1.1	18.3	チャート	南壁東寄り覆土下層	Q44

第71号住居跡（第137図）

位置　調査D区西部，D3g2区。

重複関係　本跡が第72号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.20m，短軸2.50mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は45～50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅20～25cm，下幅5～10cm，深さ5cmで，全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ105cm，両袖間の最大幅130cmである。袖部は灰白色粘土で構築されている。火床部は長径50cm，短径40cmの楕円形に5cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて硬化している。煙道部は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

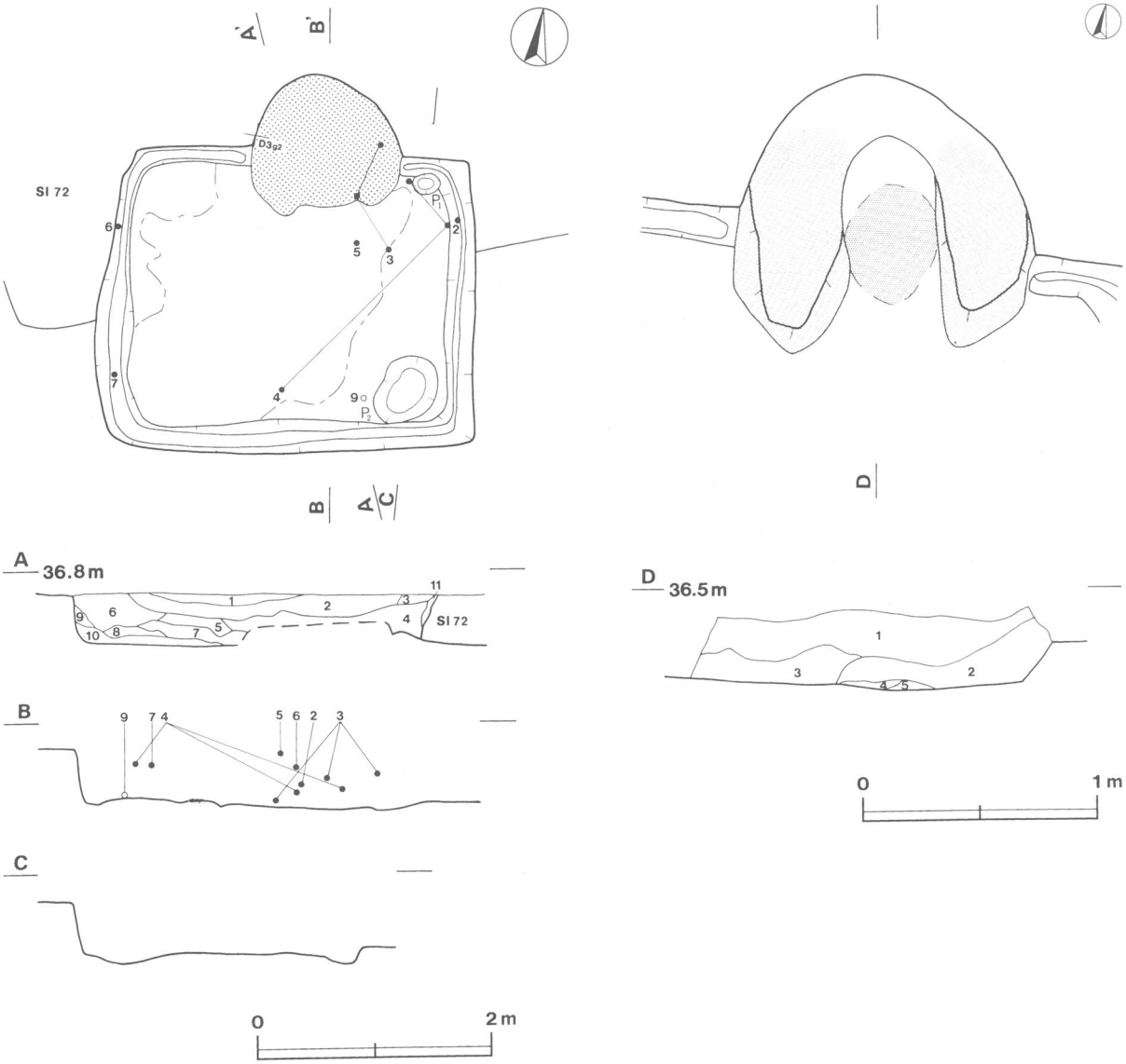
1　にぶい赤褐色　灰白色粘土粒子中量，焼土粒子・灰白色粘土小ブロック少量
2　灰　褐　色　灰白色粘土小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・ローム粒子微量
3　暗 褐 色　灰白色粘土粒子少量，焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック微量
4　黒　　色　炭化粒子多量，焼土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は長径25cm，短径15cmの楕円形で，深さ10cmである。底部に灰白色粘土が張り付けられており，何かを置いたピットと思われる。P_2は長径60cm，短径50cmの楕円形で，深さ10cmの皿状である。性格は不明である。

覆土　11層からなり，自然堆積である。

土層解説

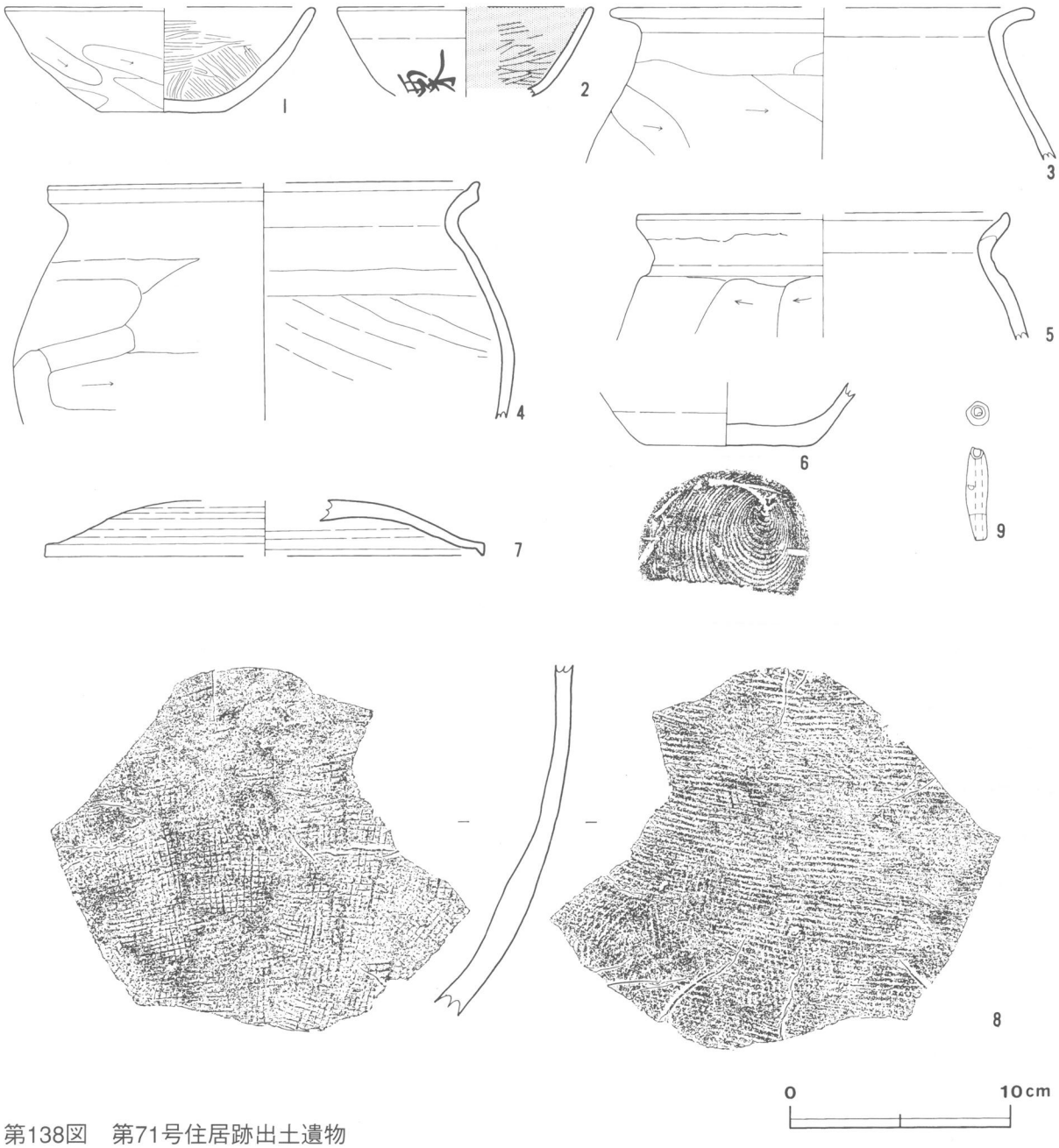
1　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，灰白色粘土粒子中量
4　灰 褐 色　灰白色粘土粒子多量，焼土小ブロック・ローム小ブロック微量



第137図　第71号住居跡

5　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック微量
7　暗 褐 色　ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・灰白色粘土粒子微量
8　褐　　色　ローム小ブロック多量，炭化物微量
9　黒 褐 色　灰白色粘土粒子少量，ローム粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
11　褐　　色　ローム粒子多量

遺物　土師器片173点，須恵器片20点，鉄滓１点，土製品１点が出土している。第138図１の土師器坏は中央部の覆土中層から出土している。２の土師器坏は東壁中央部の覆土下層から出土している。３の土師器甕は中央部の床面から，４の土師器甕は中央部の覆土下層から破片が散在するように出土している。５の土師器甕は中央部の覆土上層から出土している。６の須恵器坏は西壁中央部の覆土中層から出土し，９の管状土錘は南壁中央の床面から出土している。７の須恵器蓋は，南西コーナー部の覆土上層から出土している。８は須恵器甕の体部片で，外面に横位の平行叩きで，内面に格子目の当て具痕が見られる。鉄滓は，含鉄滓で南東コーナー部の覆土中層から出土し，流れ込みと思われる。



第138図　第71号住居跡出土遺物

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀中葉と考えられる。6の須恵器坏は栃木県佐野市・岩舟町の三毳山麓窯産である。

第71号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第138図 1	坏 土師器	A［14.2］ B　4.7 C　5.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部中位から下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母・パミス にぶい黄橙色 普通	P501　30% 中央部覆土中層
2	坏 土師器	A［11.6］ B（3.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・雲母・黒色粒 にぶい黄橙色 普通	P502　10% 東壁中央覆土下層 体部外面「粟」の墨書
3	甕 土師器	A［19.4］ B（6.9）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P505　15% 中央部床面
4	甕 土師器	A［19.8］ B（10.7）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P506　10% 中央部覆土下層
5	甕 土師器	A［17.0］ B（5.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P508　5% 中央部覆土上層
6	坏 須恵器	B（3.0） C［7.4］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石 灰黄色 普通	P504　20% 西壁中央覆土中層 三毳山麓窯産
7	蓋 須恵器	A［20.0］ B（2.5）	天井部から口縁部にかけての破片。天井部から口縁部にかけてはドーム状を呈している。口縁端部にわずかなかえりが付く。	天井部から口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・パミス 灰黄色 普通	P510　10% 南西コーナー覆土上層 堀ノ内窯産

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
9	管状土錘	4.2	1.0	0.3	（3.1）	南壁中央床面	DP81　95%

第72号住居跡（第139図）

位置　調査D区西部，D3f2区。

重複関係　第71号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　北側が調査区域外に延びており，東西6.00m，南北（3.50m）で長方形と推定される。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅20～35cm，下幅5～15cm，深さ15cmで，調査区域内は全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　調査区域内では確認されなかった。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は長径85cm，短径60cmの楕円形で，深さ60cmである。P_2は径60cmの円形で，深さ75cmである。いずれも主柱穴と思われる。P_3は径20cmの円形で，深さ15cmである。出入口施設に伴うピッ

トと考えられる。

P1・P2土層解説

1　極暗褐色　ローム小ブロック・黒褐色土小ブロック中量，ローム中ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

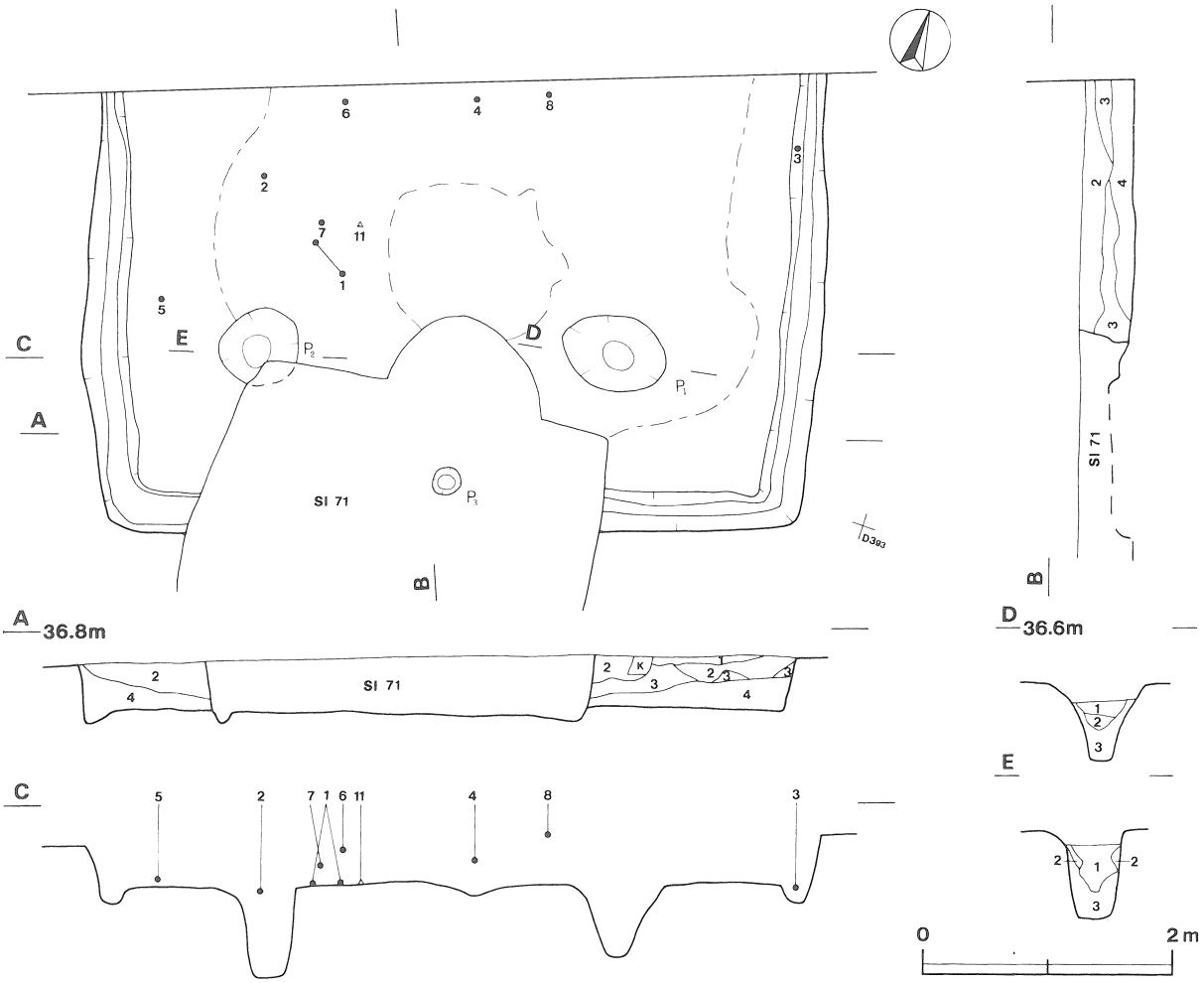
覆土　4層からなり，自然堆積である。

土層解説

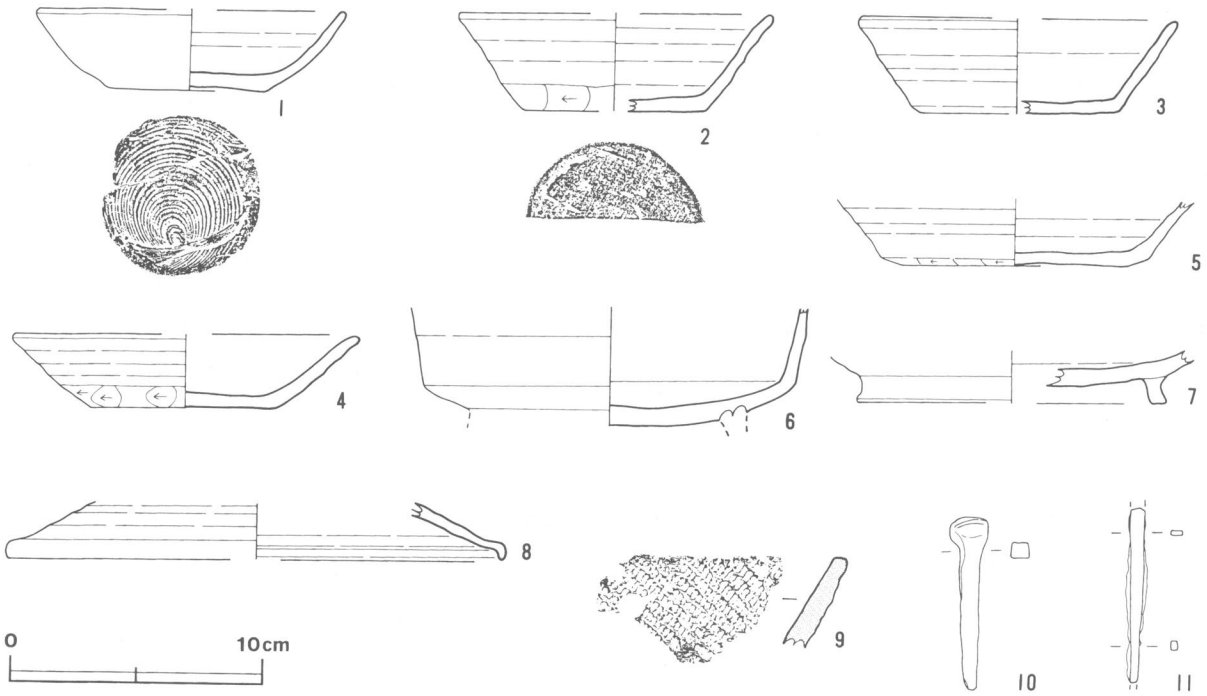
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
4　極暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子・黒褐色土小ブロック少量，焼土小ブロック微量

遺物　土師器片170点，須恵器片102点，鉄製品4点，縄文土器片2点が出土している。第140図1の土師器坏，2の須恵器坏は中央部西側の床面から出土している。3の須恵器坏は東壁中央部の床面から出土している。4の須恵器坏，6の須恵器高台付坏，8の須恵器蓋，10の鉄釘は，中央部の覆土中層から出土している。5の須恵器坏は西壁中央部の覆土下層から，7の須恵器高台付坏は中央部西側の覆土中層から出土している。11の不明鉄製品は，中央部の床面から出土している。9は縄文土器片の拓影図である。口縁部片で単節RL縄文の横回転が施されている。黒浜式に比定されるものである。縄文土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀中葉と考えられる。2・4の須恵器坏は岩瀬町の堀ノ内窯産である。



第139図　第72号住居跡



第140図　第72号住居跡出土遺物

第72号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第140図 1	坏 土師器	A［12.4］ B　3.3 C　6.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石英・スコリア にぶい橙色 普通	P512　40% 中央部西側床面
2	坏 須恵器	A［12.5］ B　3.9 C［7.2］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ切り。	砂粒・長石 灰黄色 普通	P515　40% 中央部西側床面 堀ノ内窯産
3	坏 須恵器	A［12.8］ B　3.8 C［7.9］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P516　30% 東壁中央床面
4	坏 須恵器	A［13.8］ B　3.0 C　7.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・黒色粒 灰黄褐色 普通	P517　30% 中央部覆土中層 堀ノ内窯産
5	坏 須恵器	B（2.2） C　8.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 明褐色 普通	P519　10% 西壁中央覆土下層 新治窯産
6	高台付坏 須恵器	B（4.7）	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾する。高台部剥離。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け痕。	砂粒・石英・雲母・針状鉱物　黄灰色 普通	P521　25% 中央部覆土中層 木葉下窯産
7	高台付坏 須恵器	B（2.1） D［12.4］ E　1.1	底部片。台部はハの字状に開く。	底部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 普通	P522　15% 中央部西側覆土中層
8	蓋 須恵器	A［20.0］ B（2.5）	天井部から口縁部にかけての破片。天井部から口縁部にかけてはドーム状をしている。口縁端部にわずかなかえりが付く。	天井部から口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・パミス 灰黄色 普通	P523　10% 中央部覆土中層 堀ノ内窯産

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	鉄　釘	（6.9）	1.6	0.6	（14.8）	中央部覆土中層	M60　60%
11	不明鉄製品	（6.9）	0.6	0.4	（5.7）	中央部床面	M61

第73B号住居跡（第141図）

位置　調査D区西部，D3g2区。

重複関係　本跡が第73A号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第320号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

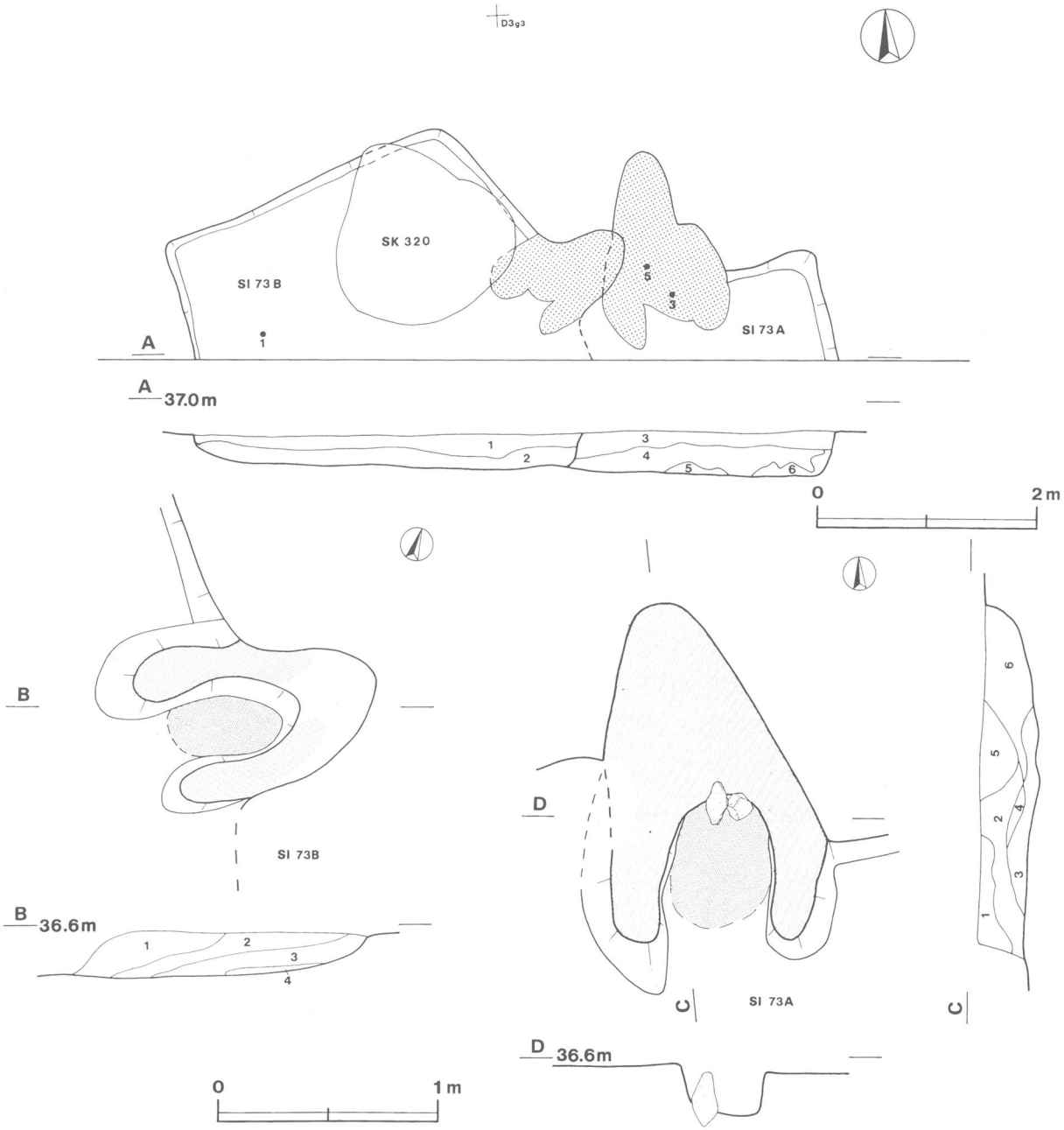
規模と平面形　南側が調査区域外に延びており，東西3.20m，南北（1.10m）で，平面形は不明である。

主軸方向　N－72°－E

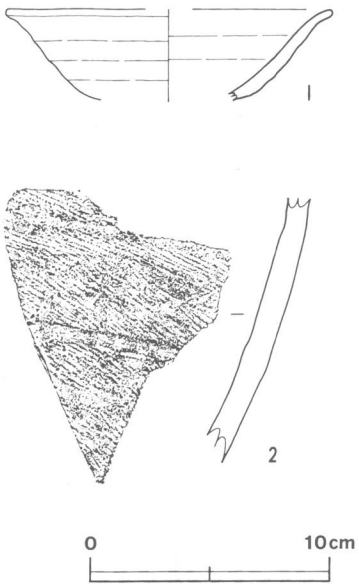
壁　壁高は35cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　東壁中央部を壁外へ60cmほど掘り込み付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ110cm，両袖間の最大幅80cmである。袖部は，褐色の砂質粘土で構築されている。火床部は長径50cm，短径30cmの楕円



第141図　第73A・B号住居跡



第142図　第73B号住居跡出土遺物

形に2cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　ローム中・小ブロック少量，焼土粒子・ローム粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子・ローム中・小ブロック微量
3　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム小ブロック微量

覆土　2層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子・鹿沼土微量
2　黒褐色　ローム中・小ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子少量

遺物　土師器片5点，炭化材片1点が出土している。第142図1の土師器坏は，中央部西側の床面から出土している。2は須恵器甕の体部片で，外面に平行叩きが施されている。

所見　本跡は，出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが，第73A号住居跡との重複関係から10世紀前半以降と思われる。長さ15cm，幅5cmの炭化材は中央部西側の床面から出土していることから，本跡は焼失家屋と思われる。

第73B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第142図 1	坏 土師器	A［13.6］ B（3.8）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・スコリア 橙色 普通	P529　30% 中央部西側床面

第73A号住居跡（第141図）

位置　調査D区西部，D3g3区。

重複関係　第73B号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　南側が調査区域外に延びており，東西2.20m，南北（1.00m）で，平面形は不明である。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は40cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ120cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ170cm，両袖間の最大幅115cmである。袖部は，砂質粘土で構築されている。長さ35cm，幅10～20cmの円礫が袖部の補強材として使用されている。火床部は長径60cm，短径45cmの楕円形に2cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい褐色　鹿沼土少量，炭化材・ローム粒子微量
2　暗赤褐色　ローム大ブロック中量，焼土粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子少量
4　暗赤褐色　ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量

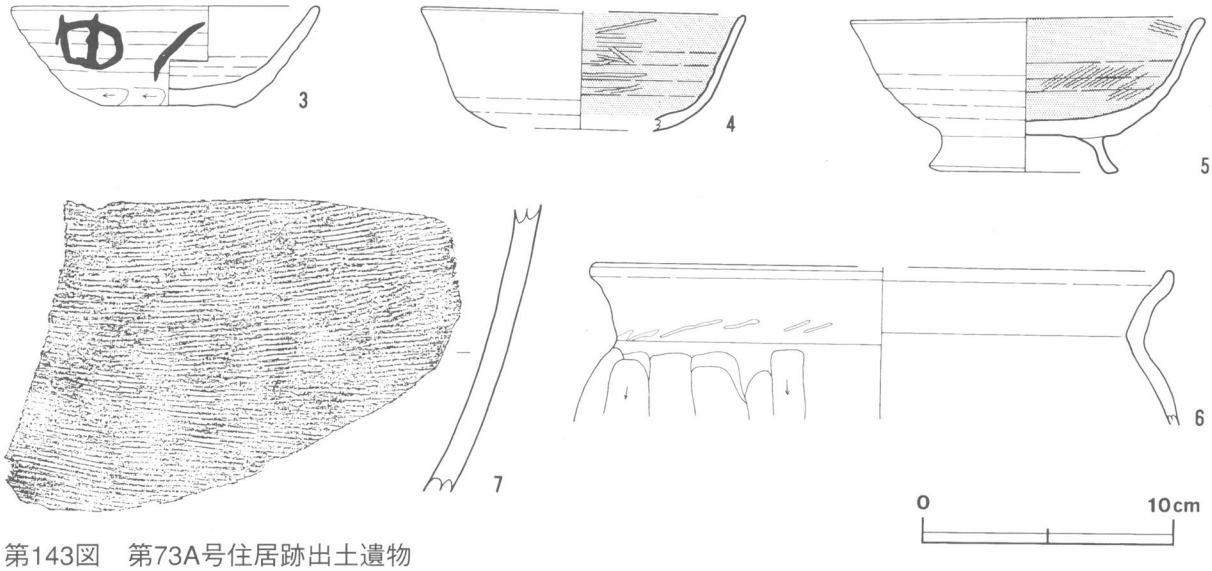
覆土　4層からなり，鹿沼土がブロック状に堆積することから，人為堆積と思われる。

土層解説

3　黒褐色　ローム粒子中量，炭化材微量
4　にぶい褐色　ローム粒子・鹿沼土中量，ローム大ブロック少量，炭化材微量
5　黒褐色　焼土粒子中量，鹿沼土微量
6　にぶい褐色　ローム小ブロック・鹿沼土小ブロック少量

遺物　土師器片100点，須恵器片11点，鉄製品４点，鉄滓（鍛冶滓）３点（５ｇ）が出土している。第143図３の土師器坏は，竈内の火床部から正位で出土している。４の土師器坏，６の土師器甕は竈内の覆土中から出土している。５の土師器椀は竈左袖内から正位で出土している。7は須恵器甕の体部片で，外面に横位の平行叩きが施されている。鉄滓は中央部北側の覆土上層から出土し，流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第143図　第73A号住居跡出土遺物

第73A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第143図 3	坏 土師器	A　12.4 B　4.0 C　5.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	石英・長石 橙色 普通	P524　100% 竈内 体部外面墨書
4	坏 土師器	A［13.0］ B（4.7） C［5.9］	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英・長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P525　40% 竈内 二次焼成
5	椀 土師器	A　14.2 B　6.2 D　7.6 E　1.5	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P527　100% 竈左袖上 二次焼成
6	甕 土師器	A［23.4］ B（6.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母・黒色粒 にぶい黄橙色 普通	P528　10% 竈内

第74号住居跡（第144図）

位置　調査D区西部，D2g0区。

規模と平面形　北側が調査区域外に延びており，東西3.50m，南北（1.40m）で，方形か長方形と推定される。

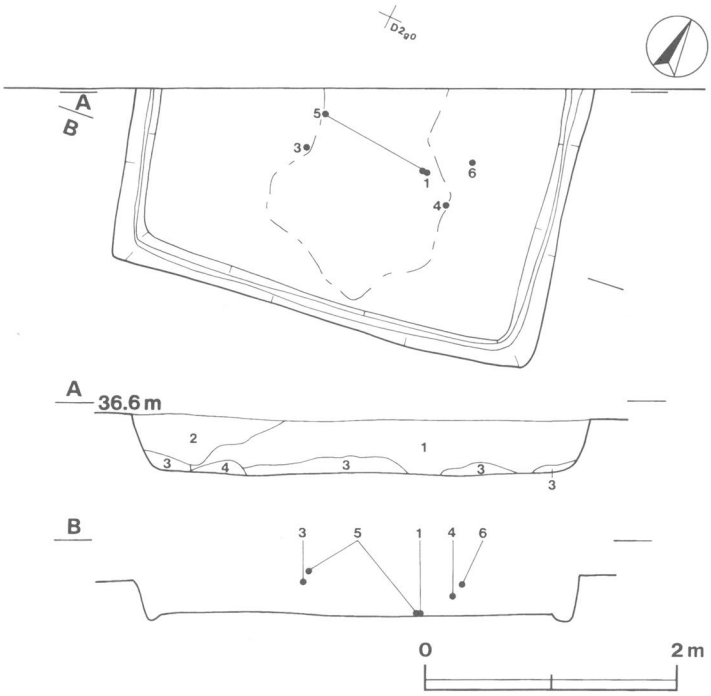
主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～25cm，下幅２～５cm，深さ５cmで調査区域内は全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　調査区域内では確認できなかった。



第144図　第74号住居跡

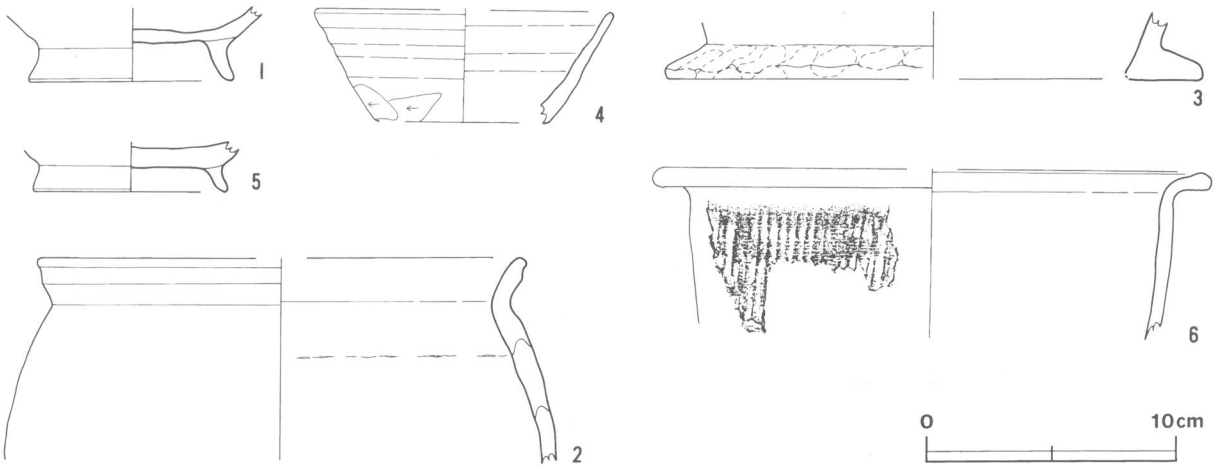
覆土　4層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量
3　黒褐色　焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
4　黒褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量

遺物　土師器片149点，須恵器片47点，鉄滓（鍛冶滓）1点（15g）が出土している。第145図1の土師器高台付椀は，中央部の床面から出土している。2の土師器甕，4の須恵器坏，5の須恵器高台付坏は，中央部の覆土中層から出土している。3の土師器甑は，中央部の覆土上層から出土している。6の須恵器甕は，中央部東側の覆土中層から出土している。鉄滓は，中央部の覆土上層から出土し，流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀末から10世紀初頭と考えられる。



第145図　第74号住居跡出土遺物

第74号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第145図 1	高台付椀 土師器	B（2.9） D　8.2 E　1.7	高台部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P533　40% 中央部床面
2	甕 土師器	A［19.6］ B（8.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のナデ，内面横ナデ。輪積み痕。	長石・スコリア 橙色 普通	P536　10% 中央部覆土中層
3	甑 土師器	B（2.7） C［21.5］	底部片。体部は内彎気味に立ち上がる。底部は鍔状に横方向に開く。	体部内・外面ナデ。底部外面手持ちヘラ削り。底部の鍔状部押圧痕。	砂粒・スコリア・パミス にぶい褐色 普通	P537　5% 中央部覆土上層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第145図 4	坏 須恵器	A［12.0］ B（ 2.0） C［ 6.9］	底部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・パミス 明褐灰色 普通	P538　5% 中央部覆土中層
5	高台付坏 須恵器	B（ 2.0） D　7.8 E　1.1	底部片。台部はハの字状に開く。	底部内面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・石英・パミス 褐灰色 普通	P539　10% 中央部覆土中層
6	甕 須恵器	A［22.4］ B（ 6.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き，内面ロクロナデ。	砂粒・パミス 灰色 普通	P540　5% 中央部東側覆土中層 新治窯産

第76号住居跡（第146図）

位置　調査E区中央部，D2i₀区。

重複関係　第284・285号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　北側が調査区域外に延びており，東西2.70m，南北（1.60m）で，方形か長方形と推定される。

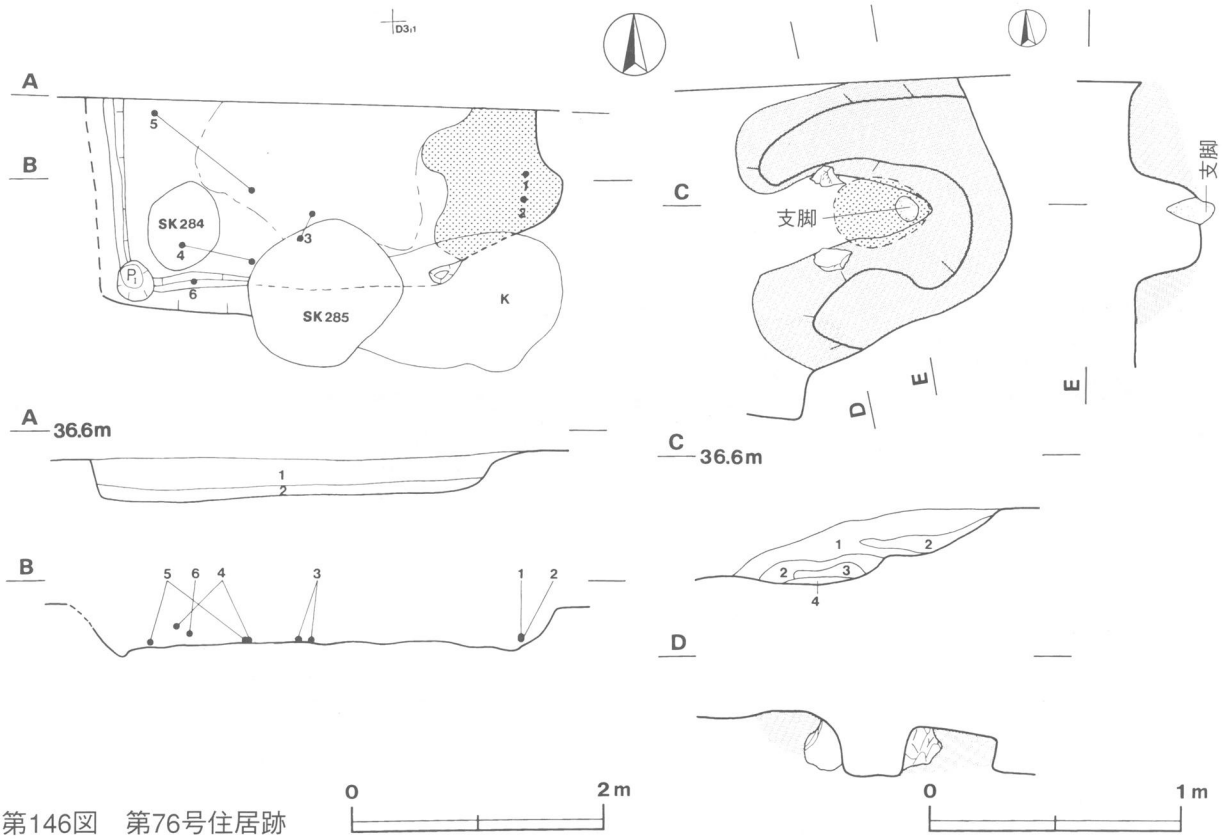
主軸方向　N－85°－W

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～25cm，下幅2～5cm，深さ5cmで調査区域内は全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁中央南寄りを壁外へ70cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ100cm，両袖間の最大幅（100cm）である。袖部は，灰褐色粘土で構築されている。礫を両袖部の補強材として利用している。火床部は長径40cm，短径30cmの楕円形に5cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。円礫を支脚として火床部中央に埋設して使用している。煙道部は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。



第146図　第76号住居跡

竈土層解説

1　暗 褐 色　ローム小ブロック・粘土粒子微量
2　灰 褐 色　粘土中・小ブロック・粘土粒子多量，ローム粒子微量
3　赤 褐 色　焼土大ブロック・焼土粒子多量，灰微量
4　赤 灰 色　灰少量，焼土粒子微量

ピット　P_1は径30cmの円形で，深さ35cmである。性格は不明である。

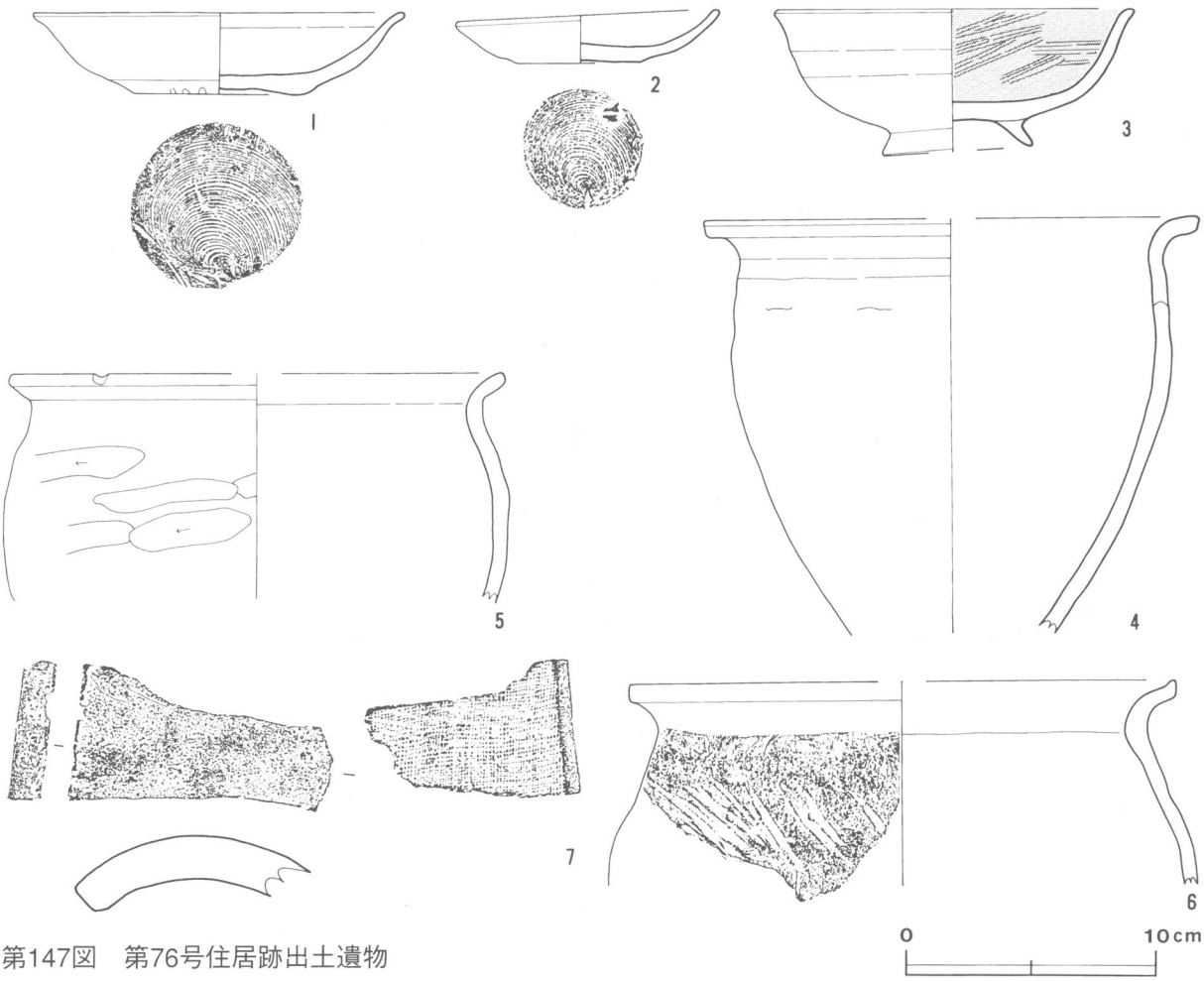
覆土　2層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片205点，須恵器片13点，瓦片1点，鉄滓（含鉄滓）1点（10g）が出土している。第147図1の土師器皿，2の土師器小皿は竈内の覆土中から逆位で出土している。3の土師器高台付椀は，中央部の床面から出土している。4の土師器甕は，南壁中央部付近の床面から出土している。5の土師器甕は西壁中央部の覆土下層から，6の土師器甕は南壁中央部の覆土中層から出土している。7の丸瓦は，中央部の覆土中層から出土している。鉄滓は中央部の覆土上層から出土し，流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀後半と考えられる。



第147図　第76号住居跡出土遺物

第76号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第147図 1	皿 土師器	A　14.9 B　3.3 C　6.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部外面ヘラ当て痕。	砂粒・雲母・パミス にぶい褐色 普通	P556　95% 竈内

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第147図 2	小　皿 土師器	A　10.6 B　2.1 C　4.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P557　85% 竈内
3	高台付椀 土師器	A　14.5 B　5.5 D［6.0］ E　1.1	高台部から口縁部にかけての破片。平底。台部は短くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	長石 にぶい黄橙色 普通	P560　55% 中央部床面
4	甕 土師器	A［20.0］ B（16.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面縦位のナデ。体部外面輪積み痕。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P562　10% 南壁付近床面
5	甕 土師器	A［20.0］ B（9.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り，内面ナデ。口縁部ヘラ当て痕。	砂粒・雲母・パミス にぶい褐色 普通	P563　10% 西壁中央覆土下層
6	甕 土師器	A［22.0］ B（8.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。口縁端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位のヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P564　5% 南壁覆土中層

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	丸　瓦	（5.5）	（9.5）	1.6	（107.7）	中央部覆土中層	T13 凹面布目痕 凸面ナデ調整　5%

第77号住居跡（第148図）

位置　調査E区中央部，C4j1区。

重複関係　本跡が第315号土坑に掘り込まれているため，本跡が古い。

規模と平面形　東側の一部が調査区域外に延びており，長軸4.30m，短軸（3.10m）で，方形か長方形と推定される。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～25cm，下幅2～5cmで調査区域内の壁下を全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，両袖間の最大幅80cmである。袖部は，褐色粘土で構築されている。火床部は，径30cmの円形に10cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　灰　褐　色　粘土大ブロック・粘土粒子多量，焼土粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子多量，粘土粒子・灰微量
4　暗　赤　褐　色　焼土粒子少量，粘土粒子微量

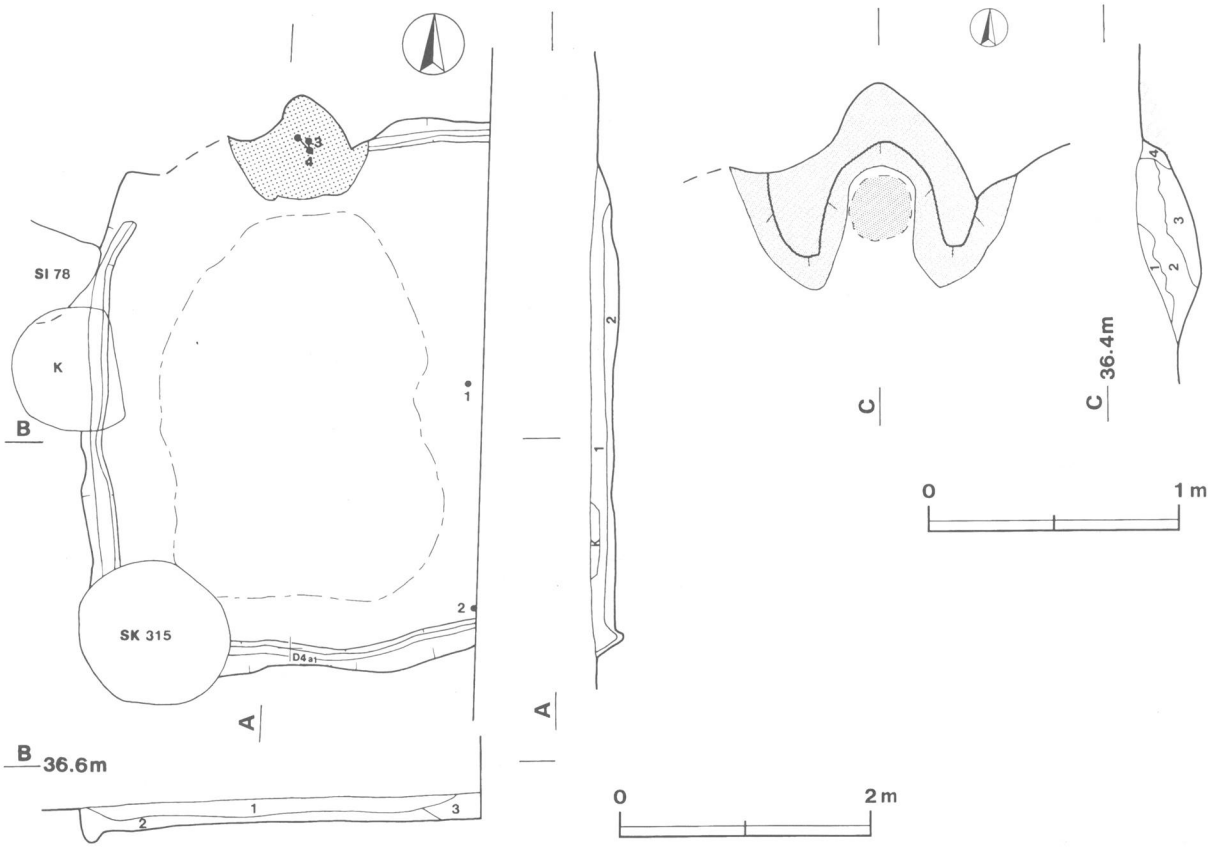
覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説

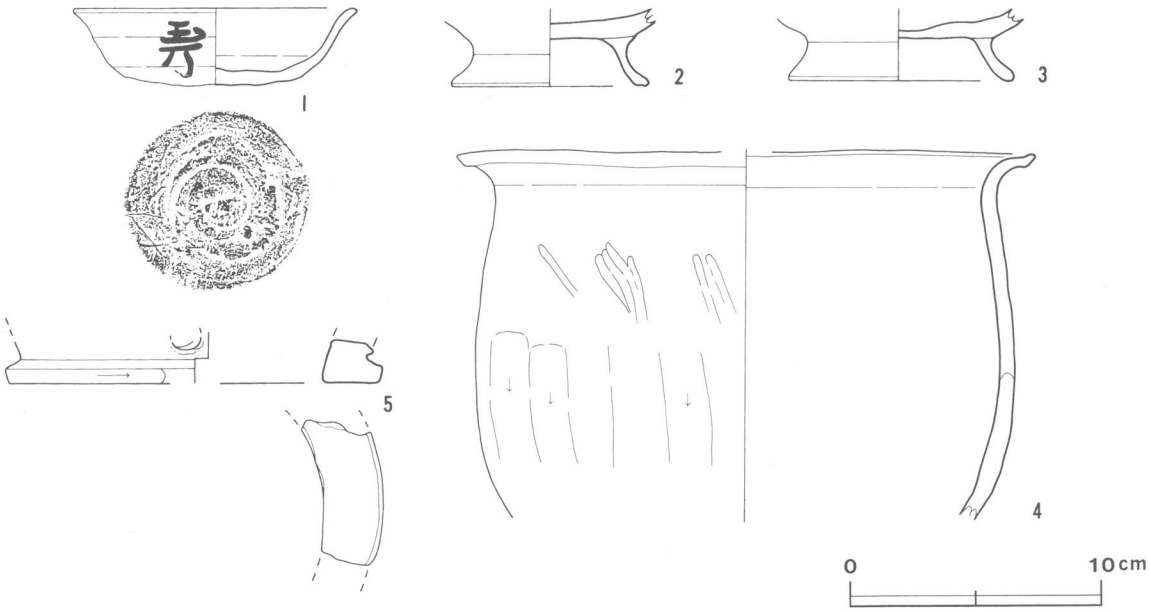
1　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量

遺物　土師器片197点，須恵器片26点，灰釉陶器片2点，鉄滓1点（135g），土製品3点が出土している。第149図1の土師器坏は中央部東側の覆土上層から正位で出土している。2の土師器高台付坏は，南東部の覆土下層から出土している。3の土師器高台付坏，4の土師器甕は竈内の覆土中から出土している。5の土師

器甑は北西部の覆土上層から出土している。鉄滓は流れ込みと思われる。



第148図　第77号住居跡



第149図　第77号住居跡出土遺物

第77号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第149図 1	坏 土師器	A 11.4 B 2.1 C 6.9	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P568　95% 中央部東側覆土上層 「玉万」体部外面縦墨書 二次焼成
2	高台付坏 土師器	B（3.1） D 8.0 E 2.0	底部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。台部は長くハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P569　30% 南東部覆土下層
3	高台付坏 土師器	B（2.9） D 9.0 E 1.7	底部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・パミス にぶい橙色 普通	P570　20% 竈内
4	甕 土師器	A［23.1］ B（14.8）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部中位縦位のヘラ削り，内面ナデ。	石英・長石・スコリア 橙色 普通	P572　10% 竈内
5	甑 土師器	B（1.7） C［14.6］	底部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。底部は鍔状に横方向に開く。	体部内・外面横ナデ。底部鍔状部ヘラ削り。体部下端外面から内面に穿孔。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P574　5% 北西部覆土上層

第78号住居跡（第150図）

位置　調査E区中央部，D2j0区。

重複関係　本跡が第233・317・319号土坑を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第316・318号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.00m，短軸3.00mで，長方形である。

主軸方向　N－87°－E

壁　壁高は15～20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～35cm，下幅2～5cm，深さ5cmで西壁下の一部を除いて確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁中央北寄りを壁外へ60cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ100cm，両袖間の最大幅110cmである。袖部は，褐色粘土で構築されている。火床部は，長径35cm，短径25cmの楕円形に10cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　黒褐色　粘土大ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子微量
2　灰褐色　粘土大ブロック・焼土粒子多量，焼土粒子中量，灰微量
3　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子少量

ピット　P_1は長径45cm，短径40cmの楕円形で，深さ30cmである。性格は不明である。

P_1土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子少量

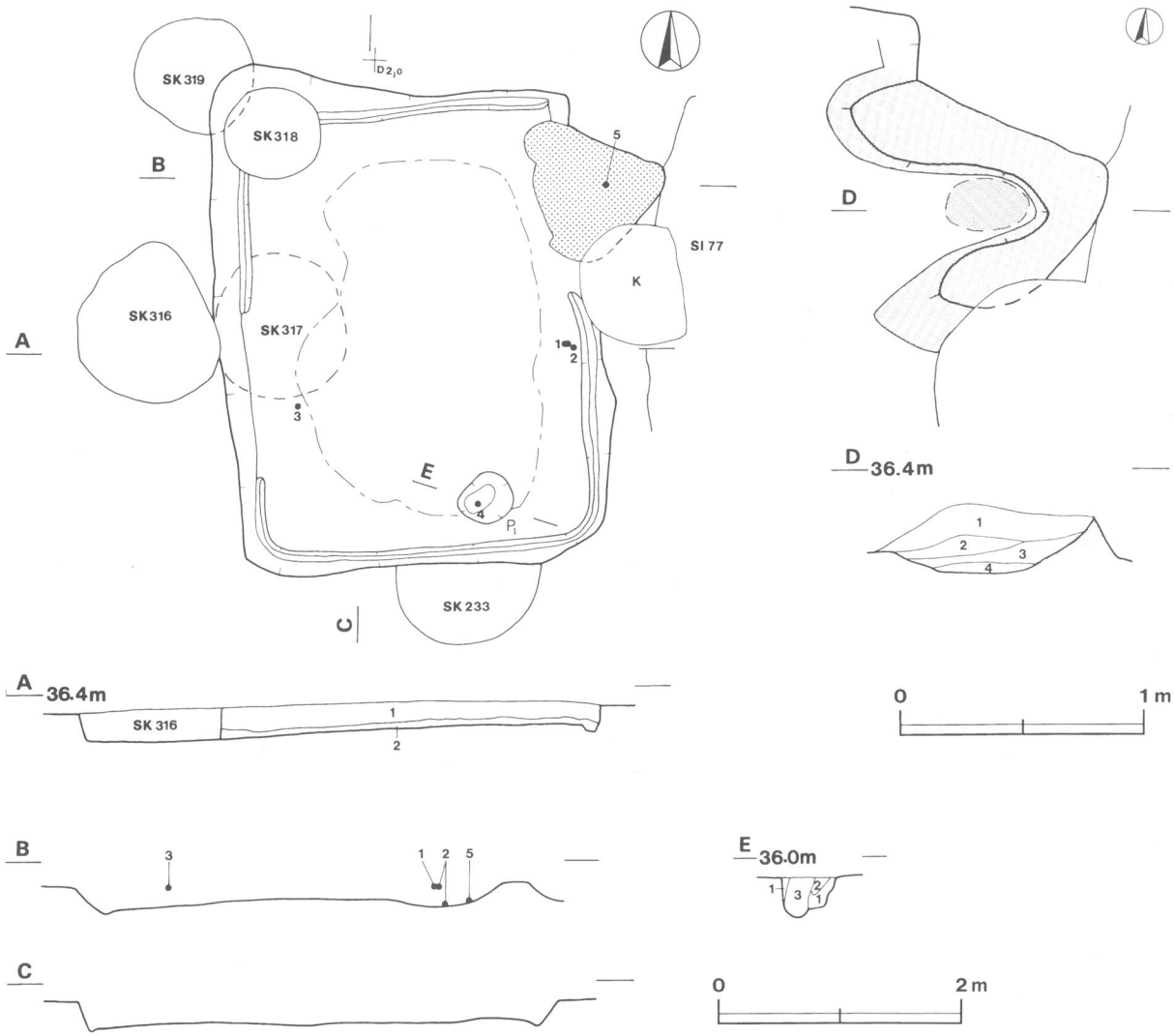
覆土　2層からなり，自然堆積である。

土層解説

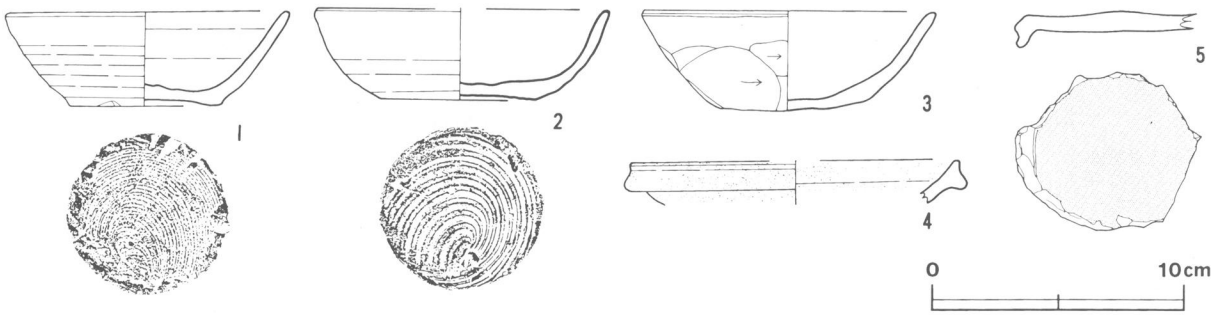
1　黒褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム中・小ブロック少量，炭化粒子・ローム粒子微量

遺物　土師器片136点，須恵器片25点，灰釉陶器片3点が出土している。第151図1の土師器坏は東壁中央の覆土中層から，2の土師器坏は東壁中央の床面から正位で重なって出土している。3の土師器坏は，中央部西側の覆土中層から出土している。4の灰釉陶器長頸瓶は，P_1内の覆土中から出土している。5の灰釉陶器椀は，竈内の覆土中から出土している。高台部を硯に転用しており，朱墨が付着している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀後葉と考えられる。4・5の灰釉陶器は黒笹14号窯式である。



第150図　第78号住居跡



第151図　第78号住居跡出土遺物

第78号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第151図 1	坏 土師器	A 11.3 B 3.8 C 6.2	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部外面ヘラ当て痕。	砂粒・石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P576　95% 東壁中央覆土中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第151図 2	坏 土師器	A［11.8］ B　3.6 C　6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 灰白色 普通	P577　80% 東壁中央床面
3	坏 土師器	A　11.8 B　4.0 C　5.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部中位から下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P578　55% 中央部西側覆土中層
4	長頸瓶 灰釉陶器	A［13.0］ B（1.7）	口縁部片。頸部から外傾して口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部内・外面釉。	胎土:灰黄色 釉調:オリーブ色 普通	P580　5% P_1覆土中 黒笹14号窯式

第79号住居跡（第152図）

位置　調査E区中央部，E3a1区。

重複関係　第80・81B号住居跡，第323号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　東側が調査区域外に延びており，規模と平面形は不明である。

主軸方向　N－0°

壁　他の遺構との重複や調査区域外に延びて，竈周辺で確認し，壁高は30cmで外傾して立ち上がる。

床　竈前で平坦で，踏み固められた部分を確認する。

竈　北壁中央部を壁外へ65cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ130cm，両袖間の最大幅（125cm）である。袖部は，褐色の砂質粘土で構築されている。火床部は，径40cmの円形に15cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて硬化している。煙道部は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量
4　暗　赤　灰　色　炭化粒子中量，焼土大ブロック・焼土粒子少量
5　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム粒子微量

覆土　2層からなり，自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片214点，須恵器片22点，灰釉陶器片3点が出土している。第153図1の土師器坏は竈前面の床面から出土している。2・3の土師器坏，5の須恵器坏は北西部の覆土下層から出土している。4の土師器甕，6の須恵器双耳坏は竈内の覆土中から出土している。7は須恵器甕の体部片で，外面に縦位の平行叩きが施されている。

所見　本跡は出土遺物が細片で時期を決定するのが難しいが，出土遺物と重複関係から9世紀中葉と思われる。

第80号住居跡（第152図）

位置　調査E区中央部，E2a0区。

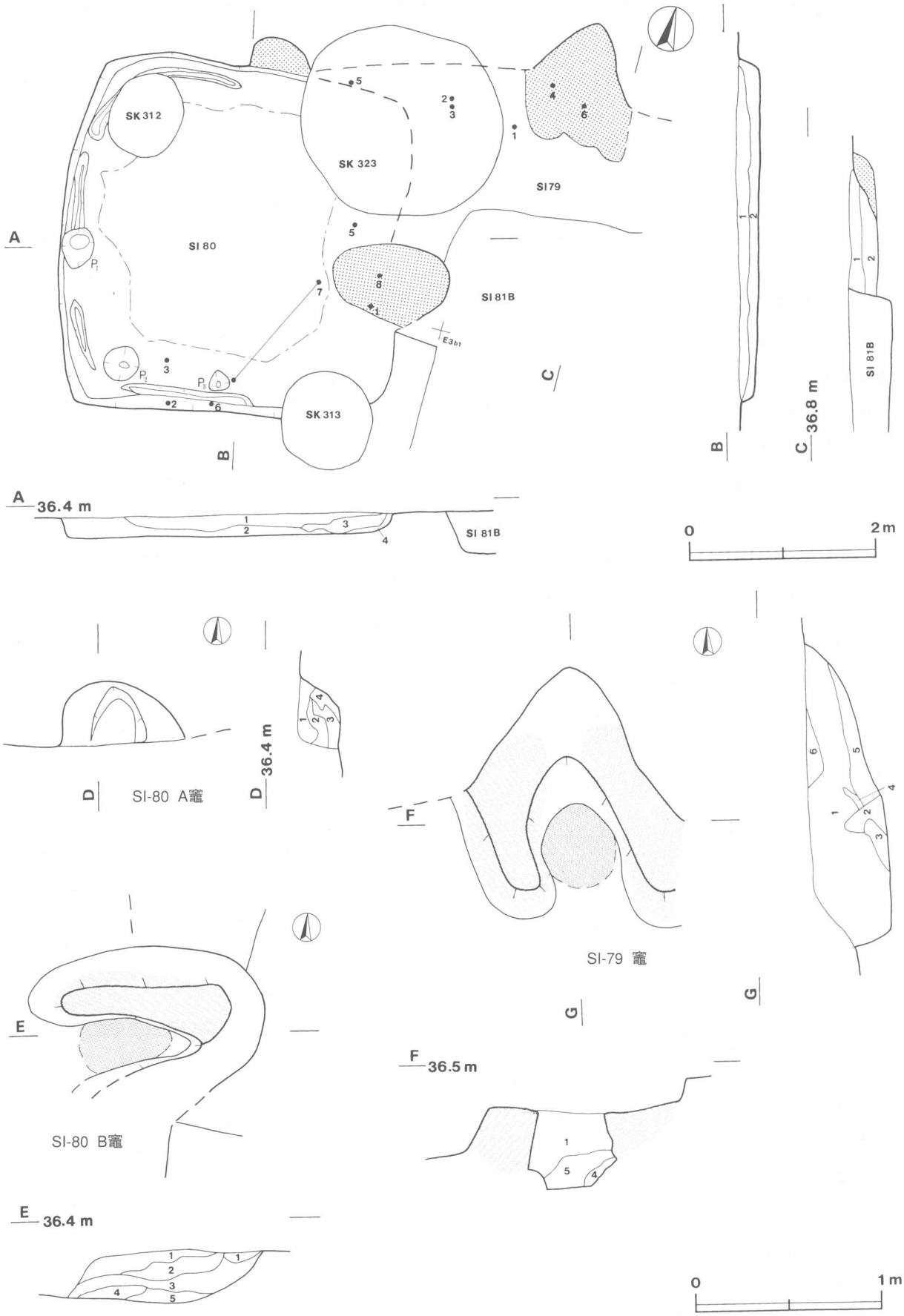
重複関係　第312・313・323号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。また，本跡が第79号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.80m，短軸3.50mの方形である。

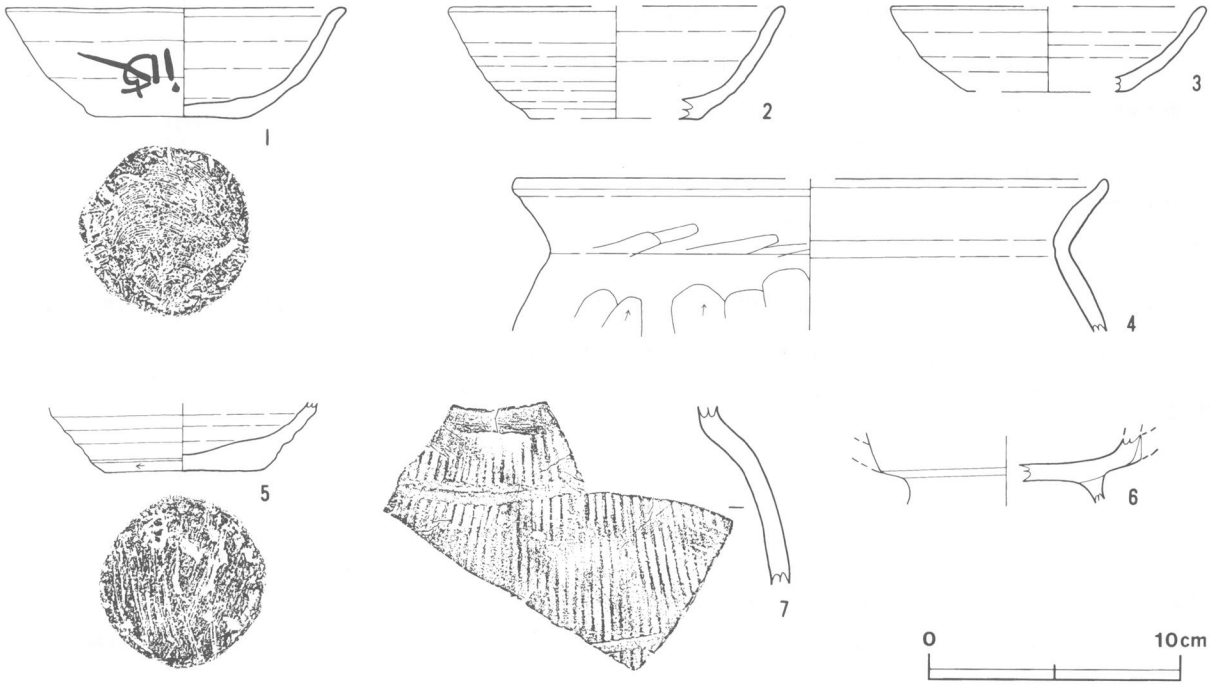
主軸方向　N－80°－E

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。



第152図　第79・80号住居跡



第153図　第79号住居跡出土遺物

第79号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第153図 1	坏 土師器	A　13.6 B　4.3 C　6.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部外面ヘラ当て痕。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P582　55% 竈前床面 体部外面「波」の墨書
2	坏 土師器	A［13.6］ B　4.6 C［7.0］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P583　20% 北西部覆土下層
3	坏 土師器	A［12.6］ B　3.4 C［6.3］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P584　20% 北西部覆土下層
4	甕 土師器	A［24.0］ B（6.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P586　10% 竈内
5	坏 須恵器	B（2.7） C　6.4	底部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母・パミス にぶい褐色 普通	P585　20% 北西部覆土下層 三和窯産
6	双耳坏 須恵器	B（2.9） E（1.1）	底部から体部にかけての破片。平底。台部はハの字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。耳部欠損。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。耳部貼り付け。	砂粒・雲母 黄灰色 普通	P588　20% 竈内

竈　北壁中央部にA竈，東壁中央部にB竈を確認した。A竈は残存状態が良くないので，B竈より古いと思われる。

A竈は，北壁中央部を壁外へ35cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ（35cm），両袖間の最大幅（65cm）である。袖部は，褐色の砂質粘土で構築されている。火床部の規模は不明である。煙道部は，火床部から傾斜して立ち上がる。

B竈は，東壁中央部を壁外へ55cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ

120cm，両袖間の最大幅（80cm）である。袖部は，灰褐色の砂質粘土で構築されている。火床部の規模は不明である。煙道部は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

A竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土大ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子微量
3　褐　灰　色　焼土大ブロック・炭化材微量
4　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

B竈土層解説

1　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
3　暗赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子少量，灰微量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量，粘土粒子・灰微量
5　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子微量

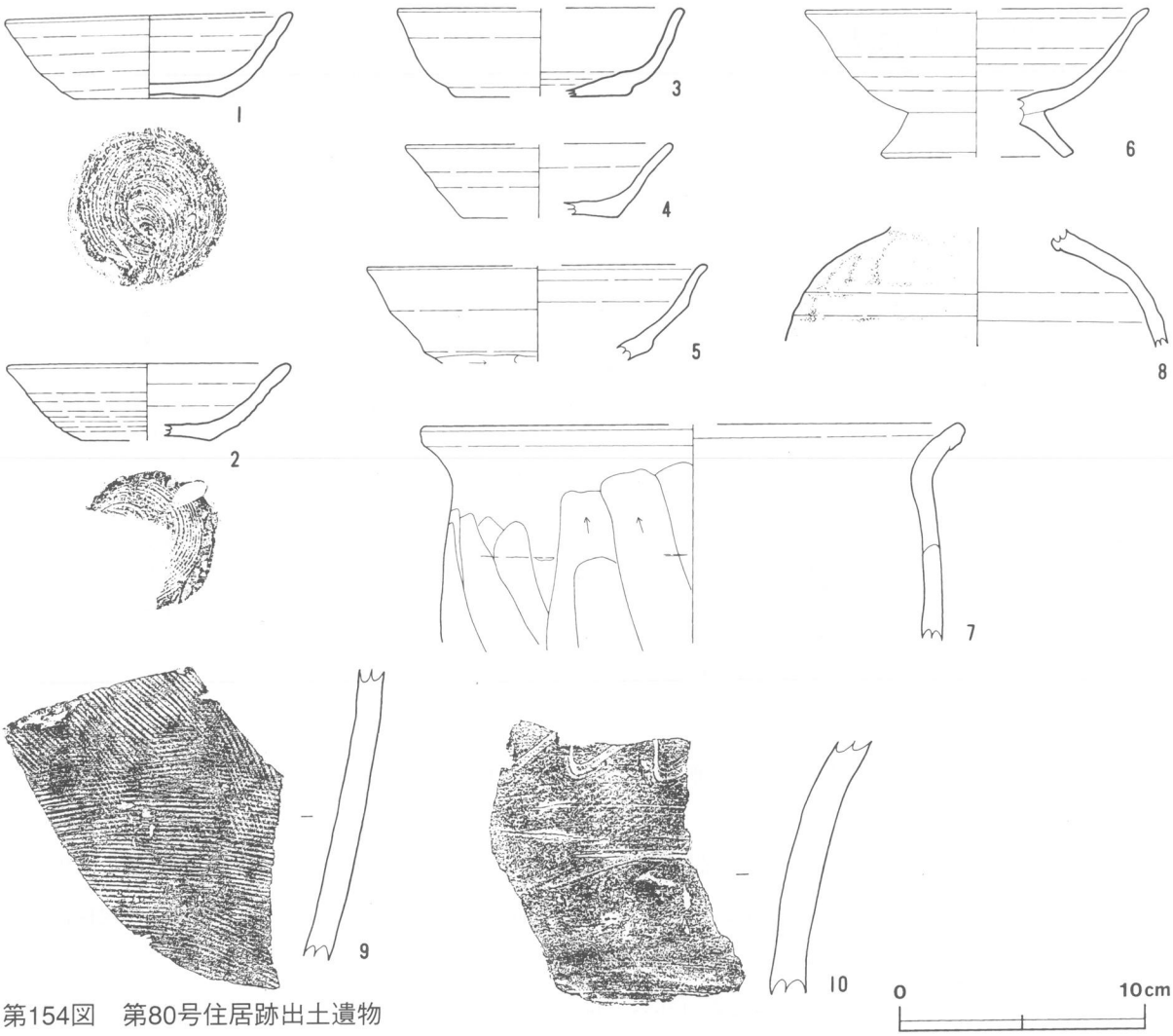
ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は径40cmの円形で，深さ20cmである。P_2は径35cmの円形で，深さ10cmである。P_3は径20cmの円形で，深さ10cmである。いずれも性格は不明である。

覆土　4層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　灰褐色　粘土大ブロック・粘土粒子多量，焼土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量

遺物　土師器片360点，須恵器片20点，灰釉陶器片2点，鉄滓（含鉄滓）1点（15g）が出土している。第154図1の土師器坏は，B竈の右袖上から逆位で出土している。2・3の土師器坏，6の土師器高台付椀は南壁中央部付近の覆土中層から出土している。4の土師器坏，8の灰釉陶器壺はB竈内の覆土中から出土している。5の土師器坏は北壁中央部付近の床面から，7の土師器甕は南壁中央部付近の床面から出土している。



第154図　第80号住居跡出土遺物

9・10は須恵器片の拓影図である。9は須恵器甕の体部片で，外面に平行叩きが施されている。10は須恵器甕の頸部片で，工具による波状文が1条施されている。鉄滓は，中央部の覆土上層から出土し，流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀後葉と考えられる。8の灰釉陶器壺は黒笹14号窯式である。

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第154図 1	坏 土師器	A 11.8 B 3.5 C 5.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・パミス にぶい褐色 やや不良	P589　60% B竈内 二次焼成
2	坏 土師器	A 11.7 B 3.1 C [5.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部外面ヘラ当て痕。	砂粒・長石 橙色 普通	P590　55% 南壁中央覆土中層
3	坏 土師器	A [11.8] B 3.7 C [07.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。二次底部面。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部外面ヘラ当て痕。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P591　25% 南壁中央覆土中層
4	坏 土師器	A [11.0] B 3.0 C [6.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P592　10% B竈内
5	坏 土師器	A [14.0] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P593　30% 北壁中央床面
6	高台付椀 土師器	A [14.2] B 6.0 D [7.8] E 1.8	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P595　55% 南壁中央覆土中層
7	甕 土師器	A [22.4] B (8.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P598　10% 南壁中央床面
8	壺 灰釉陶器	B (5.0)	肩部片。体部は内彎しながら頸部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。頸部・体部接合痕。体部外面釉。	胎土:灰白色 釉調:灰オリーブ色 普通	P600　5% B竈内 黒笹14号窯式

第81A号住居跡（第155図）

位置　調査E区中央部，E3b1区。

重複関係　第81B・C号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　北西コーナー部を確認するだけで，規模や平面形は不明である。

壁　壁高は5cmで，外傾して立ち上がる。

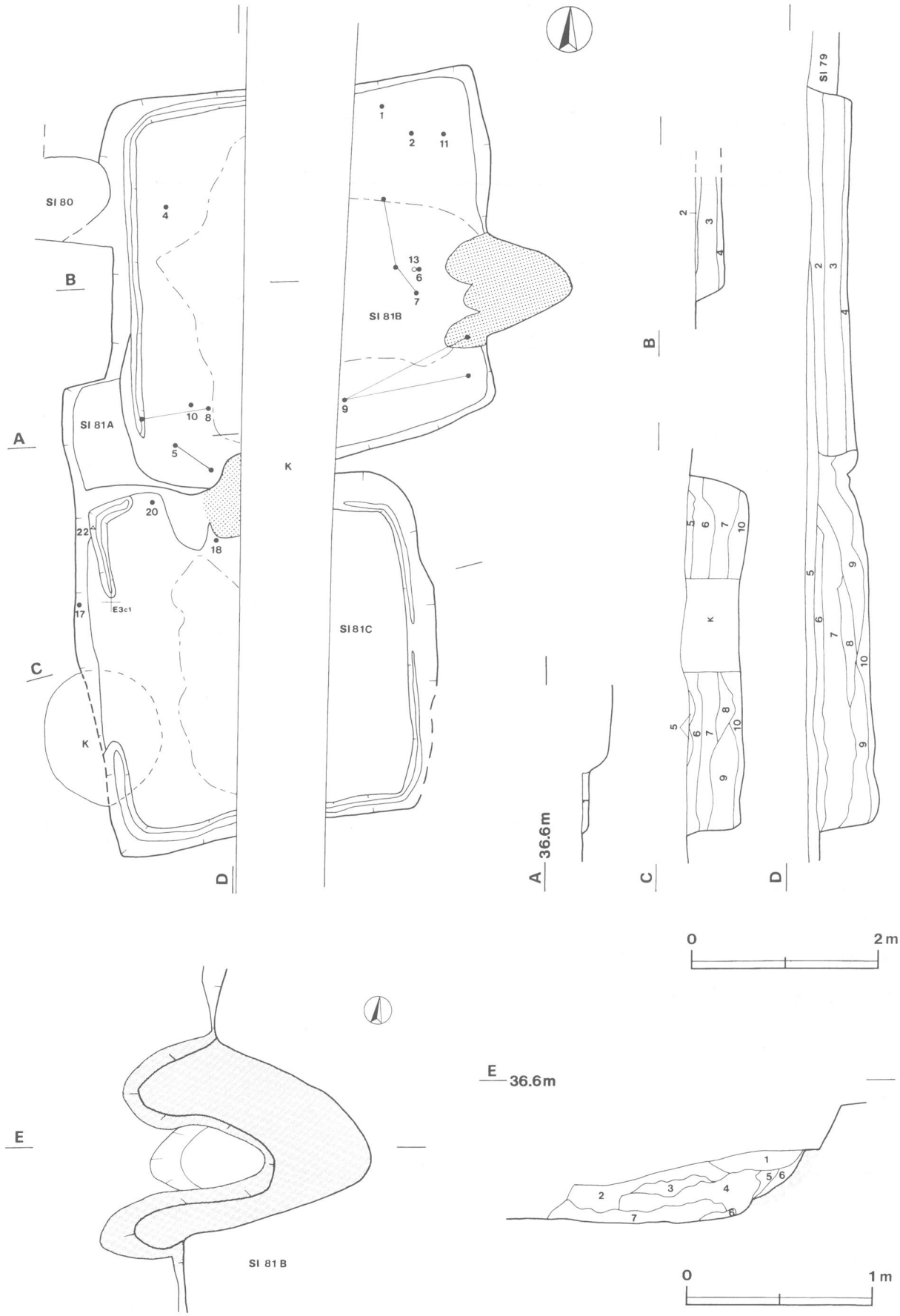
床　確認された部分は平坦である。

覆土　単一層であり，自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物　土師器片11点，須恵器片2点が出土している。図示できるものはない。

所見　本跡は出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが，第81B・C号住居跡との重複関係から9世紀後葉以前の平安時代と思われる。



第155図　第81A～C号住居跡

第81B号住居跡（第155図）

位置　調査E区中央部，E3b1区。

重複関係　第81C号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。また，本跡が第81A号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸4.20m，短軸4.10mの方形である。中央部に南北に長い撹乱がある。

主軸方向　N－80°－E

壁　壁高は45cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，竈から中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁中央部を壁外へ100cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ130cm，両袖間の最大幅110cmである。袖部は，褐色の砂質粘土で構築されている。火床部の規模は不明である。煙道部は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
2　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
3　にぶい褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
4　にぶい褐色　粘土粒子多量，焼土粒子中量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子多量
6　赤　褐　色　焼土大ブロック・焼土粒子多量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，粘土粒子微量

覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説

2　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
3　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
4　黒 褐 色　ローム粒子微量

遺物　土師器片799点，須恵器片125点，灰釉陶器片13点，鉄製品9点，土製品20点，石製品1点が出土している。第156図1・2の土師器坏は北東部の床面から出土している。3の土師器坏，11の灰釉陶器壺は北東部の覆土中層から出土している。4の土師器坏は北西部の床面から，5の土師器高台付椀は南西部の床面から出土している。6の土師器高台付椀，7の土師器甕，13の管状土錘は竈前面の床面から出土している。8の土師器甕，10の灰釉陶器壺は南西部の覆土下層から出土している。9の土師器甕は南東部の覆土下層から，14の砥石は竈内の覆土中から，16の鉄製鋤先は中央部の覆土上層部から出土している。15の石製双孔円板は南東部の覆土上層から出土し，流れ込みと思われる。12は須恵器甕の体部片で，内面に当て具痕が見られる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀後葉と考えられる。

第81C号住居跡（第155図）

位置　調査E区中央部，E3c1区。

重複関係　本跡が第81A・B号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.70m，短軸3.40mの長方形である。中央部に南北に長い撹乱がある。

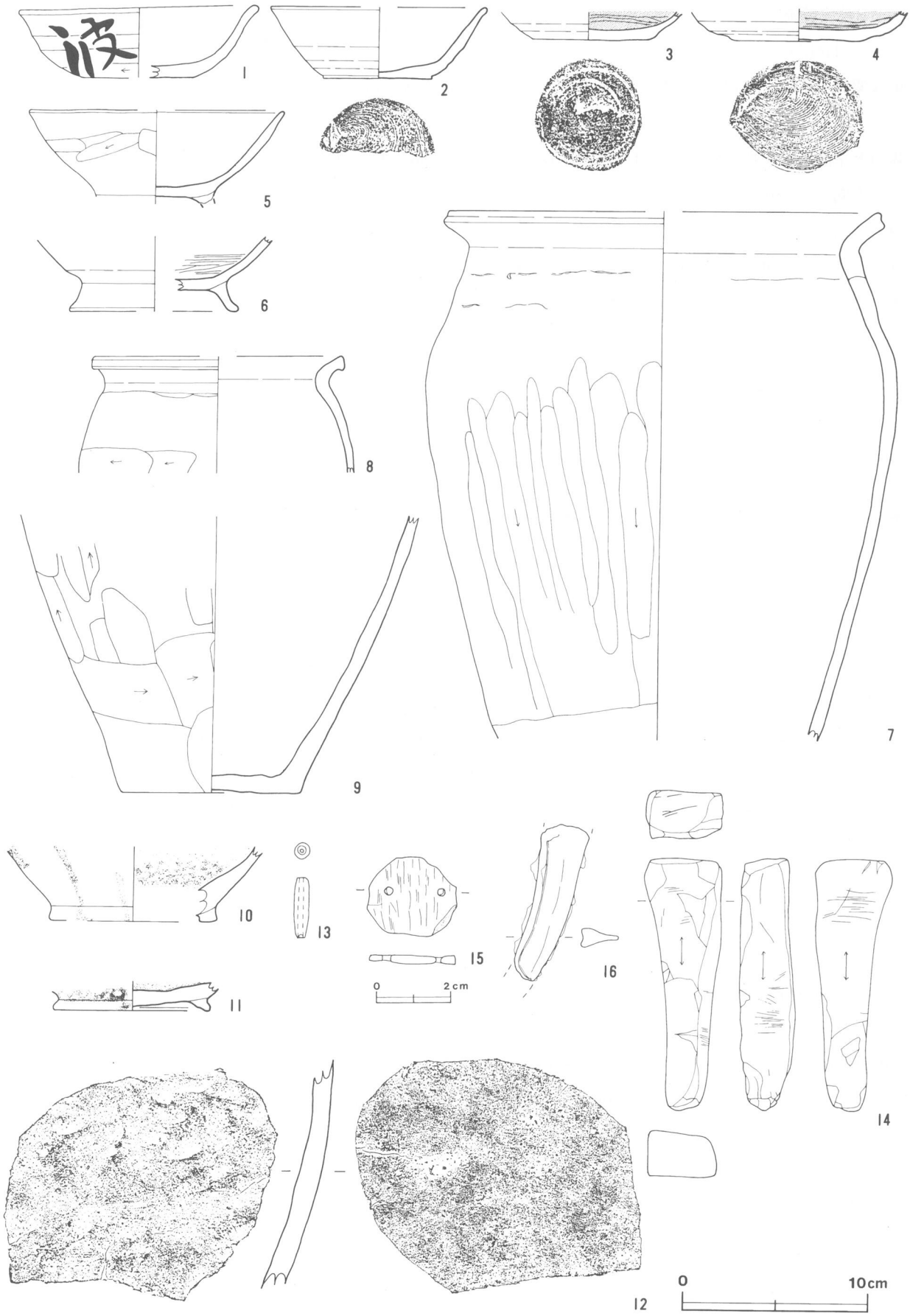
主軸方向　N－0°

壁　壁高は70cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ掘り込み，付設されているが，右半分は撹乱によって不明である。規模は，焚口部から煙道部までの長さ70cm，両袖間の最大幅（40cm）である。袖部は，褐色の砂質粘土で構築されている。火床部の規模は不明である。

覆土　6層からなり，自然堆積である。



第156図　第81B号住居跡出土遺物

第81B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第156図 1	坏 土師器	A 13.1 B 3.9 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P602 50% 北東部床面 「波」体部外面墨書
2	坏 土師器	A [11.8] B 3.8 C 5.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。二次底部面。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石英・雲母・黒色粒 橙色 普通	P603 30% 北東部床面
3	坏 土師器	B (1.6) C 6.2	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 浅黄橙色 普通	P605 20% 北東部覆土中層
4	坏 土師器	B (1.7) C 7.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。二次底部面。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母・黒色粒　橙色 普通	P606 30% 北西部床面
5	高台付椀 土師器	A [13.9] B (5.2)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。高台剥離。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部中位横位のヘラ削り。底部高台貼り付け後，ナデ痕。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P607 40% 南西部床面
6	高台付椀 土師器	B (4.1) D [9.2] E 1.5	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P609 15% 竈前床面
7	甕 土師器	A [24.0] B (28.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位縦位のヘラ削り，下端横位のヘラ削り。内面ナデ。輪積み痕。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P610 30% 竈前床面
8	甕 土師器	A [13.7] B (6.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位横位のヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・石英・黒色粒 橙色 普通	P611 10% 南西部覆土下層
9	甕 土師器	B (14.9) C 9.7	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P612 30% 南東部覆土下層
10	壺 灰釉陶器	B (4.1) D [9.0] E 0.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。台部は断面台形をしている。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。底部内外面釉。	胎土：灰白色 釉調：オリーブ色 普通	P614 5% 南西部覆土下層 黒笹14号窯式段階
11	壺 灰釉陶器	B (1.5) D 8.5 E 0.5	底部片。台部は断面台形をしている。	底部ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。底部内面釉。	胎土：にぶい黄橙色 釉調：オリーブ灰色 普通	P615 5% 北東部覆土中層 黒笹14号窯式段階

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
13	管状土錘	3.2	0.9	0.2	(2.4)	竈前床面	DP82 95%

石製品観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
14	砥石	(13.6)	4.2	3.0	(216.7)	凝灰岩	竈内	Q46

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
15	双孔円板	(2.1)	2.4	0.2	2.8	滑石	南東部覆土上層	Q47

金属製品観察表

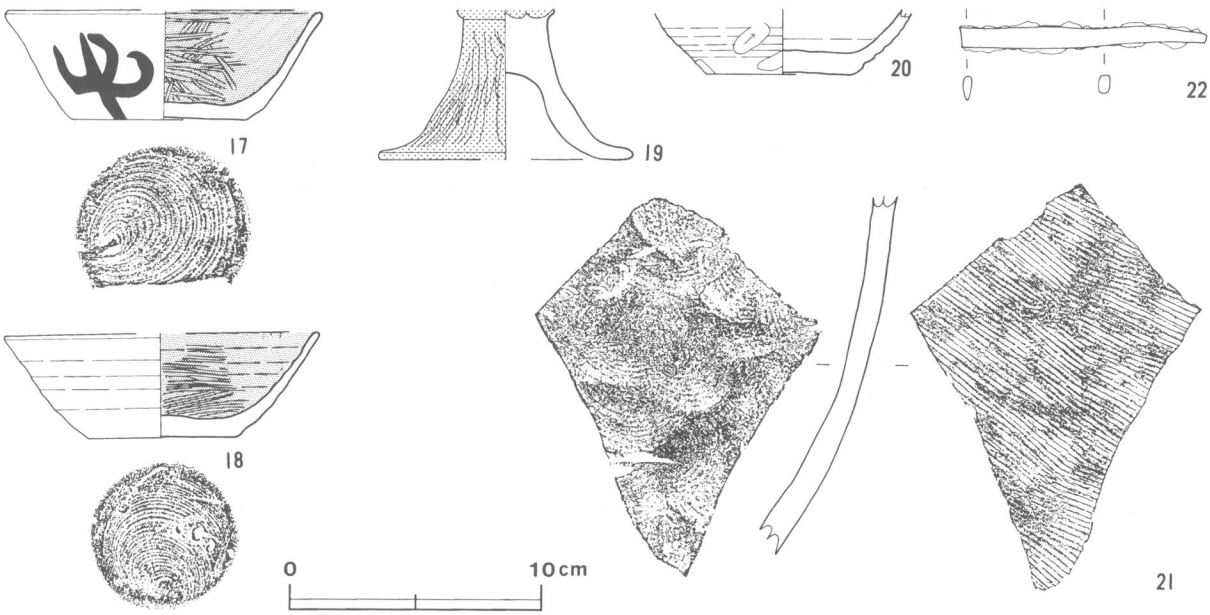
図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
16	鋤　先	(8.4)	2.5	1.0	(37.3)	中央部覆土上層	M64　30%

土層解説

5　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
7　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック・鹿沼土微量
8　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子微量
9　黒褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼土微量
10　黒褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子・鹿沼土微量

遺物　土師器片100点，須恵器片33点，鉄製品２点が出土している。第157図17の土師器坏は，西壁中央部付近の覆土上層から出土している。18の土師器坏は，竈内の覆土中から出土している。19の土師器高坏は，中央部の覆土中層から出土し，流れ込みと思われる。20の須恵器坏は，北西部の覆土下層から逆位で出土している。22の刀子は，西壁下壁溝の覆土中から出土している。21は須恵器甕の体部片で，外面に横位の平行叩き，内面に同心円の当て具痕が見られる。

所見　本跡の時期は，出土遺物と重複関係から９世紀末から10世紀初頭と思われる。



第157図　第81C号住居跡出土遺物

第81C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第157図 17	坏 土師器	A［12.6］ B 4.3 C 6.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母にぶい黄橙色 普通	P616　40% 西壁中央覆土上層 「ψ」体部外面墨書
18	坏 土師器	A［12.4］ B 4.2 C 5.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリアにぶい黄橙色 普通	P617　40% 竈内

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 19	高坏 土師器	D [10.0] E (6.0)	脚部片。裾部はハの字状に強く開く。	脚部から裾部外面ヘラ削り，内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P619　5% 中央部覆土中層
20	坏 須恵器	B (2.6) C　5.7	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・長石・雲母 灰黄色 普通	P620　20% 北西部覆土下層 三和窯産

金属製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
22	刀子	(9.8)	0.8	0.4～0.5	(13.4)	西壁下壁溝覆土中	M65　50%

第82号住居跡（第158・159図）

位置　調査E区中央部，D2i9区。

重複関係　第83号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　北側の一部が調査区域外に延びており，長軸3.80m，短軸（3.50m）で，長方形と推定される。

主軸方向　N－82°－W

壁　壁高は80cmで，外傾して立ち上がる。南壁の一部が第83号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝　上幅15～30cm，下幅3～7cm，深さ5cmで南・西壁下の一部で確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　東壁南寄りを壁外へ130cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部まで180cm，両袖間の最大幅120cmである。袖部は，灰褐色粘土で構築されている。径10cm，長さ25cmの円礫を袖部の補強材として利用している。火床部は，径40cmの円形に5cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。火床部奥に円礫を埋設し支脚として使用している。煙道部は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

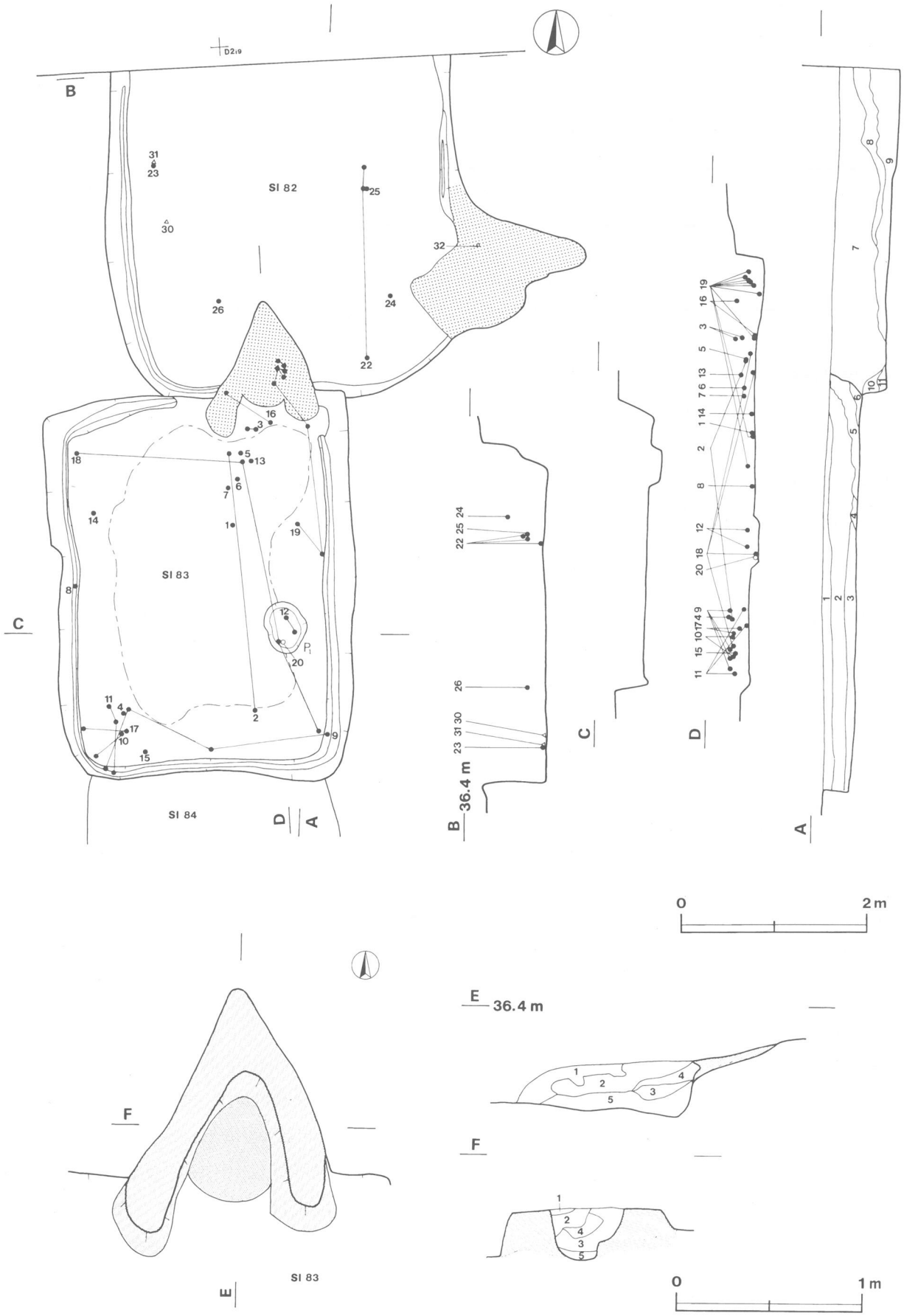
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，粘土小ブロック少量
3　褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量
4　灰褐色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子多量，炭化材・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量

覆土　5層からなり，自然堆積である。

土層解説

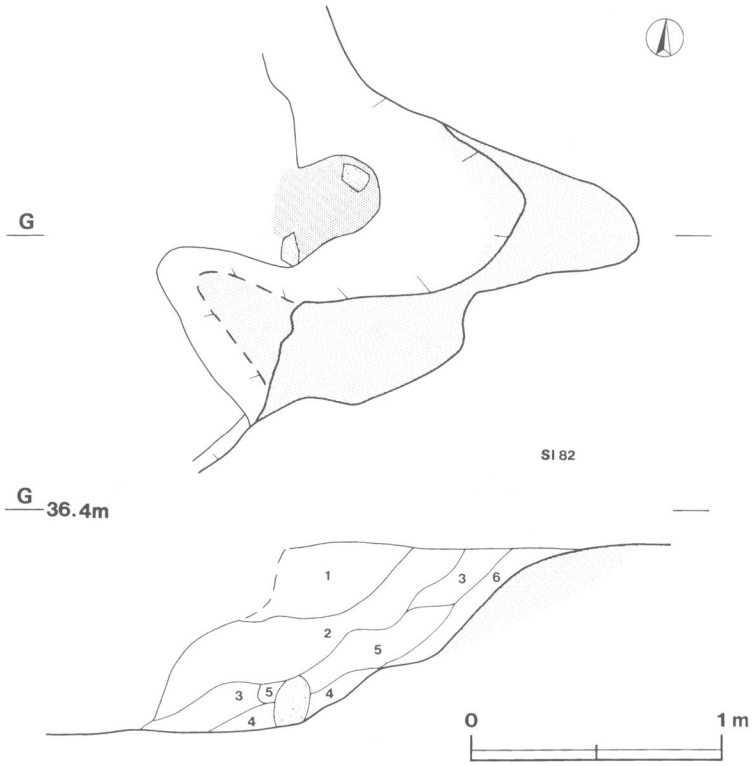
7　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
8　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
9　暗褐色　ローム中・小ブロック中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量
11　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片483点，須恵器片110点，灰釉陶器片7点，古銭1点，鉄製品4点，瓦片2点，鉄滓3点，管状土錘19点，石製品1点，縄文土器片1点が出土している。第161図22の土師器坏は，中央部の覆土下層から出土している。23の土師器甕，30の古銭，31の刀子は西壁中央部付近の床面から出土している。24の須恵器坏，32の鉄鏃は竈内の覆土中から出土している。25の須恵器甕，29の不明鉄製品は中央部の覆土中層から出土している。26の須恵器甕は，南西部の覆土下層から出土している。27の瓦は，中央部の覆土上層から出土している。鉄滓は，椀形滓1点（310g），鍛冶滓1点（30g），流動滓1点（10g）で，中央部の覆土上層から出土している。いずれも流れ込みと思われる。管状土錘は，住居内全体に散在するように覆土中層から出土している。28の打製石斧と縄文土器片は流れ込みである。



第158図　第82・83号住居跡

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀後葉と考えられる。29の古銭は皇朝十二銭の『隆平永寶』である。中央部の覆土中層から出土した黒笹90号窯式の長頸瓶が，第58号住居跡の灰釉陶器片と接合した。24の須恵器坏は三和町の三和窯産である。



第159図　第82号住居跡竈

第83号住居跡（第158図）

位置　調査E区中央部，D2j8区。

重複関係　本跡が第82･84号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸4.10m，短軸3.00mの長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～30cm，下幅3～10cm，深さ5cmで全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，竈から中央部がよく踏み固められている。

竈　北壁中央東寄りを壁外へ100cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで130cm，両袖間の最大幅115cmである。袖部は，砂質の灰褐色粘土で構築されている。火床部は長径55cm，短径40cmの楕円形に深さ5cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

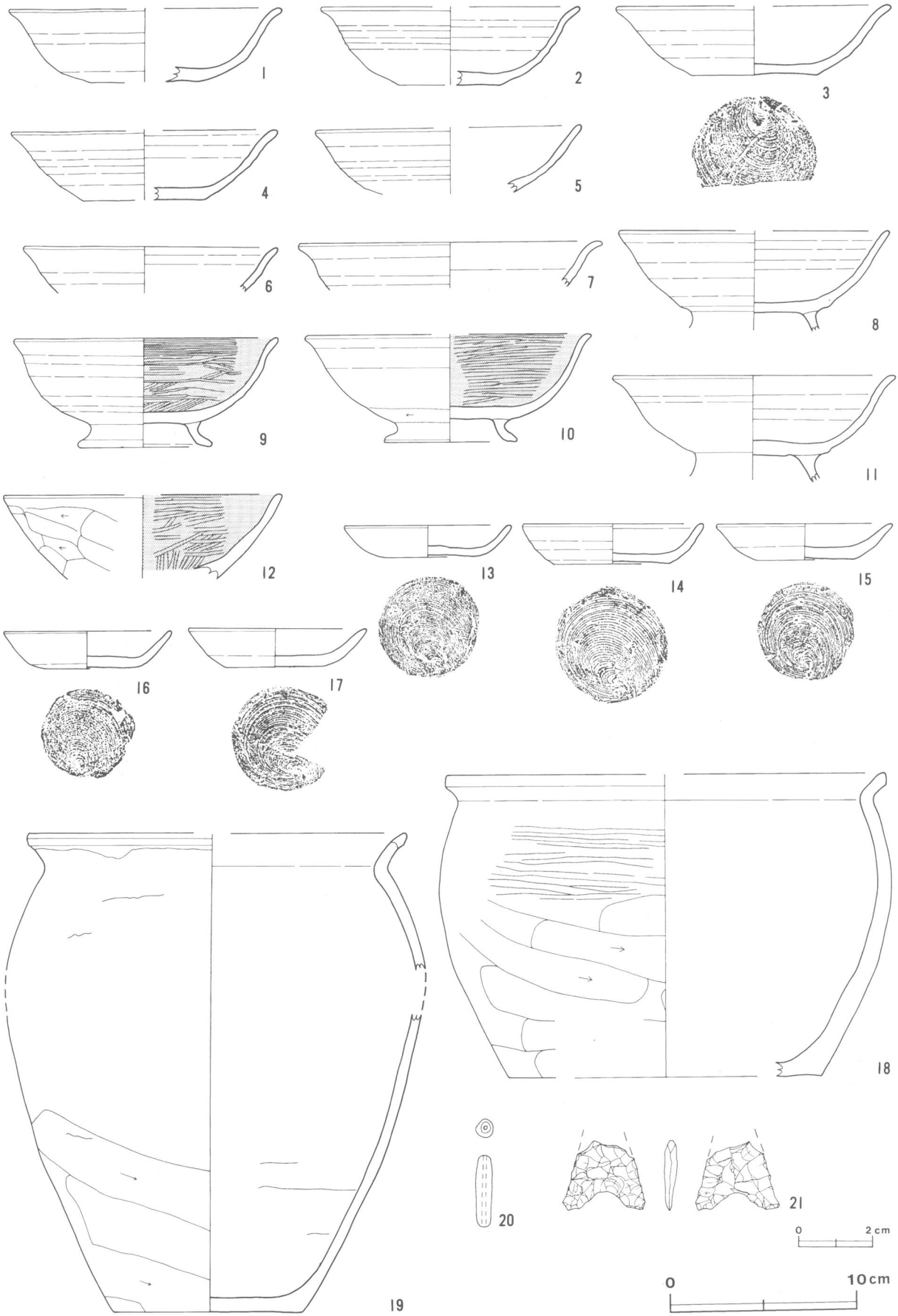
1　黒褐色　粘土大ブロック･粘土粒子少量，ローム小ブロック微量
2　灰褐色　粘土粒子中量，焼土粒子･粘土大ブロック少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子･炭化粒子中量，粘土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子微量
5　明赤褐色　焼土大･中･小ブロック･焼土粒子多量，灰微量

ピット　P_1は長径50cm，短径40cmの楕円形で，深さ15cmである。底部は平坦である。性格は不明である。

覆土　6層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　焼土粒子･炭化粒子･ローム中･小ブロック･ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子･ローム中･小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム中･小ブロック中量，ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子･粘土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量



第160図　第83号住居跡出土遺物

遺物　土師器片973点，須恵器片49点，鉄製品４点，鉄滓２点，土製品12点，石製品１点が出土している。第160図１の土師器坏は中央部の床面から出土している。２・３・５～７の土師器坏，13・16の土師器小皿は竈前面の覆土下層から出土している。４の土師器坏，10・11の土師器高台付椀，15・17の土師器小皿は南西部の覆土下層から出土している。８の土師器高台付椀は，西壁中央部付近の床面から出土している。９の土師器高台付椀は，南壁沿いの覆土下層に破片となって散在した状態で出土している。12の土師器高台付椀，20の管状土錘は，P1の覆土中から出土している。14の土師器小皿は，北西部の床面から正位で出土している。18の土師器甕は床面全体に破片が散在した状態で出土している。19の土師器甕は東壁中央部付近の床面から竈内で出土している。21の石鏃は中央部の覆土中層から出土している。鉄滓は，椀形滓１点（150g），含鉄滓１点（５g）で，ほかに羽口片６点が出土している。いずれも流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

第83号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図 1	坏 土師器	A［14.7］ B　4.0 C［6.0］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石英・長石 にぶい黄橙色 普通	P631　40% 中央部床面
2	坏 土師器	A［14.0］ B　4.2 C［5.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・パミス 橙色 普通	P632　40% 竈前覆土下層
3	坏 土師器	A［15.0］ B　3.8 C　6.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・黒色粒　橙色 普通	P633　35% 竈前覆土下層
4	坏 土師器	A［14.4］ B　3.7 C［6.6］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P634　20% 南西部覆土下層
5	坏 土師器	A　14.5 B（3.4）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・黒色粒 橙色 普通	P636　50% 竈前覆土下層
6	坏 土師器	A　13.8 B（2.4）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・黒色粒 橙色 普通	P637　30% 竈前覆土下層
7	坏 土師器	A　16.4 B（2.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	長石・スコリア 橙色 普通	P638　30% 竈前覆土下層
8	高台付椀 土師器	A［14.8］ B（5.4） E（1.1）	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P640　60% 西壁中央床面
9	高台付椀 土師器	A　14.4 B　5.9 D　7.3 E　1.3	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通	P641　70% 南壁沿い覆土下層
10	高台付椀 土師器	A［15.6］ B　5.8 D　9.2 E　1.2	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・スコリア にぶい黄橙色 普通	P642　45% 南西部覆土下層
11	高台付椀 土師器	A　15.3 B（5.8） E（1.5）	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	石英・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P643　50% 南西部覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図 12	高台付椀 土師器	A [15.2] B (4.5)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。台部剥離。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部外面横位のヘラ削り。底部高台貼り付け痕。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母・パミス 灰褐色 普通	P644 30% P1内覆土中
13	小皿 土師器	A 9.0 B 1.7 C 5.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P650 100% 竈前覆土下層
14	小皿 土師器	A 9.4 B 2.2 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 黄橙色 普通	P651 95% 北西部床面
15	小皿 土師器	A 8.5 B 1.9 C 5.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P652 90% 南西部覆土下層
16	小皿 土師器	A 9.1 B 2.0 C 5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母・黒色粒　橙色 普通	P653 90% 竈前覆土下層
17	小皿 土師器	A 9.6 B 2.1 C 5.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母・黒色粒　にぶい橙色 普通	P654 90% 南西部覆土下層
18	甕 土師器	A [24.0] B 16.3 C [17.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位横位のヘラナデ，中位から下端横位のヘラ削り。内面横ナデ。	砂粒・雲母 橙色 普通	P656 40% 住居内全面
19	甕 土師器	A [20.5] B (23.3) C 10.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下位横位のヘラ削り，内面横ナデ。輪積み痕。	砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通	P657 45% 竈内から東壁中央床面

土製品観察表

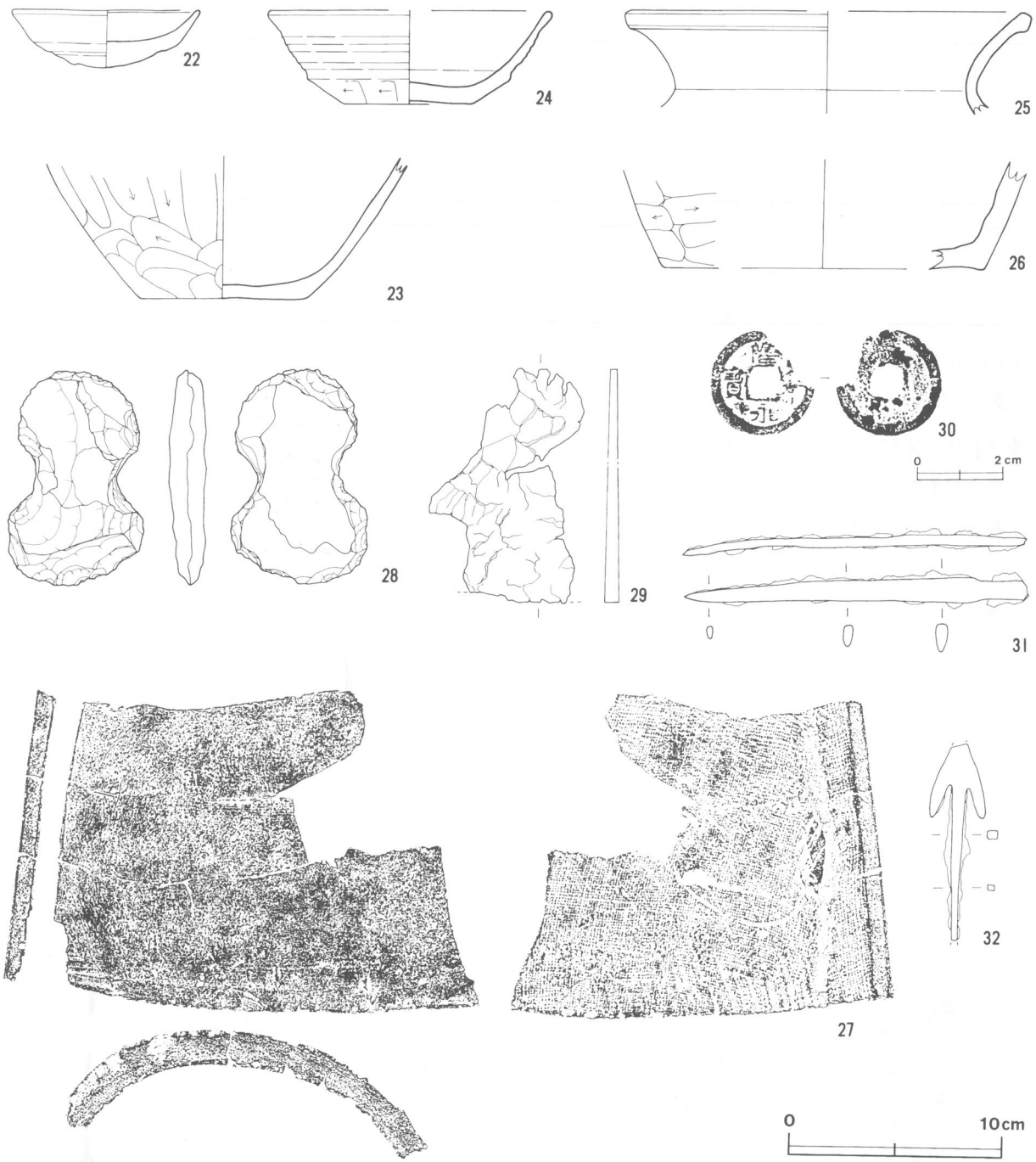
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
20	管状土錘	3.8	0.9	0.2	(3.3)	P1覆土中	DP83 95%

石製品観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
21	石鏃	(1.8)	2.2	0.3	(1.1)	チャート	中央部覆土中層	Q49 70%

第82号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 22	坏 土師器	A 8.8 B 2.2	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部粗い回転ヘラ削り。	砂粒・雲母 褐灰色 普通	P621 70% 中央部覆土下層
23	甕 土師器	B (6.7) C 7.6	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面中位縦位のヘラ削り，下端横位のヘラ削り。内面ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母・パミス にぶい赤褐色 普通	P626 20% 西壁中央床面
24	坏 須恵器	A [13.4] B 4.4 C 6.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	石英・長石 浅黄橙色 普通	P622 45% 竈前覆土下層 三和窯産
25	甕 須恵器	A [19.8] B (4.8)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	石英・長石 褐灰色 普通	P628 5% 中央部覆土中層
26	甕 須恵器	B (5.1) C [15.1]	底部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り，内面ナデ。	石英・長石 褐灰色 普通	P629 5% 南西部覆土下層



第161図　第82号住居跡出土遺物

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
27	丸　瓦	(15.6)	(16.5)	1.5	(613.1)	中央部覆土上層	T14　凹面布目痕　凸面ナデ調整　30%

石製品観察表

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
28	打製石斧	10.0	6.4	1.7	124.4	砂　岩	南東部覆土上層	Q48　分銅形

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出上地点	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
29	不明鉄製品	(10.9)	(7.3)	0.7	(67.0)	中央部覆土中層	M66
31	刀　子	(16.3)	1.6	0.3～0.6	(23.3)	西壁中央床面	M68　90%
32	鉄　鏃	9.2	2.7	0.4	(13.4)	竈内	M69　90%

図版番号	銭　名	計測値				初鋳年代(西暦)	鋳造地	備　考
		銭径（cm）	穿径（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
30	隆平永寶	(2.6)	0.6	0.15	(1.9)	延暦15年　（796）	不明	M67

第75号住居跡（第162図）

位置　調査E区中央部，E2as区。

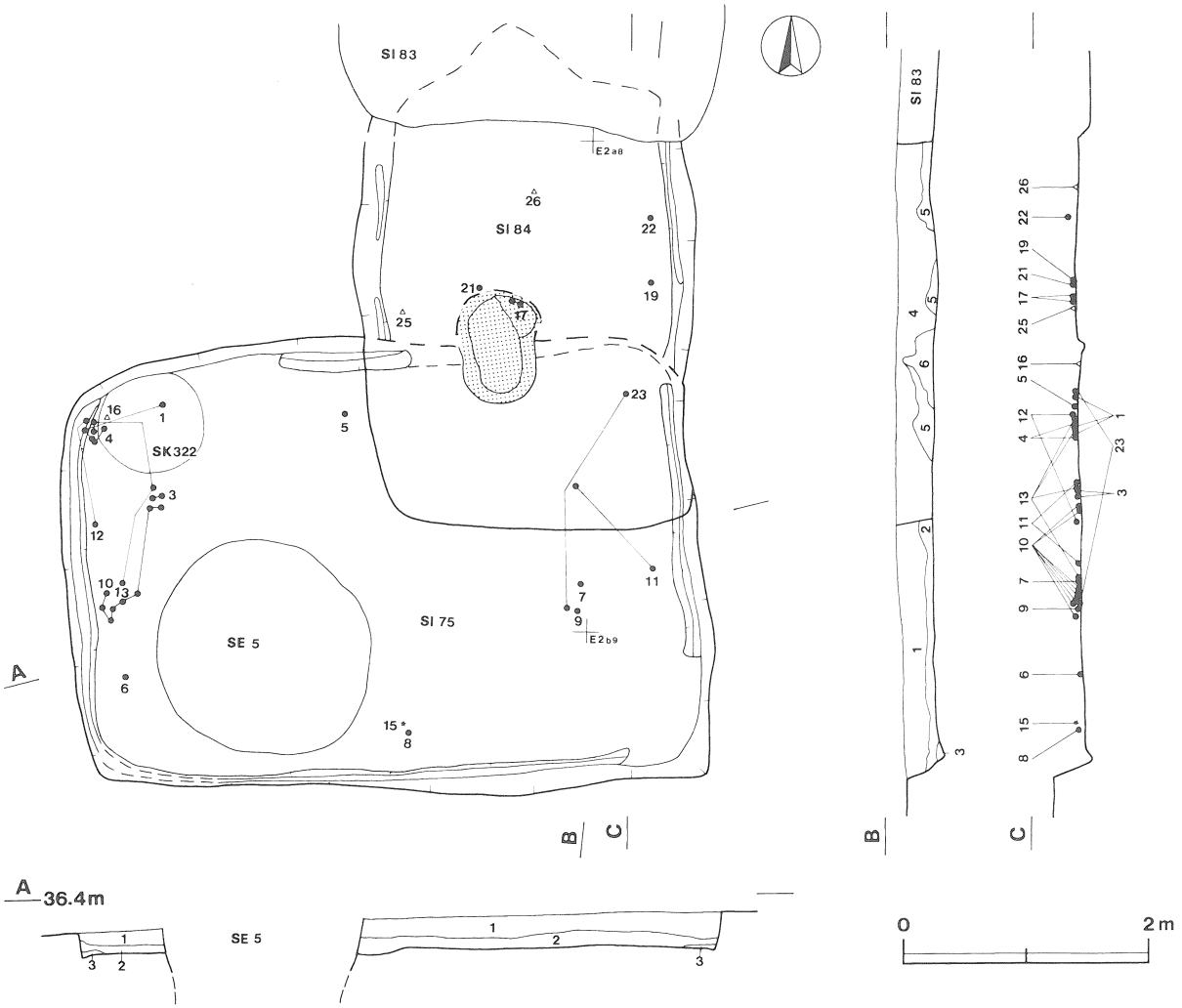
重複関係　第84号住居跡，第322号土坑，第5号井戸跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸6.00m，短軸3.40mの隅丸長方形である。

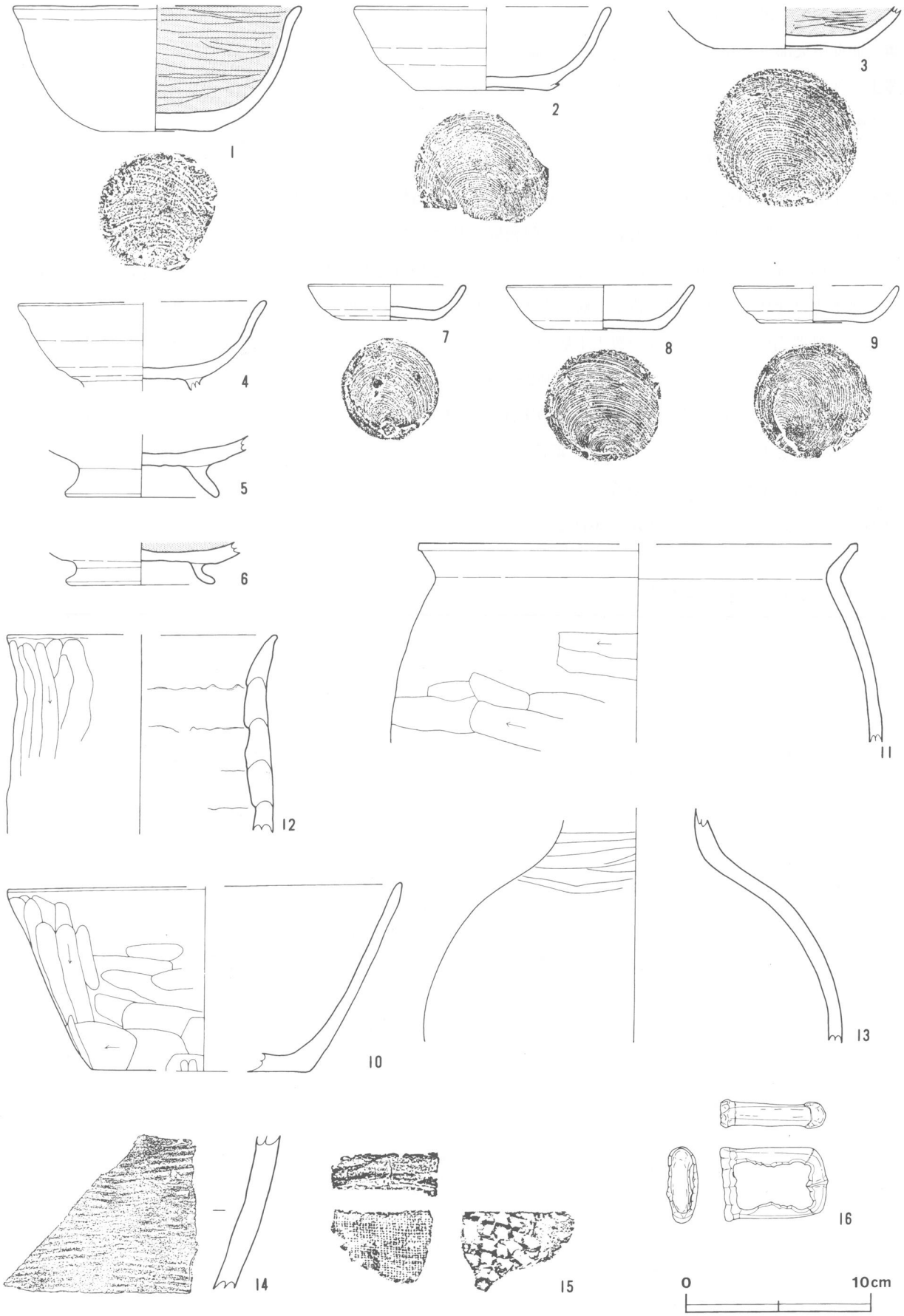
主軸方向　N－4°－W

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。北東コーナー部は第84号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝　上幅10～20cm，下幅5～7cm，深さ7cmで南・西壁下で確認する。断面形はU字形である。



第162図　第75・84号住居跡



第163図　第75号住居跡出土遺物

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　北壁中央部東寄りに付設された痕跡を確認する。

覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説
1　黒 褐 色　　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材微量
2　暗 褐 色　　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
3　暗 褐 色　　ローム粒子微量

遺物　土師器片1044点，須恵器片56点，灰釉陶器片6点，銅製品1点，鉄製品1点，瓦片1点，鉄滓21点が出土している。第163図1の土師器椀,16の銅製鞘尻金具は北西コーナー部の床面から出土している。2の土師器坏は中央部の覆土中層から出土している。3の土師器椀は北西部の床面から，4の土師器高台付椀，12の土師器甕は北西コーナー部の覆土下層から出土している。5の土師器高台付椀は中央部北側の覆土下層から，6の土師器高台付椀は南西部の覆土下層から出土している。7・9の土師器小皿，11の土師器甕は中央部東側の覆土下層から出土している。8の土師器小皿，15の平瓦は南壁中央部の覆土下層から出土している。10の土師器鉢，13の土師器壺は西壁中央部の床面から散在して出土している。14は須恵器甕の体部片で，外面に平行叩きが施されている。鉄滓は，鍛冶滓14点（300g），含鉄滓7点（75g）で，羽口片3点とともに中央部の覆土上層から出土している。いずれも流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀後半と考えられる。

第75号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第163図 1	椀 土師器	A [15.6] B 6.8 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。体部外面ヘラ当て痕。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P541　45% 北西コーナー床面
2	坏 土師器	A [13.9] B 4.5 C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P542　30% 中央部覆土中層
3	椀 土師器	B (2.3) C 7.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	石英・雲母・黒色粒 にぶい橙色 普通	P544　10% 北西部床面
4	高台付椀 土師器	A [13.5] B (4.8)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台部破損。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・パミス 灰褐色 普通	P545　40% 北西コーナー覆土下層
5	高台付椀 土師器	B (3.4) D 8.4 E 1.7	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・長石・パミス 褐灰色 普通	P546　20% 中央部北側覆土下層
6	高台付椀 土師器	B (2.2) D 8.1 E 1.1	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部は短くハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・スコリア 橙色 普通	P547　20% 南西部覆土下層 二次焼成
7	小皿 土師器	A 8.6 B 1.9 C 5.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石 にぶい橙色 普通	P548　100% 中央部東側覆土下層
8	小皿 土師器	A 10.3 B 2.4 C 6.2	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P549　80% 南壁中央覆土下層
9	小皿 土師器	A [9.0] B 2.0 C 5.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P550　55% 中央部東側覆土下層
10	鉢 土師器	A [21.4] B 10.3 C [11.7]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。	砂粒・石英・雲母・パミス　灰褐色 普通	P551　60% 西壁中央床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第163図 11	甕 土師器	A [23.8] B (10.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位横位のヘラ削り。内面横位のナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P552　20% 中央部東側覆土下層
12	甕 土師器	A [14.6] B (10.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	体部外面縦位のヘラ削り，内面ナデ。内面輪積み痕。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P553　10% 北西コーナー覆土下層
13	壺 土師器	B (12.7)	体部から頸部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。	石英・雲母 黄橙色 普通	P555　15% 西壁中央床面

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
15	平　瓦	(4.6)	(5.9)	2.2	(59.4)	南壁中央覆土下層	T12　凹面布目痕　凸面格子目叩き　5%

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
16	鞘尻金具	5.7	4.1	1.6	(23.4)	北西コーナー床面	M62　90%

第84号住居跡（第162図）

位置　調査E区中央部，E2a8区。

重複関係　第83号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。また，本跡が第75号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸（3.60m），短軸2.60mで，長方形と推定される。

主軸方向　N－3°－W

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。北壁は第83号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝　上幅20～25cm，下幅3～5cm，深さ3cmで東壁下の一部で確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　第83号住居跡に掘り込まれ，北壁中央部に付設した痕跡を確認したが，遺存状態が不良で，詳細は不明である。

覆土　3層からなり，ローム土がブロック状に堆積していることから，人為堆積と思われる。

土層解説

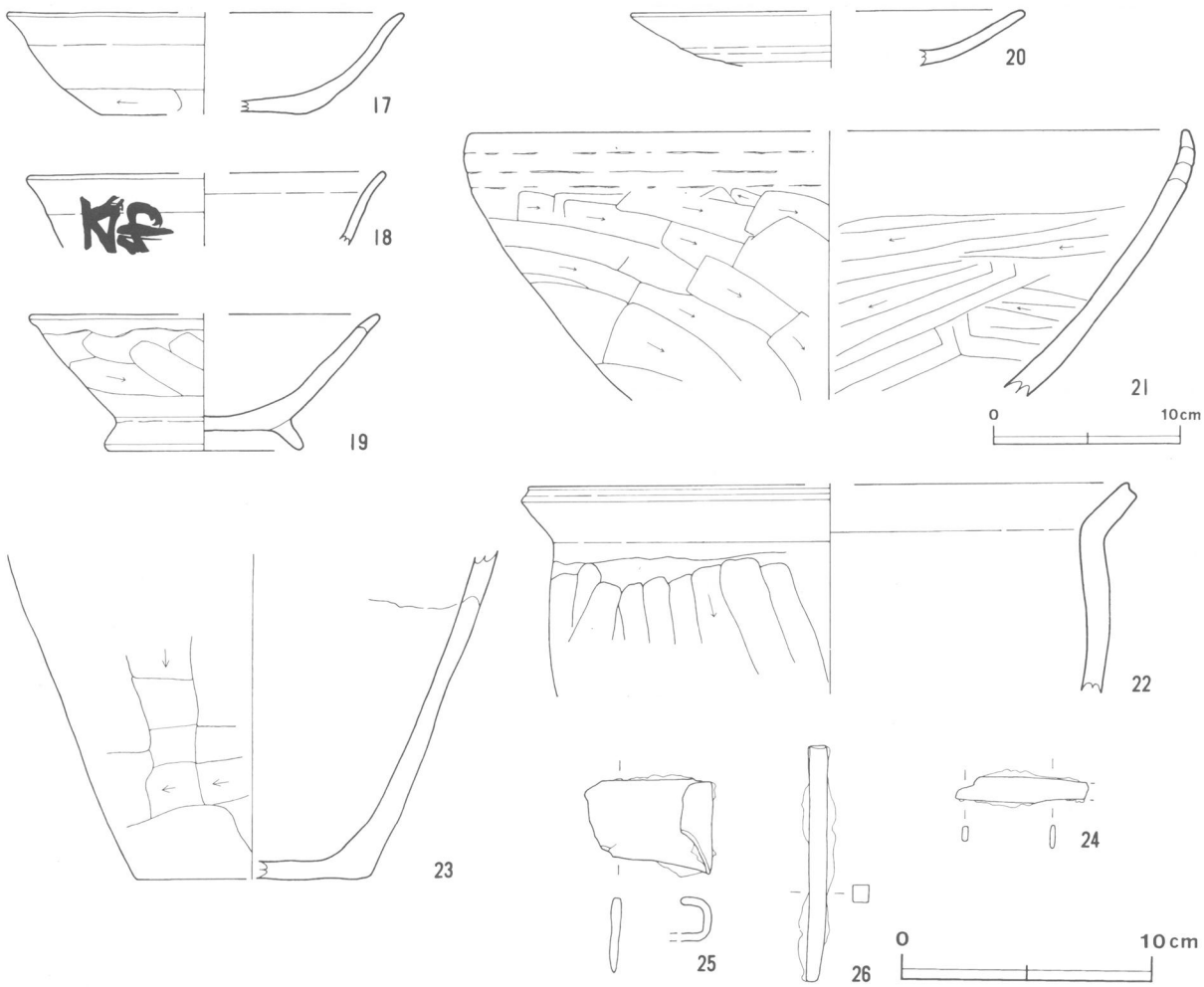
4　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量

5　暗褐色　焼土粒子・ローム中・小ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量

6　暗褐色　焼土粒子・ローム中・小ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子微量

遺物　土師器片238点，須恵器片11点，灰釉陶器片3点，鉄製品3点，鉄滓6点が出土している。第164図17の土師器坏，21の土師器鉢（鉄鉢形），26の鉄釘は中央部の床面から出土している。18の土師器坏，24の刀子は中央部の覆土中層から出土している。19の土師器高台付椀は東壁中央部の覆土下層から，25の鉄鎌は西壁中央部の覆土下層から出土している。20の土師器台付皿は南西部の覆土中層から，22の土師器甕は北東部の覆土下層から，23の土師器甕は南東部の覆土下層から出土している。鉄滓は鍛冶滓5点（40g），含鉄滓1点（1g）で，中央部の覆土上層から出土している。いずれも流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物と第75号住居跡との重複関係から10世紀後半と考えられる。



第164図　第84号住居跡出土遺物

第84号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第164図 17	坏 土師器	A [16.0] B 4.0 C [8.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P658　10% 中央部床面
18	坏 土師器	A [14.5] B (3.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・黒色粒 にぶい橙色 普通	P659　5% 中央部覆土中層 体部外面墨書
19	高台付椀 土師器	A [14.0] B 5.4 D 8.0 E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり,口縁部に至る。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。口縁部貼り付け痕。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P660　70% 東壁中央覆土下層
20	皿 土師器	A [16.0] B (2.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外反して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・パミス 橙色 普通	P662　40% 南西部覆土中層
21	鉄鉢 土師器	A [38.6] B (14.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から下位斜位のヘラ削り，内面ヘラナデ。口縁部・体部接合痕。	砂粒・長石 橙色 普通	P663　20% 中央部床面
22	甕 土師器	A [24.8] B (8.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・パミス 橙色 普通	P664　5% 北東部覆土下層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第164図 23	甕 土師器	B (13.1) C [9.2]	底部から体部にかけての破片　平底 体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ削り　内面ナデ　内面輪積み痕。	砂粒・雲母・パミス 橙色 普通	P554　5% 南東部覆土下層

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
24	刀　子	(5.3)	1.0	0.2～0.3	(5.3)	中央部覆土中層	M70　80%
25	鉄　鎌	(5.0)	3.8	0.4	(28.1)	西壁中央覆土下層	M71　20%
26	鉄　釘	(9.5)	0.7	0.7	(18.4)	中央部床面	M72　70%

第87号住居跡（第165図）

位置　調査E区中央部，E2c9区。

重複関係　第1・2号溝跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

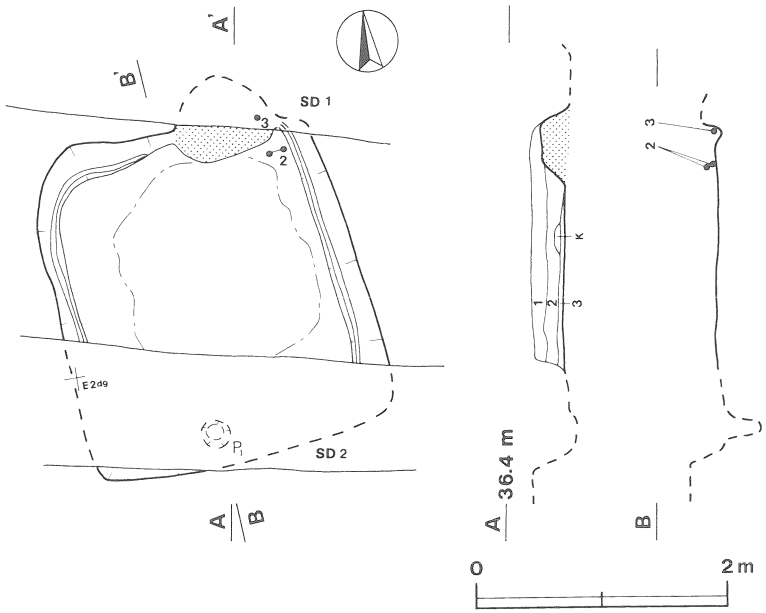
規模と平面形　長軸2.68m，短軸2.47mの隅丸方形である。

主軸方向　N－8°－W

壁　壁高は11～14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～25cm，下幅2～5cm，深さ5cmで全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，よく踏み固められている。



第165図　第87号住居跡

竈　北壁中央東寄りに焼土と粘土塊が見られ，壁外へ掘り込んで付設した痕跡を確認する。規模は，焚口部から煙道部までの長さ［65cm］，両袖間の最大幅［75cm］と推定される。

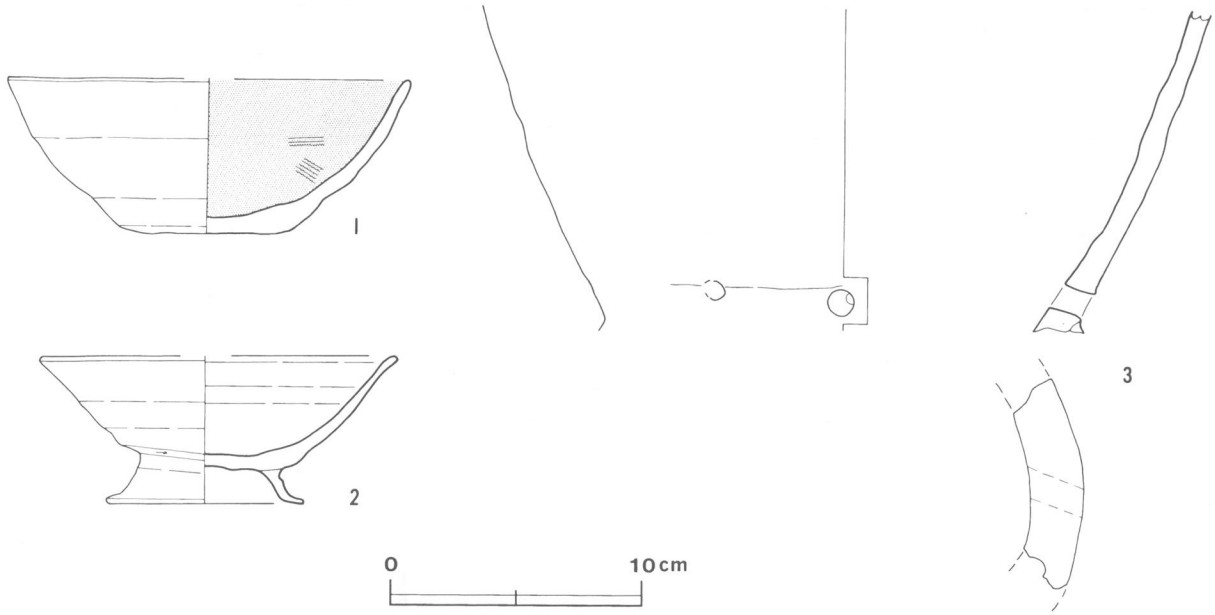
ピット　P1は径20cmの円形で，深さ25cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子微量

遺物　土師器片288点，須恵器片33点，鉄製品1点，鉄滓（鍛冶滓）1点（55g），土製品3点，縄文土器片1点が出土している。第166図1の土師器椀は，北東部の覆土中層から出土している。2の土師器高台付椀は，竈前面の床面から出土している。3の土師器甑は，竈内の覆土中から出土している。鉄滓は，中央部の覆土上層から出土し，流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から平安時代の10世紀前半と思われる。



第166図　第87号住居跡出土遺物

第87号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第166図 1	椀 土師器	A [16.0] B 6.1 C 4.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。内面黒色処理。体部外面。底部摩滅。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P665 北東部覆土中層　20%
2	高台付椀 土師器	A [14.3] B 6.0 D 7.8 E 1.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P666 竈前床面　40%
3	甑 土師器	B (12.9)	体部片。体部は外傾して立ち上がる。底部鍔状部剥離。	体部内・外面ナデ。底部貼り付け後，ナデ痕。体部下端外面から内面へ穿孔。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P668 竈内　10%

第88号住居跡（第167図）

位置　調査E区中央部，E2c7区。

重複関係　第２号溝跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.06m，短軸2.73mの長方形である。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は15cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅10～20cm，下幅３～７cm，深さ５cmで全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，竈付近がよく踏み固められている。

竈　東壁中央南寄りを壁外へ50cmほど掘り込んで，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ80cm，両袖間の最大幅（80cm）である。袖部は，ローム土混じりの粘土で構築されている。火床部は，熱を受け赤変している。長さ35cm，幅10～15cmの円礫を支脚として火床部奥に埋設し使用している。煙道部は，火床部から傾斜して立ち上がる。

竈土層解説

1　暗 褐 色　粘土粒子微量
2　灰 褐 色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
3　にぶい赤褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　明 赤 褐 色　焼土粒子多量

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は径25cmの円形で，深さ12cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。P_2は径20cmの円形で，深さ20cmである。性格は不明である。

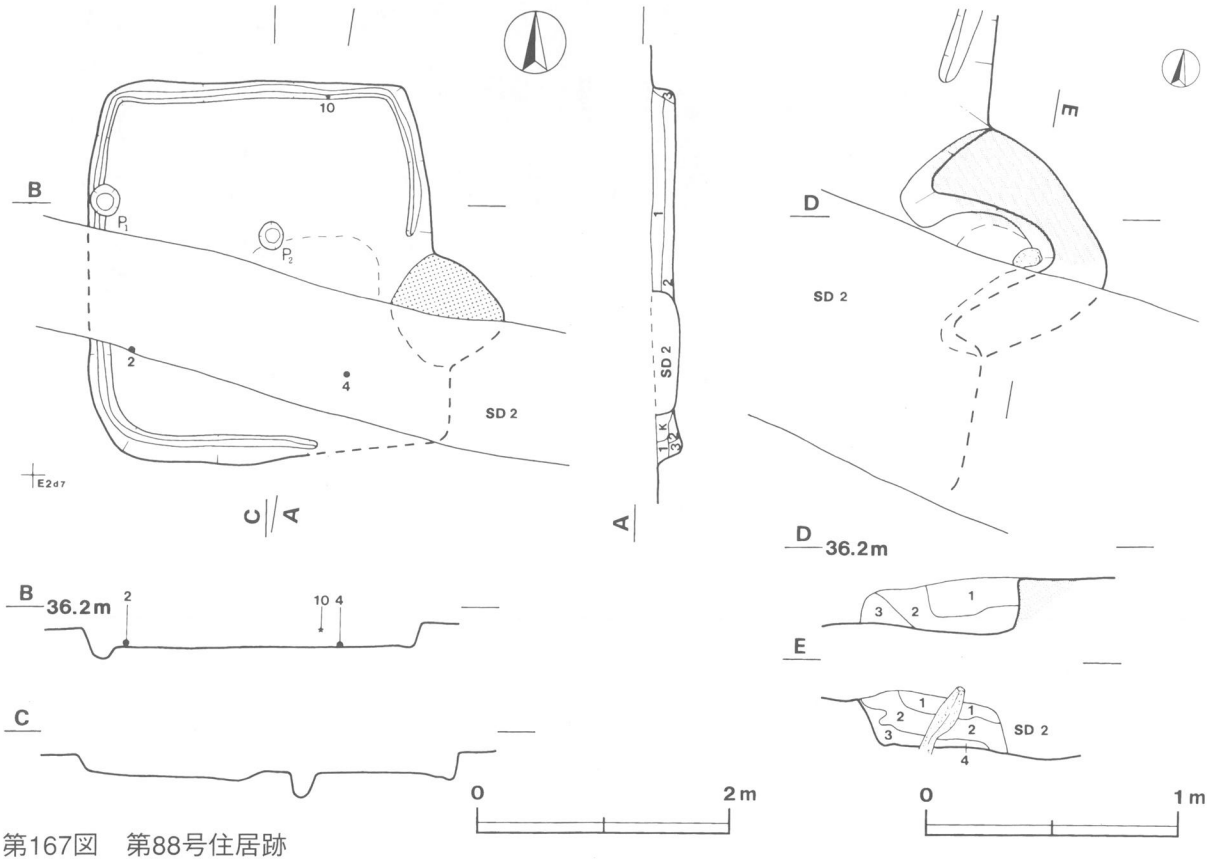
覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　黒 褐 色　焼土粒子・ローム粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量

遺物　土師器片907点，須恵器片84点，灰釉陶器片3点，瓦片1点，鉄製品2点，鉄滓2点，土製品5点，石製品1点が出土している。第168図1の土師器高台付椀は，北東部の覆土中層から出土している。2の土師器高台付椀は，南西部の床面から，3の土師器小皿は，南西部の覆土下層から出土している。4の土師器小皿は南東部の床面から，5～8の土師器小皿，9の土師器甕は南東部の覆土下層から出土している。10の平瓦は，北壁中央部の覆土下層から出土し，第89・92B号住居跡出土の瓦片と接合する。11の打製石斧，鉄滓は，含鉄滓1点（10g），鍛冶滓1点（50g）で，中央部の覆土上層から出土している。いずれも流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀後半と考えられる。



第167図　第88号住居跡

第88号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第168図 1	高台付椀 土師器	B（5.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。高台部剥離。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。底部高台貼り付け後，ナデ痕。	砂粒・雲母・パミス にぶい黄橙色 普通	P669　10% 北東部覆土中層

第168図　第88号住居跡出土遺物

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 2	高台付椀 土師器	B (3.7) D 7.4 E 1.6	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母　にぶい橙色 普通	P670　20% 南西部床面
3	小皿 土師器	A [9.9] B 2.2 C 5.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P671　50% 南西部覆土下層
4	小皿 土師器	A [8.4] B 1.8 C 5.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・黒色粒 橙色 普通	P672　50% 南東部床面
5	小皿 土師器	A [9.2] B 1.9 C [5.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P673　45% 南東部覆土下層
6	小皿 土師器	A [9.4] B 1.6 C [6.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P674　25% 南東部覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 7	小皿 土師器	A［9.0］ B 1.8 C［5.6］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P675　30% 南東部覆土下層
8	小皿 土師器	A［7.8］ B 1.6 C［5.6］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア・パミス にぶい褐色 普通	P676　20% 南東部覆土下層
9	甕 土師器	B（4.6） C 9.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・パミス にぶい褐色 普通	P678　10% 南東部覆土下層

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
10	平瓦	(15.3)	(11.2)	2.4	(566.3)	北壁中央覆土下層	T15　凹面布目痕　凸面格子目叩き　30%

石製品観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
11	打製石斧	9.1	6.7	1.8	137.2	砂岩	中央部覆土上層	Q51　分銅形

第89A号住居跡（第169図）

位置　調査E区中央部，E2c6区。

重複関係　第1・2号溝跡，第8号井戸跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。また，本跡が第89B号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸4.55m，短軸4.30mの方形である。

主軸方向　N－9°－E

壁　壁高は24cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～25cm，下幅3～7cm，深さ5cmで，東・南・西壁下の一部で確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，中央がよく踏み固められている。

竈　第1号溝跡に掘り込まれ，北壁中央部を壁外へ掘り込んで付設されている痕跡を確認するのみである。規模は不明である。火床部は，径30cmの円形に熱を受け赤変している。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1は長径40cm，短径（30cm）の楕円形で深さ42cmである。P_2は径35cmの円形で深さ12cmである。P_3は長径40cm，短径30cmの楕円形で深さ36cmである。P_4は径55cmの円形で深さ12cmである。いずれも性格は不明である。

P_3土層解説
1　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

P_4土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子微量

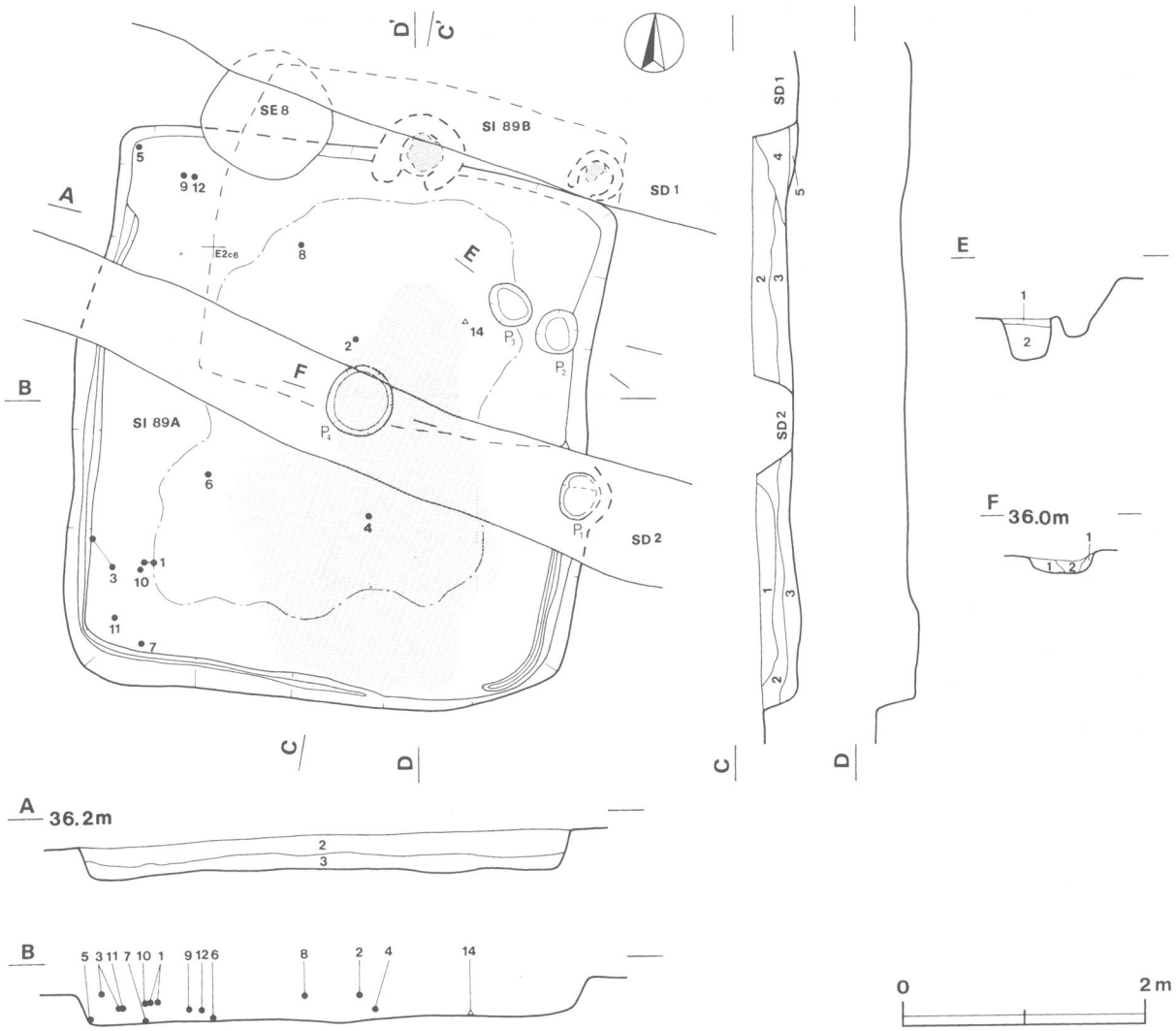
覆土　5層からなり，自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム小ブロック・粘土大ブロック少量，焼土粒子・ローム粒子微量
3　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
4　暗褐色　粘土大・中ブロック中量，ローム粒子少量
5　暗褐色　ローム大・中ブロック多量，焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック中量

遺物　土師器片1149点，須恵器片49点，灰釉陶器片4点，鉄製品2点，瓦片2点が出土している。第170図1の土師器椀，3の土師器高台付椀，10・11の土師器小皿は南西部の覆土下層から出土している。2の土師器

椀は中央部の覆土中層から，６の土師器高台付椀は中央部の床面から出土している。４の土師器高台付椀は中央部南側の覆土下層から，13の丸瓦は中央部南側の覆土下層から出土している。５の土師器高台付椀は北西部の床面から，９・12の土師器小皿は北西部の覆土下層から出土している。７の土師器小皿は，南西コーナー部の床面から出土している。８の土師器小皿は，中央部北側の覆土中層から出土している。14の刀子は，中央部東側の床面から出土している。

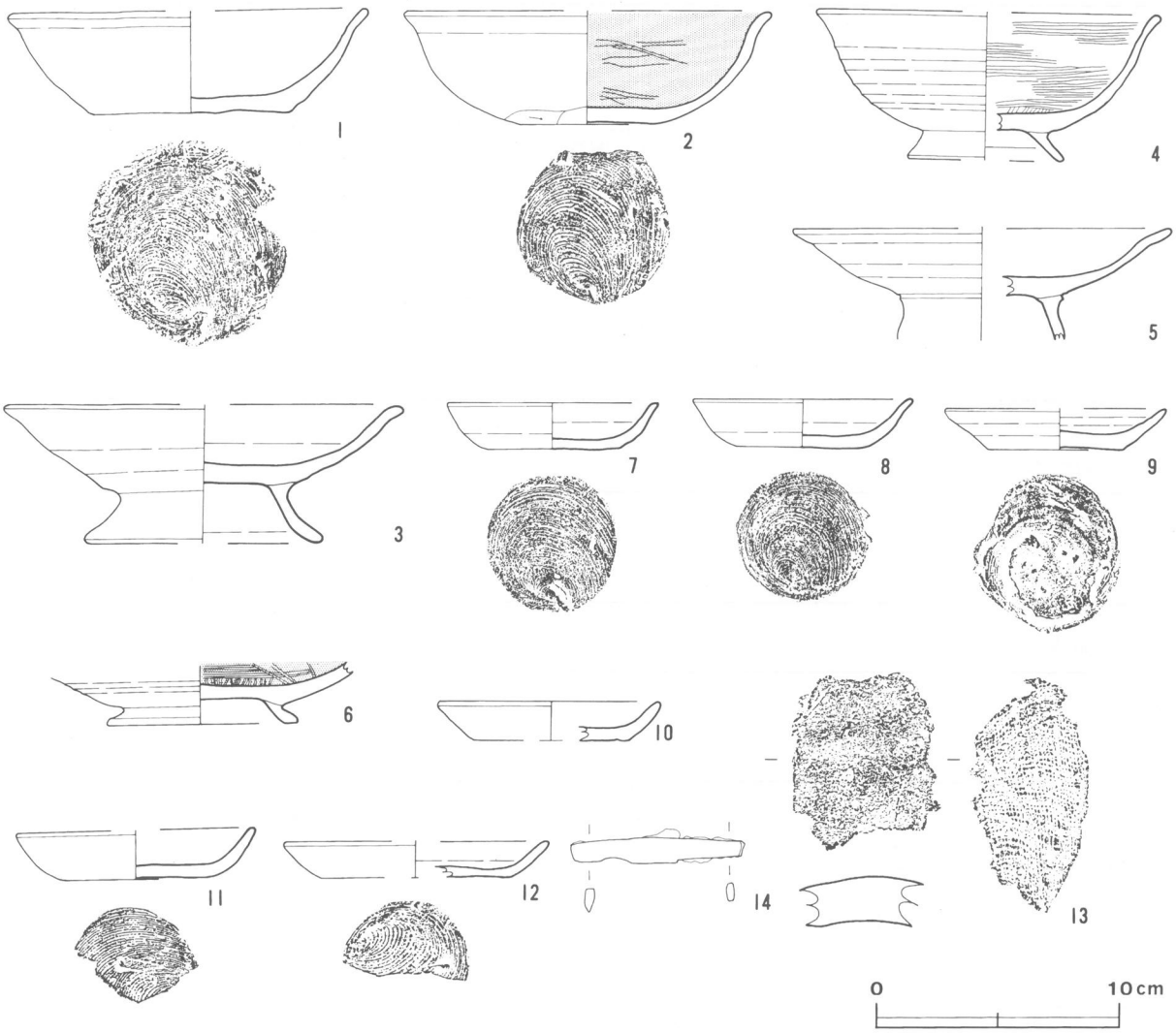
所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀後半以降と考えられる。



第169図　第89A・B号住居跡

第89A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 1	椀 土師器	A［14.8］ B　4.2 C　8.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・黒色粒 にぶい橙色 普通	P679 南西部覆土下層　60%
2	椀 土師器	A［15.2］ B　4.7 C　5.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P680 中央部覆土中層　20%



第170図　第89A号住居跡出土遺物

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第170図 3	高台付椀 土師器	A [16.5] B 5.7 D [9.8] E 2.4	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部は長くハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	石英・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P683　40% 南西部覆土下層
4	高台付椀 土師器	A [14.3] B 6.1 D [6.4] E 1.1	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。内面ヘラ磨き。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P684　20% 中央部南側覆土下層
5	高台付椀 土師器	A [15.6] B (4.6) E (1.8)	高台部から口縁部にかけての破片。体部は外傾しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部は長くハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P685　15% 北西部床面
6	高台付椀 土師器	B (2.3) D 7.8 E 0.8	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。台部は短くハの字状に開く。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。底部高台貼り付け後，ナデ。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P686　15% 中央部床面
7	小皿 土師器	A 8.9 B 1.9 C 5.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P687　100% 南西コーナー床面
8	小皿 土師器	A 9.1 B 2.0 C 5.4	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・パミス 橙色 普通	P688　60% 中央部北側覆土中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第170図 9	小　皿 土師器	A［9.2］ B　1.7 C　5.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P689　40% 北西コーナー覆土下層
10	小　皿 土師器	A　9.2 B　2.1 C［6.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P690　20% 南西部覆土下層
11	小　皿 土師器	A［9.6］ B　2.0 C　6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・黒色粒 にぶい橙色 普通	P691　45% 南西部覆土下層
12	小　皿 土師器	A［11.0］ B　1.5 C［8.0］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P692　30% 北西部覆土下層

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
13	丸　瓦	(8.5)	(5.8)	2.0	(125.4)	中央部南側覆土下層	T16　凹面布目痕　凸面ナデ調整　5%

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
14	刀　子	(6.9)	1.0	0.3～0.4	(7.8)	中央部東側床面	M73　50%

第89B号住居跡（第169図）

位置　調査E区中央部，E2b6区。

重複関係　第89A号住居跡，第1・2号溝跡，第8号井戸跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸（3.26m），短軸（2.82m）で長方形と推定される。

主軸方向　N－10°－E

壁　壁高は24cmで，外傾して立ち上がる。北壁は第1号溝跡に，南・西壁は第89A号住居跡に掘り込まれ不明である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　第1号溝跡に掘り込まれ，北東コーナー部を壁外へ掘り込んで付設されている痕跡を確認するのみである。規模は不明である。火床部は熱を受け赤変している。

覆土　第89A号住居跡に掘り込まれ，不明である。

遺物　土師器片3点が出土しているが，図示できるものはない。

所見　出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが，第89A号住居跡との重複関係から10世紀後半以前の平安時代と思われる。

第90号住居跡（第171図）

位置　調査E区中央部，E2e7区。

重複関係　第４号溝跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　南側が調査区域外に延びており，東西3.47m，南北（1.69m）で方形か長方形と推定される。

主軸方向　N－77°－E

壁　壁高は19cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

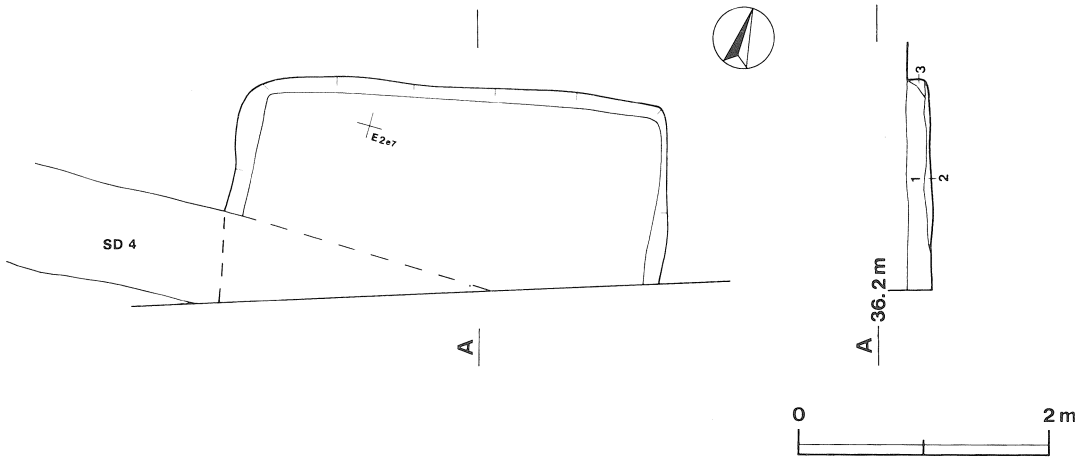
竈　調査区域内では確認できなかった。

覆土　３層からなり，自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　黒褐色　ローム粒子中量
3　暗褐色　ローム粒子中量

遺物　土師器片126点，須恵器片７点，含鉄滓１点（20ｇ）が出土している。図示できるものはない。

所見　出土遺物が細片であり時期を決定するのが難しいが，底部糸切りの土師器坏片や土師器小皿片が出土していることから10世紀以降の平安時代と思われる。含鉄滓は流れ込みと思われる。



第171図　第90号住居跡

第91号住居跡（第172図）

位置　調査E区中央部，D2i7区。

規模と平面形　北側の一部が調査区域外に延びており，長軸3.15m，短軸（3.09m）で方形か長方形と推定される。

主軸方向　N－90°－E

壁　掘り込みが浅く，床面だけを確認するだけで，壁高は測定不能である。

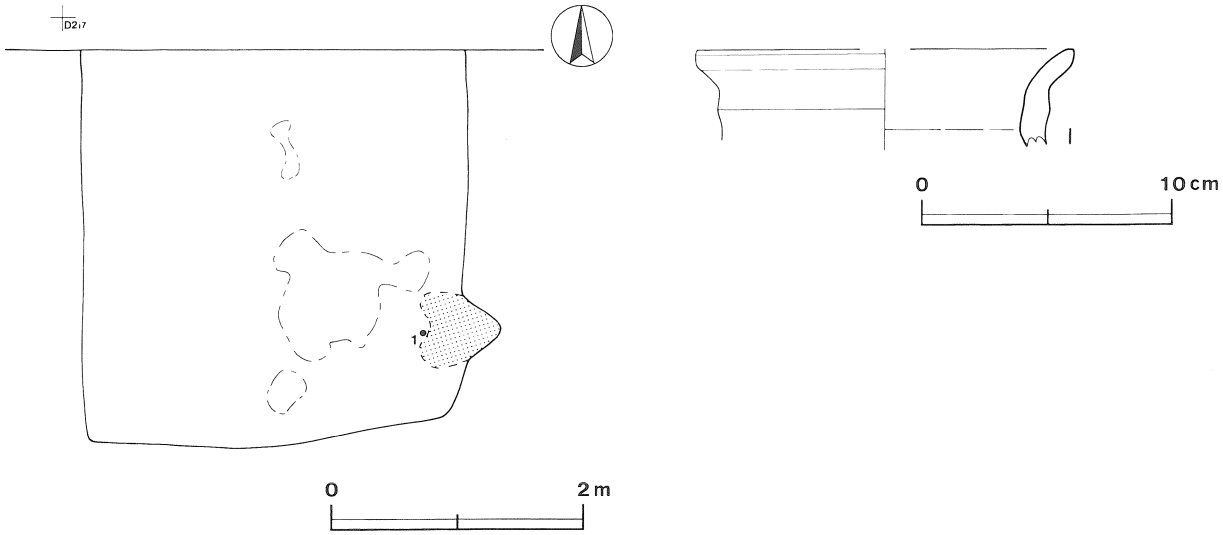
床　全体的に平坦で，一部踏み固められている。

竈　東壁中央南寄りに粘土と焼土が散在しており，竈の痕跡と思われる。

覆土　覆土は確認できなかった。

遺物　土師器片５点，羽口片１点が出土している。第172図1の土師器甕は竈付近から出土している。

所見　形状から平安時代と思われるが，出土遺物が少なく詳細な時期は不明である。羽口片は関連する遺構が認められないことから，本跡に伴うものではないと考えられる。



第172図　第91号住居跡・出土遺物

第91号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第172図 1	甕 土師器	A［15.2］ B（3.9）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・雲母 褐色 普通	P695　5% 竈付近

第92A号住居跡（第173図）

位置　調査E区中央部，D2i4区。

重複関係　第92B号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　北側が調査区域外に延びており，長軸（1.82m），短軸（1.03m）で，平面形は不明である。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。南・西壁は第92B号住居跡に掘り込まれ不明である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　東壁中央南寄りを壁外へ30cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ60cm両袖間の最大幅75cmである。袖部は，褐色粘土で構築されている。火床部は，長径35cm，短径15cmの楕円形に2cmほど掘りくぼめられ，熱を受け赤変している。煙道部は，火床部から傾斜して立ち上がる。

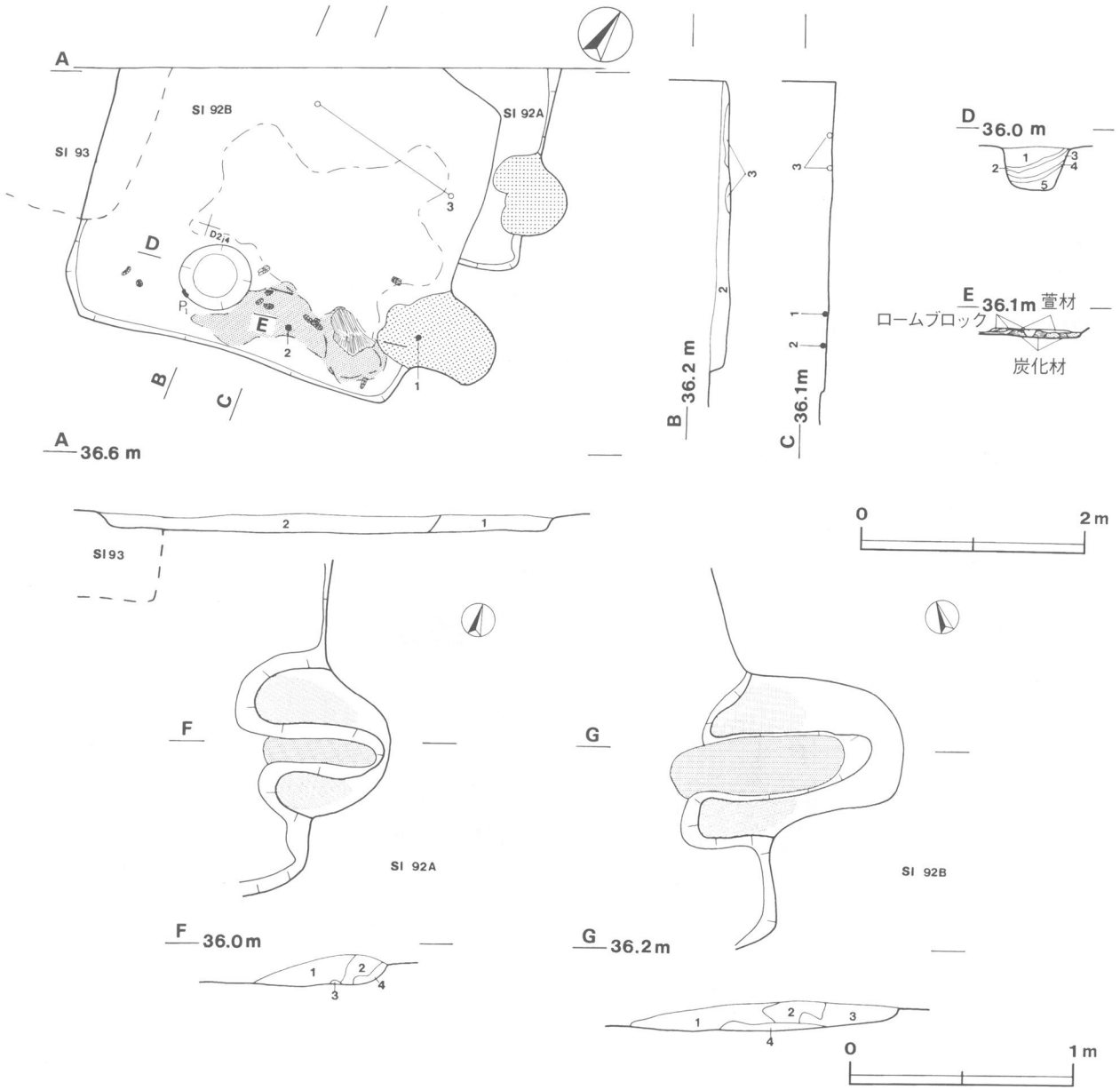
竈土層解説
1　黒褐色　焼土粒子微量
2　赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子多量，粘土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土粒子微量
4　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子微量

覆土　単一層であり，自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子微量

遺物　土師器片33点，須恵器片12点，灰釉陶器片3点が出土している。

所見　出土遺物が細片であり時期を決定するのが難しいが，重複関係から9世紀末以前の平安時代と思われる。



第173図　第92A・B号住居跡

第92B号住居跡（第173図）

位置　調査E区中央部，D2i4区。

重複関係　本跡が第92A・93号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。

規模と平面形　北側が調査区域外に延びており，長軸3.12m，短軸（2.96m）で，平面形は方形と思われる。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，竈から中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁中央南寄りを壁外へ70cmほど掘り込んで，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ105cm，両袖間の最大幅80cmである。袖部は，褐色粘土で構築されている。火床部は，長径60cm，短径25cm

の楕円形に5cmほど掘りくぼめられ，熱を受け赤変している。煙道部は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土大ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
4　黒 褐 色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，灰微量

ピット　P_1は径60cmの円形で，深さ40cmである。性格は不明である。

P_1土層解説

1　黒 褐 色　焼土粒子・炭化材中量
2　黒 褐 色　焼土粒子多量，炭化材少量
3　黒 褐 色　焼土粒子・炭化材微量
4　黒 褐 色　炭化材多量，焼土粒子少量
5　暗 褐 色　焼土粒子・炭化材少量

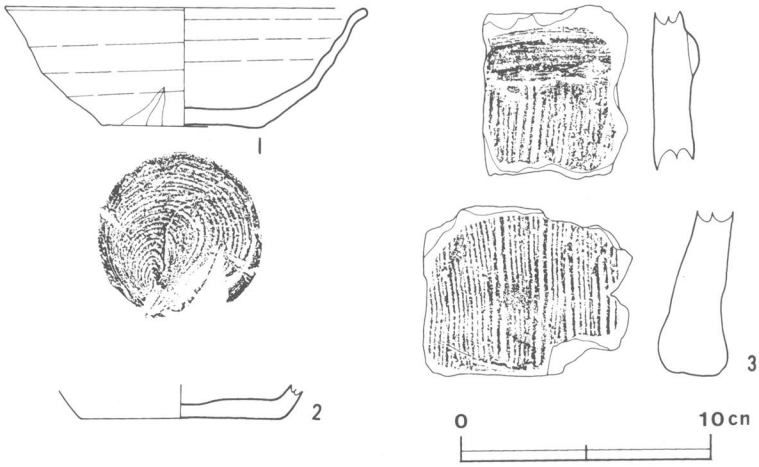
覆土　2層であり，自然堆積である。

土層解説

2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子多量，ローム粒子微量

遺物　土師器片15点，須恵器片6点，瓦片1点，炭化材13点，埴輪片3点が出土している。第174図1の土師器椀は竈右袖内から正位で出土している。2の須恵器坏は南壁付近の床面から出土している。3の円筒埴輪は，中央部北側の覆土下層から出土しているが，流れ込みと思われる。

所見　出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが，9世紀末から10世紀初頭と思われる。南壁近くの床面に焼土と共に長さ3～9cm，径2～7cmの炭化材が中央を向いて遺存し，その上に炭化した萱も出土しているから，本跡は焼失家屋と考えられる。



第174図　第92B号住居跡出土遺物

第92B号住居跡出土遺物観察表

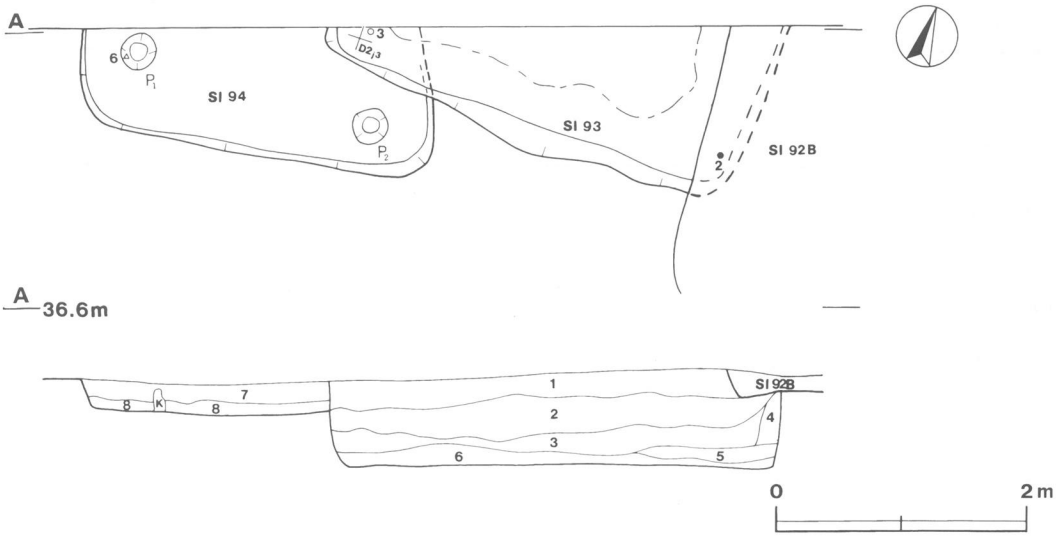
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第174図 1	椀 土師器	A　14.5 B　4.6 C　6.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。底部ヘラ当て痕。	砂粒・雲母・パミス にぶい橙色 普通	P696　95% 竈内
2	坏 須恵器	B（1.3） C［8.0］	底部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・パミス にぶい橙色 普通	P698　10% 南壁付近床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	形態・調整技法等の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
3	円筒埴輪	器高(13.6)	外面タテハケ後凸帯貼り付け，内面ヘラナデ。凸帯は低い台形。刷毛目2cm内に7本。	砂粒・スコリア 橙色 普通	DP85　5% 中央部北側覆土下層

第93号住居跡（第175図）

位置　調査E区中央部，D2i3区。

重複関係　本跡が第94号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第92B号住居跡が本跡を掘り込



第175図　第93・94号住居跡

んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　北側が調査区域外に延びており，長軸3.47m，短軸（1.42m）で，平面形は方形か長方形と推定される。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は60cmで，外傾して立ち上がる。

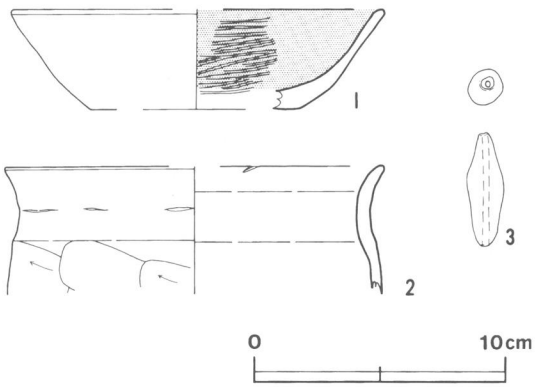
床　全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　調査区域内では確認できなかった。

覆土　6層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム粒子微量
5　褐　色　ローム中・小ブロック多量，ローム粒子中量
6　褐　色　ローム粒子少量



第176図　第93号住居跡出土遺物

遺物　土師器片40点，須恵器片5点，土製品1点が出土している。第176図1の土師器坏は，中央部の覆土中層から出土している。2の土師器甕は，南東コーナー部の床面から出土している。3の管状土錘は，南西コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが，9世紀後葉と思われる。

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第176図 1	坏 土師器	A［15.0］ B　4.0 C［ 8.3］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部ヘラ当て痕。内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	砂粒・石英・雲母 明褐色 普通	P699　5% 中央部覆土中層
2	甕 土師器	A［15.1］ B（ 5.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部はコの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。口縁部外面輪積み痕。	石英・長石 にぶい褐色 普通	P700　10% 南東コーナー床面

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
3	管状土錘	4.0	1.4	0.2	7.3	南西コーナー覆土下層	DP86　100%

第94号住居跡（第175図）

位置　調査E区中央部，D2j2区。

重複関係　第93号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　北側が調査区域外に延びており，東西2.70m，南北（1.17m）で，平面形は方形か長方形と推定される。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は24cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　調査区域内では確認できなかった。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は径25cmの円形で，深さ25cmである。P_2は径30cmの円形で，深さ30cmである。いずれも主柱穴と思われる。

覆土　2層からなり，自然堆積である。

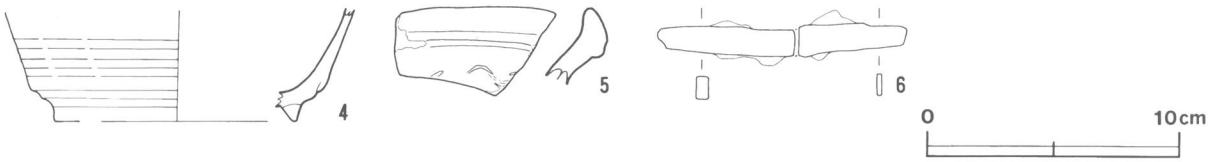
土層解説

7　暗褐色　焼土粒子・ローム粒子微量

8　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片19点，須恵器片11点，鉄製品1点が出土している。第177図4の須恵器高台付坏と，5の須恵器甕は中央部の覆土中層から出土している。6の刀子は，南西部の床面に垂直に突き刺さるように出土している。

所見　出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが，重複関係から9世紀後葉以前の平安時代と思われる。



第177図　第94号住居跡出土遺物

第94号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第177図 4	高台付杯 須恵器	B（4.4） D［9.7］ E　0.6	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・パミス にぶい黄橙色 普通	P701　10% 中央部覆土中層
5	甕 須恵器	B　3.3	口縁部片。口縁端部は断面三角形を呈している。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面に波状文を有する。	砂粒・雲母・黒色粒 にぶい橙色 普通	P203　5% 中央部覆土中層

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	刀　子	(10.0)	0.8	0.5	(13.3)	南西部床面	M74　70%

第98号住居跡（第179図）

位置　調査E区中央部，E2a3区。

重複関係　本跡が第95号住居跡と第314号土坑を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第１号溝跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.15m，短軸3.13mの不整方形である。

主軸方向　N－6°－W

壁　壁高は23cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ45cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ95cm，両袖間の最大幅115cmである。袖部は灰白色粘土で構築されている。土師器甕片が袖部の補強材として使用されている。火床部は長径50cm，短径30cmの楕円形に５cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて硬化している。煙道部は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　粘土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子微量
3　黒　褐　色　炭化材･炭化粒子中量

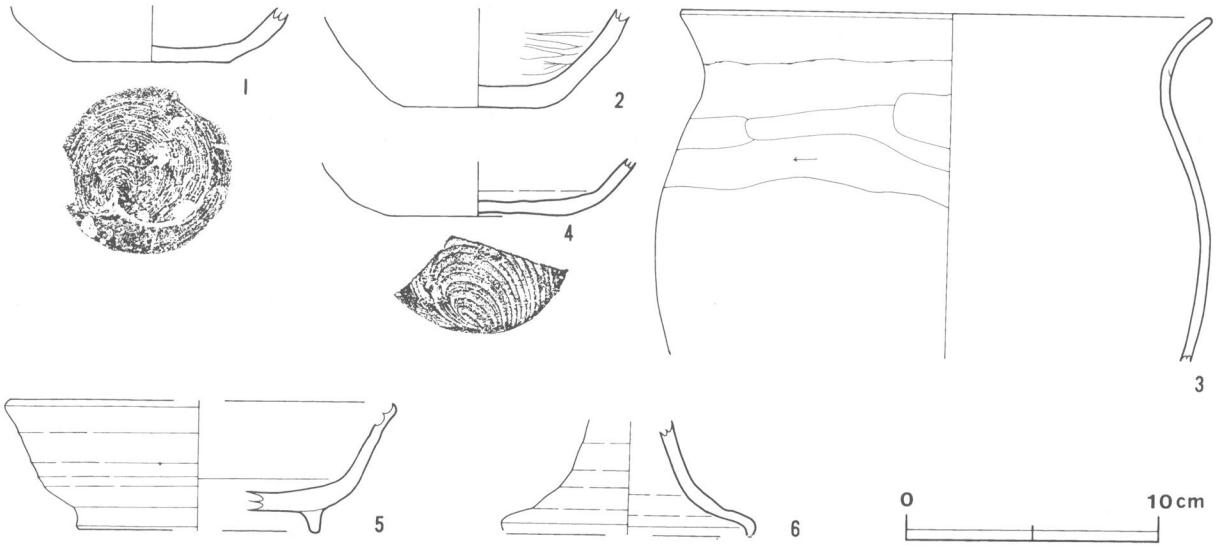
覆土　４層からなり，自然堆積である。

土層解説

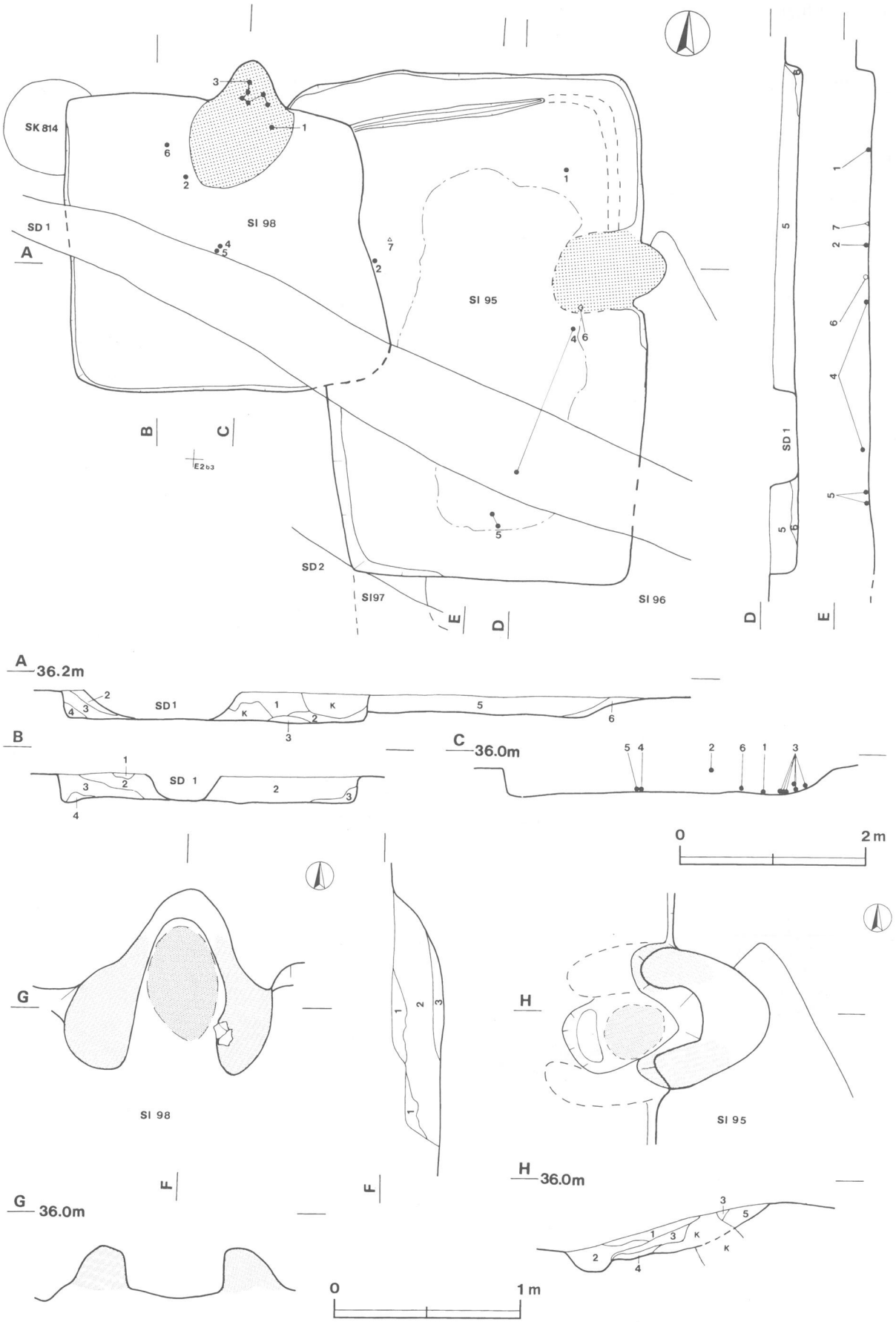
1　暗 褐 色　ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，白色微粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量

遺物　土師器片76点，須恵器片58点が出土している。第178図１の土師器坏，３の土師器甕は竈内の覆土中から出土している。２の土師器坏は竈前面の覆土中層から，６の須恵器高坏は北西部の床面から出土している。４の須恵器坏，５の須恵器高台付坏は中央部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物と第95号住居跡との重複関係から９世紀後葉と思われる。４の須恵器坏は栃木県佐野市･岩舟町の三毳山窯産である。



第178図　第98号住居跡出土遺物



第179図　第98・95号住居跡

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第178図 1	坏 土師器	B（2.3） C　6.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P726　10% 竈袖内
2	坏 土師器	B（4.1） C　5.7	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部外面摩滅。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 橙色 普通	P727　5% 竈前面覆土中層
3	甕 土師器	A　12.2 B　3.4 C［5.6］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。輪積み痕。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P728　10% 竈内
4	坏 須恵器	B（2.3） C［7.2］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P729　5% 中央部床面 三蟲山麓窯産
5	高台付坏 須恵器	A［15.6］ B　5.2 D［9.8］ E　0.8	高台部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。台部はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・長石 灰色 普通	P730　20% 中央部床面
6	高　坏 須恵器	D［10.1］ E（4.7）	脚部片。脚部はハの字状に開き，端部は下方につまみ出されている。	脚部横ナデ。	砂粒・黒色粒 灰白色 普通	P732　5% 北西部床面

第95号住居跡（第179図）

位置　調査E区中央部，E2a3区。

重複関係　本跡が第96・97号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第98号住居跡，第1号溝跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.40m，短軸3.47mの長方形である。

主軸方向　N－82°－E

壁　壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

床　全体的に平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈　東壁中央部を壁外へ55cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ110cm，両袖間の最大幅80cmである。袖部は，褐色の砂質粘土で構築されている。火床部は，長径35cm，短径30cmの楕円形に5cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。火床部の手前に幅32cm，深さ10cmの灰床と思われる落ち込みが見られる。煙道部は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土大ブロック・焼土粒子・炭化材少量
2　暗赤褐色　炭化粒子・灰中量，焼土大ブロック・焼土粒子少量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土大ブロック少量
4　赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック少量

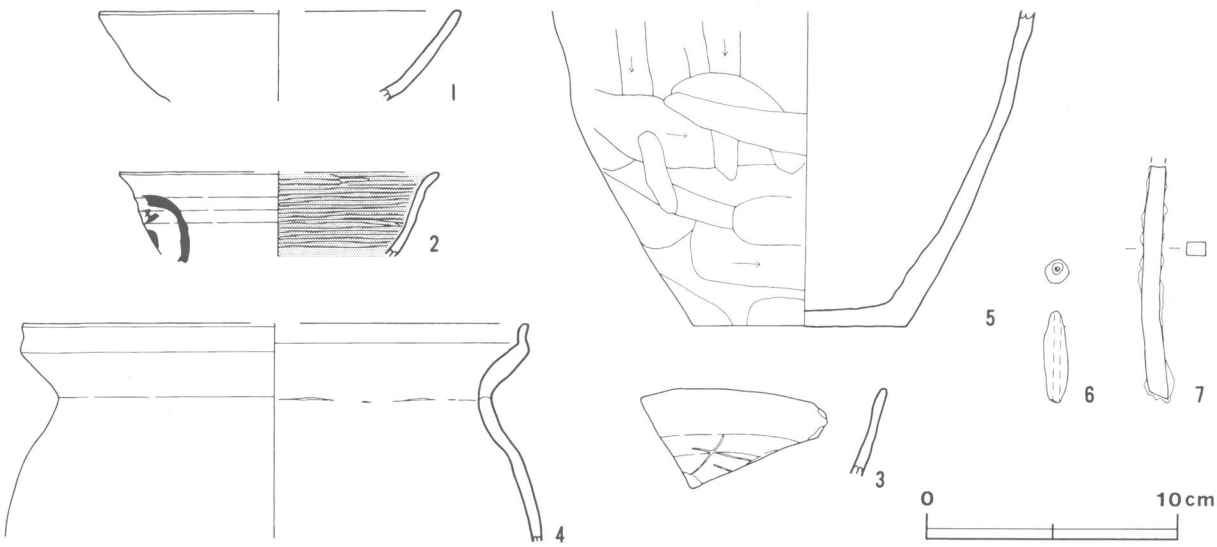
覆土　2層からなり，自然堆積である。

土層解説

5　暗褐色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子微量

遺物　土師器片88点，須恵器片37点，鉄製品2点，土製品1点が出土している。第180図1の土師器坏は北東コーナー部の床面から出土している。2の土師器坏と7の鉄釘は中央部の，4の土師器甕と6の管状土錘は竈前面の，5の土師器甕は南壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。3の土師器坏は竈内の覆土中から出土している。

所見　本跡は，出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが，第98号住居跡との重複関係から9世紀中葉と思われる。



第180図　第95号住居跡出土遺物

第95号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第180図 1	坏 土師器	A［14.6］ B（3.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	長石 にぶい黄橙色 普通	P702　10% 北東コーナー床面
2	坏 土師器	A［12.8］ B（3.4）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英・長石 橙色 普通	P703　10% 中央部覆土下層 体部外面墨書
3	坏 土師器	B（3.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P704　5% 竈内 体部外面線刻
4	甕 土師器	A［20.2］ B（8.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。端部は上方につまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面ナデ。体部内面輪積み痕。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P706　5% 竈前覆土下層
5	甕 土師器	B（12.5） C　8.5	底部から体部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面中位縦位のヘラ削り，下位横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P708　20% 南壁付近覆土下層

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
6	管状土錘	3.6	1.0	0.3	2.7	竈前覆土下層	DP87　100%

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	鉄　釘	（9.2）	0.8	0.5	（14.7）	中央部覆土下層	M75　70%

第96号住居跡（第181図）

位置　調査E区中央部，E2b4区。

重複関係　本跡が第97号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第95号住居跡，第１・２号溝跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.26m，短軸3.28mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は55cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～25cm，下幅３～５cmで深さ３cmである。北東コーナー部を除いて巡っている。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

竈　北壁中央部を壁外へ100cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ165cm，両袖間の最大幅150cmである。袖部は，褐色粘土で構築されている。土師器甕片が袖部の補強材として使用されている。火床部は，径80cmの円形に５cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　暗褐色　粘土中・小ブロック・粘土粒子中量
2　褐　色　褐色粘土大・中・小ブロック・粘土粒子多量
3　暗褐色　焼土小ブロック少量
4　灰褐色　粘土小ブロック・粘土粒子・灰中量，焼土粒子少量
5　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量

ピット　２か所（P_1・P_2）。P_1は長径25cm，短径20cmの楕円形で，深さ20cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。P_2は径25cmの円形で，深さ５cmである。底径20cmで平坦であることから土器を設置したピットと思われる。

覆土　３層からなり，自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量

遺物　土師器片588点，須恵器片201点，鉄製品６点，土製品２点，鉄滓２点が出土している。第182図１・２の土師器坏，11の須恵器甕，13の須恵器双耳坏，15・17鉄鎌は中央部の覆土中層から出土している。３の土師器高台付坏は竈前面の覆土中層から出土している。４の土師器甕は竈左袖の内側から，６の土師器甕，12の須恵器甑は竈右袖の内側から出土している。ともに補強材として使用されている。５の土師器甕は竈左袖上から出土している。７の土師器甕は，竈前面の覆土下層から出土している。８の須恵器坏は北東コーナー部の覆土下層から横位で，10の須恵器甕は北東コーナー部の床面から出土している。９の須恵器坏，16の鉄鎌は，竈内の覆土中から出土している。14の土製紡錘車は北西部の床面から，18の不明鉄製品はP_2の覆土中から出土している。鉄滓は竈内から出土し，流動滓1点（25ｇ），含鉄滓１点（25ｇ）である。いずれも流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀中葉と考えられる。８・９の須恵器坏は三和町の三和窯産である。

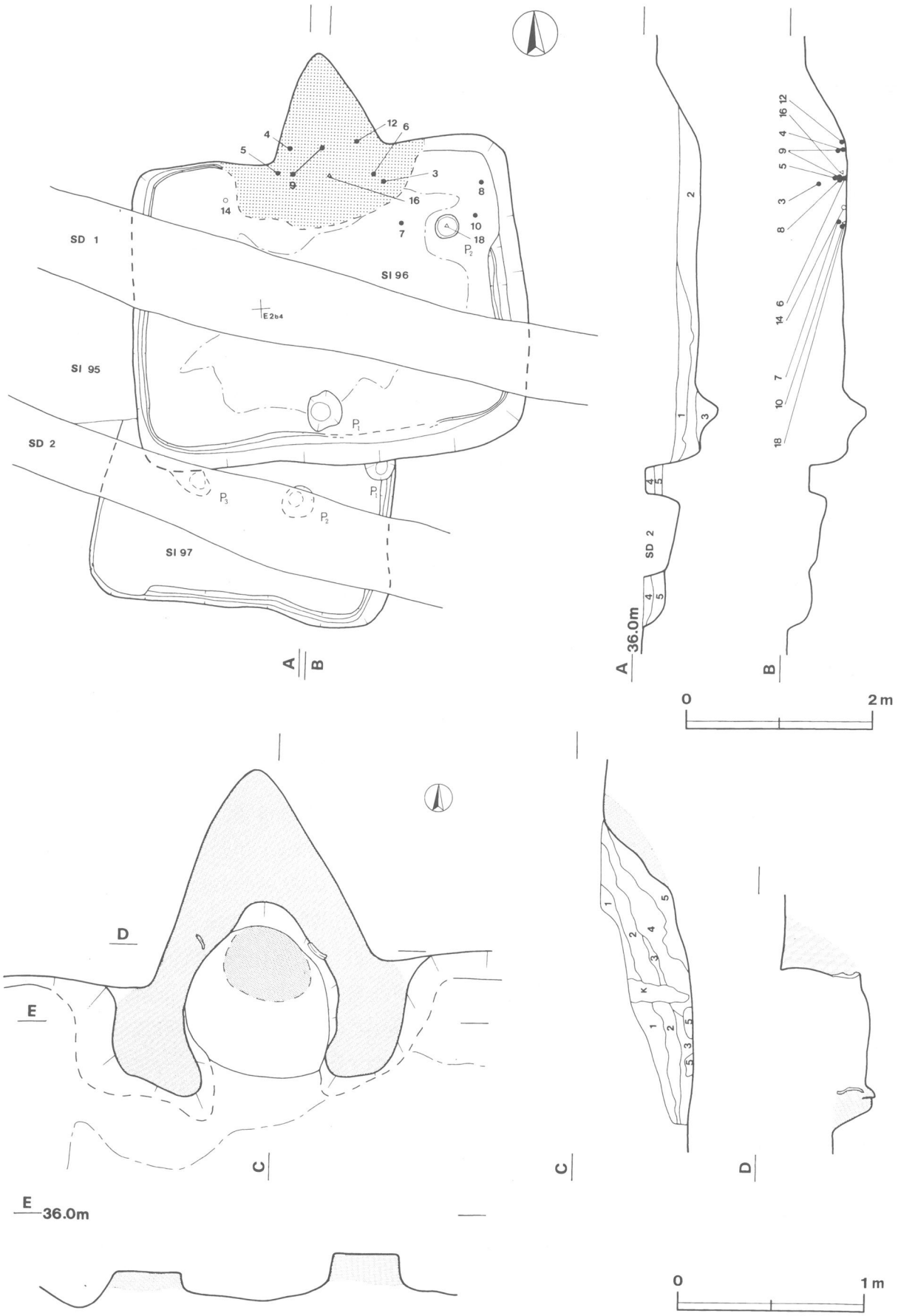
第97号住居跡（第181図）

位置　調査E区中央部，E2b4区。

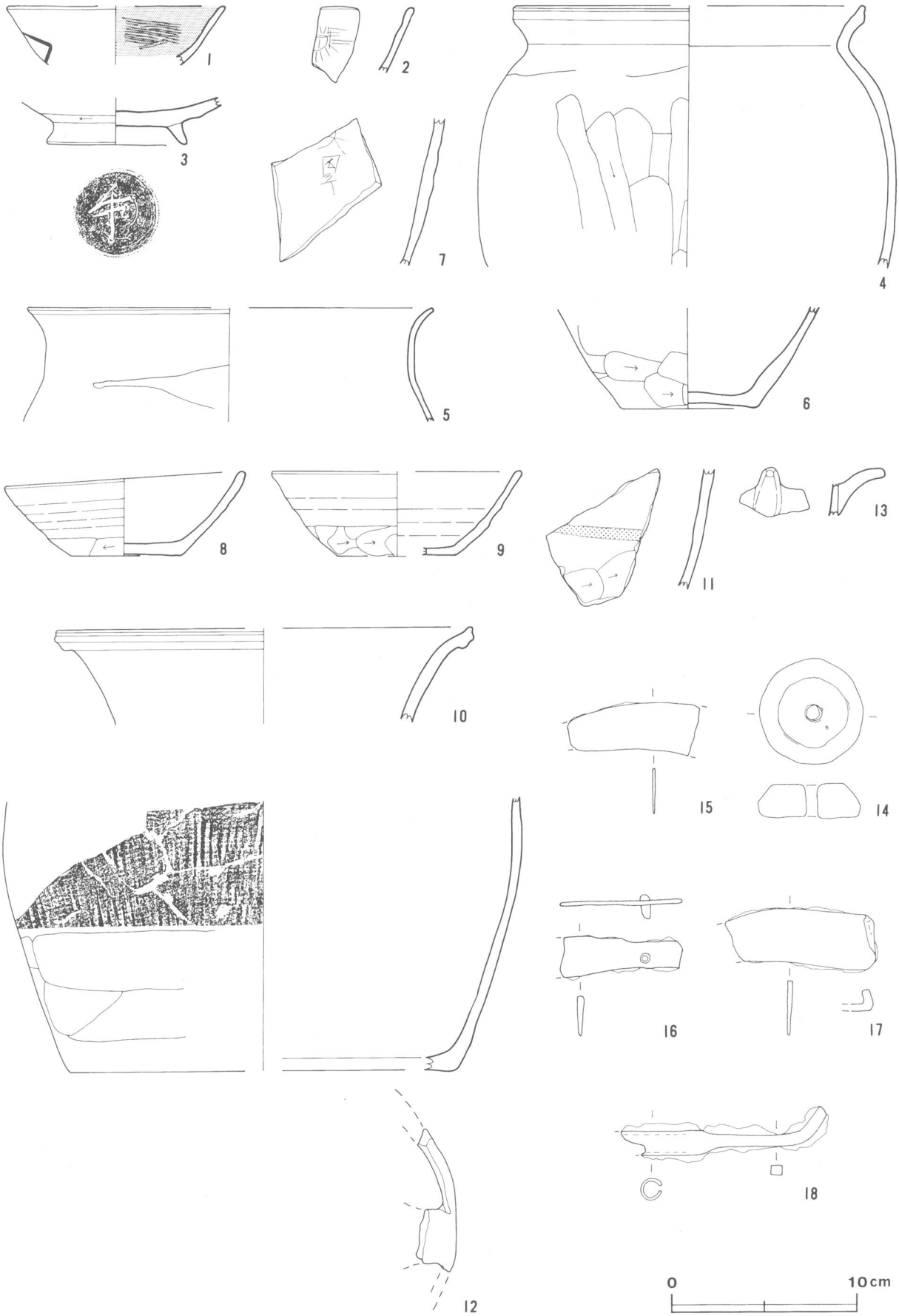
重複関係　第95・96号住居跡，第2号溝跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　東西3.05m，南北（1.96m）で，方形か長方形と推定される。

主軸方向　N－13°－E



第181図　第96・97号住居跡



第182図　第96号住居跡出土遺物

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第182図 1	坏 土師器	A［11.8］ B（3.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母 にぶい黄橙色 普通	P711　5% 中央部覆土中層 体部外面墨書
2	坏 土師器	B（3.5）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・パミス にぶい褐色 普通	P712　5% 中央部覆土中層 体部外面線刻
3	高台付坏 土師器	B（2.5） D　7.5 E　1.2	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後，ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P714　20% 竈前覆土中層 底部外面「手」の刻書
4	甕 土師器	A［19.0］ B（14.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P715　15% 竈左袖内
5	甕 土師器	A［22.0］ B（6.1）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はコの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・黒色粒 橙色 普通	P716　5% 竈左袖上
6	甕 土師器	B（5.4） C　5.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P717　20% 竈右袖内
7	甕 土師器	B（7.7）	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P718　5% 竈前面覆土下層 体部内面線刻
8	坏 須恵器	A　13.0 B　4.6 C　5.9	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P710　100% 北東コーナー覆土下層 三和窯産
9	坏 須恵器	A［13.5］ B　4.5 C［6.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部中位から下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・長石 黄灰色 普通	P719　30% 竈内 三和窯産
10	甕 須恵器	A［22.7］ B（5.1）	口縁部片。口縁部は外傾し，端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P720　5% 北東コーナー床面
11	甕 須恵器	B（6.5）	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面上位縦位の平行叩き，下位横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・パミス 灰褐色 普通	P722　5% 中央部覆土中層 体部外面朱書
12	甑 須恵器	B（14.6） C［20.8］	底部から体部にかけての破片。多孔式。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面中位縦位の平行叩き，下位横位のヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P723　10% 竈右袖内
13	双耳坏 須恵器	B（2.6）	耳部片。体部から外反する。	体部内・外面ロクロナデ。耳部貼り付け。	砂粒・石英・パミス 褐灰色 普通	P724　5% 中央部覆土中層

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
14	紡錘車	5.6	1.8	0.8	70.8	北西部床面	DP88　100%

金属製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
15	鉄鎌	（7.2）	2.9	0.2	（12.4）	中央部覆土中層	M76　40%
16	鉄鎌	（6.6）	1.5	0.4	（15.1）	竈内	M77　40%

図版番号	種　別	計　測　値				出　土　地　点	備　　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
17	鉄　鎌	(8.2)	2.8	0.3	(29.5)	中央部覆土中層	M78　40%
18	不明鉄製品	(11.1)	1.2	1.2	(32.1)	P_2内覆土中	M79　40%

壁　壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。北側は第96号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝　上幅15～30cm，下幅３～７cmで深さ３cmである。東･南壁下で確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

ピット　３か所（P_1～P_3）。P_1は径30cmの円形で，深さ20cmである。P_2は径35cmの円形で，深さ25cmである。P_3は長径30cm，短径15cmの楕円形で，深さ13cmである。いずれも性格は不明である。

覆土　２層からなり，自然堆積である。

土層解説
4　暗 褐 色　ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片９点，須恵器片６点が出土しているが，図示するものはない。

所見　本跡は出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが，第96号住居跡との重複関係から９世紀中葉以前の平安時代と思われる。

第99A号住居跡（第183図）

位置　調査E区中央部，E2a2区。

重複関係　第99B・100号住居跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸2.98m，短軸2.54mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は39cmで，外傾して立ち上がる。第99B号住居跡が掘り込んでいるため東壁以外不明である。

壁溝　上幅10～15cm，下幅３～５cmで深さ３cmである。西・北壁下の一部で確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，踏み固められている。

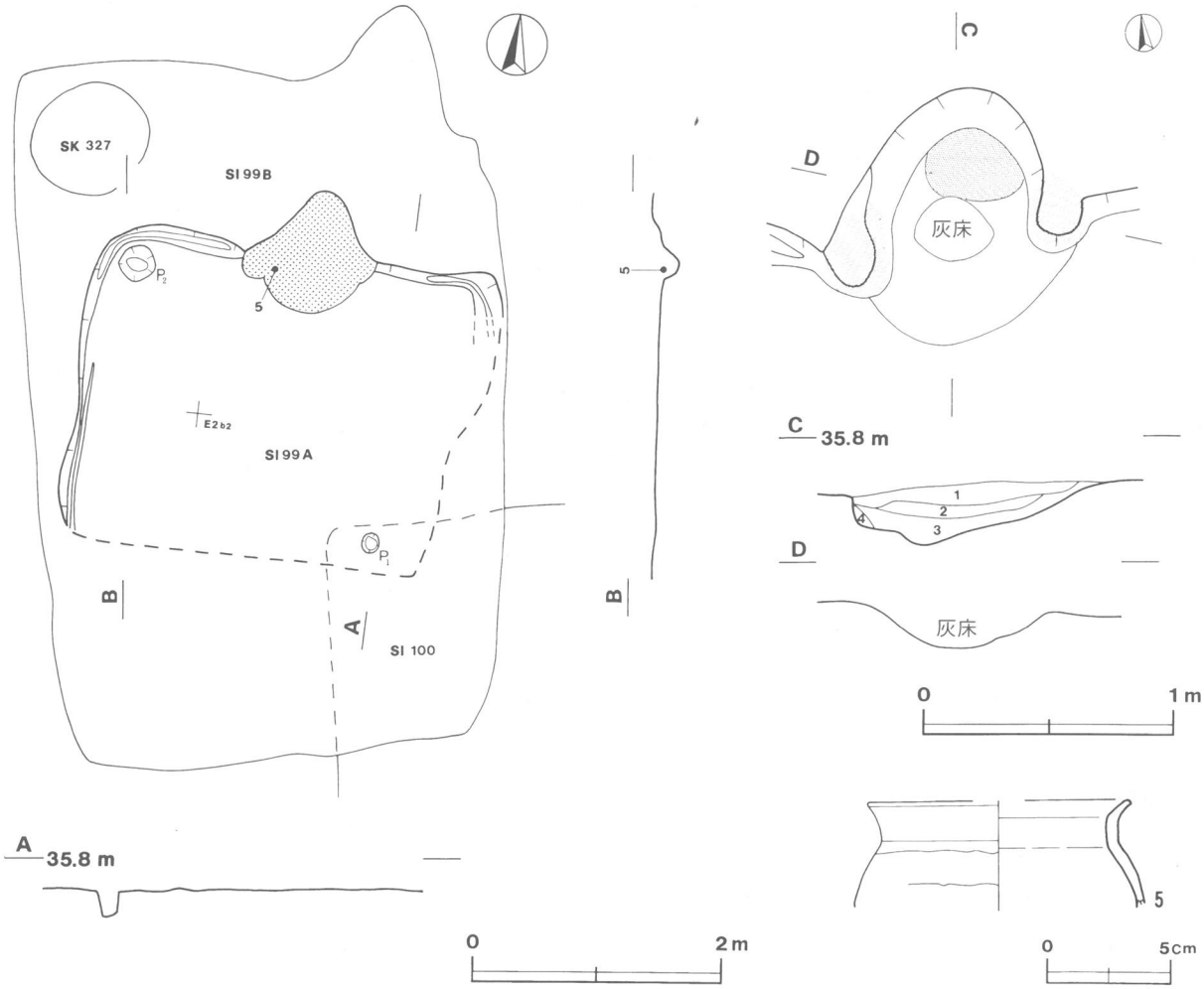
竈　第99B号住居跡の床下にあり，北壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ100cm，両袖間の最大幅110cmである。袖部は，褐色粘土で構築されている。土師器甕片が袖部の補強材として使用されている。火床部は長径55cm，短径40cmの楕円形に２cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて硬化している。火床部の前面に長径30cm，短径25cmの楕円形で深さ６cmの灰床と思われる落ち込みが検出されている。煙道部は，火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　にぶい赤褐色　粘土中・小ブロック・粘土粒子少量
2　暗 赤 褐 色　炭化粒子中量，褐色粘土小ブロック少量
3　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・粘土小ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　炭化粒子少量，焼土粒子微量

ピット　２か所（P_1・P_2）。P_1は径25cmの円形で，深さ20cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。P_2は径30cmの円形で，深さ15cmである。性格は不明である。

遺物　土師器片20点が出土している。第183図５の土師器小形甕は竈左袖部から出土している。

所見　本跡は，出土遺物が少なく時期を決定するのが難しいが，第99B号住居跡との重複関係から９世紀後葉以前の平安時代と思われる。



第183図　第99A号住居跡・出土遺物

第99A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第183図 5	小形甕 土師器	A［10.6］ B（4.2）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横位のヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P740　5% 竈内

第99B号住居跡（第184・185図）

位置　調査E区中央部，E2a1区。

重複関係　本跡が第99A・100号住居跡を掘り込んでいるため，本跡が新しい。また，第1・2号溝跡，第327号土坑が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.60m，短軸3.82mの隅丸長方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は30～40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　上幅15～30cm，下幅3～10cmで深さ3cmで全周する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，竈から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　北壁中央東寄りを壁外へ85cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ125

cm，両袖間の最大幅100cmである。袖部は，灰褐色粘土で構築されている。長さ25cm，幅10cmの円礫を袖部に埋設し補強材としている。火床部は長径40cm，短径25cmの楕円形に3cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。火床部奥に円礫を埋設し，支脚として使用している。煙道部は，火床部から垂直に立ち上がる。

竈土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量
2　黒褐色　灰褐色粘土中・小ブロック中量
3　褐　色　焼土小ブロック中量
4　赤褐色　焼土小ブロック中量

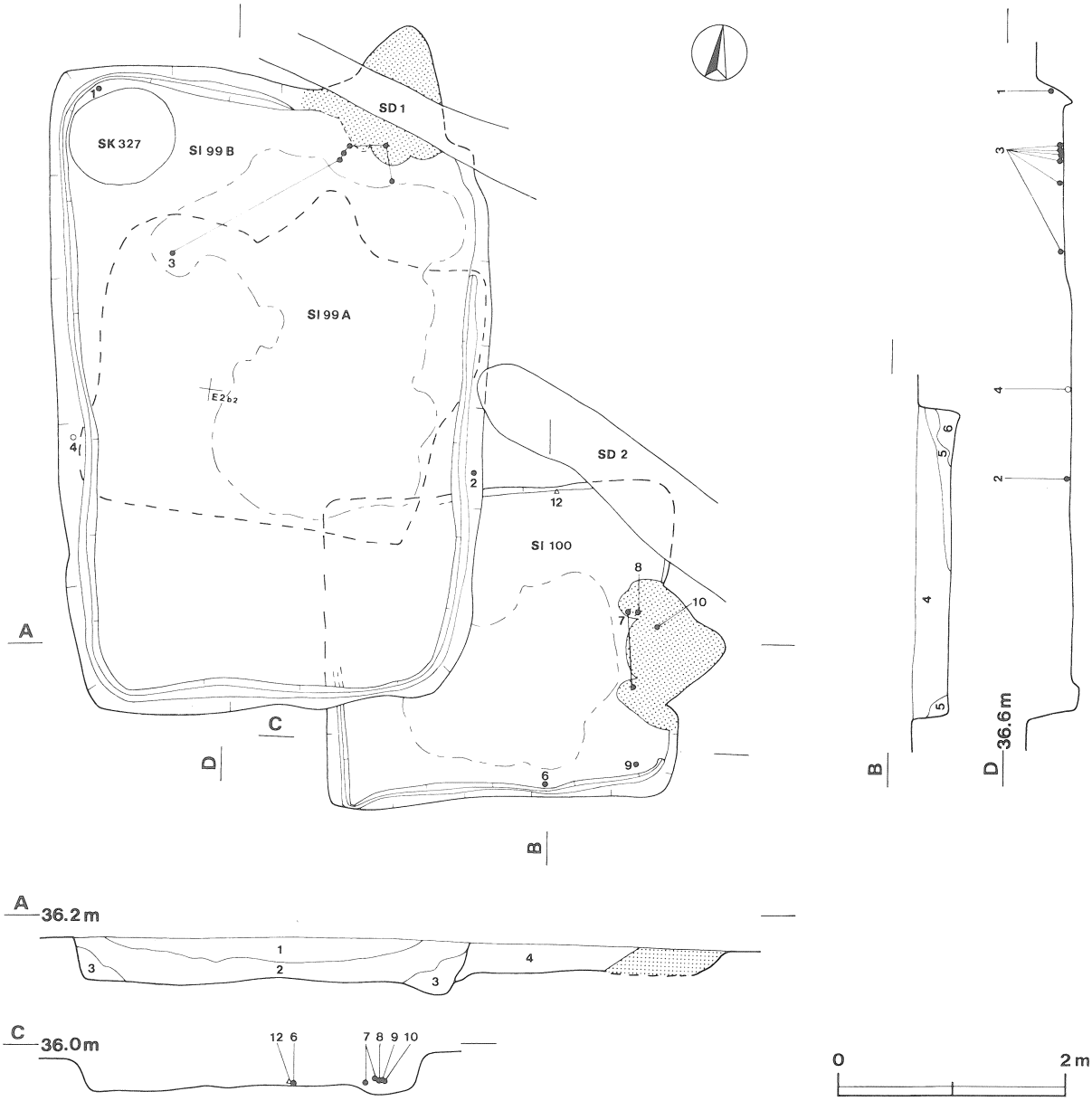
覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説

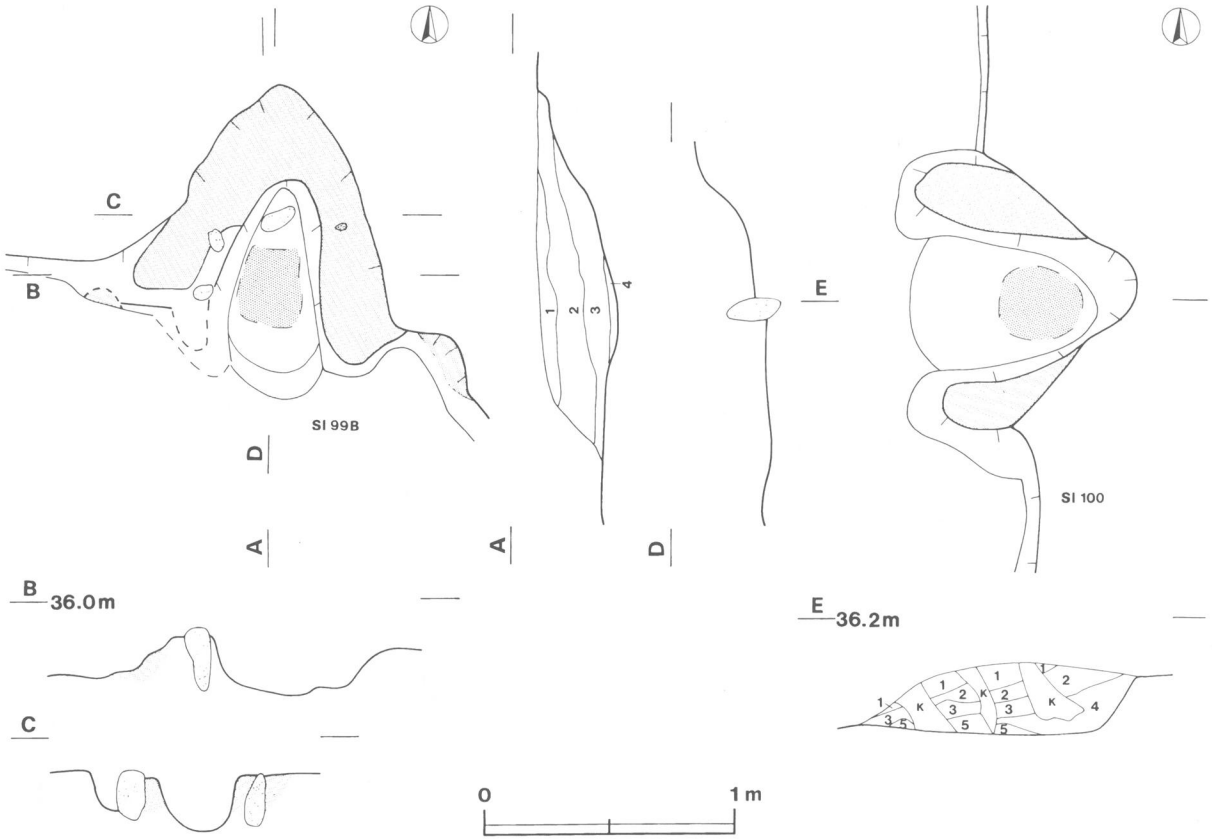
1　暗褐色　ローム粒子・白色微粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子少量

遺物　土師器片337点，須恵器片142点，灰釉陶器片2点，鉄製品2点，土製品1点が出土している。第186図1の土師器坏は北西コーナー部の覆土中層から出土している。2の土師器坏は東壁中央部の床面から出土している。3の土師器甕は竈内の覆土中から出土している。4の土製紡錘車は西壁中央部の覆土下層から出土している。

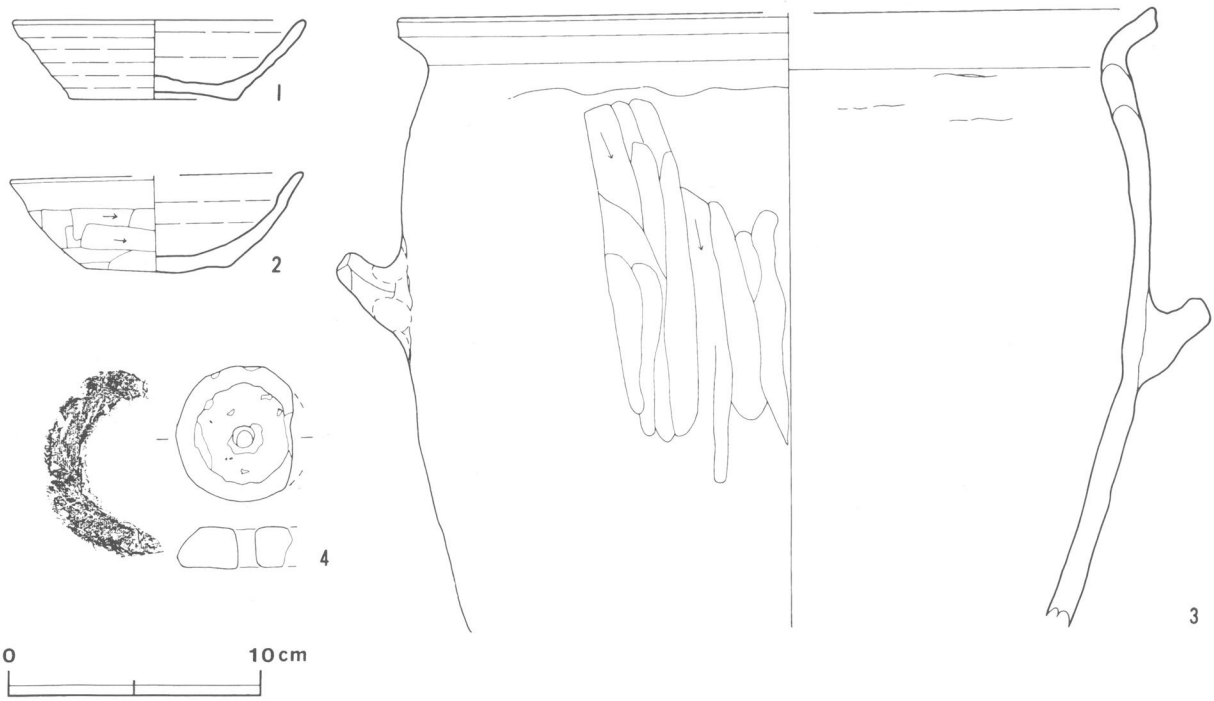
所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀後葉と考えられる。



第184図　第99B・100号住居跡



第185図　第99B・100号住居跡竈



第186図　第99B号住居跡出土遺物

第99B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 1	坏 土師器	A 11.7 B 3.2 C 6.7	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P733 80% 北西コーナー覆土中層
2	坏 土師器	A [11.6] B 3.9 C 5.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部中位から下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P734 60% 東壁中央床面
3	甕 土師器	A [30.4] B (24.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。体部中位に把手を有する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部上位縦位のヘラ削り，下端横位のヘラ削り。輪積み痕。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P741 30% 竈内

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
4	紡錘車	(4.6)	1.6	0.9	(45.2)	西壁中央覆土下層	DP89 70%

第100号住居跡（第184・185図）

位置　調査E区中央部，E2b2区。

重複関係　第99A・B号住居跡，第2号溝跡が本跡を掘り込んでいるため，本跡が古い。

規模と平面形　長軸3.05m，短軸2.70mの長方形である。

主軸方向　N－80°－E

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。北西部は第99B号住居跡に掘り込まれ不明である。

壁溝　上幅10～20cm，下幅3～5cmで深さ5cmで，南・西壁下で確認する。断面形はU字形である。

床　全体的に平坦で，竈から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈　東壁中央部を壁外へ50cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，両袖間の最大幅110cmである。袖部は，砂質の褐色粘土で構築されている。火床部は長径35cm，短径30cmの楕円形に3cmほど掘りくぼめられ，熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，火床部から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　粘土小ブロック・粘土粒子中量
3　にぶい赤褐色　焼土大ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
4　赤褐色　焼土粒子多量，炭化材・炭化粒子中量
5　暗赤褐色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子多量

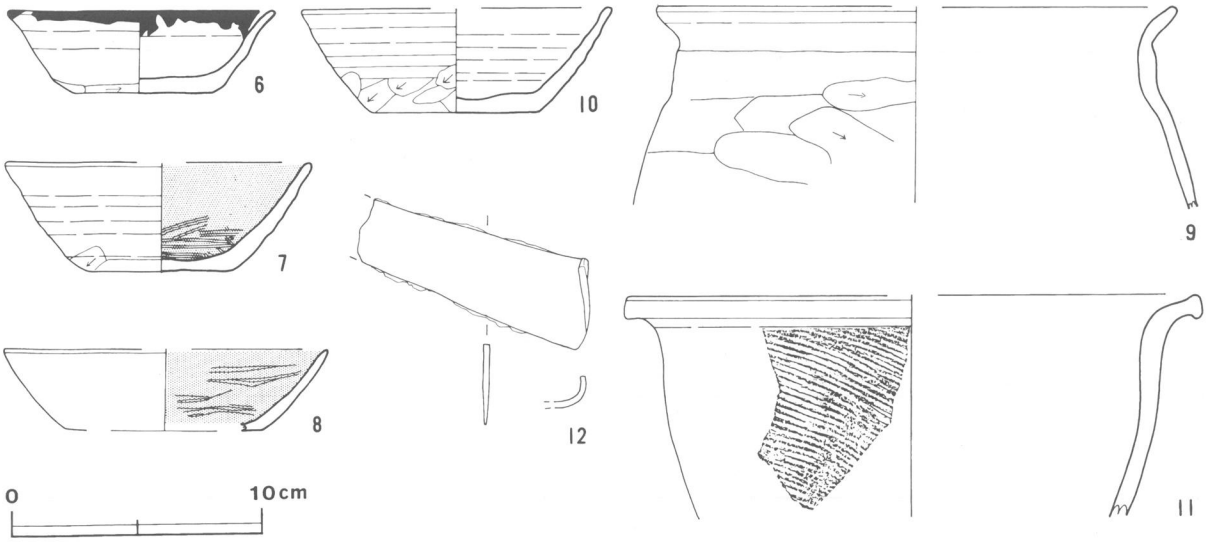
覆土　3層からなり，自然堆積である。

土層解説

4　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
5　黒褐色　ローム粒子少量
6　暗褐色　ローム粒子中量

遺物　土師器片77点，須恵器片17点，鉄製品1点が出土している。第187図6の土師器坏は，南壁中央部の床面から正位で出土している。7・8の土師器坏，10の須恵器坏は竈内の覆土中から出土している。9の土師器甕は南東コーナー部の床面から出土している。11の須恵器鉢は，南東部の覆土中層から出土している。12の鉄鎌は，北壁中央部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀中葉と考えられる。



第187図　第100号住居跡出土遺物

第100号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第187図 6	坏 土師器	A 10.6 B 3.3 C 5.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P743　95% 南壁中央床面 内・外面口縁部煤付着
7	坏 土師器	A [12.3] B 4.3 C 5.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母・パミス にぶい赤褐色 普通	P748　15% 竈内
8	坏 土師器	A [12.9] B 3.2 C [8.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部外面回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・雲母 橙色 普通	P749　10% 竈内
9	甕 土師器	A [20.8] B (7.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。頸部はくの字状を呈し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石・雲母 橙色 やや不良	P750　10% 南東コーナー床面
10	坏 須恵器	A [12.4] B 4.2 C [6.6]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P751　10% 竈内
11	鉢 須恵器	A [23.1] B (8.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位の平行叩き，内面縦位のナデ。	砂粒・石英・雲母 褐灰色 普通	P752　5% 南東部覆土中層

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	鉄　鎌	(9.8)	3.5	0.3	(34.1)	北壁中央床面	M80　70%

第101号住居跡（第188図）

位置　調査E区西部，E1a9区。

規模と平面形　長軸3.95m，短軸3.00mの長方形である。

主軸方向　N－73°－E

壁　壁高は73～90cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北部及び竈両袖部脇を除き巡っている。上幅16～20cm，下幅６～10cm，深さ８cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，北側半分が硬く踏み固められている。

竈　東壁やや北寄りを壁外に20cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ87cm，両袖間の最大幅105cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は，楕円形に５cmほど掘りくぼめられている。煙道部は火床部から急傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

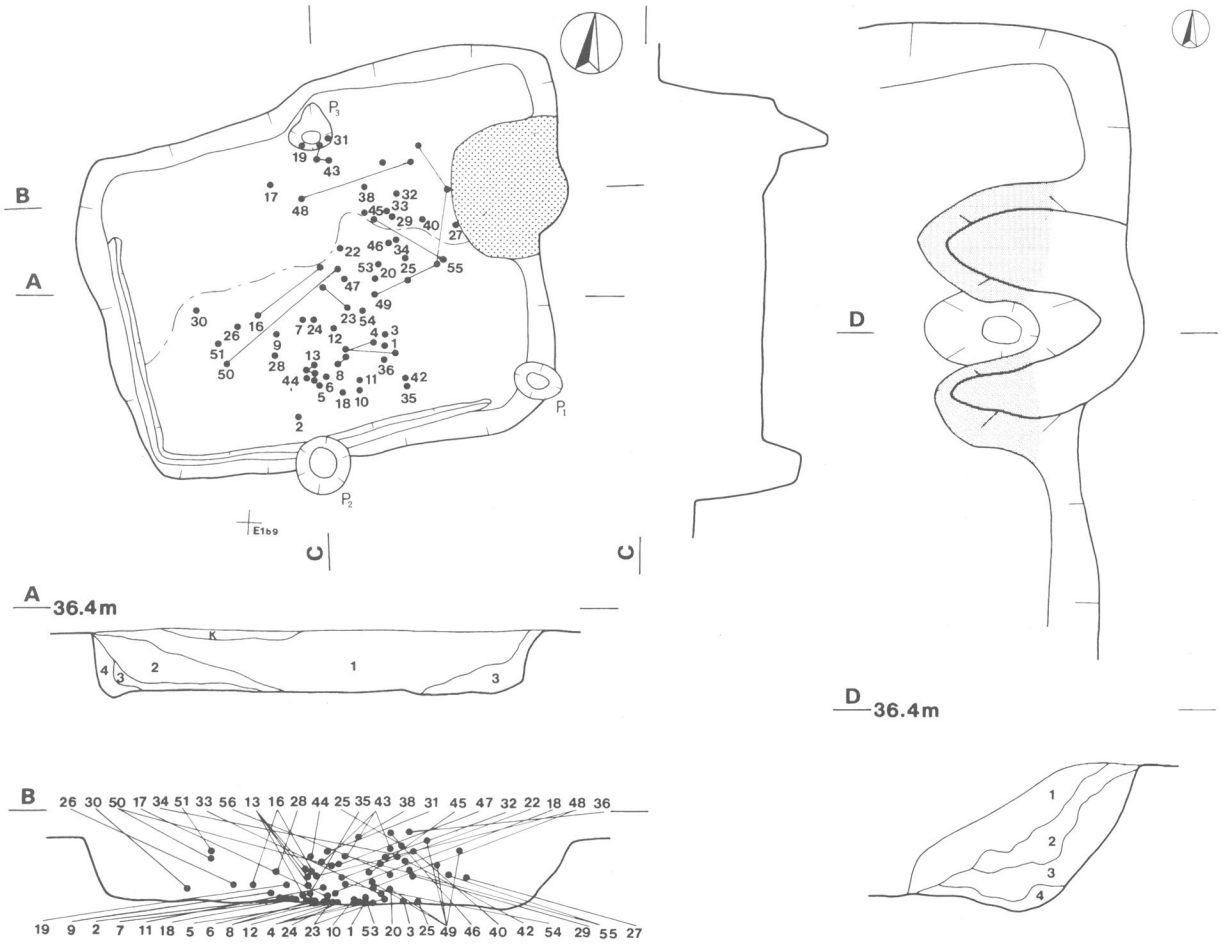
1　黒褐色　ローム・粘土粒子少量
2　暗褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量
3　暗褐色　粘土粒子多量，ローム粒子中量
4　黒　　色　焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量

覆土　４層からなる自然堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，黒褐色ブロック土少量
4　褐　　色　ローム粒子多量

遺物　中央部の床面から覆土上層にかけて多量の土師器片，須恵器片が出土している。第189図１～18は土師器坏で，１～８は床面から，９～16は覆土下層から，17は覆土中層から，18は覆土下層から出土している。19は土師器台付甕で，覆土中層から出土している。20～39は須恵器坏で，20～26・35は覆土下層から，27～34は覆土中層から，36～39は覆土上層から出土している。40～46は須恵器高台付坏で，40～45は覆土中層から，46は覆土上層から出土している。47は須恵器盤，48は須恵器蓋，49・50は須恵器鉢で，いずれも覆土中



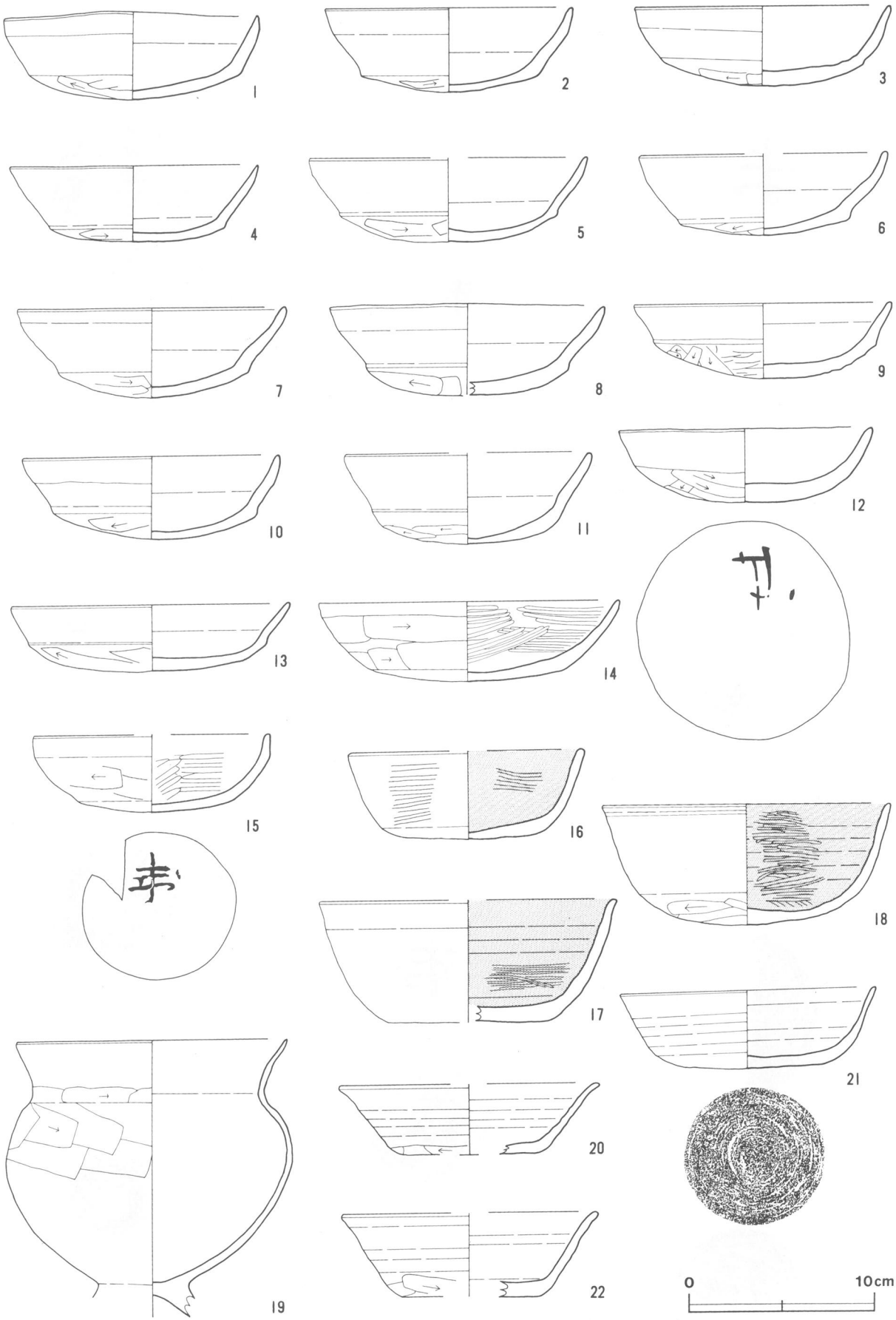
第188図　第101号住居跡

層から出土している。51・52は須恵器高坏で，51は覆土中層から，52は覆土上層から出土している。53～56は須恵器甕で，53・54は覆土下層から，55・56は覆土中層から出土している。

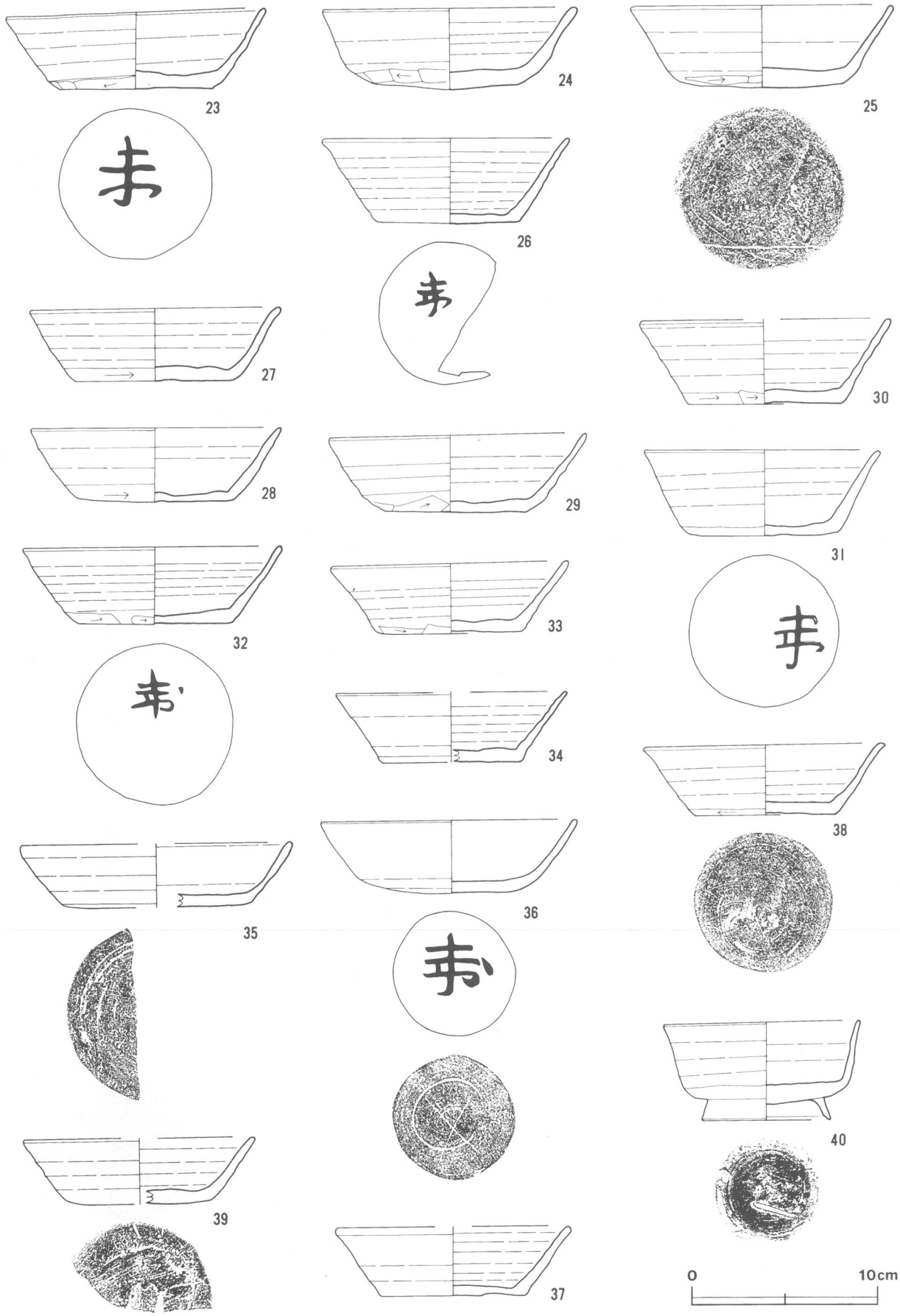
所見　床面から覆土中層にかけて多量の土器が集中して出土している。時期差は，およそ8世紀前葉から9世紀前葉と約100年ほどあるが床面から出土している遺物から，本跡の時期は，8世紀前葉と思われる。

第101号住居跡出土遺物観察表

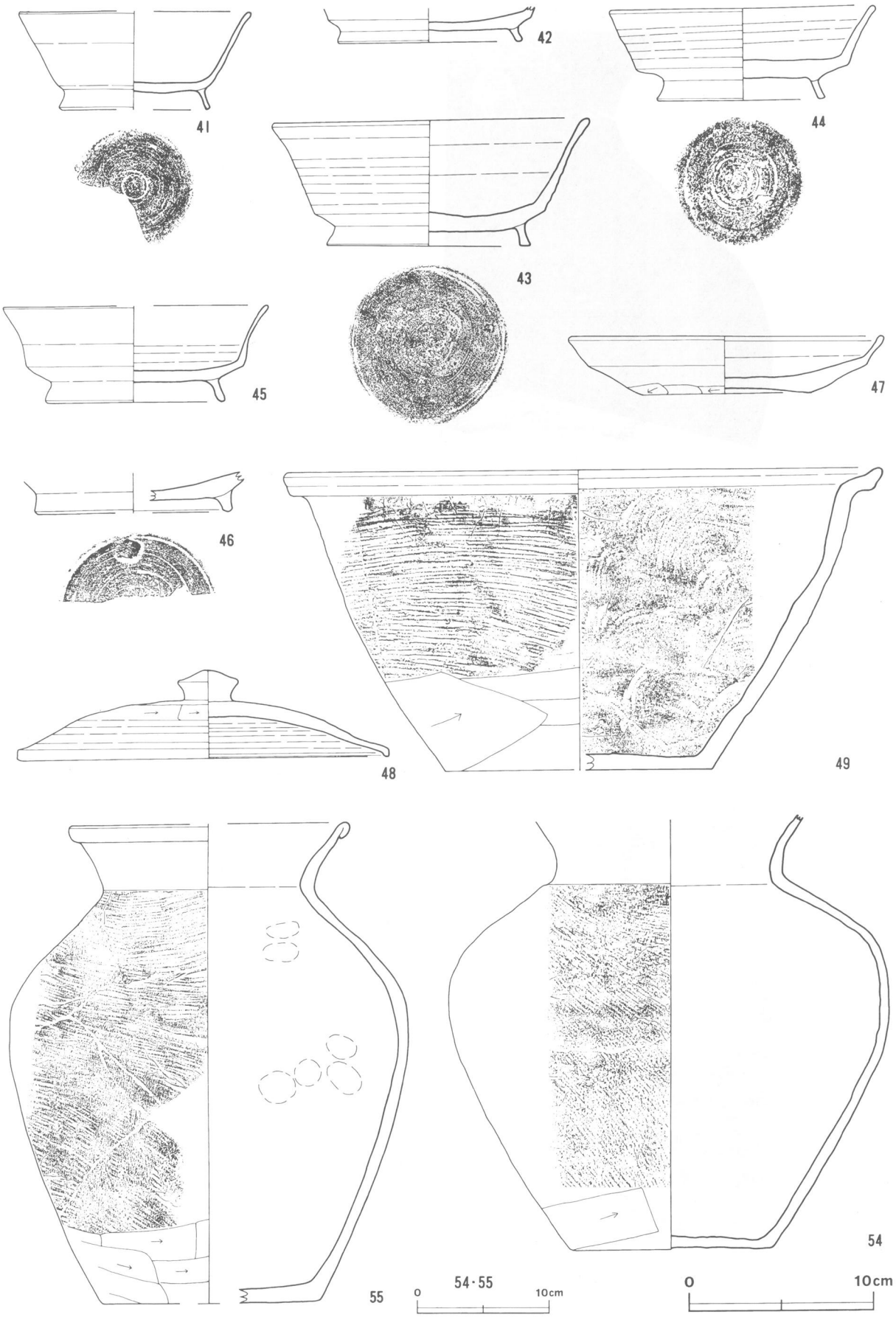
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第189図 1	坏 土師器	A 13.7 B 4.7	丸底。体部下位に稜を有し，体部は外傾しながら開き，口縁部は直立する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P742 90% 中央部床面
2	坏 土師器	A 13.4 B 4.6	丸底。体部下位に稜を有し，体部は外傾しながら開き，口縁部は内彎する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P744 90% 中央部床面
3	坏 土師器	A 13.8 B 4.4	丸底。体部下位に稜を有し，体部は外傾しながら開き，口縁部は内彎する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・長石・雲母 明赤褐色 普通	P745 60% 中央部床面
4	坏 土師器	A 13.5 B 4.2	丸底。体部下位に稜を有し，体部は外傾しながら開き，口縁部は内彎する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・雲母・スコリア 灰黄褐色 普通	P746 90% 中央部床面
5	坏 土師器	A [14.9] B 4.5	丸底。体部下位に稜を有し，体部は外傾しながら開き，口縁部は内彎する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・長石 灰褐色 普通	P753 40% 中央部床面
6	坏 土師器	A [13.4] B 4.4	丸底。体部下位に稜を有し，体部は外傾しながら開き，口縁部は内彎する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・雲母・スコリア 灰褐色 普通	P754 60% 中央部床面
7	坏 土師器	A 14.4 B 4.8	丸底。体部下位に稜を有し，体部は外傾しながら開き，口縁部は内彎する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・雲母・スコリア 褐灰色 普通	P755 90% 中央部床面
8	坏 土師器	A 14.8 B 4.9	丸底。体部下位に稜を有し，体部は外傾しながら開き，口縁部は内彎する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P756 70% 中央部床面
9	坏 土師器	A 13.9 B 4.1	丸底。体部下位に稜を有し，体部から口縁部にかけては，外傾しながら開く。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・長石・雲母 橙色 普通	P757 95% 中央部覆土下層
10	坏 土師器	A 14.0 B 4.5	丸底。体部下位に稜を有し，体部は外傾しながら開き，口縁部は内彎する。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P758 60% 中央部覆土下層
11	坏 土師器	A [13.4] B 4.9	丸底。体部下位に稜を有し，体部から口縁部にかけては，外傾しながら開く。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・長石・スコリア 橙色 普通	P759 70% 中央部覆土下層
12	坏 土師器	A 13.7 B 4.1	丸底。体部下位に稜を有し，体部から口縁部にかけては，外傾しながら開く。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・長石・スコリア 橙色 普通	P760 90% 中央部覆土下層 底部墨書
13	坏 土師器	A 15.0 B 3.6	丸底。体部下位に稜を有し，体部から口縁部にかけては，外傾しながら開く。	口縁部から体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英・長石・スコリア にぶい黄橙色 普通	P761 100% 中央部覆土下層
14	坏 土師器	A 16.2 B 4.4	丸底。体部は外傾しながら開き，口縁部は直立する。	口縁部外面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	長石・スコリア 明赤褐色 良好	P762 100% 中央部覆土下層
15	坏 土師器	A [12.8] B 4.1	丸底。体部は外傾しながら開き，口縁部は直立する。	口縁部外面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	長石・雲母 橙色 普通	P763 50% 中央部覆土下層 底部墨書



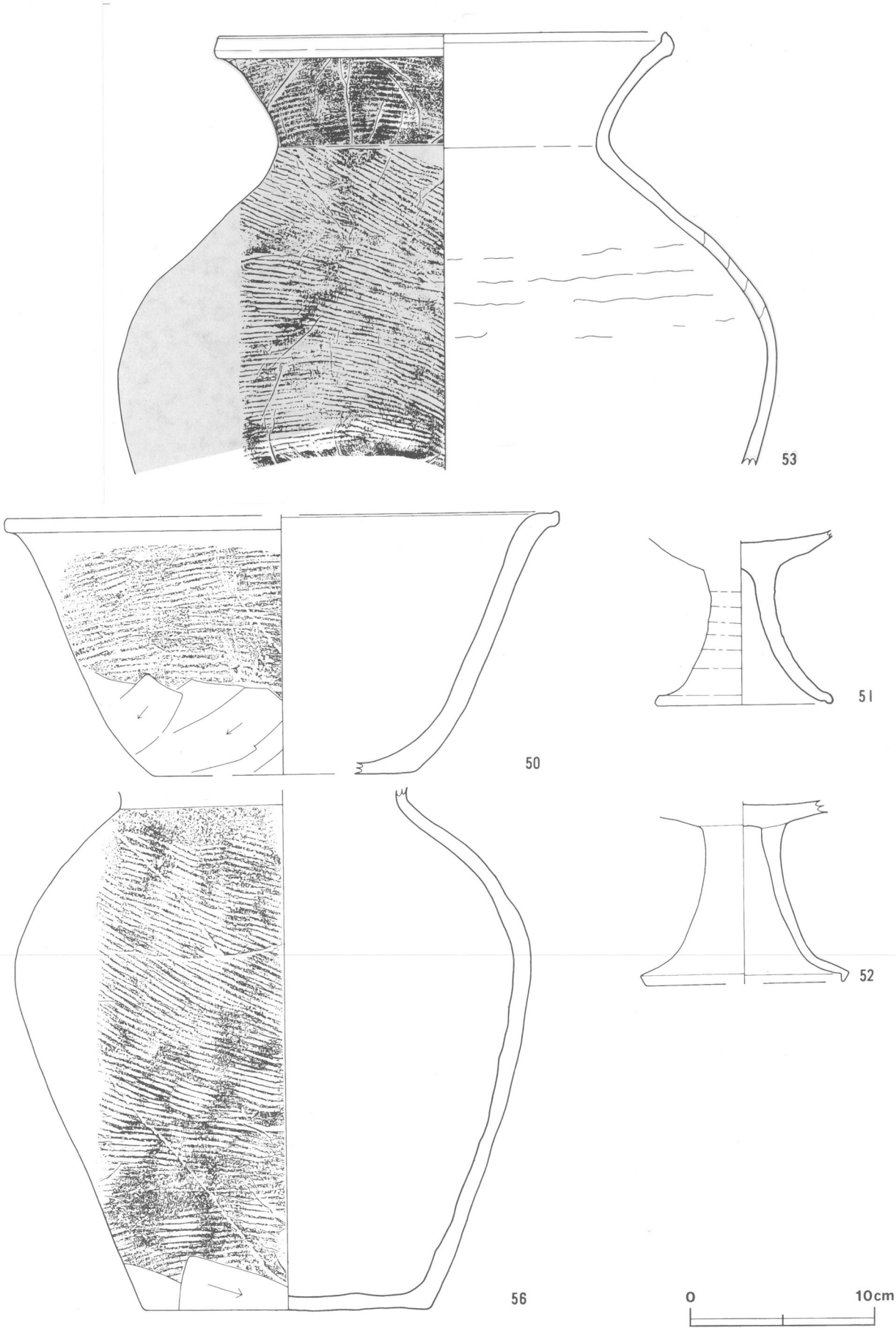
第189図　第101号住居跡出土遺物(1)



第190図　第101号住居跡出土遺物(2)



第191図　第101号住居跡出土遺物(3)



第192図　第101号住居跡出土遺物(4)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第189図 16	椀 土師器	A［12.3］ B 4.8 C 7.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面ヘラ磨き。内面ヘラ磨き後，黒色処理。	長石・雲母 明赤褐色 良好	P764 50% 中央部覆土下層
17	椀 土師器	A［16.2］ B 6.6 C［8.3］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	体部外面ヘラナデ。内面ヘラ磨き後，黒色処理。底部回転ヘラ削り。	石英・長石 橙色 普通	P765 40% 中央部覆土中層
18	椀 土師器	A 15.8 B 6.6	丸底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	体部外面ヘラナデ後，ヘラ磨き。内面ヘラ磨き後，黒色処理。	長石・スコリア 黄橙色 良好	P766 90% 中央部覆土下層
19	台付甕 土師器	A 14.5 B (14.9) E (1.7)	台部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	石英・長石 暗赤褐色 普通	P767 80% 中央部覆土中層
20	坏 須恵器	A［14.1］ B 3.8 C［7.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	雲母・スコリア にぶい褐色 良好	P747 20% 中央部覆土下層 新治窯産
21	坏 須恵器	A 13.8 B 4.3 C 7.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	石英・長石 灰色 普通	P771 80% 中央部覆土下層 新治窯産
22	坏 須恵器	A［13.8］ B 4.5 C［7.4］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部粗いヘラ削り。	長石・雲母 灰黄色 普通	P772 30% 中央部覆土下層 新治窯産
第190図 23	坏 須恵器	A 14.1 B 4.4 C 8.3	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石 黄灰色 普通	P774 90% 中央部覆土下層 新治窯産　底部墨書
24	坏 須恵器	A 13.6 B 4.5 C 8.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部多方向のヘラ削り。	石英・長石 灰黄色 普通	P776 100% 中央部覆土下層 新治窯産
25	坏 須恵器	A 14.0 B 4.5 C 8.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石 灰白色 普通	P777 80% 中央部覆土下層
26	坏 須恵器	A 13.2 B 4.7 C 7.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	石英・長石 灰色 良好	P781 60% 中央部覆土下層 底部墨書
27	坏 須恵器	A 13.7 B 4.0 C 8.5	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	石英・長石 褐灰色 普通	P769 90% 中央部覆土中層 新治窯産
28	坏 須恵器	A 13.6 B 4.0 C 8.5	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	石英・雲母 灰黄色 普通	P773 80% 中央部覆土中層 新治窯産
29	坏 須恵器	A 13.9 B 4.3 C 7.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石 灰色 良好	P775 60% 中央部覆土下層 堀ノ内窯産
30	坏 須恵器	A［13.4］ B 4.6 C 8.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	石英・長石・雲母 灰白色 普通	P779 50% 中央部覆土下層 新治窯産
31	坏 須恵器	A 12.8 B 4.7 C 8.1	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石 灰黄色 普通	P780 80% 中央部覆土中層 益子窯産　底部墨書
32	坏 須恵器	A 13.9 B 4.3 C 8.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石・雲母 褐灰色 普通	P782 80% 中央部覆土中層 新治窯産　底部墨書
33	坏 須恵器	A 12.7 B 3.9 C 7.7	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	石英・長石 灰色 普通	P783 80% 中央部覆土中層 新治窯産
34	坏 須恵器	A［12.7］ B 3.8 C［7.7］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石 黄灰色 普通	P787 30% 中央部覆土中層

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第190図 35	坏 須恵器	A［14.8］ B　3.5 C［10.3］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石 灰黄色 普通	P770　40% 中央部覆土下層
36	坏 須恵器	A　13.7 B　4.0 C　6.5	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	石英・長石 灰白色 普通	P778　80% 中央部覆土上層 底部墨書・ヘラ記号
37	坏 須恵器	A［12.4］ B　3.7 C　7.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P784　40% 中央部覆土上層
38	坏 須恵器	A　12.8 B　4.0 C　7.5	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・雲母 灰白色 良好	P785　100% 中央部覆土上層 新治窯産
39	坏 須恵器	A［12.4］ B　3.6 C［7.6］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P786　40% 中央部覆土上層
40	高台付坏 須恵器	A　10.6 B　5.5 D　7.0 E　1.3	体部一部欠損。底部と体部の境は稜をなして屈曲し，体部は外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 灰色 良好	P788　70% 中央部覆土中層 堀ノ内窯産 底部ヘラ記号
第191図 41	高台付坏 須恵器	A［12.5］ B　5.3 D［8.2］ E　1.1	体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 褐灰色 普通	P789　50% 中央部覆土中層
42	高台付坏 須恵器	B（1.9） D　10.1 E　0.7	高台部片。高台はハの字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 灰色 良好	P790　30% 中央部覆土中層
43	高台付坏 須恵器	A　17.0 B　7.0 D　11.1 E　1.2	底部と体部の境は稜をなして屈曲する。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石・雲母 褐灰色 普通	P791　90% 中央部覆土中層 新治窯産
44	高台付坏 須恵器	A　14.4 B　5.2 D　9.2 E　1.2	底部と体部の境は稜をなして屈曲する。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P793　90% 中央部覆土中層 新治窯産
45	高台付坏 須恵器	A［14.4］ B　5.2 D　9.7 E　1.2	底部と体部の境は稜をなして屈曲する。体部中位から口縁部にかけて大きく外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 褐灰色 普通	P794　50% 中央部覆土中層
46	高台付坏 須恵器	B（2.1） D［10.2］ E　1.2	高台部片。高台はハの字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 褐灰色 普通	P792　20% 中央部覆土上層 新治窯産
47	盤 須恵器	A　17.0 B　3.2 C　9.2	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面横ナデ。底部ヘラ削り。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P795　80% 中央部覆土中層 新治窯産
48	蓋 須恵器	A　20.1 B　4.7 F　3.3 G　1.7	口縁部一部欠損。ボタン状のつまみが外面に付く。天井部はドーム状で，口縁部は短く折り返されている。	天井部回転ヘラ削り。口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	長石・雲母 灰白色 普通	P796　95% 中央部覆土中層 新治窯産
49	鉢 須恵器	A　32.7 B　16.2 C［14.5］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横方向の平行叩き。体部下位ヘラ削り。内面同心円の当て具痕。	長石・雲母 黄灰色 普通	P797　80% 中央部覆土中層 新治窯産
第192図 50	鉢 須恵器	A［30.0］ B　14.1 C［14.2］	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横方向の平行叩き。体部下位ヘラ削り。	長石・雲母 黄灰色 普通	P798　20% 中央部覆土中層 新治窯産
51	高　坏 須恵器	B（8.1） D　9.5 E　7.5	脚部片。脚部は長く，ラッパ状に開く。	脚部外面ロクロナデ。内面ナデ。	長石・雲母 黄灰色 普通	P799　50% 中央部覆土中層 新治窯産

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第192図 52	高　坏 須恵器	B（9.8） D［10.8］ E　8.7	脚部片。脚部はハの字状に開く。裾端部は下方につまみ出されている。	脚部外面ロクロナデ。内面ナデ。	長石 褐灰色 良好	P800　50% 中央部覆土上層
53	甕 須恵器	A　25.2 B（23.6）	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状を呈し，口縁部は外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	頸部から体部外面横方向の平行叩き。口縁部から頸部内面ロクロナデ。輪積み痕。	石英・長石・雲母 灰色 普通	P801　50% 中央部覆土下層 新治窯産
第191図 54	甕 須恵器	B（31.5） C　14.7	口縁部欠損。体部は内彎して立ち上がり，頸部は外傾する。	体部外面横方向の平行叩き。頸部内・外面ロクロナデ。体部下位ヘラ削り。	石英・長石・雲母 灰白色 普通	P804　80% 中央部覆土下層 新治窯産
55	甕 須恵器	A［19.8］ B　34.5 C［15.8］	体部は内彎して立ち上がり，頸部は「く」の字状を呈し，口縁部は外反する。口縁端部は折り返されている。	体部外面横方向の平行叩き。内面に指頭押圧。頸部内・外面ロクロナデ。体部下位ヘラ削り。	石英・長石・雲母 灰色 普通	P802　40% 中央部覆土中層 新治窯産
第192図 56	甕 須恵器	B（28.4） C　15.7	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横方向の平行叩き。体部下位ヘラ削り。	石英・長石・雲母 黄灰色 普通	P803　70% 中央部覆土中層 新治窯産

第102号住居跡（第193図）

位置　調査E区西部，E2d2区。

重複関係　本跡は，第103号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.39m，短軸2.78mの長方形である。

主軸方向　N－4°－E

壁　壁高は30～34cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁下を全周している。上幅16～22cm，下幅4～6cm，深さ4cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，特に中央部が踏み固められている。

竈　北壁やや東寄りを壁外へ60cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ105cm，両袖間の最大幅108cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は，床面と同じである。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　色　焼土・粘土粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量
3　灰　褐　色　焼土・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子・灰少量，炭化粒子微量

ピット　P1は径16cmの円形で，深さ20cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。

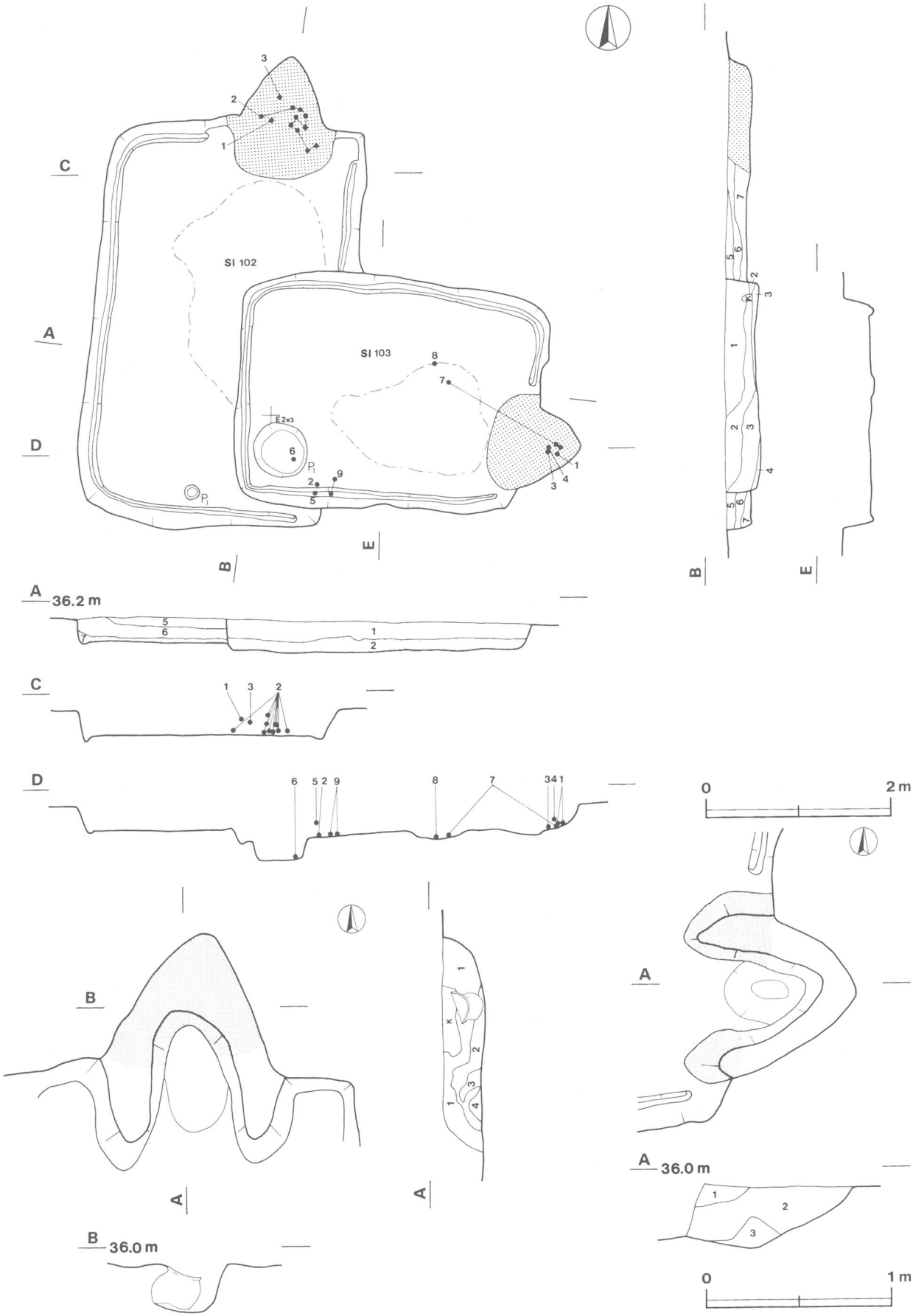
覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

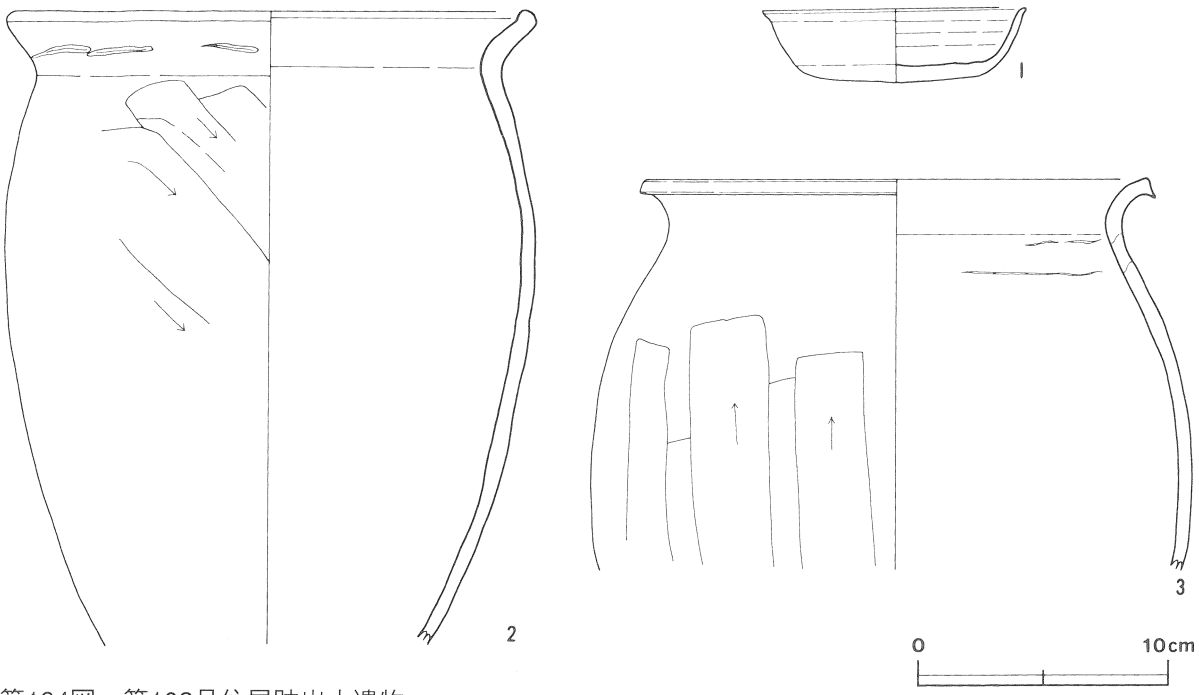
5　黒褐色　ローム粒子微量
6　黒褐色　ローム粒子少量
7　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片59点，須恵器片17点，瓦片1点，縄文土器片4点が出土している。第194図1は土師器小皿で竈内の覆土中層から正位で出土している。2・3は土師器甕で，いずれも竈内から出土している。瓦は細片で，縄文土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第193図　第102・103号住居跡



第194図　第102号住居跡出土遺物

第102号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第194図 1	小　皿 土師器	A　10.6 B　3.0 C　7.2	体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。平底。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・スコリア にぶい褐色 普通	P805　90% 竈内
2	甕 土師器	A　21.2 B　(25.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石 にぶい橙色 普通	P806　70% 竈内
3	甕 土師器	A　20.1 B　(15.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁端部は外方へつまみ出されている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P807　40% 竈内

第103号住居跡（第193図）

位置　調査E区西部，E2d3区。

重複関係　本跡が，第102号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸.25m，短軸2.45mの長方形である。

主軸方向　N－85°－W

壁　壁高は34cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁下を全周している。上幅16～24cm，下幅４～８cm，深さ６cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，特に中央部及び竈付近が踏み固められている。

竈　東壁やや南寄りを壁外へ50cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ90cm，両袖間の最大幅100cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は，楕円形に５cmほど掘りくぼめられている。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

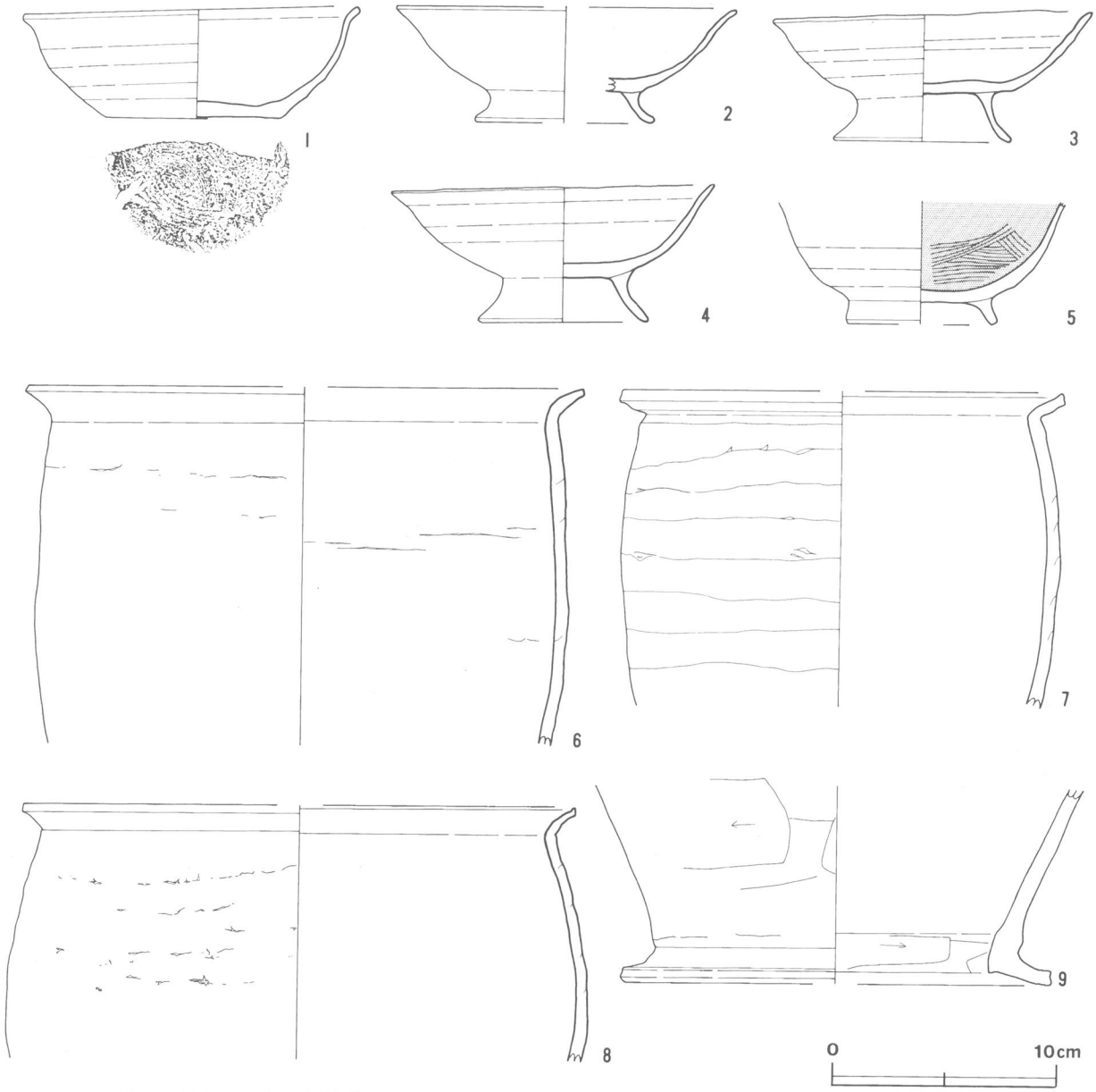
竈土層解説
1　黒　褐　色　焼土・ローム粒子微量
2　暗　赤　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土・ローム粒子中量，炭化粒子少量

ピット　P1は径30cmの円形で，深さ20cmである。性格は不明である。

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物　土師器片466点，須恵器片7点，縄文土器片3点が出土している。第195図1は土師器坏で，竈の火床部から正位で出土している。2～4は土師器高台付坏で，2は南壁際の床面，3・4は竈内から出土している。5は土師器高台付椀で，南部の壁際から出土している。6～8は土師器甕で，6はP1の底面から，7は竈内から，8は中央部の床面から出土している。9は土師器甑で，南壁際の床面から出土している。縄文土器片は，流れ込みである。



第195図　第103号住居跡出土遺物

所見　本跡の時期は，10世紀前葉と思われる第102号住居跡を掘り込んでいることから，10世紀前葉以降と思われる。

第103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第195図 1	坏 土師器	A 14.8 B 5.1 C 8.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石英・長石・スコリア 橙色 普通	P808　60% 竈内
2	高台付坏 土師器	A［15.3］ B 5.2 D［8.1］ E 1.4	高台部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面横ナデ。底部ナデ後，高台貼り付け。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P809　30% 南壁際床面
3	高台付坏 土師器	A 14.2 B 5.9 D 7.9 E 2.3	口縁部・高台部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部ナデ後，高台貼り付け。	長石・スコリア 灰黄褐色 普通	P811　80% 竈内
4	高台付坏 土師器	A 14.5 B 6.2 D 7.6 E 2.1	体部から口縁部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。高台はハの字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部ナデ後，高台貼り付け。体部外面ロクロナデ。	長石・スコリア 灰黄褐色 普通	P812　60% 竈内
5	高台付坏 土師器	B（5.5） D［6.8］ E 1.2	高台部から体部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。高台はハの字状に開く。	内面ヘラ磨き後，黒色処理。底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	石英・雲母 橙色 良好	P810　40% 南部壁際
6	甕 土師器	A［25.0］ B（15.9）	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。輪積み痕。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P813　20% P_1底面
7	甕 土師器	A［19.7］ B（14.0）	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面ナデ。輪積み痕。	長石・スコリア 灰褐色 普通	P814　20% 竈内
8	甕 土師器	A［24.8］ B（11.3）	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面ナデ。輪積み痕。	長石・スコリア にぶい褐色 普通	P815　10% 中央部床面
9	甑 土師器	B（8.8） C［19.4］	底部から体部にかけての破片。底部は鍔状に横方向に開き，体部は外傾して立ち上がる。	底部内・外面横ナデ。体部横ナデ。	石英・長石・スコリア 黒褐色 普通	P816　20% 南壁際床面

第104号住居跡（第196図）

位置　調査E区西部，E1e9区。

規模と平面形　東西（5.40）m，南北（0.84）mで，大部分が撹乱されているため，平面形は不明である。

主軸方向　［N－3°－E］

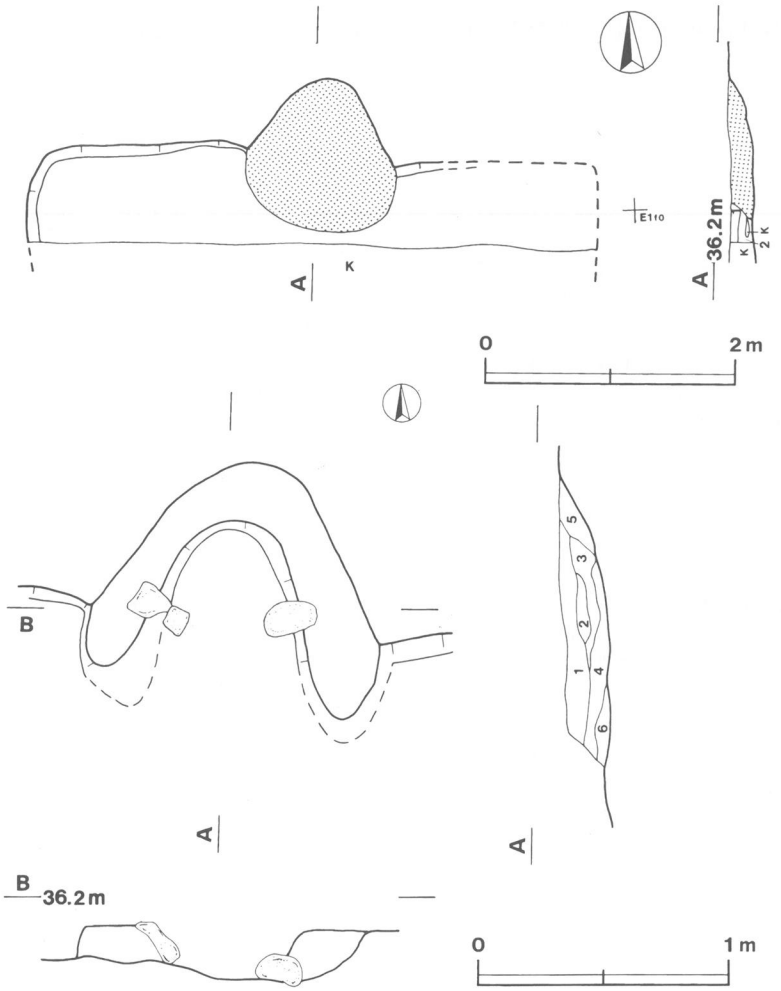
壁　壁高は20cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦である。

竈　北壁を壁外へ50cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ95cm，両袖間の最大幅125cmである。両袖部とも砂質粘土で構築され，凝灰岩で補強されている。火床部は，床面と同じである。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい褐色　焼土・粘土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量
3　黒褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　明赤褐色　焼土中・小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子中量
5　灰褐色　粘土ブロック少量，粘土粒子中量
6　暗褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量



第196図　第104号住居跡

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片21点，須恵器片8点，円礫2点が出土している。土器片は，いずれも細片である。円礫は竈袖部の補強材である。

所見　本跡の時期は，第102号住居跡の形態と類似していること，土師器片に足高高台部片があることから10世紀以降と思われる。

第105号住居跡（第197図）

位置　調査E区東部，D3js区。

重複関係　本跡は，第112号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　南部が調査区域外に延びているが，長軸（4.11）m，短軸5.72mで方形と思われる。

主軸方向　N－15°－W

壁　壁高は16cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認した壁下を全周している。上幅12～20cm，下幅4～6cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床　全体的に平坦である。

竈　北壁中央を壁外へ（22）cmほど掘り込み，付設されている。煙道部は撹乱を受けている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ（66）cm，両袖間の最大幅114cmである。両袖部とも砂質粘土で構築され，土師器甕で補強されている。火床部は，床面と同じである。煙道部は撹乱を受けている。

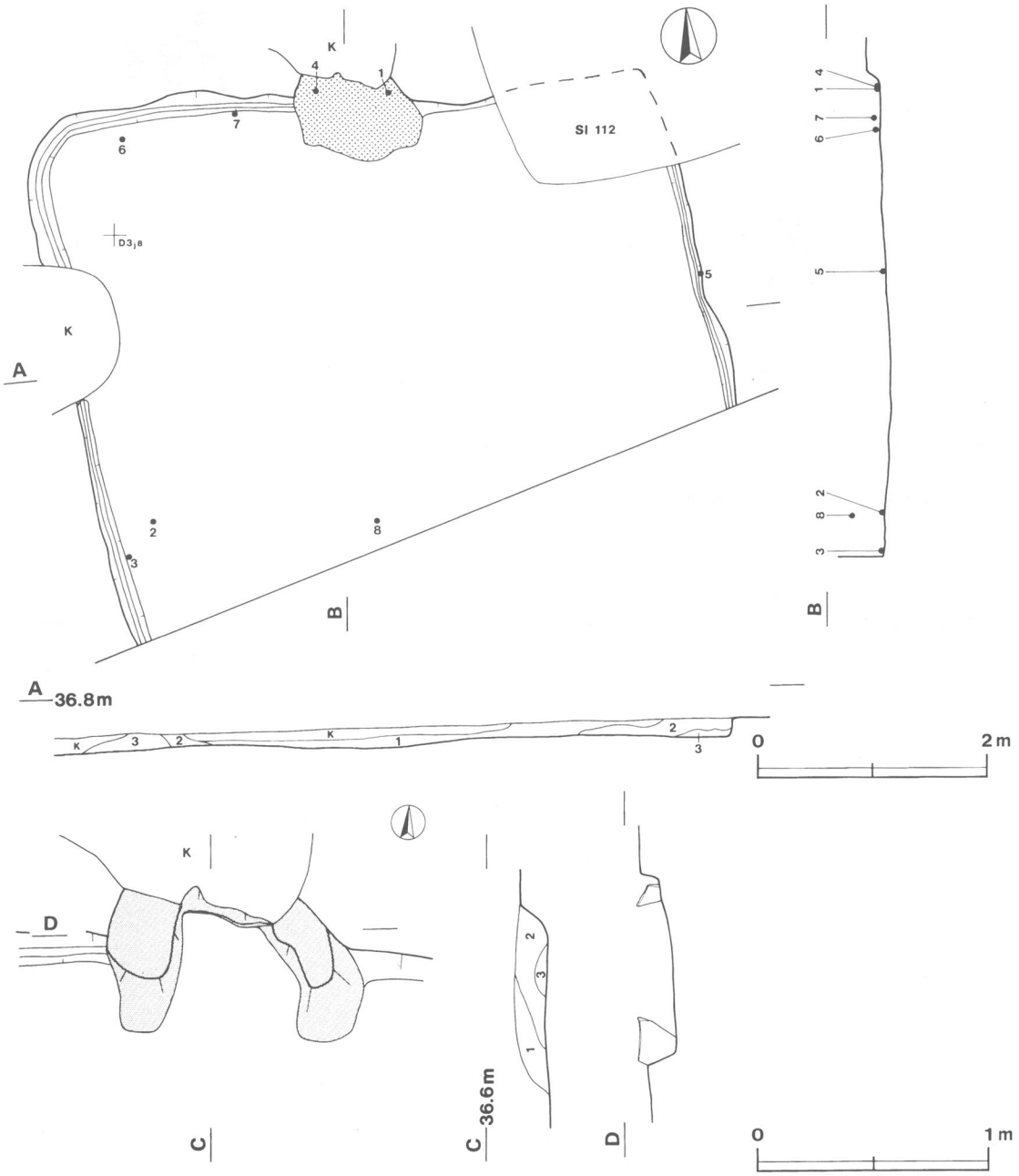
竈土層解説
1　暗　褐　色　焼土・粘土粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量
3　明　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土　3層からなる自然堆積である。

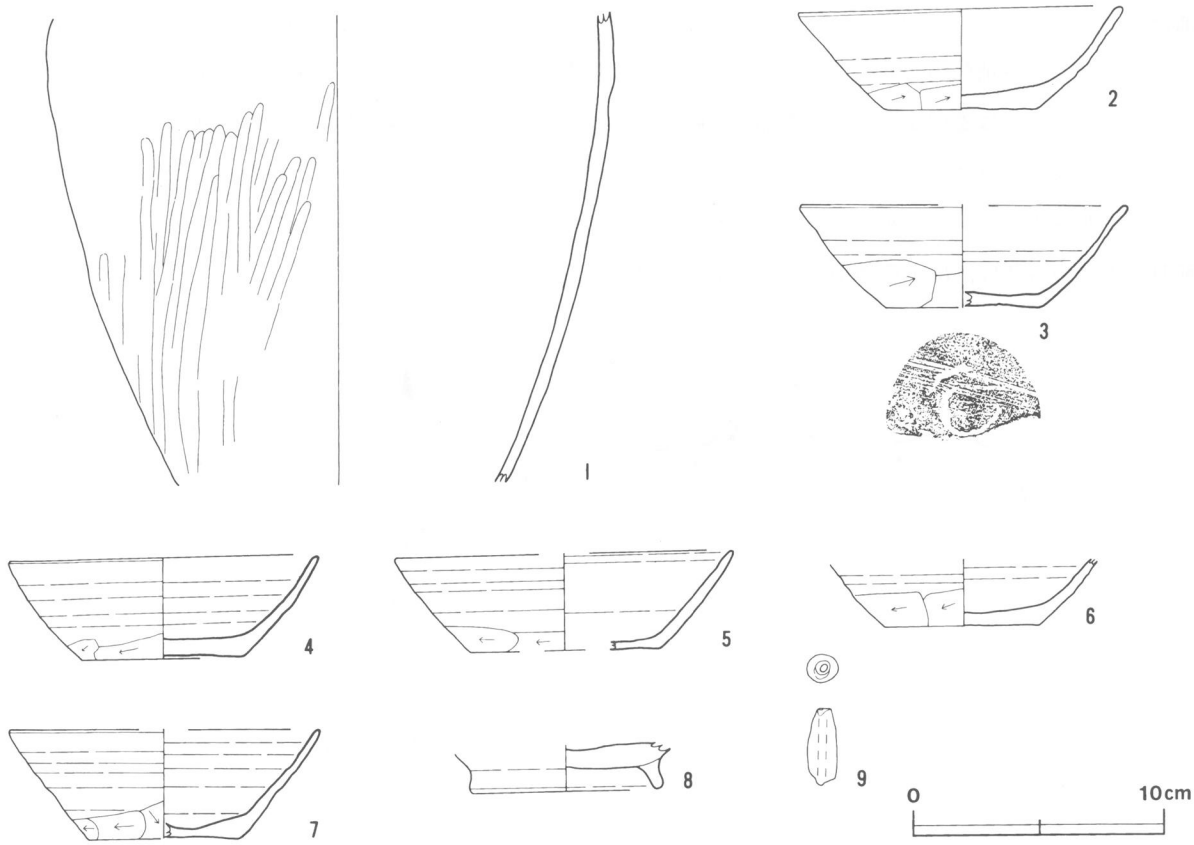
土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片165点，須恵器片37点，灰釉陶器片２点，土製品１点，瓦片２点が出土している。第198図１は土師器甕で，竈袖部内から出土している。２～７は須恵器坏で，２は南西部の床面から正位で，３は南西部の床面から，４は竈内から，５は東部の壁際から，６は北西部の覆土下層から，7は北壁際の覆土中層から，８は須恵器高台付坏で南部の覆土上層から出土している。９は管状土錘で，覆土中から出土している。灰釉陶器，瓦は細片で覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から９世紀中葉と思われる。



第197図　第105号住居跡



第198図　第105号住居跡出土遺物

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第198図 1	甕 土師器	B（18.6）	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き。内面ナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P820　40% 竈袖部内
2	坏 須恵器	A　13.0 B　4.1 C　6.1	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石 にぶい黄橙色 普通	P817　100% 南西部床面
3	坏 須恵器	A［13.2］ B　4.2 C［6.2］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P818　30% 南西部床面
4	坏 須恵器	A　12.5 B　4.1 C　6.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	石英・長石 黄灰色 普通	P821　95% 竈内 新治窯産
5	坏 須恵器	A［13.6］ B　3.9 C［7.6］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	石英・長石 黄灰色 普通	P824　20% 東壁際床面
6	坏 須恵器	B（2.6） C　6.1	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	長石 浅黄色 普通	P825　30% 北東部覆土下層
7	坏 須恵器	A［12.6］ B　4.4 C［6.2］	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部二方向のヘラ削り。	石英・長石 灰黄色 普通	P822　40% 北壁際覆土中層 三和窯産
8	高台付坏 須恵器	B（1.9） D　7.8 E　0.9	高台部片。高台はハの字状に開く。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。	長石 灰色 良好	P826　20% 南部覆土上層 堀ノ内窯産

土製品観察表

図版番号	種　別	計　測　値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
9	管状土錘	(3.1)	1.2	0.3	(3.4)	覆土中	DP91　70%

第106号住居跡（第199図）

位置　調査E区東部，D3j5区。

規模と平面形　長軸4.30m，短軸3.82mの長方形である。

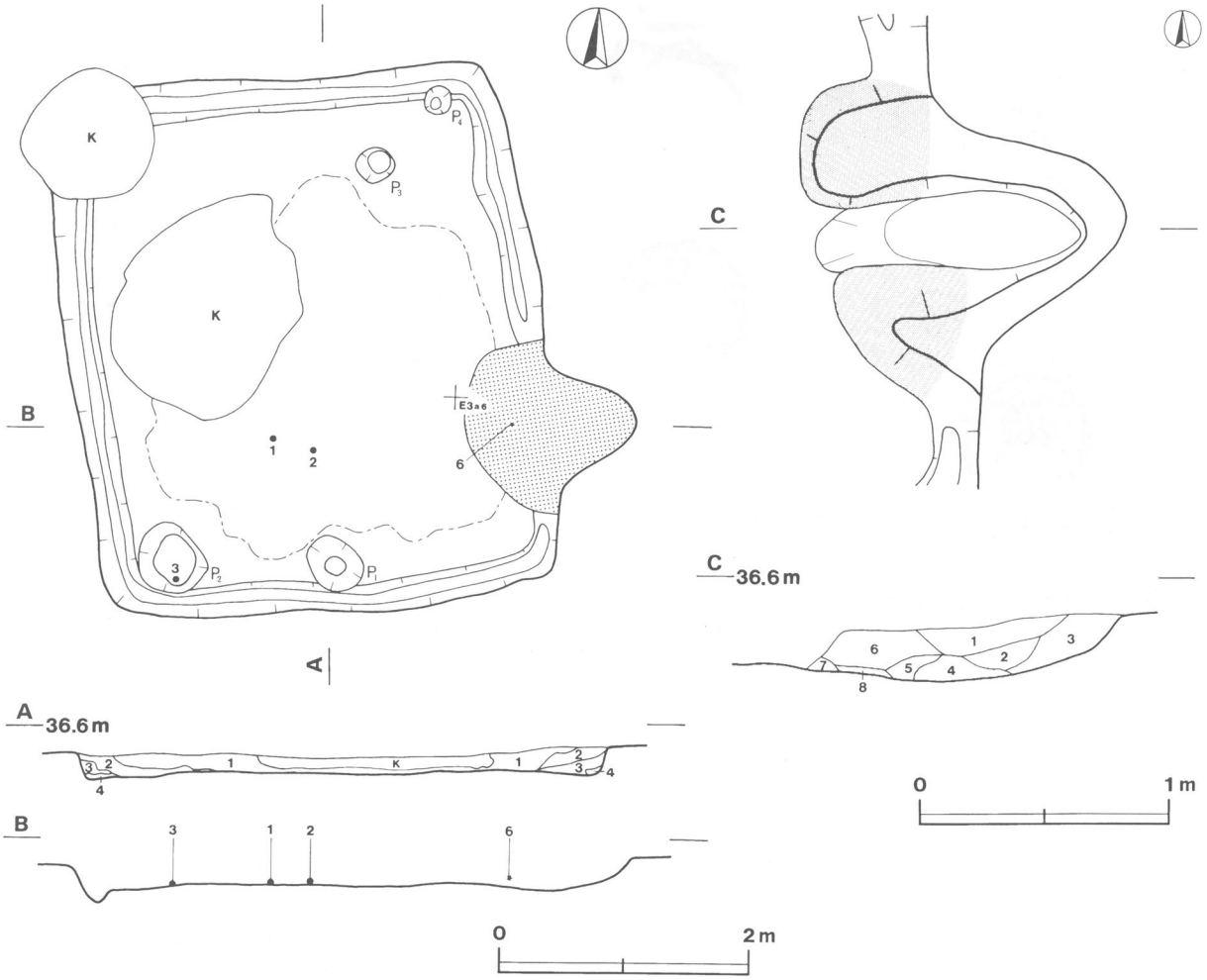
主軸方向　N－82°－E

壁　壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁下を全周している。上幅20～25cm，下幅6～12cm，深さ12cmで，断面形はU字形である。

床　平坦である。特に，中央部が踏み固められてれている。

竈　東壁やや南寄りを壁外へ70cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ125cm，両袖間の最大幅125cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は，楕円形に10cmほど掘りくぼめられ，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。



第199図　第106号住居跡

竈土層解説

1　灰 褐 色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，粘土小ブロック少量，焼土小ブロック微量
2　灰 褐 色　粘土中ブロック多量，焼土・粘土粒子中量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土・粘土粒子多量，炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
5　赤 灰 色　焼土中・小ブロック中量，焼土粒子微量
6　黒 褐 色　粘土粒子少量，焼土中・小ブロック・焼土粒子微量
7　褐　　色　ローム小ブロック中量
8　暗赤褐色　炭化粒子・粘土小ブロック少量，ローム小ブロック微量

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1は長径46cm，短径36cmの楕円形で，深さ27cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。P_2は長径57cm，短径48cmの楕円形で，深さ21cmである。P_3は径30cmの円形で，深さ31cmである。P_4は径20cmの円形で，深さ21cmである。いずれも性格は不明である。

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　褐　　色　粘土小ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム中ブロック中量

遺物　土師器片152点，須恵器片23点，灰釉陶器片2点，土製品1点，瓦片1点が出土している。第200図1は土師器坏で，中央部の床面から正位で出土している。2は土師器皿で，中央部の床面から出土している。3・4は黒笹90号窯式段階の灰釉陶器で，3は椀でP_2内から，4は長頸瓶で覆土中から出土している。5は管状土錘，6は瓦で竈内から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。

第200図　第106号住居跡出土遺物

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第200図 1	坏 土師器	A 13.2 B 3.9 C 6.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P827　100% 中央部床面
2	皿 土師器	A 12.2 B 2.0 C 5.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は大きく外方に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石 橙色 普通	P828　60% 中央部床面 体部外面墨書
3	椀 灰釉陶器	B（1.9） D 7.2 E 0.9	高台部片。平底。高台は三日月状。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面釉。	胎土：灰黄色 釉調：透明 刷毛塗りで薄い 良好	P830　10% P_2内 黒笹90号窯式段階

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第200図 4	長頸瓶 灰釉陶器	B（4.3） D［9.2］ E　0.9	底部から体部下位にかけての破片。平底。高台は短い。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面回転ヘラ削り。内面ロクロナデ。体部外面釉。	胎土：オリーブ灰色 釉調：うす緑色 刷毛塗り 良好	P831　10% 覆土中 黒笹90号窯式段階

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	管状土錘	（2.8）	1.5	0.3	（3.4）	竈内	DP92　80%

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	丸　瓦	（5.4）	（8.9）	2.8	（134.6）	竈内	T19

第107号住居跡（第201図）

位置　調査E区中央部，D3i4区。

規模と平面形　長軸4.39m，短軸3.90mの方形である。

主軸方向　N－18°－W

壁　壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　撹乱を受けているが，確認した壁下を全周している。上幅12～20cm，下幅5～8cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦である。特に，中央部が踏み固めらてれている。

竈　北壁やや東寄りを壁外へ70cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ130cm，両袖間の最大幅126cmである。両袖部とも砂質粘土で構築され，土師器甕で補強されている。火床部は，楕円形に10cmほど掘りくぼめられ，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　灰褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
2　灰褐色　焼土粒子・粘土小ブロック少量
3　灰褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量
4　灰褐色　炭化粒子・粘土小ブロック中量，焼土粒子微量
5　暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土粒子少量

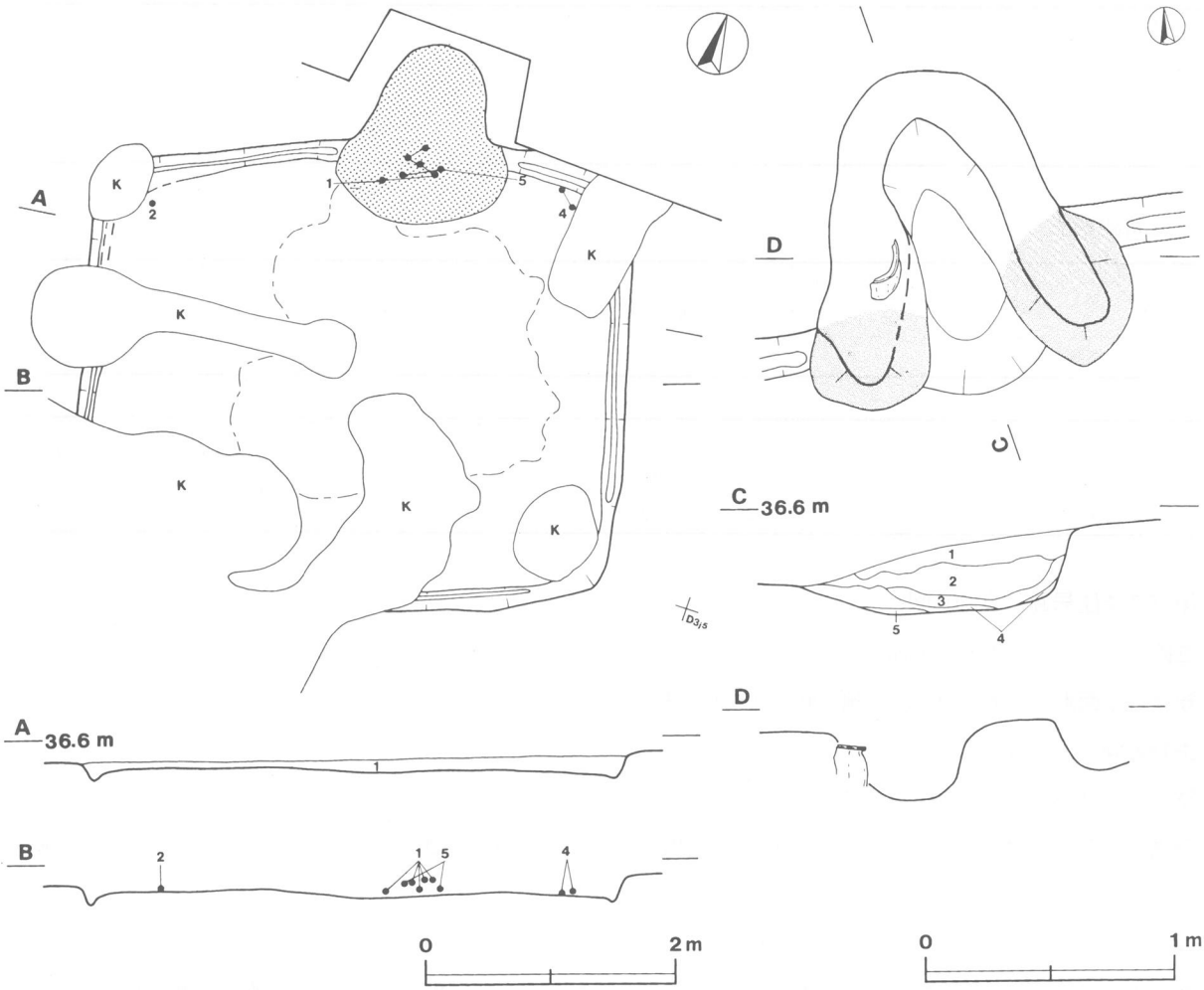
覆土　単一層で，自然堆積であるが，かなり撹乱を受けている。

土層解説

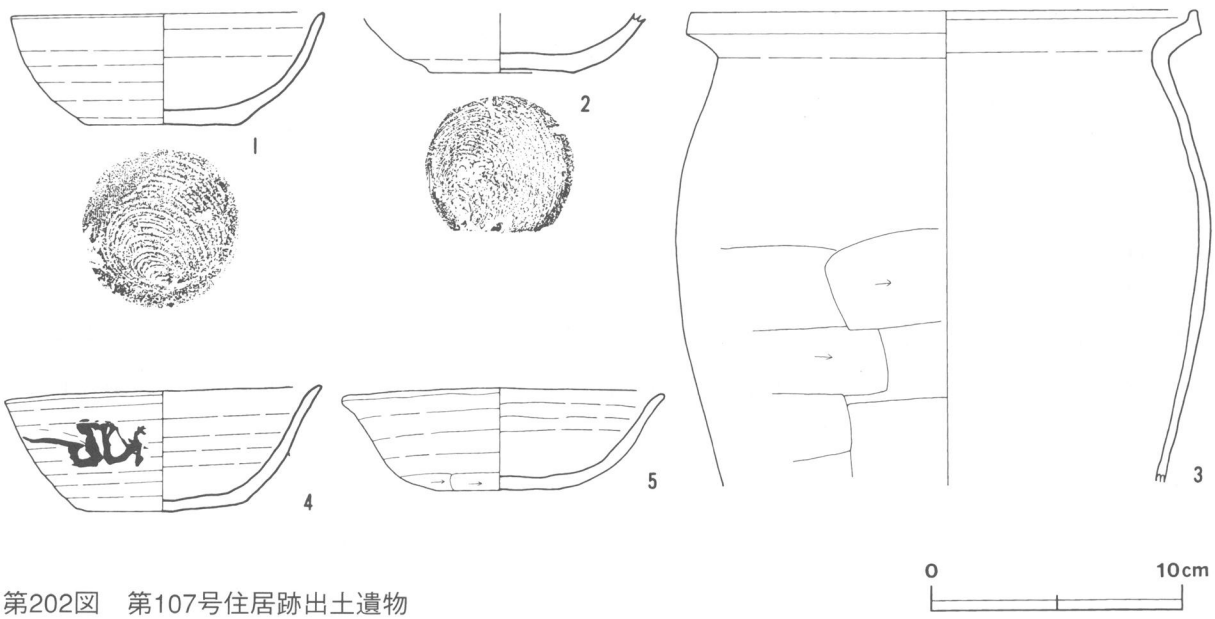
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

遺物　土師器片128点，須恵器片4点が出土している。第202図1・2は土師器坏で，1は竈内から，2は北西部の床面から出土している。3は土師器甕で，竈内から出土している。4・5は須恵器坏で，4は北東部の床面から，5は竈内から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀以降と思われる。



第201図　第107号住居跡



第202図　第107号住居跡出土遺物

第107号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第202図 1	坏 土師器	A 12.5 B 4.5 C 6.2	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石 橙色 普通	P832　100% 竈内
2	坏 土師器	B (2.4) C 5.9	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母 橙色 普通	P835　30% 北西部床面
3	甕 土師器	A 20.1 B (18.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	石英・長石・スコリア 橙色 普通	P837　70% 竈内
4	坏 須恵器	A 12.7 B 5.0 C 6.9	体部一部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・スコリア 橙色 普通	P833　90% 北東部床面 体部外面墨書
5	坏 須恵器	A 12.9 B 4.1 C 5.1	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石 橙色 普通	P834　90% 竈内

第108号住居跡（第203図）

位置　調査E区東部，D3io区。

規模と平面形　東西5.03m，南北（2.20）mで，住居跡の半分以上が調査区域外に延びているため，平面形は不明である。

主軸方向　〔N－79°－E〕

壁　壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　撹乱を受けているが，確認した壁下を全周している。上幅10～16cm，下幅８～10cm，深さ８cmで，断面形はU字形である。

床　平坦である。特に，中央部が踏み固めらてれている。

竈　東壁を壁外へ80cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ115cm，両袖間の最大幅は右袖部が調査区域外に延びているため不明である。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は，楕円形に14cmほど掘りくぼめられ，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　極暗赤褐色　焼土・ローム粒子微量
2　にぶい赤褐色　白色粘土中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
4　灰褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量
5　暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック微量

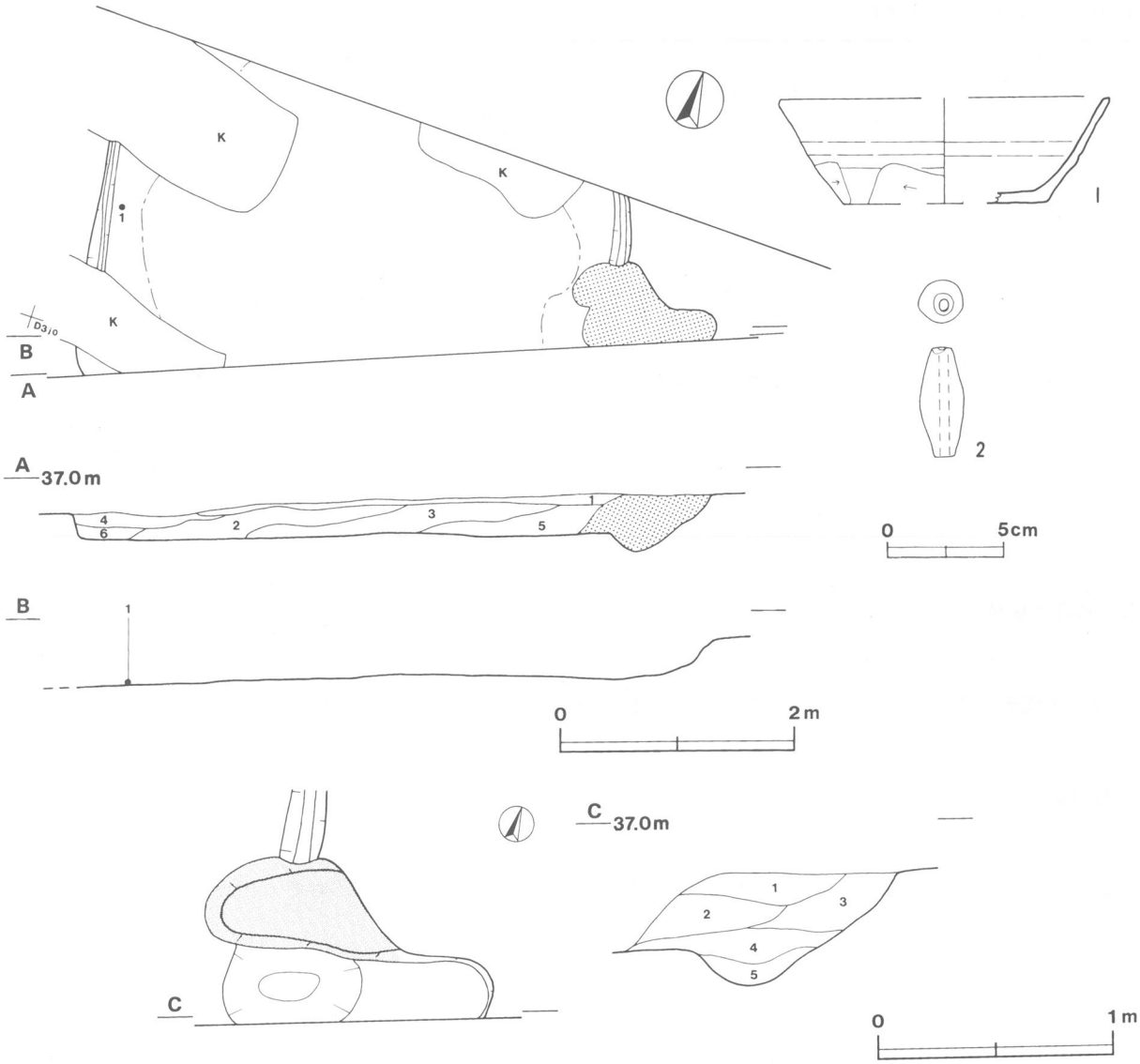
覆土　６層からなる人為堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土小ブロック少量
6　褐色　ローム粒子多量

遺物　土師器片40点，須恵器片19点，土製品1点が出土している。第203図１は須恵器坏で，西部の床面から出土している。２は管状土錘で，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から９世紀後葉と思われる。



第203図　第108号住居跡出土遺物

第108号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第203図 1	坏 須恵器	A [14.2] B 4.5 C [8.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	石英・長石 灰黄色 普通	P838　20% 東部床面 新治窯産

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
2	管状土錘	4.7	1.9	0.4	12.7	覆土中	DP93　100%

第109号住居跡（第204図）

位置　調査E区中央部，D3j2区。

重複関係　本跡が，第110A・B・C号住居跡を掘り込んでいる。

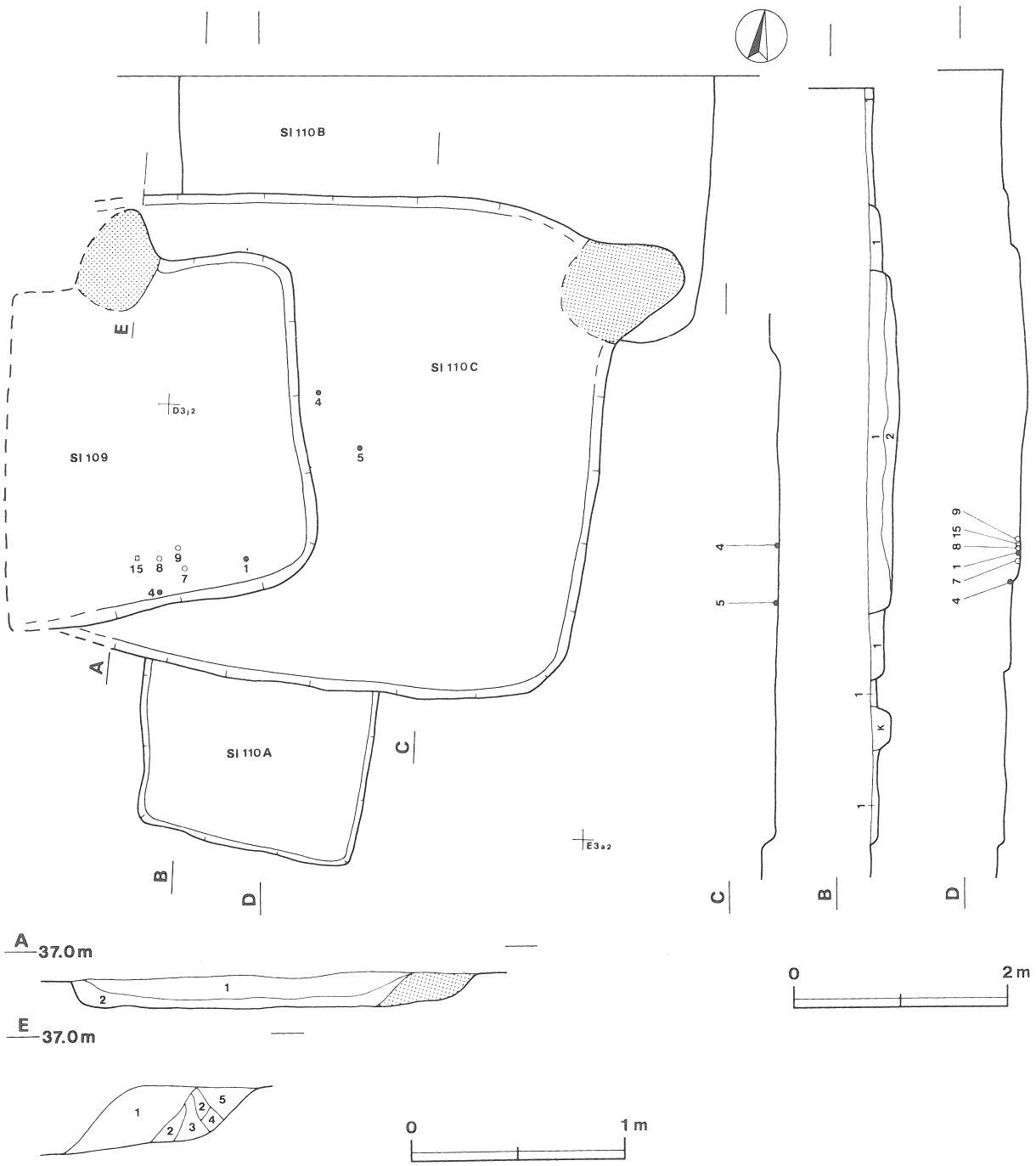
規模と平面形　東西（2.80）m，南北3.21mで，西側部は水道工事による撹乱を受けており，平面形は不明である。

主軸方向　〔N－8°－W〕

壁　壁高は24cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

竈　北壁を壁外へ（50）cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ（98）cm，



第204図　第109・110A～C住居跡

両袖間の最大幅は左袖部が撹乱を受けており，不明である。右袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は，床面と同じである。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　粘土小ブロック・粘土粒子中量，炭化・焼土粒子・ローム中ブロック微量
2　灰　褐　色　粘土大・中ブロック中量
3　暗 赤 褐 色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，粘土小ブロック少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，粘土粒子少量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量

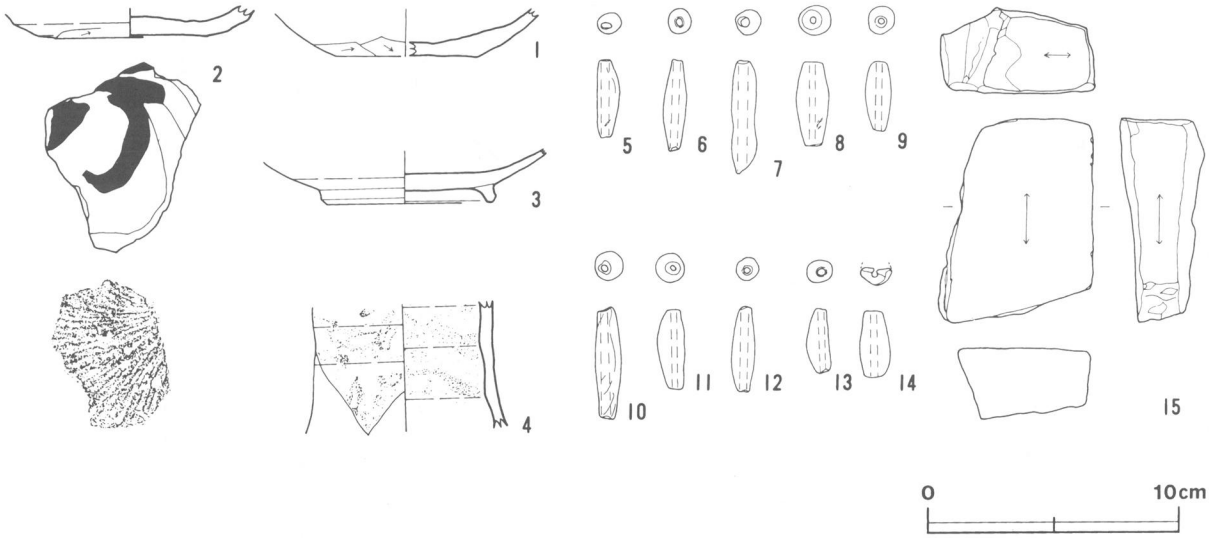
覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック微量

遺物　土師器片457点，須恵器片64点，灰釉陶器片2点，土製品10点，石製品1点が出土している。第205図1・2は土師器坏で，1は南東部の床面から，2は覆土中から出土している。3・4は黒笹14号窯式段階の灰釉陶器で，3は皿で覆土中から，4は長頸瓶で南部の床面から出土している。5～14は管状土錘で，7～9は　いずれも南部の床面から，5・6・10～14は覆土中から出土している。15は砥石で，南部の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から10世紀以降と思われる。



第205図　第109号住居跡出土遺物

第109号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第205図 1	坏 土師器	B（1.9） C［5.8］	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部下端粗い手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P842　30% 南東部床面
2	坏 土師器	B（1.2） C　6.2	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部下端粗い手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P843　20% 覆土中 底部から体部下位墨書
3	椀 灰釉陶器	B（2.1） D　6.6 E　0.6	高台部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。高台は三日月状。	底部回転ヘラ削り後，高台貼り付け。内面釉。	胎土：灰白色 釉調：透明 刷毛塗り 良好	P846　30% 覆土中 黒笹90号窯式段階
4	長頸瓶 灰釉陶器	B（5.1）	頸部片。	頸部内・外面ロクロナデ。内・外面釉。	胎土：灰オリーブ色 釉調：濃い緑色 刷毛塗りで厚い 良好	P847　5% 南部床面 黒笹14号窯式

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考	
		長さ（cm）	径（cm）	孔径（cm）	重量（g）			
5	管状土錘	3.1	1.0	0.3	2.2	覆土中	DP94	100%
6	管状土錘	3.7	0.9	0.3	2.6	覆土中	DP95	100%
7	管状土錘	4.5	1.1	0.3	4.2	南部床面	DP96	100%
8	管状土錘	3.4	1.3	0.2	5.1	南部床面	DP97	100%
9	管状土錘	2.8	1.0	0.2	1.4	南部床面	DP98	100%
10	管状土錘	4.5	1.1	0.3	4.7	覆土中	DP99	100%
11	管状土錘	3.2	1.1	0.3	4.5	覆土中	DP100	100%
12	管状土錘	3.4	0.9	0.3	2.4	覆土中	DP101	100%
13	管状土錘	(2.6)	1.0	0.3	(2.0)	覆土中	DP102	90%
14	管状土錘	2.7	(1.2)	0.3	(2.2)	覆土中	DP103	70%

石製品観察表

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備考	
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）				
15	砥　石	(8.1)	6.2	3.4	(185.0)	凝灰岩	南部床面	Q53	50%

第110A号住居跡（第204図）

位置　調査E区中央部，D3j2区。

重複関係　本跡は，第109・110C号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　東西2.24m，南北1.59mである。住居跡の北部は第110C号住居跡に掘り込まれており，平面形は不明である。

主軸方向　〔N－8°－W〕

壁　壁高は9cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

覆土　単一層で，自然堆積である。

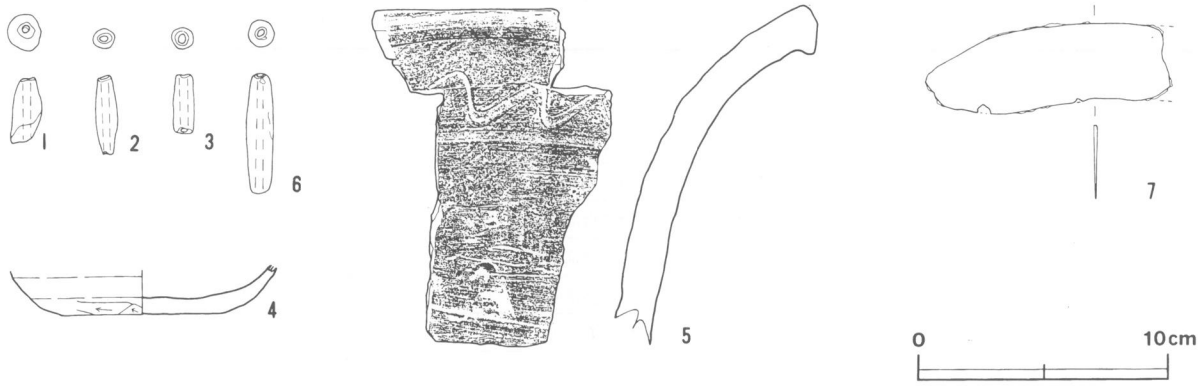
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量

遺物　土師器片17点，須恵器片1点，灰釉陶器4点，土製品2点が出土している。土器片はいずれも細片である。第206図1・2は管状土錘で，いずれも覆土中から出土している。灰釉陶器片は細片で覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，9世紀後葉と思われる第110C号住居跡に掘り込まれていることから，それ以前と思われる。

第110A号住居跡出土土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考	
		長さ（cm）	径（cm）	孔径（cm）	重量（g）			
1	管状土錘	(2.6)	1.5	0.3	(3.7)	覆土中	DP104	50%
2	管状土錘	3.1	0.9	0.3	1.8	覆土中	DP105	100%



第206図　第110A～C号住居跡出土遺物

第110B号住居跡（第204図）

位置　調査E区中央部，D3i2区。

重複関係　本跡は，第110C号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　東西〔4.98〕m，南北（1.14）mである。住居跡の南部は第110C号住居跡に掘り込まれており，平面形は不明である。

床　平坦である。

覆土　単一層で，自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子微量

遺物　土師器片8点，須恵器片3点，土製品1点が出土している。土器片はいずれも細片である。第206図3は管状土錘で，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，9世紀後葉と思われる第110C号住居跡に掘り込まれていることから，それ以前と思われる。

第110B号住居跡出土土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	径（cm）	孔径（cm）	重量（g）		
3	管状土錘	(2.4)	0.9	0.3	(1.6)	覆土中	DP106　80%

第110C号住居跡（第204図）

位置　調査E区中央部，D3j2区。

重複関係　本跡は，第109号住居跡に掘り込まれ，第110A・B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　東西（4.67m），南北4.70mで方形と思われる。

主軸方向　〔N－85°－E〕

壁　壁高は12cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

竈　北東部コーナーを壁外へ（60）cmほど掘り込み付設されているが，削平されており火床部のみを確認した。遺存状況から砂質粘土で構築されていたと思われる。火床部は浅く掘りくぼめられている。

覆土　単一層で，自然堆積である。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量

遺物　土師器片36点，須恵器片２点，土製品２点，鉄製品１点が出土している。第206図４は土師器坏，５は須恵器甕，７は鉄製鎌で，いずれも中央部床面から出土している。６は管状土錘で，竈内から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から９世紀後葉と思われる。

第110C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第206図 4	坏 土師器	B（1.8） C　6.5	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石 にぶい黄橙色 普通	P848　20% 中央部床面
5	甕 須恵器	B（13.3）	頸部から口縁部にかけての破片。頸部から口縁部にかけては大きく外反する。	口縁部から頸部内・外面ロクロナデ。	石英・長石 褐灰色 普通	P850　10% 中央部床面

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	径（cm）	孔径（cm）	重量（g）		
6	管状土錘	4.3	1.1	0.3	5.5	竈内	DP107　100%

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
7	鉄　鎌	（10.0）	3.7	0.1	（20.2）	中央部床面	M81　50%

第111号住居跡（第207図）

位置　調査D区中央部，D3g7区。

規模と平面形　東西(3.60)m，南北(0.97)mで，大部分が調査区域外に延びているため，平面形は不明である。

主軸方向　〔N－18°－E〕

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認した壁下を巡っている。上幅14～20cm，下幅8～10cm，深さ8cmで，断面形はU字形である。

床　平坦である。

竈　北壁に付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ105cm，両袖間の最大幅82cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は，ほぼ床面と同じである。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

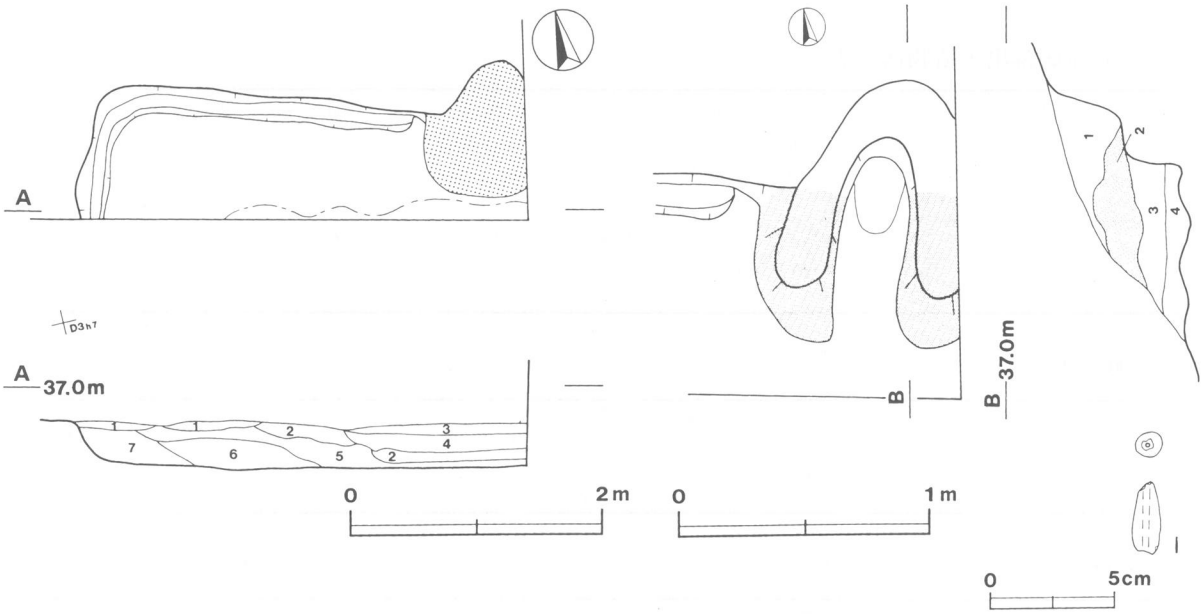
竈土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量
2　灰 褐 色　粘土粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
3　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量，灰少量，炭化粒子微量，
4　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，灰中量，炭化粒子少量

覆土　７層からなる人為堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　黒 褐 色　ローム粒子中量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
7　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物　土師器片31点，須恵器片２点，灰釉陶器片１点，土製品１点が出土している。土器片はいずれも細片である。第207図１は管状土錘で，竈内から出土している。灰釉陶器片は細片で覆土中から出土している。

所見　本跡は，出土遺物が少なく時期の限定は難しいが，須恵器の絶対量が少ないことから，９世紀後葉と思われる。



第207図　第111号住居跡・出土遺物

第111号住居跡出土土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ（cm）	径（cm）	孔径（cm）	重量（g）		
1	管状土錘	(2.9)	1.1	0.2	(2.8)	竈内	DP108　100%

第112号住居跡（第208図）

位置　調査E区東部，D3i9区。

重複関係　本跡が，第105号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　東西4.39m，南北(2.30)mで，北側半分が調査区域外に延びているため，平面形は不明である。

主軸方向　〔N－76°－E〕

壁　壁高は10cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。特に，中央部が踏み固められている。

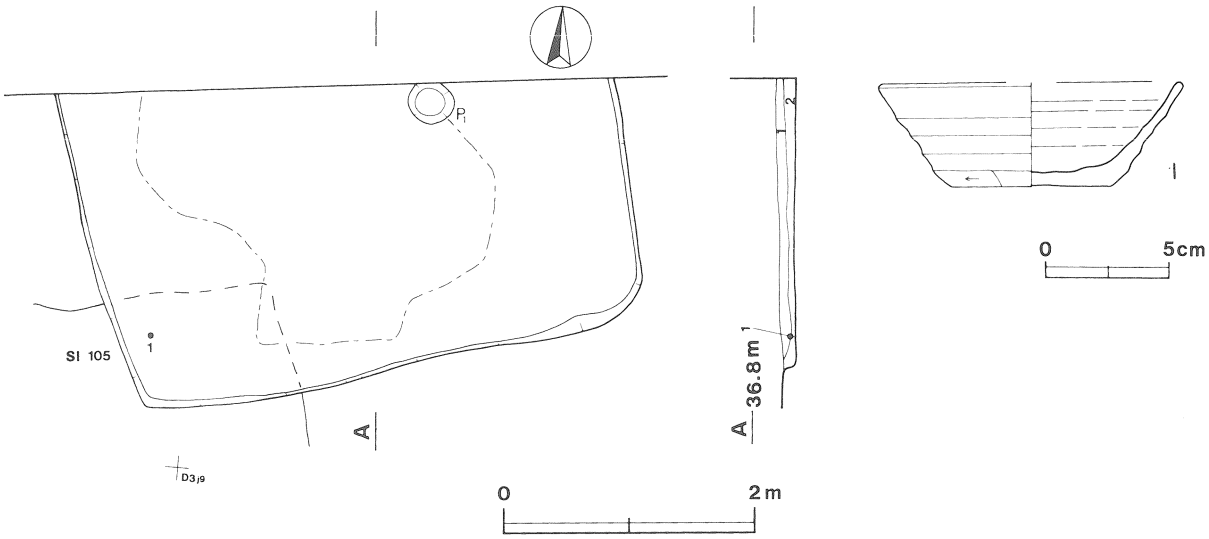
ピット　P_1は径36cmの円形で，深さ32cmである。性格は不明である。

覆土　２層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量　　2　暗褐色　ローム粒子少量

遺物　土師器片57点，須恵器片４点が出土している。第208図１は須恵器坏で，南西部の覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から９世紀後葉と思われる。



第208図　第112号住居跡・出土遺物

第112号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第208図 1	坏 須恵器	A [12.0] B 4.2 C 6.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	長石 灰色 良好	P823　40% 南西部覆土下層 堀ノ内窯産

第130号住居跡（第209図）

位置　調査A区西部，B7e5区。

規模と平面形　長軸2.81m，短軸（1.58）mで，方形と思われる。

主軸方向　N－79°－E

壁　壁高は10cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　幅12cm，深さ5cmの溝を竈右袖部付近で確認し，壁溝と思われる。

床　平坦である。

竈　東壁やや南よりを壁外へ56cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ104cm，両袖間の最大幅78cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は，楕円形に10cmほど掘りくぼめられている。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　極暗褐色　焼土・粘土粒子中量
2　褐　色　粘土粒子多量
3　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量
4　極暗褐色　粘土粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
5　極赤褐色　焼土・炭化粒子少量
6　極赤褐色　焼土粒子少量

貯蔵穴　南西部から確認されている。径30cmの円形で，深さ18cmである。

貯蔵穴土層解説

1　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　色　ローム中ブロック多量
4　極暗褐色　炭化・ローム粒子少量，焼土小ブック少量

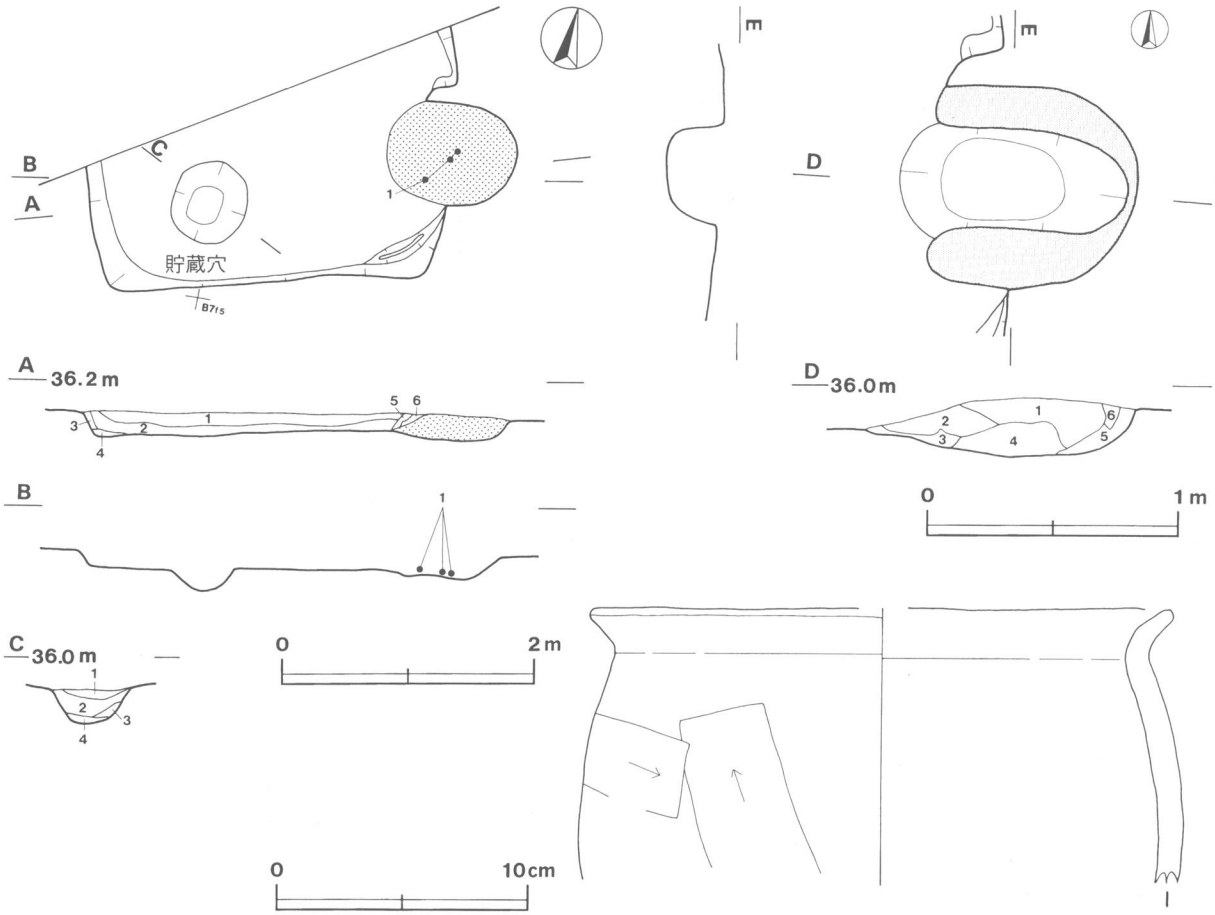
覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　色　ローム粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック微量
2　黒　色　ローム小ブロック微量
3　黒褐色　ローム粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量
5　黒褐色　ローム粒子少量
6　褐　色　灰・ローム粒子微量

遺物　土師器片11点，須恵器片３点，縄文土器片３点が出土している。第209図１は土師器甕で，竈内から出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から９世紀後葉と思われる。



第209図　第130号住居跡・出土遺物

第130号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第209図 1	甕 土師器	A [23.4] B (10.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。	石英・長石・雲母 暗赤褐色 普通	P851 竈内　20%

第131号住居跡（第210図）

位置　調査A区西部，B7f4区。

規模と平面形　長軸3.70m，短軸2.60mで，長方形である。

主軸方向　N－72°－E

壁　壁高は14～22cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西から南側壁下で確認した。上幅15～20cm，下幅４～６cm，深さ４cmで，断面形はU字形である。

床　平坦である。

竈　東壁やや南東コーナーを壁外へ70cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ113cm，両袖間の最大幅90cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は，楕円形に８cm

ほど掘りくぼめられている。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子中量
2　暗赤褐色　焼土・炭化粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量
5　赤　褐　色　焼土大ブロック多量
6　極暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土・炭化粒子少量

貯蔵穴　南部から確認されている。径54cmの円形で，深さ30cmである。

貯蔵穴土層解説

1　黒　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

ピット　P_1は径16cmの円形で，深さ10cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。

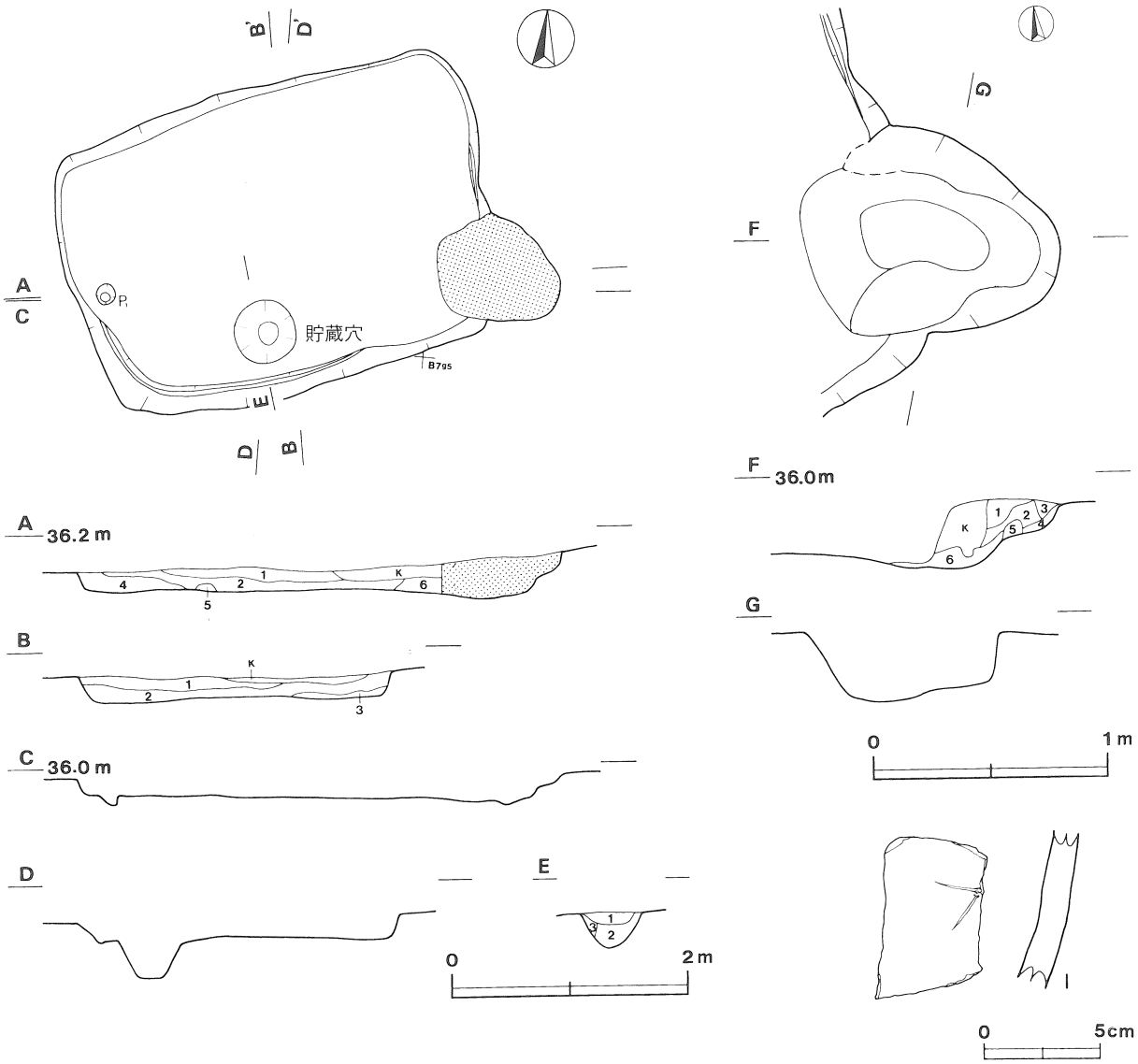
覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子中量
2　黒　　色　ローム粒子少量
3　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片71点が出土している。第210図1は土師器甕で，竈内から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀後葉と思われる。



第210図　第131号住居跡・出土遺物

第131号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第210図 1	甕 土師器	B（6.9）	体部片。	内・外面ナデ	石英・雲母 浅灰色 普通	P852　5％ 竈内 体部外面刻書

第132号住居跡（第211図）

位置　調査B区西部，C5e7区。

重複関係　本跡は，第360・361・362号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸2.83m，短軸2.77mで，隅丸方形である。

主軸方向　N－82°－E

壁　壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西壁から北側壁下で確認した。上幅8～12cm，下幅6～9cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　平坦である。特に，中央部が踏み固められている。

竈　東壁やや北東コーナーを壁外へ62cmほど掘り込み，付設されている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ75cm，両袖間の最大幅（63）cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は，楕円形に15cmほど掘りくぼめられている。煙道部は火床部から緩やかに立ち上がる。

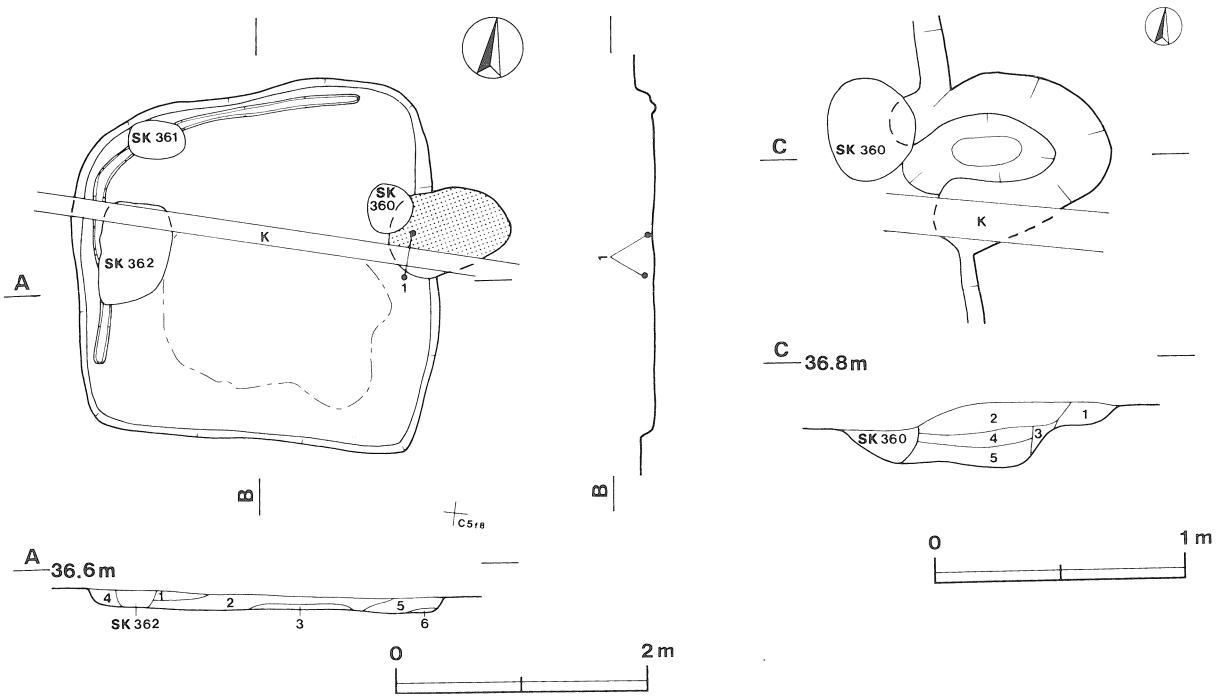
竈土層解説

1　暗褐色　焼土・ローム粒子少量
2　暗褐色　焼土・ローム粒子少量，炭化物微量
3　暗褐色　焼土・ローム粒子・炭化物微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
5　黒褐色　焼土・ローム粒子・炭化物微量

覆土　6層からなる人為堆積である。

土層解説

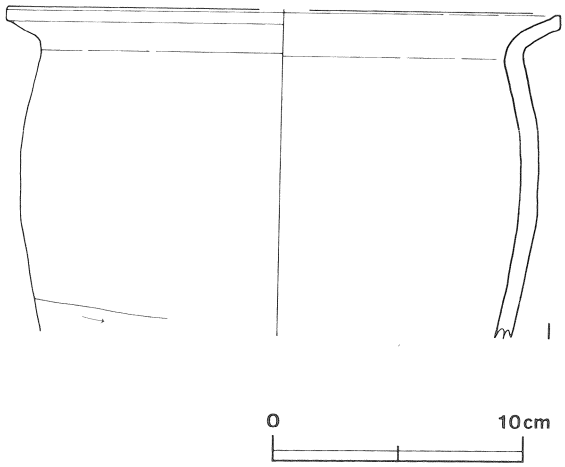
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒褐色　焼土・炭化・ローム粒子・ローム中ブロック微量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量，焼土粒子微量
6　黒　色　炭化・ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量



第211図　第132号住居跡

遺物　土師器片74点，須恵器片６点，灰釉陶器片１点が出土している。第212図１は土師器甕で，竈内から出土している。灰釉陶器片は細片で覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から９世紀後葉と思われる。



第212図　第132号住居跡出土遺物

第132号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第212図 1	甕 土師器	A〔22.2〕 B（12.9）	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P853　10% 竈内

第133号住居跡（第213図）

位置　調査E区西部，E1c4区。

規模と平面形　東西（0.4）m，南北（1.5m）で，大部分が調査区域外に延びているため，平面形は不明である。

主軸方向　〔N－17°－W〕

壁　壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

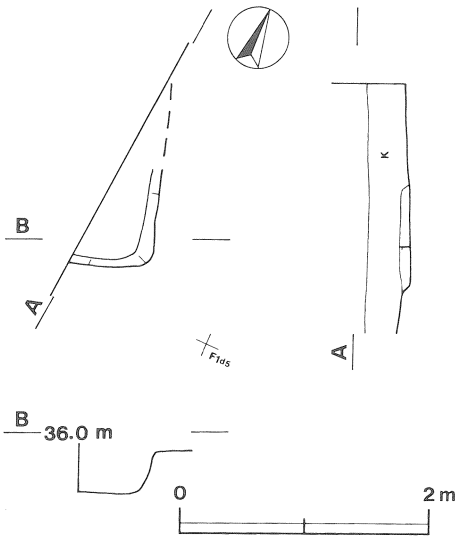
床　平坦である。

覆土　単一層で，自然堆積であると思われるが，撹乱層が多い。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片18点，須恵器片２点が出土しているが，いずれも細片である。

所見　出土遺物が細片であり，時期は不明である。



第213図　第133号住居跡

第134号住居跡（第214図）

位置　調査D区中央部，D3c0区。

規模と平面形　長軸〔3.50〕m，短軸〔3.36〕mで，方形と思われる。

主軸方向　N－14°－W

壁　壁高は13～15cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

竈　北壁中央に付設されているが，煙道部は撹乱を受けている。規模は，焚き口部から煙道部までの長さ（55）

cm，両袖間の最大幅56cmである。両袖部とも砂質粘土で構築されている。火床部は14cmほど掘りくぼめられている。

竈土層解説

1　褐　　色　焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
2　黒　褐　色　焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
3　にぶい黄褐色　焼土小ブロック少量
4　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量
5　暗　褐　色　焼土粒子中量，ローム中ブロック微量

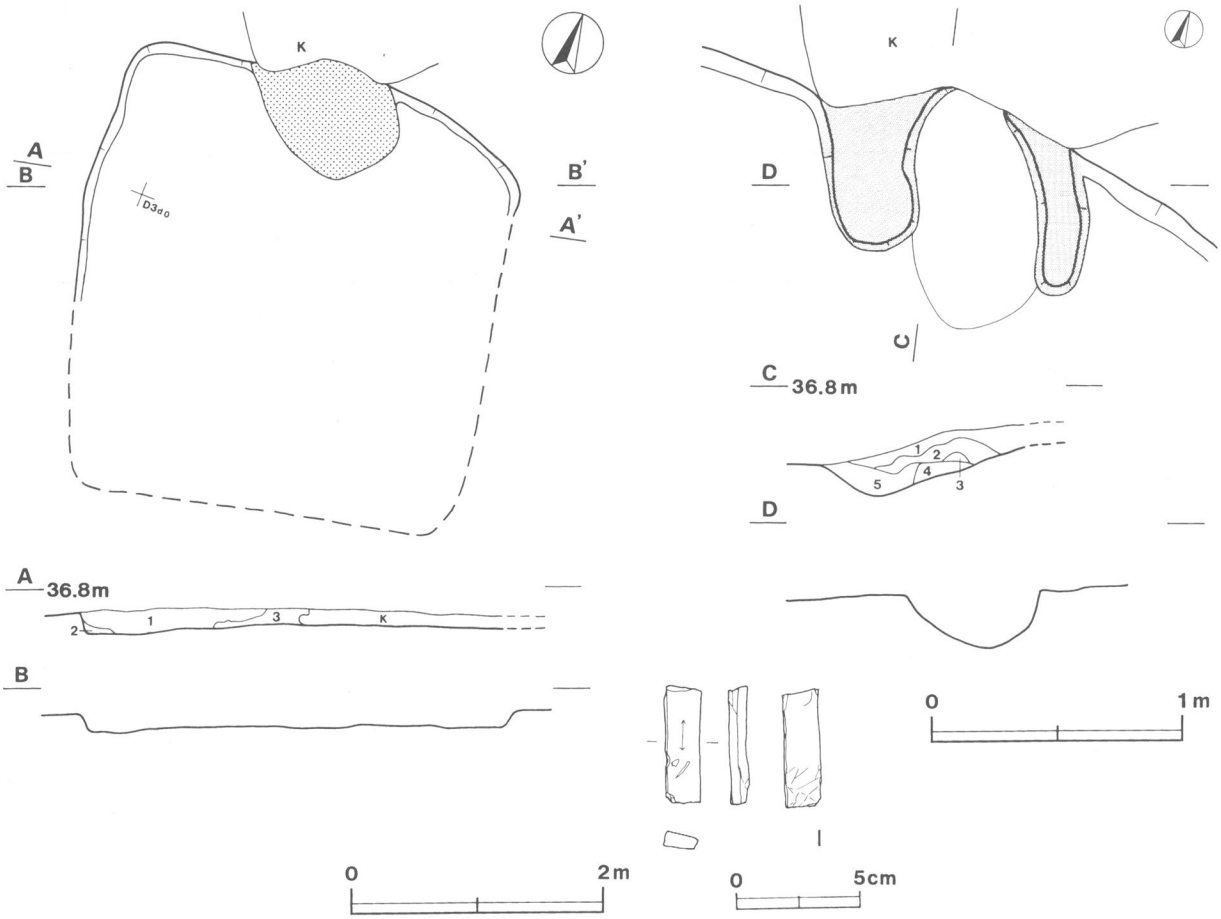
覆土　3層からなる人為堆積である。

土層解説

1　暗 褐 色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
2　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
3　褐　　色　粘土粒子中量，焼土・ローム粒子少量

遺物　出土遺物は，土師器の細片と石製品1点である。第214図1は砥石で，覆土中から出土している。

所見　出土遺物が細片であり，時期は不明である。



第214図　第134号住居跡・出土遺物

第134号住居跡出土石製品観察表

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考
		長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）			
1	砥　石	(4.7)	1.6	0.7	(8.0)	粘板岩	覆土中	Q54　70%

第135号住居跡（第215図）

位置　調査D区東部，D4b5区。

重複関係　本跡は，第368・369号土坑，第６号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長軸4.00m，短軸3.47mの長方形である。

主軸方向　N－90°－E

壁　壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認した壁下を全周している。上幅14～20cm，下幅6～10cm，深さ８cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，特に中央部が踏み固められている。

竈　北壁やや中央部から焼土・粘土粒子が検出され，竈の袖部跡と思われる。

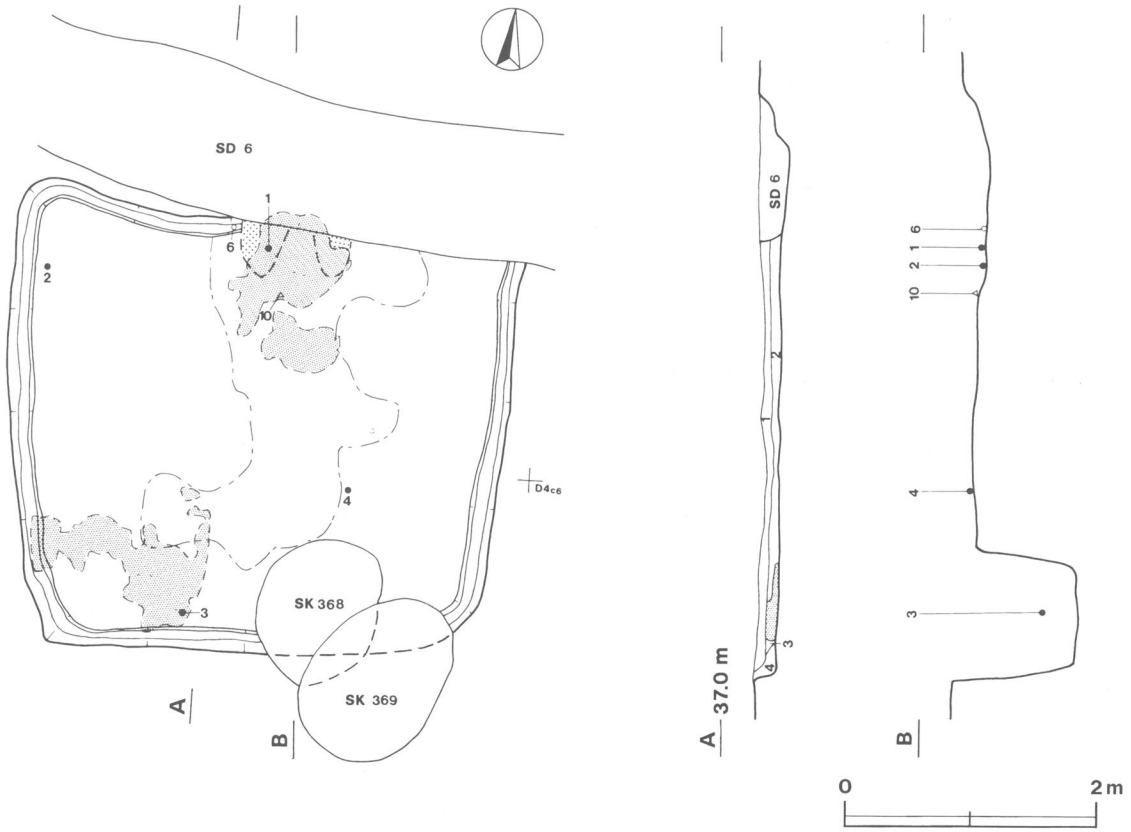
覆土　４層からなる自然堆積である。

土層解説

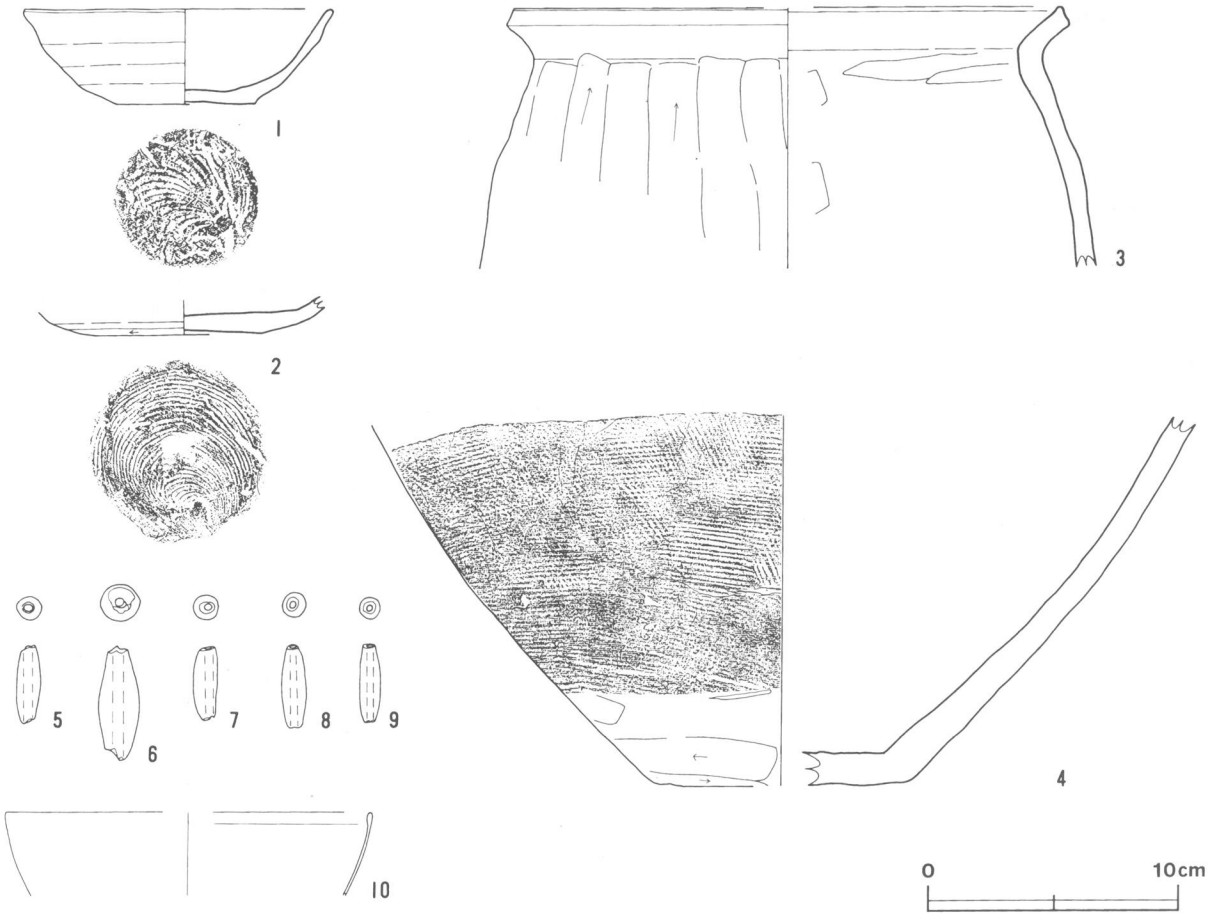
1	暗褐色	炭化・焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	3	暗褐色	焼土大・中・小ブロック多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
2	暗褐色	炭化・ローム粒子少量	4	黒褐色	ローム粒子中量，焼土・炭化粒子微量

遺物　土師器片123点，須恵器片７点，土製品６点，銅製品１点が出土している。第216図１・２は土師器坏で，１は北部の床面から，２は北西部の床面から出土している。３は土師器甕で，南部の覆土下層から出土している。４は須恵器甕で，中央部の床面から出土している。５～９は管状土錘で，いずれも覆土中から出土している。10は銅鋺で，北部の床面から出土している。

所見　本跡の床面からは，住居跡の南西部を中心に炭化材と焼土が検出され，床面も焼き締っており，焼失家屋と思われる。本跡の時期は，出土遺物から10世紀前葉と思われる。



第215図　第135号住居跡



第216図　第135号住居跡出土遺物

第135号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第216図 1	坏 土師器	A 12.3 B 3.8 C 5.6	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石英・長石 にぶい橙色 普通	P854　80% 北部床面
2	坏 土師器	B (1.4) C 6.5	底部片。平底。	底部回転糸切り。	長石・スコリア にぶい黄橙色 普通	P855　10% 北西部床面
3	甕 土師器	A [21.8] B (10.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面横ナデ。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P856　10% 南部覆土下層
4	甕 須恵器	B (14.8) C [10.2]	底部から体部中位にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面横方向の平行叩き。体部下端ヘラ削り。	石英・長石 灰色 良好	P857　20% 中央部床面 新治窯産

土製品観察表

図版番号	種　別	計測値				出土地点	備　考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	管状土錘	(3.1)	1.0	0.4	(2.3)	覆土中	DP109　90%
6	管状土錘	(4.5)	1.2	0.4	(6.5)	覆土中	DP110　90%
7	管状土錘	2.9	1.0	0.3	2.6	覆土中	DP111　100%
8	管状土錘	3.3	1.0	0.3	3.0	覆土中	DP112　100%
9	管状土錘	3.1	0.9	0.3	2.3	覆土中	DP113　100%

金属製品観察表

図版番号	種　別	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	備　考
10	銅　鋺	A [14.5] B (3.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁端部は肥厚させている。		M82　10% 北部床面

第136号住居跡（第217図）

位置　調査D区東部，D4as区。

規模と平面形　長軸3.35m，短軸3.00mの方形である。

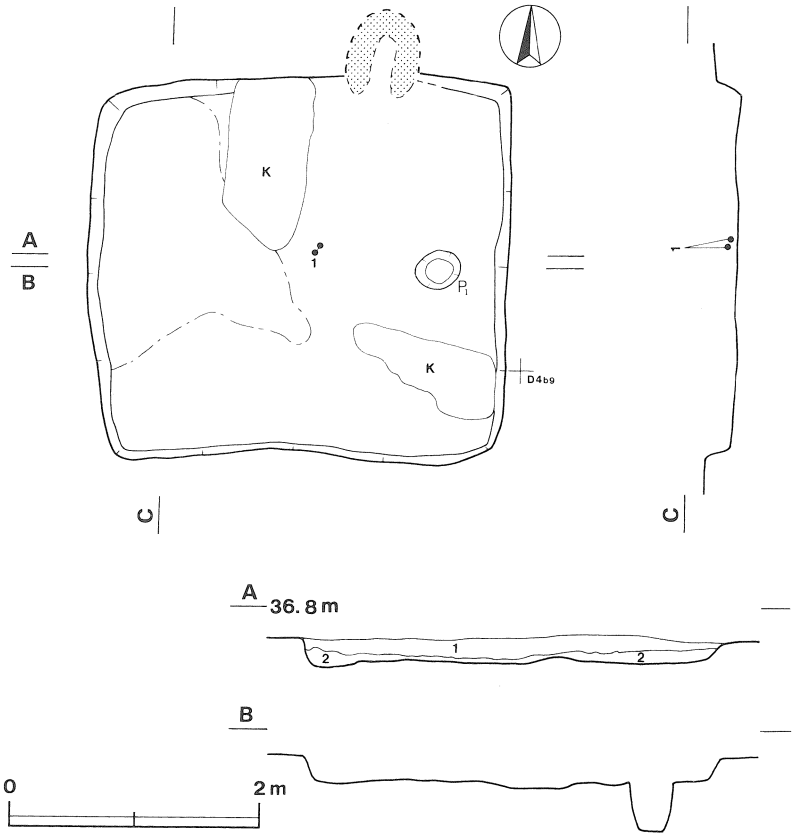
主軸方向　N－1°－W

壁　壁高は20～22cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

竈　北壁やや東寄りから竈の痕跡が確認できた。袖幅〔60〕cm，長さ〔70〕cmと推定され，焼土・粘土粒子が検出された。

ピット　P1は長径36cm，短径30cmの楕円形で，深さ40cmである。性格は不明である。



第217図　第136号住居跡

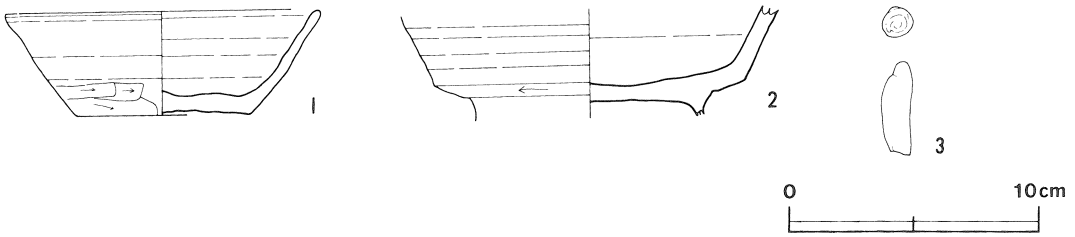
覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子中量　　2　暗 褐 色　ローム粒子少量

遺物　土師器片74点，須恵器片20点，土製品1点，縄文土器片6点が出土している。第218図1は須恵器坏，2は須恵器高台付坏で，いずれも中央部の覆土下層から出土している。3は管状土錘で，覆土中から出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から9世紀前葉と思われる。



第218図　第136号住居跡出土遺物

第136号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備　考
第218図 1	坏 須 恵 器	A 12.6 B 4.2 C 7.0	体部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P858　80% 中央部覆土下層
2	高台付坏 須 恵 器	B (4.4) E (1.0)	台部欠損。底部から体部下位にかけての破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	石英・長石 灰色 普通	P859　40% 中央部覆土下層

土製品観察表

図版番号	種　別	計 測 値				出 土 地 点	備　考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
3	管状土錘	(3.7)	1.3	—	4.8	覆土中	DP114　100%

第137号住居跡（第219図）

位置　調査D区東部，C4j6区。

規模と平面形　北西コーナー部が調査区域外に延びているが，長軸4.58m，短軸4.00mで，方形と思われる。

主軸方向　N－89°－W

壁　壁高は50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認した壁下を全周している。上幅12～20cm，下幅4～10cm，深さ10cmで，断面形はU字形である。

床　平坦である。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は径32cmの円形で，深さ40cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。P_2は径30cmの円形で，深さ16cmである。性格は不明である。

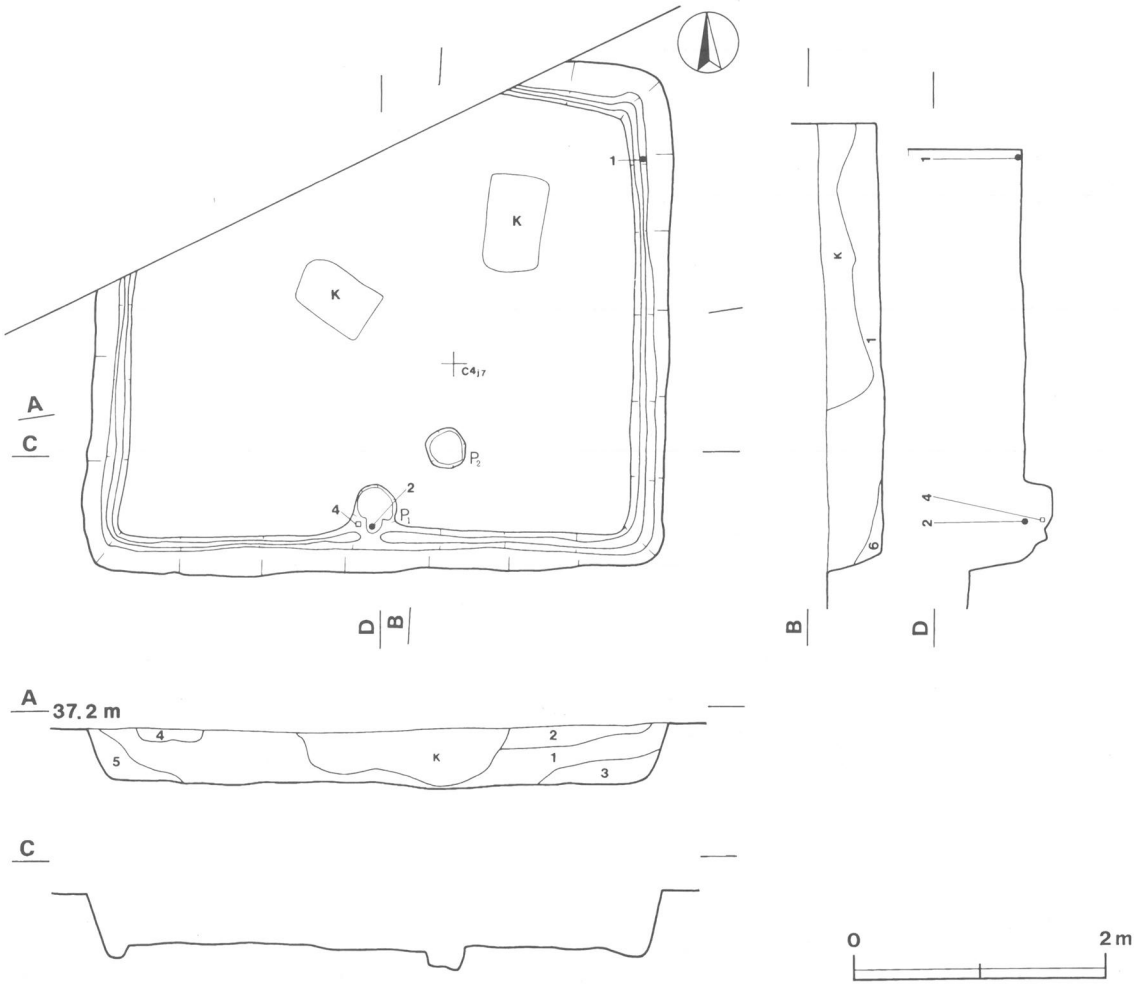
覆土　6層からなる人為堆積である。

土層解説

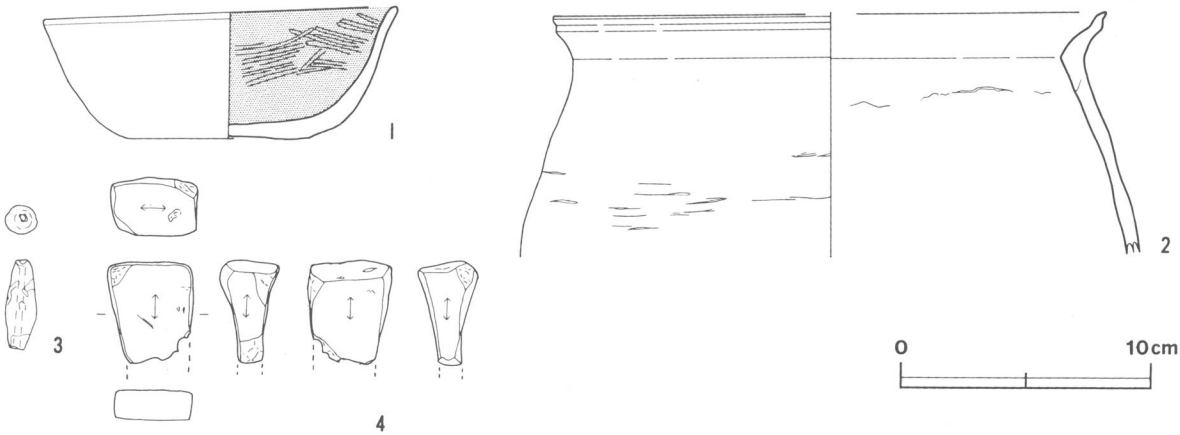
1　極暗褐色　焼土・炭化・ローム粒子少量，ローム大・小ブロック粒子微量
2　黒 褐 色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
5　黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
6　黒 褐 色　ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物　土師器片317点，須恵器片86点，土製品１点，石製品１点，縄文土器片７点が出土している。第220図１は土師器椀で，北東部の壁溝内から出土している。２は土師器甕で，P1の覆土上層から出土している。３は管状土錘で，覆土中から出土している。４は砥石で，P1の覆土下層から出土している。縄文土器片は流れ込みである。

所見　本跡の時期は，出土遺物から９世紀後葉と思われる。



第219図　第137号住居跡



第220図　第137号住居跡出土遺物

第137号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第220図 1	椀 土師器	A 13.9 B 5.3 C 7.3	体部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き後，黒色処理。底部回転糸切り後，ナデ。	長石 橙色 普通	P860 80% 北東部壁溝
2	甕 土師器	A [22.2] B (9.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。輪積み痕。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P861 20% P_1覆土上層

土製品観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
3	管状土錘	(3.6)	1.3	0.3	(4.8)	覆土中	DP115 80%

石製品観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	砥石	(4.1)	3.4	1.3～1.8	(33.1)	凝灰岩	P_1覆土下層	Q55 50%

表2　下り松遺跡住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面図	規模 長軸×短軸 東西×南北	壁高(cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係(新→旧)
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	竈	貯蔵穴	不明ピット			
1	$B9_{e1}$	N－3°－W	[隅丸方形]	3.10×(1.60)	20～28	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器(甕)，瓦片	
2A	$B8_{e9}$	N－87°－W	長方形	3.30×2.60	20	平坦	－	－	1	東	－	－	自然	土師器(高台付坏)，須恵器片，土製品(管状土錘)	本跡→SI2B
2B	$B8_{e9}$	N－7°－E	隅丸方形	4.10×3.45	30	平坦	－	－	－	北	－	－	自然	土師器(坏，小皿)，土製品(管状土錘)	SI2A→本跡
3	$B8_{c8}$	N－0°	方形	3.45×3.40	5	平坦	－	1	－	北東	－	2	自然	土師器片	SK291・292→本跡
5	$B8_{f7}$	N－2°－W	[方形]	2.90×(2.65)	6	平坦	－	－	－	－	－	1	自然	土師器(甕)	S16→本跡
6	$B8_{f6}$	N－3°－W	方形	3.93×3.65	48～55	平坦	一部	－	1	北	－	2	自然	土師器(甕)，須恵器(坏)，鉄滓	本跡→SI5
7	$B8_{h4}$	N－82°－E	長方形	3.35×2.70	30～40	平坦	全周	－	－	東	－	－	人為・自然	土師器(坏，椀，高台付椀，甕)，鉄滓	SK293・294→本跡
8	$B8_{f3}$	N－85°－E	長方形	3.80×3.10	16～22	平坦	全周	－	－	東	－	1	自然	土師器(坏，高台付坏，甕)，鉄滓	SK21→本跡
9	$B8_{a5}$	[N－5°－W]	[方形]	6.60×(5.50)	40～42	平坦	全周	4	－	北	－	4	人為・自然	土師器片，須恵器(坏)，灰釉陶器片，縄文土器片，石鏃	
11	$B8_{f2}$	N－84°－E	隅丸長方形	3.00×2.40	17	平坦	－	－	－	東	－	－	自然	土師器(小皿，椀，高台付坏，甕，甑)，須恵器(甕)，土製品(管状土錘)，鉄製品(刀子)，縄文土器片，石核	
12	$B8_{h2}$	N－6°－W	方形	3.55×3.45	25～37	平坦	全周	－	－	北	－	－	自然	土師器(坏，高台付坏，甕)，土製品(紡錘車)，剥片	SK9・10→本跡→SI13
13	$B8_{h2}$	N－83°－E	長方形	3.25×2.45	30	平坦	全周	－	－	東	－	－	自然	土師器(坏，甕)，縄文土器片，石核	SI12→本跡
14	$B8_{i3}$	N－12°－W	不明	3.46×(1.80)	45	平坦	一部	－	－	北	－	－	人為	土師器(坏，椀，甕)，須恵器(坏，高台付坏，甕)，鉄滓	
15	$B7_{d9}$	N－3°－W	[方形]	6.60×(6.40)	34～38	平坦	全周	4	－	北	－	－	人為	土師器(坏)，須恵器(坏，蓋)，鉄滓	
16	$B7_{j9}$	N－88°－E	不整長方形	3.20×2.30	20	平坦	－	－	1	東	－	－	人為	土師器(小皿，甕)，鉄滓	本跡→SI17

住居跡番号	位置	主軸方向	平面図	規模 長軸×短軸 東西×南北	壁高 (cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	出入口ピット	竈	貯蔵穴	不明ピット	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(新→旧)
17	$B7_{i9}$	N－4°－W	長方形	3.65 × 2.80	30		全周	－	－	北	－	－	自然	土師器(坏，甕，甑)，土製品(紡錘車)，鉄滓	SI16→本跡
18	$B7_{j0}$	[N－89°－W]	長方形	3.15 × 2.30	32	平坦	全周	－	－	東	－	－	自然	土師器(坏，甕)，鉄製品(鎌)	SK6→本跡
20	$B7_{a7}$	N－12°－W	方形	3.55 × 3.50	40～45	平坦	全周	－	－	北	－	－	自然	土師器(坏，甕)，須恵器(蓋)，灰釉陶器，瓦片	SI21・SK77→本跡
21	$B7_{c7}$	不明	不明	不明	不明	平坦	－	－	－	北	－	－	－	土師器片	本跡→SI20
23	$C7_{c5}$	不明	不明	(3.60)×(2.30)	40	－	一部	－	－	－	－	－	自然	土師器(小皿，高台付坏，甕，椀)，不明鉄製品	
24	$C7_{b4}$	[N－2°－E]	不明	不明	不明	平坦	－	－	－	北	－	－	－	土師器片	
25B	$C7_{c3}$	N－4°－E	方形	3.55 × 3.40	60	平坦	全周	－	1	北	－	－	人為	土師器(坏，甕)，須恵器(坏)	本跡→SI25A
25A	$C7_{c3}$	不明	円形	3.90 ×[3.75]	50～60	二段	－	－	－	－	－	－	自然	縄文土器片	SI25B→本跡
26	$C6_{c8}$	N－6°－E	不明	3.60 ×(0.80)	20	平坦	－	－	－	北	－	－	自然	土師器片，須恵器片	SK108→本跡
27	$C6_{b2}$	N－89°－W	不明	4.10 ×(3.40)	40～50	平坦	全周	－	－	東	－	－	自然	土師器(鉢，甕)，須恵器(坏)，灰釉陶器，瓦片，鉄滓	
28A	$C6_{d4}$	N－7°－W	方形	3.35 × 3.10	35	平坦	全周	－	－	北	－	5	自然	土師器(甕)，土製品(管状土錘)，銅製品(小型銅造仏)	SI28B→本跡
28B	$C6_{d3}$	N－87°－E	長方形	3.85 × 3.25	30	平坦	－	－	1	東	－	1	自然	土師器(坏，小皿，甕)，灰釉陶器片，土製品(管状土錘)	本跡→SI28A
29	$C6_{h3}$	N－90°－E	長方形	2.90 × 2.60	5	平坦	全周	－	－	東	－	1	人為	土師器(坏，高台付坏)，緑釉陶器片，丸瓦，砥石	本跡→SB4→SB1
30	$C6_{g2}$	N－85°－W	不整長方形	3.80 × 3.20	20	微傾斜	全周	－	－	東	－	1	人為	土師器(高台付坏，甕)，土製品(管状土錘)，凹石	本跡→SB4
31	$C6_{f2}$	[N－2°－W]	不明	3.60 ×(2.35)	30	平坦	一部	－	1	－	－	－	人為	土師器(坏，高台付坏，甕)，須恵器(坏，皿)，土製品(管状土錘)	
32	$C6_{f1}$	N－90°－E	長方形	3.80 × 3.15	33	平坦	一部	－	－	東	－	－	自然	土師器(高台付坏，台付甕)，灰釉陶器(瓶，壺)，土製品(管状土錘)，鉄製品(刀子，鎌)	SI34→本跡→SI33
33	$C6_{f1}$	不明	不明	不明	40	平坦	－	－	－	北	－	－	自然	土師器(高台付坏)，須恵器(皿)，灰釉陶器(瓶)，鉄製品(刀子，紡錘車)	SI32・34→本跡
34	$C5_{i0}$	N－4°－E	隅丸方形	3.80 × 3.60	50	平坦	全周	－	1	北	－	2	自然	土師器(坏，高台付坏，甕)土製品(管状土錘)	本跡→SI32・33・35
35	$C5_{f9}$	N－8°－E	方形	4.70 × 4.65	40	平坦	全周	4	1	北	－	－	人為・自然	土師器(坏，甕，甑)，須恵器(坏)，不明鉄製品	SI34→本跡
36	$C6_{e2}$	N－23°－E	方形	3.80 × 3.60	不明	平坦	一部	－	－	－	－	3	－	土師器(坏，高台付坏，甕)，鉄製品(鎌)	SK365→本跡
37A	$C6_{h1}$	N－0°	方形	3.95 × 3.85	10～25	平坦	全周	－	－	北	－	－	人為・自然	土師器(坏，高台付坏，甕)，須恵器(坏)，灰釉陶器(皿)，鉄製品(刀子，鎌)	SI37B・SB3→本跡
37B	$C6_{h1}$	N－85°－E	長方形	2.40 × 2.15	10	平坦	一部	－	－	東	－	1	人為・自然	土師器(甑)，鉄製品(刀子)	SB3→本跡→SI37A
38A	$C6_{i8}$	N－85°－E	不明	3.60 ×(2.10)	10	平坦	一部	1	－	東	－	2	自然	土師器(高台付坏，台付甕，甕)灰釉陶器(椀)	本跡→SI38B
38B	$C5_{i8}$	N－5°－W	不明	3.20 ×(1.10)	5	平坦	一部	－	－	－	－	1	自然	土師器片	SI38A→本跡
40	$C5_{g8}$	N－88°－E	長方形	3.15 × 2.83	20	平坦	一部	－	－	東	－	－	自然	土師器(坏，高台付坏，甕)	SK263→本跡
41	$C5_{h8}$	N－11°－W	方形	3.15 × 3.15	35	平坦	一部	－	1	北	－	－	自然	土師器(坏，甕)，須恵器(坏，甕)，鉄製品(鎌，紡錘車)	
42	$C5_{j8}$	N－13°－E	方形	4.10 × 3.90	50	平坦	全周	－	1	北	－	－	自然	土師器(坏，台付甕，甕)，須恵器(坏，蓋)，鉄製品(刀子)	
43	$D5_{a8}$	N－15°－W	[長方形]	5.00 ×(4.00)	10～23	平坦	一部	－	－	北	－	－	人為	土師器(坏，甕)，須恵器(坏)	
44	$C5_{i4}$	N－8°－W	隅丸長方形	5.80 × 5.20	18～25	平坦	全周	4	1	北	－	－	人為・自然	土師器(坏，盤，甕)，須恵器(坏，蓋)，土製品(土玉)，石製品(紡錘車)，鉄製品(鎌，不明鉄製品)	本跡→SI45

住居跡番号	位置	主軸方向	平面図	規模 長軸×短軸 東西×南北	壁高 (cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	出入口ピット	竈	貯蔵穴	不明ピット	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（新→旧）
45	C5$_{f4}$	N－77°－E	方形	5.20 × 5.00	15	平坦	全周	4	1	北	－	－	人為・自然	土師器(坏)，須恵器（蓋）	SI44→本跡
46	D4$_{d5}$	N－0°	長方形	4.05 × 3.05	15	平坦	全周	－	2	北	－	4	自然	土師器（坏，高台付坏，甕），須恵器（甕），灰釉陶器片，土製品（管状土錘），鉄製品（鎌）	
47	D4$_{e6}$	N－5°－W	長方形	3.30 × 3.00	30～33	段差	一部	－	1	北	－	4	自然	土師器（坏，高台付坏，甕），須恵器（坏，台付甕），灰釉陶器（長頸瓶），土製品（管状土錘）瓦	本跡→SK374
48	D4$_{g6}$	N－9°－W	長方形	4.40 × 3.65	40	平坦	全周	－	1	北	－	－	人為・自然	土師器（坏，甕，台付甕），須恵器（坏，蓋，円面硯），灰釉陶器（小瓶），石製品（紡錘車）	SI49→本跡
49	D4$_{g5}$	N－2°－W	方形	4.15 × 4.10	25	微傾斜	全周	－	1	北	－	－	人為・自然	土師器（坏，椀，高台付皿，壺）須恵器（坏），灰釉陶器（椀），石製品（砥石），鉄製品（鎌），瓦	本跡→SI48
50A	D4$_{c3}$	不明	［長方形］	5.45 × 3.25	20	平坦	一部	－	－	(北)	－	2	人為・自然	土師器（坏），須恵器（坏），土製品（管状土錘）	SI50B・50C・50D→本跡→SI51
50B	D4$_{c3}$	N－87°－W	長方形	3.45 × 2.90	19	平坦	一部	－	－	東	－	－	自然	土師器（高台付坏，椀，高坏），須恵器（甕），土製品（管状土錘），不明鉄製品	本跡→SI50A・50C・50D
50C	D4$_{c3}$	不明	不明	不明	19	平坦	一部	－	－	北東	－	－	不明	土師器（甕）	SI50A·50B·50D→本跡
50D	D4$_{c3}$	N－3°－E	長方形	3.40 × 2.60	19	平坦	一部	－	－	北	－	－	人為	土師器（坏，高台付坏），土製品（管状土錘，紡錘車）	SI50B→本跡→SI50A・50C
51	D4$_{d4}$	N－87°－W	方形	3.25 × 3.10	11	平坦	一部	－	－	東	－	－	自然	土師器（坏，甕）	SI50A·SK197·198·273·274→本跡
52	D4$_{e4}$	N－8°－W	［長方形］	3.15 ×(2.00)	13	平坦	一部	－	－	北	－	－	自然	土師器（坏），土製品（管状土錘），鉄製品（鎌）	SI53→本跡
53	D4$_{e4}$	N－2°－E	長方形	5.00 × 3.50	20	平坦	全周	－	1	北	－	－	人為・自然	土師器（坏，甕），土製品（管状土錘），鉄製品（鎌）	本跡→SI52
54A	D4$_{f4}$	N－10°－W	長方形	3.56 × 3.22	26	平坦	全周	－	－	北	－	－	自然	土師器（坏，高台付坏，甕，甑）須恵器（坏），土製品（管状土錘），鉄製品（鎌），古銭	SK272→本跡→SI54B
54B	D4$_{f4}$	N－11°－W	不明	3.25 ×(1.16)	13	平坦	一部	－	1	北	－	－	自然	土師器（皿），須恵器（甕）	SI54A→本跡
55A	D4$_{g3}$	N－2°－W	不明	4.20 ×(2.50)	40	平坦	一部	－	－	北	－	－	人為	土師器（高台付皿，甕），須恵器（坏），土製品（管状土錘）	SI55B→本跡→SI55C
55B	D4$_{g3}$	N－2°－W	不明	5.03 ×(3.02)	28	平坦	一部	2	－	北	－	2	自然	土師器（坏，高台付皿，甕，甑）須恵器（坏，高台付坏，甕），灰釉陶器（長頸瓶），土製品（管状土錘），鉄製品（刀子，鎌，不明鉄製品），古銭	本跡→SI55A・55C
55C	D4$_{h3}$	［N－8°－E］	不明	不明	30	－	－	－	－	北	－	－	自然	土師器片	SI55A・55B→本跡
56	D4$_{e3}$	N－2°－W	長方形	3.25 × 2.95	－	平坦	－	－	－	北	－	－	－	土師器（坏，甕）	SI53・58→本跡→SI57・59
57	D4$_{e3}$	不明	不明	3.15 ×(1.50)	－	平坦	－	－	－	－	－	－	－	土師器片	SI53・56→本跡
58	D4$_{e2}$	N－0°	方形	3.70 × 3.70	34	平坦	全周	－	1	北	－	2	自然	土師器（高台付椀，甑），須恵器（坏），灰釉陶器（椀），土製品（管状土錘，紡錘車）	SI60・61・SK201・SE2→本跡→SI56・59
59	D4$_{f3}$	N－12°－W	方形	3.46 × 3.44	22	平坦	全周	－	－	北	－	－	人為	土師器（坏，甕），須恵器（坏），土製品（管状土錘）	SI58・61・SE2・SK279→本跡
60	D4$_{f2}$	N－7°－W	長方形	3.58 × 2.60	21	平坦	全周	－	－	北(2)	－	－	自然	土師器（坏，高台付坏，甕，甑）須恵器（甕），土製品（管状土錘），鉄製品（鎌）	SI61→本跡→SI58
61	D4$_{f2}$	N－84°－E	長方形	3.38 × 2.34	－	平坦	－	－	－	東	－	－	－	土師器（小皿，甕）	SE2→本跡→SI58～60

住居跡番号	位置	主軸方向	平面図	規模 長軸×短軸 東西×南北	壁高 (cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	出入口ピット	竈	貯蔵穴	不明ピット	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（新→旧）
62	$D4_{g1}$	N－10°－W	長方形	3.87 × 3.47	20～22	平坦	－	－	1	北	－	－	自然	土師器（坏，高台付坏，甕，羽釜），須恵器（蓋，甕），鉄製品（刀子，不明鉄製品）	
63	$D4_{e1}$	N－90°－E	長方形	3.80 × 3.05	11	平坦	一部	－	－	北東・東	－	－	人為	土師器（坏，高台付椀，甕，甑）須恵器（坏），灰釉陶器（椀），鉄製品（刀子），丸瓦	SK276～278→本跡→SI64
64	$D4_{e1}$	N－0°	方形	3.50 × 3.45	23	平坦	一部	－	－	北	－	－	人為	土師器（台付皿，高台付坏，甑）須恵器（坏），土製品（管状土錘），不明鉄製品	SI63・66・SK214・215・276～278→本跡
65	$D3_{d9}$	N－10°－W	不明	3.23 ×(1.64)	14～19	平坦	一部	－	1	－	－	－	自然	自然土師器片，須恵器片	
66	$D3_{e0}$	N－90°－E	隅丸長方形	3.80 × 2.50	10	平坦	一部	－	－	北	－	－	人為	土師器（坏，甕），土製品（管状土錘），鉄製品（刀子）	SK268・270→本跡→SI64・67
67	$D3_{f0}$	N－17°－W	方形	4.20 × 3.90	32	平坦	一部	－	1	北	－	1	人為	土師器（坏，椀），須恵器（坏，高台付坏，蓋），土製品（紡錘車）鉄製品（鎌）	SI66・SK270・280～282→本跡→SI68
68	$D3_{f9}$	N－7°－E	隅丸方形	3.20 × 3.00	15	平坦	一部	－	1	北	－	－	自然	土師器（坏，高台付坏），須恵器（坏，蓋）	SI67・SK222・271・281→本跡
69	$D3_{e8}$	N－12°－W	方形	5.30 × 5.10	30	平坦	一部	2	－	－	－	－	自然	土師器（坏，鉢），須恵器（坏，鉢甕），石製品（切子玉），鉄製品（不明鉄製品）	本跡→SK267
70	$D3_{f7}$	N－6°－W	隅丸長方形	3.80 × 2.90	15	平坦	全周	－	1	北	－	1	自然	土師器(坏),石器(スクレイパー)	SK226→本跡
71	$D3_{g2}$	N－5°－W	隅丸長方形	3.20 × 2.50	45～50	平坦	全周	－	－	北	－	－	自然	土師器（坏，甕），須恵器（坏，蓋），土製品（管状土錘）	本跡→SI72
72	$D3_{f2}$	N－15°－W	［長方形］	6.00 ×(3.50)	35	平坦	一部	2	1	－	－	－	自然	土師器（坏），須恵器（坏，高台付坏，蓋），鉄製品（鎌，不明鉄製品）	SI71→本跡
73A	$D3_{g3}$	N－15°－W	不明	2.20 ×(1.00)	40	平坦	－	－	－	北	－	－	人為	土師器（坏，椀，甕）	SI73B→本跡
73B	$D3_{g2}$	N－72°－E	不明	3.20 ×(1.10)	35	平坦	－	－	－	東	－	－	自然	土師器（坏）	SK320→本跡→SI73A
74	$D2_{g0}$	N－9°－W	［長方形］	3.50 ×(1.40)	30	平坦	一部	－	－	－	－	－	自然	土師器（椀，甕），須恵器（坏，高台付坏，甕）	
75	$E2_{a8}$	N－4°－W	隅丸長方形	6.00 × 3.40	25	平坦	一部	－	－	－	－	－	自然	土師器(椀,高台付椀,小皿,甕壺),丸瓦，銅製品（鞘尻），鉄滓	SI84・SK322・SE5→本跡
76	$D2_{j0}$	N－85°－W	［長方形］	2.70 ×(1.60)	30	平坦	一部	－	－	東	－	1	自然	土師器(皿,小皿,椀,甕)，丸瓦	SK284・285→本跡
77	$C4_{j1}$	N－0°	［長方形］	4.30 ×(3.10)	16	平坦	一部	－	－	北	－	－	自然	土師器（坏，高台付坏，甕，甑）	SK315→本跡
78	$D2_{j0}$	N－87°－E	長方形	4.00 × 3.00	15～20	平坦	一部	－	－	東	－	1	自然	土師器（坏），灰釉陶器（長頸瓶，椀）	SK316・318→本跡→SK233・317・319
79	$E3_{a1}$	N－0°	不明	不明	30	平坦	－	－	－	北	－	－	自然	土師器（坏），須恵器（坏，高台付坏）	SI80・81B・SK323→本跡
80	$E2_{a0}$	N－80°－E	方形	3.80 × 3.50	25	平坦	－	－	－	北・東	－	－	自然	土師器（坏，椀，甕），灰釉陶器（壺）	SK312・313・323→本跡→SI79
81A	$E3_{b1}$	不明	不明	不明	5	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器片，須恵器片	SI81B・81C→本跡
81B	$E3_{b1}$	N－80°－E	方形	4.20 × 4.10	45	平坦	－	－	－	東	－	－	自然	師器（坏，椀，甕），灰釉陶器（壺），土製品（管状土錘），鉄製品（鋤先），石製品（砥石，双孔円板）	SI81C→本跡→SI81A
81C	$E3_{c1}$	N－0°	長方形	3.70 × 3.40	70	平坦	－	－	－	北	－	－	自然	土師器（坏），須恵器（坏），鉄製品（刀子）	本跡→SI81A・81B
82	$D2_{i2}$	N－82°－W	［長方形］	3.80 ×(3.50)	80	平坦	一部	－	－	東	－	－	自然	土師器（坏，甕），須恵器（坏，甕），鉄製品（刀子，不明鉄製品），土製品（管状土錘），古銭	SI83→本跡
83	$D2_{j8}$	N－0°	長方形	4.10 × 3.00	35	平坦	全周	－	－	北	－	1	自然	土師器（坏，小皿，高台付椀，甕），土製品（管状土錘），鉄滓	本跡→SI82・84
84	$E2_{a8}$	N－3°－W	［長方形］	(3.60)× 2.60	30	平坦	一部	－	－	(北)	－	－	人為	土師器（坏，高台付椀，鉢，皿，甕），鉄製品（鎌，刀子）	SI83→本跡→SI75
87	$E2_{c9}$	N－8°－W	隅丸方形	2.68 × 2.47	11～14	平坦	全周	－	1	北	－	－	自然	土師器（椀，高台付椀，甑）	SD1・2→本跡

住居跡番号	位置	主軸方向	平面図	規模 長軸×短軸 東西×南北	壁高 (cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	出入口ピット	竈	貯蔵穴	不明ピット	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（新→旧）
88	$E2_{c7}$	N－90°－E	長方形	3.06 × 2.73	15	平坦	全周	－	1	東	－	1	自然	土師器（高台付椀、小皿、甕）、平瓦、石器（打製石斧）	SD2→本跡
89A	$E2_{c6}$	N－9°－E	方形	4.55 × 4.30	24	平坦	一部	－	－	(北)	－	4	自然	土師器（椀、高台付椀、小皿）、鉄製品（刀子）	SD1・2・SE8→本跡→SI89B
89B	$E2_{b6}$	N－10°－E	[長方形]	(3.26)×(2.82)	24	平坦	－	－	－	(北)	－	－	－	土師器片	SI89A・SD1・2・SE8→本跡
90	$E2_{c7}$	N－77°－E	[長方形]	3.47 ×(1.69)	19	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器片	SD4→本跡
91	$D2_{f7}$	N－90°－E	[長方形]	3.15 ×(3.09)	－	平坦	－	－	－	(北)	－	－	－	土師器片	
92A	$D2_{f4}$	N－90°－E	不明	(1.82)×(1.03)	14	平坦	－	－	－	東	－	－	自然	土師器片	SI92B→本跡
92B	$D2_{f4}$	N－90°－E	[方形]	3.12 ×(2.96)	14	平坦	－	－	－	東	－	－	自然	土師器(椀)、須恵器(坏)、埴輪	本跡→SI92A・93
93	$D2_{f3}$	N－0°	[長方形]	3.47 ×(1.42)	60	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器(坏、甕)、土製品(管状土錘)	SI92B→本跡→SI94
94	$D2_{f2}$	N－15°－W	[長方形]	2.70 ×(1.17)	24	平坦	－	2	－	－	－	－	自然	須恵器(坏、甕)、鉄製品(刀子)	SI93→本跡
95	$D2_{a3}$	N－82°－E	長方形	5.40 × 3.47	20	平坦	－	－	－	東	－	－	自然	土師器(坏、甕)、土製品(管状土錘)	SI98・SD1→本跡→SI96・97
96	$E2_{b4}$	N－0°	隅丸長方形	4.26 × 3.28	55	平坦	一部	－	1	北	－	1	自然	土師器（坏、高台付坏、甕）、須恵器（坏、甕）、土製品（紡錘車）、鉄製品（鎌）、鉄滓	SI95・SD1・2→本跡→SI97
97	$E2_{b4}$	N－13°－E	[長方形]	3.05 ×(1.96)	18	平坦	一部	－	－	－	－	3	自然	土師器片、須恵器片	SI95·96·SD2→本跡
98	$E2_{a3}$	N－8°－W	不整方形	3.15 × 3.13	23	平坦	－	－	－	北	－	－	自然	土師器（坏、甕）、須恵器（坏、高台付坏）	SD1→本跡→SI95
99A	$E2_{a2}$	N－0°	隅丸長方形	2.98 × 2.54	39	平坦	一部	－	1	北	－	1	－	土師器（小形甕）	SI99B→本跡
99B	$E2_{a4}$	N－0°	隅丸長方形	5.60 × 3.82	30～40	平坦	全周	－	－	北	－	－	自然	土師器（坏、甕）、土製品（紡錘車）	SD1・2・SK327→本跡→SI99A・100
100	$E2_{b2}$	N－80°－E	長方形	3.05 × 2.70	25	平坦	一部	－	－	東	－	－	自然	土師器（坏）,須恵器（坏,鉢）,鉄製品（鎌）	SI99B・SD2→本跡
101	$E1_{a9}$	N－73°－E	長方形	3.95 × 3.00	73～90	平坦	一部	－	－	東	－	－	自然	土師器（坏,甕,台付甕）,須恵器（坏,高台付坏,盤,蓋,鉢）	
102	$E2_{d2}$	N－4°－E	長方形	4.39 × 2.78	30～34	平坦	全周	－	1	北	－	－	自然	土師器（小皿,甕）	SI103→本跡
103	$E2_{d3}$	N－85°－W	長方形	3.25 × 2.45	34	平坦	全周	－	－	東	－	1	自然	土師器（坏,高台付坏,甕,甑）	本跡→SI102
104	$E1_{e9}$	[N－3°－E]	不明	(5.40)×(0.84)	20	平坦	－	－	－	北	－	－	自然	土師器片,須恵器片	
105	$D3_{j8}$	N－15°－W	[方形]	(4.11)× 5.72	16	平坦	全周	－	－	北	－	－	自然	土師器（甕）,須恵器（坏,高台付坏）,土製品（管状土錘）	SI112→本跡
106	$D3_{j5}$	N－82°－E	長方形	4.30 × 3.82	20	平坦	全周	－	1	東	－	3	自然	須恵器（坏,皿）,灰釉陶器（椀長頸瓶）,土製品（管状土錘）	
107	$D3_{f4}$	N－18°－W	方形	4.39 × 3.90	18	平坦	全周	－	－	北	－	－	自然	土師器（坏,甕）,須恵器（坏）	
108	$D3_{f0}$	[N－79°－E]	不明	5.03 ×(2.20)	14	平坦	一部	－	－	東	－	－	人為	須恵器（坏）,土製品（管状土錘）	
109	$D3_{j2}$	[N－8°－W]	不明	3.21 ×(2.80)	24	平坦	－	－	－	北	－	－	自然	土師器（坏）,灰釉陶器（皿,長頸瓶）,土製品（管状土錘）,砥石	本跡→SI110A·110B·110C
110A	$D3_{j2}$	[N－8°－W]	不明	2.24 ×(1.59)	9	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器片,土製品（管状土錘）	SI109·110C→本跡
110B	$D3_{i2}$	不明	不明	[4.98]×(1.14)	－	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土製品（管状土錘）	SI110C→本跡
110C	$D3_{j2}$	[N－85°－E]	方形	(4.67)× 4.70	12	平坦	－	－	－	北東	－	－	自然	土師器（坏）,須恵器（甕）,鉄製品（鎌）,土製品（管状土錘）	本跡→SI109·110A·110B
111	$D3_{g7}$	[N－18°－E]	不明	(3.60)×(0.97)	30	平坦	一部	－	－	北	－	－	人為	土師器片、土製品（管状土錘）	
112	$D3_{i9}$	[N－76°－E]	不明	4.39 ×(2.30)	10	平坦	－	－	－	－	－	1	自然	須恵器（坏）	本跡→SI105
130	$B7_{e5}$	N－79°－E	[方形]	2.81 ×(1.58)	10	平坦	一部	－	－	東	1	－	自然	土師器（甕）	
131	$B7_{f4}$	N－72°－E	長方形	3.70 × 2.60	14～22	平坦	一部	－	1	東	1	－	自然	土師器（甕）	
132	$C5_{e7}$	N－82°－E	隅丸方形	2.83 × 2.77	14	平坦	一部	－	－	東	－	－	人為	土師器（甕）	SK360～362→本跡
133	$E1_{c4}$	[N－17°－W]	不明	(0.40)×(1.50)	20	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器片	
134	$D3_{c0}$	N－14°－W	[方形]	[3.50]×[3.36]	13～15	平坦	－	－	－	北	－	－	人為	土師器片、砥石	
135	$D4_{b5}$	N－90°－E	長方形	4.00 × 3.47	18	平坦	一部	－	－	北	－	－	自然	土師器（坏、甕）、須恵器（甕）、土製品（管状土錘）	SD6・SK368・369→本跡

住居跡番号	位置	主軸方向	平面図	規模 長軸×短軸 東西×南北	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係（新→旧）
							壁溝	主柱穴	出入口ピット	竈	貯蔵穴	不明ピット			
136	$D4_{i8}$	N－1°－W	方　　形	3.35 × 3.00	20～22	平坦	－	－	－	(北)	－	1	自然	須恵器（坏，高台付坏），土製品（管状土錘）	
137	$C4_{j6}$	N－89°－W	方　　形	4.58 × 4.00	50	平坦	全周	－	1	－	－	1	人為	土師器（椀，甕），土製品（管状土錘），砥石	

茨城県教育財団文化財調査報告第145集

一般国道50号結城バイパス改築工事
地内埋蔵文化財発掘調査報告書
下り松遺跡
油内遺跡
（上巻）

平成11(1999)年3月16日　印刷
平成11(1999)年3月19日　発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310-0911　水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587

印刷　冨士オフセット印刷株式会社
〒310-0067　水戸市根本3丁目1534－2
TEL　029－231－4241㈹